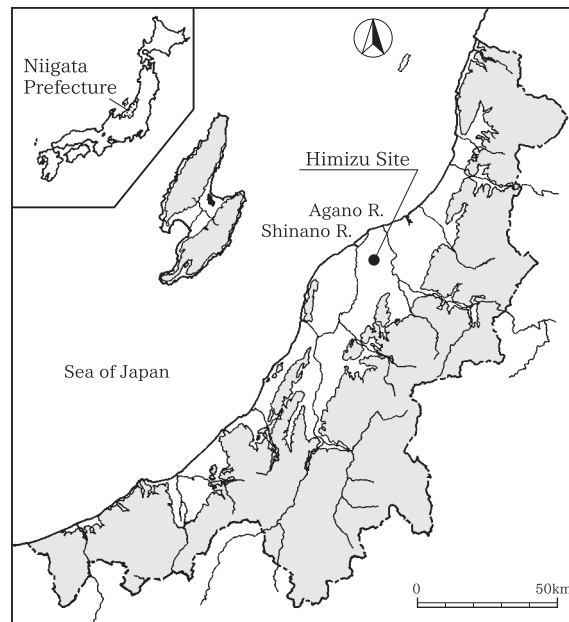


ひ みず 日水遺跡Ⅱ 第6次調査

— 市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書 —



2013

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟市江南区大字茅野山字日水浦^{こうなんく おおあざち の やまあざひみずうら} 2696 番地ほかに所在する日水遺跡^{ひみず}第 6 次発掘調査報告書である。第 5 次調査（試掘調査）は平成 22 年 10 月 14 日から 10 月 19 日、第 6 次調査（本発掘調査）は平成 24 年 8 月 21 日から 12 月 20 日に行った。
書名は既刊の発掘調査報告書〔今井・相沢 2007〕に続く 2 冊目の報告書であることから『日水遺跡Ⅱ』とした。
- 2 調査は市道亀田 300 号線道路改良工事に伴うもので、新潟市土木部東部地域土木事務所の依頼に基づき行った。
- 3 調査は新潟市教育委員会（以下、「市教委」という。）が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部新潟市文化財センター（以下、「市文化財センター」という。）が補助執行した。
- 4 平成 24 年度に本発掘調査・整理作業、平成 25 年度に報告書刊行を行った。
- 5 本書の作成・執筆・編集は立木宏明（市文化財センター）と細野高伯（株式会社シン技術コンサル）が行った。
- 6 執筆は第 I 章、第 III 章、第 IV 章第 3 節 A、第 V 章第 1 節・第 2 節・第 3 節 B、第 VII 章第 1 節 A・第 2 節 A を立木が、第 II 章、第 IV 章第 1・2・3 節 B・C、第 VII 章第 1 節 B・第 2 節 B は細野が、第 VII 章第 3 節は立木・細野が行った。
- 7 自然科学分析（第 VI 章）は株式会社火山灰考古学研究所に執筆を含めて委託した。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は立木・細野が撮影し、遺物写真は久保厚（株式会社シン技術コンサル）が撮影した。
- 9 遺構図のトレースと遺物実測図の一部、各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版がデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 今回の調査成果について、これまで現地説明会資料（平成 24 年 11 月 24 日実施）や『平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔立木 2013〕で発表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本報告書をもって正とする。
- 11 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

（所属・敬称略、五十音順）

青山博樹・伊藤秀和・小熊博史・尾崎高宏・小野本敦・金子拓男・鴨井幸彦・笹澤正史・佐藤祐樹・滝沢規朗・
田嶋明人・土橋由理子・中居和志・橋本博文・早野浩二・古澤妥史・細井佳浩

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約 8 度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成年を示した。
- 3 本文中の注は各章の末尾に記した。引用参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 遺構番号は現場で付したものを用了。番号は遺構の種別に関わらず、通し番号とした。
- 5 遺物番号は種別ごとに 1 からの通し番号を付した。本文及び観察表・図版の番号は同一番号とした。
- 6 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕2005 年度版を用いて、その記号を本書に掲載した。
- 7 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 8 土器実測図で全周の 1/12 以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は「日水」とし、出土年度・出土地点等を付した。

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡	3
第3節 歴史的環境	12
第Ⅲ章 調査の概要	14
第1節 試掘調査	14
第2節 発掘調査	14
A 調査方法	14
B 調査経過	17
C 調査体制	17
第3節 整理作業	18
A 整理方法	18
B 整理経過	18
第Ⅳ章 遺 跡	19
第1節 概 要	19
第2節 層 序	19
第3節 遺 構	19
A 古墳時代の遺構	19
B 古代の遺構	20
C 近世の遺構	36
第Ⅴ章 遺 物	37
第1節 遺物の概要	37
第2節 古墳時代の遺物	37
A 土器の分類と記述	37
B 出土土器各説	40
C 古墳時代の石製品	41
第3節 古代の遺物	42
A 土器の分類と記述	42
B 石製品・礫	49

第4節	中世の遺物	51
第5節	土製品	51
第6節	鍛冶関連遺物	51
第VI章 自然科学分析		53
第1節	植物珪酸体分析	53
A	はじめに	53
B	試料	53
C	分析法	53
D	分析結果	53
E	植物珪酸体分析から推定される植生・環境・土地利用形態	55
第2節	花粉分析	57
A	はじめに	57
B	試料	57
C	方法	57
D	結果	57
E	花粉分析から推定される植生と環境	58
第VII章 総括		61
第1節	日水遺跡の遺物	61
A	古墳時代の土器	61
B	古代の土器	62
第2節	遺跡と遺構	62
A	日水遺跡周辺の古墳時代遺跡	62
B	古代の日水遺跡	64
第3節	日水遺跡の性格	67
引用・参考文献		69
別表		73
報告書抄録・奥付		巻末

挿図目次

第1図	日水遺跡周辺地形分類図 (1/150,000)	4	第6図	日水遺跡周辺の遺跡分布図 (中世)	10
第2図	日水遺跡周辺の遺跡分布図(旧石器時代・縄文時代)	6		(1/125,000)	10
	(1/125,000)	6	第7図	日水遺跡試掘調査位置図 (1/1,000)	15
第3図	日水遺跡周辺の遺跡分布図 (弥生時代)	7	第8図	日水遺跡試掘調査土層柱状図	15
	(1/125,000)	7	第9図	日水遺跡グリッド設定図 (1/4,000)	16
第4図	日水遺跡周辺の遺跡分布図 (古墳時代)	8	第10図	古墳時代土器重量分布図	38
	(1/125,000)	8	第11図	古墳時代土器分類図	39
第5図	日水遺跡周辺の遺跡分布図 (古代)	9	第12図	古代・中世土器重量分布図	43
	(1/125,000)	9	第13図	古代土器分類図	44

第14図	石製品・鉄製品、鍛冶関連遺物重量分布図	50	第18図	日水遺跡の花粉	60
第15図	日水遺跡における植物珪酸体分析結果	54	第19図	日水遺跡周辺の地形と古墳時代遺跡	63
第16図	日水遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）	56	第20図	日水遺跡周辺の地形	65
第17図	日水遺跡における花粉ダイアグラム	59	第21図	日水遺跡の調査区	67

表 目 次

第1表	日水遺跡調査履歴	2	第4表	日水遺跡における花粉分析結果	59
第2表	日水遺跡周辺の遺跡一覧表	11	第5表	日水遺跡周辺の古墳時代遺跡	63
第3表	日水遺跡における植物珪酸体分析結果	54			

別 表 目 次

別表1	遺構計測表	73	別表6	鍛冶関連遺物観察表	83
別表2	古墳時代土器観察表	77	別表7	古墳時代土器器種構成率	84
別表3	古代・中世土器観察表	79	別表8	古代土器器種構成率	85
別表4	石製品観察表	83	別表9	遺構別石製品・礫集計表	91
別表5	土製品観察表	83			

図 版 目 次

図版 1	周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版 23	遺構実測図 7 (1/40)
図版 2	周辺の旧地形図 (1/50,000)	図版 24	遺構実測図 8 (1/40)
図版 3	周辺の土地利用図 (1/4,000)	図版 25	遺構実測図 9 (1/40)
図版 4	周辺の遺跡 (1/25,000)	図版 26	遺構実測図 10 (1/40)
図版 5	日水遺跡試掘調査位置図 (1/4,000)	図版 27	遺構実測図 11 (1/40)
図版 6	グリッド設定図 ① (1/2,500)	図版 28	遺構実測図 12 (1/40)
図版 7	グリッド設定図 ② (1/1,000)	図版 29	遺構実測図 13 (1/40)
図版 8	古墳時代全体図(下層)(1/400)・遺構実測図(SX1) (1/20・1/50)	図版 30	遺構実測図 14 (1/40)
図版 9	古代以降全体図(上層)(1/400)	図版 31	遺構実測図 15 (1/40)
図版 10	遺構平面部分図 1 (1/100)	図版 32	遺構実測図 16 (1/40)
図版 11	遺構平面部分図 2 (1/100)	図版 33	古墳時代土器 (1)
図版 12	遺構平面部分図 3 (1/100)	図版 34	古墳時代土器 (2)
図版 13	遺構平面部分図 4 (1/100)	図版 35	古墳時代土器 (3)
図版 14	遺構平面部分図 5 (1/100)	図版 36	遺構出土土器 (1)
図版 15	遺構平面部分図 6 (1/100)	図版 37	遺構出土土器 (2)
図版 16	基本層序実測図 (1/40)	図版 38	遺構出土土器 (3) 包含層出土土器 (1)
図版 17	遺構実測図 1 (1/40)	図版 39	包含層出土土器 (2)
図版 18	遺構実測図 2 (1/40)	図版 40	包含層出土土器 (3)
図版 19	遺構実測図 3 (1/40)	図版 41	包含層出土土器 (4)
図版 20	遺構実測図 4 (1/40)	図版 42	古墳時代石製品 古代石製品 (1)
図版 21	遺構実測図 5 (1/40)	図版 43	古代石製品 (2)
図版 22	遺構実測図 6 (1/40)	図版 44	土製品 鍛冶関連遺物

写真図版目次

- | | | | |
|---------|------------------|---------|----------------|
| 写真図版 1 | 日水遺跡周辺空中写真 (1) | 写真図版 18 | SK (4) |
| 写真図版 2 | 日水遺跡周辺空中写真 (2・3) | 写真図版 19 | SN (1) |
| 写真図版 3 | 日水遺跡周辺空中写真 (4・5) | 写真図版 20 | SN (2) |
| 写真図版 4 | 日水遺跡周辺空中写真 (6) | 写真図版 21 | SN (3) |
| 写真図版 5 | 日水遺跡全景空中写真 (1) | 写真図版 22 | SN (4) |
| 写真図版 6 | 日水遺跡全景空中写真 (2・3) | 写真図版 23 | SX (1) |
| 写真図版 7 | 日水遺跡全景空中写真 (4・5) | 写真図版 24 | SX (2) |
| 写真図版 8 | 基本層序 | 写真図版 25 | SX (3)、Pit (1) |
| 写真図版 9 | 調査前現況、SX1 | 写真図版 26 | Pit (2) |
| 写真図版 10 | 下層 (古墳時代) | 写真図版 27 | 出土土器 (1) |
| 写真図版 11 | SD (1) | 写真図版 28 | 出土土器 (2) |
| 写真図版 12 | SD (2) | 写真図版 29 | 出土土器 (3) |
| 写真図版 13 | SD (3) | 写真図版 30 | 出土土器 (4) |
| 写真図版 14 | SD (4) | 写真図版 31 | 出土土器 (5) |
| 写真図版 15 | SK (1) | 写真図版 32 | 出土土器 (6) |
| 写真図版 16 | SK (2) | 写真図版 33 | 出土石製品 |
| 写真図版 17 | SK (3) | 写真図版 34 | 出土土製品、鍛冶関連遺物 |

第 I 章 序 説

第 1 節 遺 跡 概 観

日水遺跡（新潟市遺跡番号 No.398）は新潟市江南区大字茅野山字日水浦 2696 番地ほかに所在する。新潟県埋蔵文化財包蔵地カードによると、昭和 41（1966）年 6 月に防火井戸掘削の際に地表から 60cm 下の灰色粘土混じり砂層から須恵器・土師器が出土したことにより遺跡として認知されていた。この成果をもとに、昭和 48（1973）年に新潟県遺跡包蔵地カードに登録され、昭和 55（1980）年新潟県教育委員会（以下、「県教委」という。）発行の『昭和 54 年度 新潟県遺跡地図 史跡～名勝・天然記念物等所在地』に掲載されていた。昭和 60（1985）年に県教委による分布調査が行われた際にも土師器が採集され、砂丘北斜面の比較的水田に近い所に遺跡が見られると記されている。

平成 6（1994）年に日水遺跡範囲で 96,388m² を宅地造成する鍋田土地区画整理事業の計画が明らかとなり、当時の亀田町教育委員会と県教委および原因者である亀田町農業協同組合と協議を開始した。平成 10（1998）年に県教委が分布調査を実施し、梨畑として利用されていた開発区域南東部において、奈良・平安時代の須恵器・土師器が採集され、広域にわたる遺跡の存在が予想された。平成 13（2001）年と平成 17（2005）年に 2 回の試掘・確認調査（第 1・2 次調査）を実施し、遺跡が広範に存在することが確認された（図版 5）。平成 13（2001）年の調査は休耕田と田部分を、平成 17（2005）年の調査は畑部分を行っている。平成 17（2005）年 3 月 21 日に亀田町と新潟市が合併し、協議は新潟市歴史文化課が引き継ぐこととなった。事業者との協議の結果、平成 17（2005）年 5 月 18 日～8 月 31 日に本発掘調査（第 3 次調査）を実施した〔今井・相沢 2007〕。調査の結果、古代・中世の遺構・遺物が検出され、井戸・土坑・竪穴遺構・掘立柱建物など集落跡の一部が検出された。古代の土器は土師器・須恵器が定量出土し、井戸内から遺存状態の良い木製品（曲物・井戸側）も検出された。また 1 点ではあるが縄文あるいは弥生時代の磨製石斧が出土しており、遺跡の存続時期の長さが推定された。平成 21（2009）年 11 月 19 日に第 3 次調査地東側の民家倉庫建築を原因とする確認調査（第 4 次調査）を行い、平安時代の土師器・須恵器を少量検出した。

その他の調査として、平成 9（1997）年に水道工事、平成 15（2003）年水道・下水道工事での工事立会が行われているが、遺物は出土していない。

平成 21（2009）年度までの調査成果から、遺跡東側の砂丘頂部からなだらかな北西向の斜面に古代から中世の遺跡が広がると考えられている。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

「市道亀田 300 号線道路改良工事」は、平成 17 年の新潟市と旧亀田町の合併に伴う合併建設計画として策定された。平成 19・20 年度に東部地域土木事務所建設課（平成 19 年度は亀田支所建設課）と歴史文化課が協議を行い、遺跡が確認された場合に事業計画の遅れが予想されるため、早めに試掘調査を行うよう依頼された。しかし、歴史文化課では用地買収未終了での試掘調査は耕作に影響がでるため、困難であるとの見解を示し、当該年度の調査を断念した。

平成 22 年度に用地買収完了を受け、再度試掘調査実施について協議の結果、東部地域土木事務所建設課市道整備係から試掘調査の依頼（平成 22 年 9 月 30 日付け新東土木建第 250 号）があり、それを受けて平成 22 年 10 月

第2節 発掘調査に至る経緯

14日から10月19日まで試掘調査(着手届平成22年10月14日付け新歴B第157号の2)を実施した(第5次調査)。試掘調査の結果(終了報告平成23年4月26日付け新歴F第13号)、17トレンチのうち5か所で、平安時代の土師器・須恵器、鉄滓などの遺物が出土し、土坑3基、溝1条、ピット1基の遺構を検出した。試掘調査の結果を受け、江南警察署長あて埋蔵文化財発見通知(平成23年4月26日付け新歴F第13号の3)と、新潟県教育委員会教育長あて埋蔵文化財保管書(平成23年4月26日付け新歴F第13号の4)を提出した。また、遺跡範囲が従来の遺跡範囲より西側に拡張したため、遺跡範囲変更通知(平成23年4月26日付け新歴F第13号の5)を提出した。

平成23年9月と平成24年3月の2回にわたり東部地域土木事務所建設課市道整備係と歴史文化課で協議を行い、平成24年度の4月以降に本発掘調査を行うことが決定された。

平成24年4月18日付け新東土木建第56号で、東部地域土木事務所建設課長より市歴史文化課長あてに埋蔵文化財包蔵地(遺跡)本発掘調査依頼書が提出された。さらに、新潟市長(担当新潟市東部地域土木事務所建設課市道整備係)より新潟県教育委員会教育長あてに、文化財保護法94条の通知(平成24年6月15日付け新東土木建第211号)が提出された。それを受けて、新潟県教育長から新潟市長あてに「工事を着手する前に発掘調査を実施する」旨の文化財保護法94条の指示文(平成24年7月4日付け教文第379号の2)が通知された。

以上のことから、平成24年8月21日付け新歴F第19号の10で新潟県教育委員会教育長あてに文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財の発掘通知を行い、8月21日から12月20日までの予定で本発掘調査を実施することとなった(第6次調査)。

第1表 日水遺跡調査履歴

通算調査回数	市道亀田300号線道路改良工事に伴う発掘調査回数	調査年次	主な成果	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査区	調査面積	トレンチ番号	文献	備考
		S41年(1966)	灰色粘土混じり砂層から須恵器・土師器が出土	工事立合	防火井戸掘削	亀田町	酒井和男					遺跡の発見
		S48年(1973)	S41年(1966)の成果を踏まえ、埋蔵文化財包蔵地として遺跡登録			新潟県					[新潟県教育庁文化行政課1980]	当初遺跡範囲を確定
		S60年(1985)8.4	土師器を発見	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課肥田野弘之ほか					
		H10年(1998)10.27	土師器・須恵器・近世陶磁器	分布調査	鍋田土地区画整理事業	亀田町	県文化行政課村木弘・澤田敦					
1次		H13年(2001)11.5	平安時代の遺構・遺物を確認	確認調査	鍋田土地区画整理事業	亀田町	今井さやか		312㎡	1~4, 6~13, 15~29T		遺跡範囲の拡大27トレンチ
2次		H17年(2005)1.24	平安時代の遺構・遺物を確認(本発掘調査範囲の確定のための追加確認)	確認調査	鍋田土地区画整理事業	亀田町	今井さやか		225.36㎡	1~12, 14~17, 19~23, 25~31, 33, 35, 37, 38, 40~43, 45~48T		遺跡範囲の拡大40トレンチ
3次		H17年(2005)5.18~8.31	平安時代・中世の遺構・遺物を検出した。主な遺構は竪穴遺構、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などが確認されている。井戸内から遺存状態の良い木製品(曲物・井戸側)が出土した。	本発掘調査	鍋田土地区画整理事業	新潟市	今井さやか		2416.3㎡		[今井・相沢2007]	
4次		H21年(2009)11.19	平安時代の土師器・須恵器を検出した。	確認調査	民間倉庫建設	新潟市	今井さやか		6㎡			
5次	1次	H22年(2010)10.14~10.19	平安時代の遺構・遺物を確認し、本発掘調査範囲を確定した。	試掘調査	市道亀田300号線道路改良工事	新潟市	廣野耕造		61.2㎡	1~17T		遺跡範囲の拡大
6次	2次	H24年(2012)8.21~12.20	上層に平安時代の遺構が多数確認された。下層から当初予想しなかった古墳時代前・中期の須恵器・土師器が出土した。	本発掘調査	市道亀田300号線道路改良工事	新潟市	立木宏明		1,510㎡		[本書]	

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図)

新潟市の地形は越後平野を中心に、南西の新津丘陵、西の角田山塊により形成されている。南北約 100km、東西 10～25km、面積約 2,070km²と日本第二の平野面積を有する越後平野は、信濃川・阿賀野川をはじめとした大河川の運搬する土砂によって形成された沖積平野である。主に砂丘・潟・低湿地帯から成っており、河川周辺の低湿地帯には自然堤防も発達している。

日水遺跡のある新潟市江南区は越後平野のほぼ中央に位置し、西を信濃川、東を阿賀野川、南を小阿賀野川に囲まれた低湿地帯で、かつては横越島、近年においては亀田郷と呼ばれている。近世における横越島は7割が海面以下の低湿地であったことから、自然排水が困難であり河川や潟の増水や氾濫による水害が絶えない地帯であった。河川の氾濫によってもたらされた土砂により形成された自然堤防は現河道周辺以外にも広く認められ、河川の流路が頻繁に変動していた事が窺える。このような地理的条件から、近世以降には新田開発や堪水田の乾田化、水害の回避を図るため、放水路の開削が進められてきた。

遺跡は、現在の海岸線からおおよそ 10km と最も内陸に位置する新砂丘 I -1・2 (亀田前列砂丘) 間の砂丘間低地および幅 100～300m で南北に延びる自然堤防と考えられる微高地上に位置する。形成年代は、新砂丘 I -1 が約 6,000 年前、新砂丘 I -2 が 6,000～5,500 年前とされている〔新潟古砂丘グループ 1974、鴨井ほか 2006〕事から、本遺跡が位置する砂丘間低地は遺跡の営まれた時期には土砂の流入が進み比較的地盤が安定していたと考えられる。しかし、低湿地は「葦沼」と称される湛水田地帯であり、近世以降治水工事が継続して実施された。

大河津分水の開削、昭和 23 (1948) 年の栗ノ木排水機場の稼働、昭和 31 (1956) 年の耕地整理の完了といった一連の治水事業により、低湿地は現在美田となり稲作を基幹とした都市近郊型農業の中心を担っている。また、現在では農業や住宅地以外にも、北陸道・磐越道・日東道という 3 本の高速道路をはじめ国道 49・403 号や広域幹線道路、JR 信越線など交通の利便性から、大型商業施設や工業団地も進出し大きく発展を遂げている。

第2節 周辺の遺跡

旧石器・縄文時代 (第2図、第2表)

日水遺跡が位置する越後平野は完新世(沖積世)に形成された平野であり、旧石器時代の遺跡分布は第三紀に形成された弥彦・角田山塊、新津丘陵、五頭山塊、笹神丘陵に限定される。新潟市域においては、新津丘陵の草水町 2 丁目窯跡 (253) と古津八幡山遺跡 (300)〔渡邊朋・立木ほか 2001・2004〕でナイフ形石器と石刃、角田山塊のケカチ堂遺跡で尖頭器や石刃〔小野ほか 1994〕、というように断片的な資料が出土しているのみである。

縄文時代になると、丘陵上から砂丘上や沖積地に遺跡が進出する傾向が窺える。草創期では、神子柴型石斧が 6 点まとまって出土した新津丘陵の愛宕澤遺跡 (254)〔立木ほか 2004〕、石斧や尖頭器が単独出土した角田山麓の御手洗山遺跡や福井遺跡など旧石器時代と同様の遺跡分布を示す〔小野ほか 1994〕。前期になると初頭の土器が出土した砂崩遺跡 (154)〔酒井・廣野 2002〕、前葉の土器が出土した笹山前遺跡 (130)〔廣野 1997〕、亀田城山 A 遺跡 (188) や山ノ家遺跡 (151) など、日水遺跡周辺の砂丘上にも遺跡が進出するようになる。以後、中期初頭の拠点集落と考えられる砂崩遺跡 (154)、後期前葉の上の山遺跡 (142)、日水南遺跡 (198) や西前郷遺跡 (212)、晩期中～後葉の前郷遺跡 (152) など多くの遺跡が砂丘上に立地する。晩期後半以降になると、沖積地下に埋没

第2節 周辺の遺跡



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 [1/150,000]

第1図 日水遺跡周辺地形分類図

した砂丘上に占地する養海山遺跡（204）などに加え、西郷遺跡（206）や上田遺跡（169）など沖積地や低湿地へ進出する遺跡が見られるようになる。

弥生時代（第3図、第2表）

養海山遺跡〔新潟市 2007〕や西郷遺跡〔土橋ほか 2009〕は、縄文時代晩期から弥生時代中期まで集落が存続する。前期では、埋没砂丘上に立地する緒立 B 遺跡・緒立 C 遺跡が代表例である〔金子ほか 1983〕。中期後半になると山ノ家遺跡〔川上 1993、酒井 2000〕、前郷遺跡、上の山遺跡、小丸山遺跡（137）〔家田 1987、酒井 2000〕など砂丘上の遺跡が挙げられる。隣接するこれらの遺跡からは管玉未製品・石鋸・砥石などが出土しており、連鎖的に一つの玉造集団を構成していたものと考えられている。日水遺跡周辺では、武左衛門裏遺跡（202）、城山遺跡（129）、笹山前遺跡（130）、手代山遺跡（197）など砂丘上の遺跡から中期の土器が採集されている。また、新津丘陵沿いの秋葉遺跡（260）、塩辛遺跡（291）からも中期の土器は発見されている〔渡邊朋・立木ほか 2004〕。後期の遺跡の代表として、新津丘陵沿いの古津八幡山遺跡〔川上 1994、渡邊朋 1994〕や居村 D 遺跡〔川上 1996b、渡邊朋・立木ほか 2001〕が挙げられる。古津八幡山遺跡は拠点的な高地性環濠集落で、二重の環濠や竪穴住居、方形周溝墓などの遺構と、東北系と北陸系の遺物が出土しており、その重要性から史跡に指定されている。砂丘上の遺跡としては、六地山遺跡〔寺村 1960a・b、中村 1960〕や石動遺跡（112）〔廣野 1996〕がある。

古墳時代（第4図、第2表）

古津八幡山古墳（297）〔甘粕・川村ほか 1992〕や山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993〕、菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕など丘陵地に造営される古墳と、緒立八幡神社古墳（緒立 A 遺跡）〔吉田ほか 1982〕のように小砂丘上に位置する古墳があり、集落も平野部の砂丘上や自然堤防に占地するようになる。前期では東園遺跡（138）〔朝岡・諫山 2003〕や正尺 C 遺跡（50）〔土橋ほか 2006〕、緒立遺跡〔渡邊ま 1998〕などで集落が調査されており、大量の出土遺物から武左衛門裏遺跡も拠点集落と考えられる。中山遺跡（128）や城山遺跡、小丸山遺跡、山木戸遺跡（116）などでも前期の土器が出土している。中期では、本遺跡をはじめ、下西遺跡（208）や駒首潟遺跡（210）など低地の自然堤防上を中心に遺跡が拡大する傾向が窺えるが、集落の詳細は不明である。沖ノ羽遺跡（227）〔星野・石川ほか 1996〕、結七島遺跡（228）〔田中・丹下ほか 2004〕などからも、一定量の中期の土器が出土している。後期の集落では住居や土坑墓が検出された笹山前遺跡や竪穴状遺構等が検出された中田遺跡（229）があり、三王山遺跡（185）や中の山遺跡などでも土器が採集されている。

古 代（第5図、第2表）

低地への進出が本格化し、自然堤防上に多くの遺跡が占地するようになる。7世紀後半代の遺跡として、九九木簡や律令祭祀具が出土した大沢谷内遺跡（321）〔細野・伊比ほか 2012〕や長沼遺跡（236）〔渡邊朋 1991〕が挙げられるが、相対的に遺跡数は少ない。8世紀になると、遺跡数は徐々に増加する。円面硯などが出土した上浦 A 遺跡（234）〔川上 1997、坂上 2003〕や火葬墓に伴い帯金具が出土した四十石遺跡〔渡邊ま・奈良 2012〕、的場遺跡〔小池・藤塚 1993〕や緒立遺跡など官衙関連遺跡も多く出現し、また新津丘陵窯跡群（252・253、255～257）も8世紀半ばには操業を開始する。9世紀後半になると、亀田郷にも多くの遺跡が営まれるようになる。砂丘上に富裕層の居住域と想定される小丸山遺跡や荒木前遺跡（194）〔渡邊ま 1991、川上 1996a〕、自然堤防上には本遺跡に近接した手代山北遺跡（196）〔朝岡ほか 2009〕や鍛冶関連遺構が検出された中の山遺跡〔川上 1982〕、畝状遺構が検出された牛道遺跡（189）〔土橋ほか 1999〕、富豪層の集落と考えられる駒首潟遺跡〔渡邊まほか 2009〕、砂丘間低地や後背湿地に水田跡と畝状遺構が検出された上郷遺跡（179）〔上野・春日 1997〕など特徴的な遺跡が多く展開するが、ほとんどの遺跡は10世紀中頃までには途絶えるようである。

中 世（第6図、第2表）

丘陵縁辺や低地の微高地に城館が築かれるようになり、集落遺跡の多くは自然堤防や砂丘上に立地する。亀田郷では14世紀以降に成立する遺跡がほとんどであり、他時期との複合や近世以降の集落と重複する事が多い。周辺の砂丘上では荒木前遺跡や三王山遺跡〔酒井 1980、朝岡ほか 2010〕、亀田城山 B 遺跡（186）、手代山遺跡、



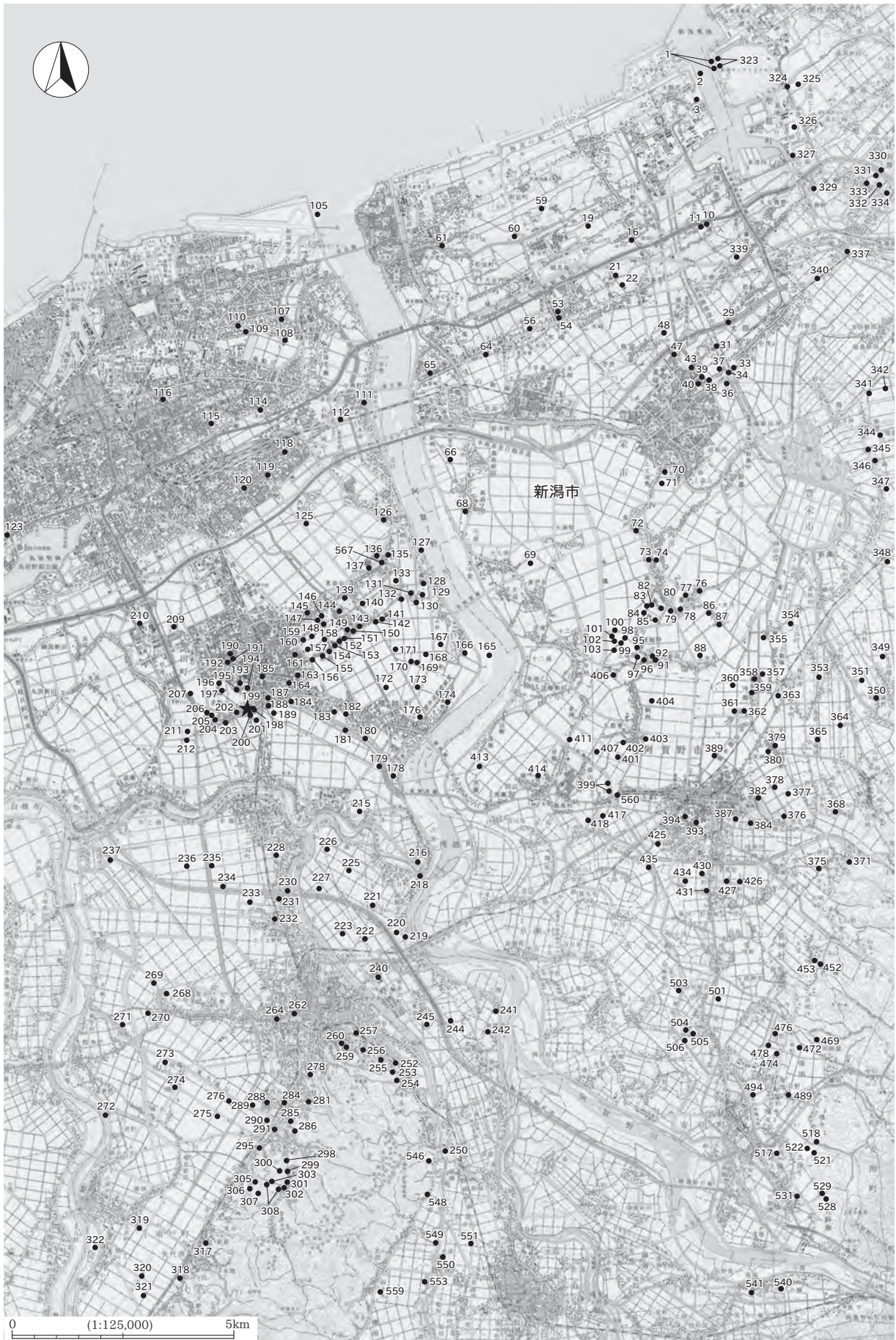
第2図 日水遺跡周辺の遺跡分布図(旧石器時代・縄文時代)



第3図 日水遺跡周辺の遺跡分布図(弥生時代)



第4図 日水遺跡周辺の遺跡分布図（古墳時代）



第5図 日水遺跡周辺の遺跡分布図(古代)



第6図 日水遺跡周辺の遺跡分布図(中世)

第2表 日水遺跡周辺の遺跡一覧表

No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
1	東港太郎代	奈~平・中世	115	竹尾西	平	229	中田	古墳	343	屋敷付塚	中世	457	鶴淵	縄・室
2	出山	奈~平・鎌・江	116	山木戸	古墳・古代・中世	230	江内	平・中世・江	344	福島	古墳・平・中世	458	江上板碑	縄・室
3	サン化学前	奈~平	117	竹尾尾	室	231	川口甲	平	345	八幡野	古墳~平	459	大室堤下	縄
4	横土居A	縄・古墳	118	猿ヶ馬場B	奈・平・鎌~江	232	川口乙	平	346	柳崎	古墳	460	福越館跡	室
5	山興野	縄	119	猿ヶ馬場A	平・室	233	上浦B	古墳・古代	347	曾根	縄・奈・古墳・奈・平・中世	461	法塔塚跡	室
6	横土居B	縄	120	下場	平・中世	234	上浦A	古墳・奈・平・中世	348	熊の嶋	古墳	462	中山	縄
7	居山A	縄	121	石山	中世	235	結	古墳・奈	349	良木野	平	463	丸山	縄
8	居山B	縄	122	石山	中世・近世	236	長沼	奈・平・鎌	350	前田	古墳~奈良	464	依田新瀬	縄
9	浦ノ入A	縄	123	女池稲荷	平	237	下等別当	古代~中世	351	上高岡	平~室	465	石仏野	先
10	切尾A	縄・平	124	江口館跡	中世	238	山谷北	古墳	352	藤堀	古墳~中世	466	電田中山	縄
11	切尾B	縄・平	125	西野	平	239	埴畑	中世	353	高畑	古墳・平	467	家漆	縄
12	浦ノ入B	縄	126	大淵	平・中世	240	大野中	縄・平	354	未明	平	468	家裏	縄
13	切尾C	縄	127	細山石仏	古代・室	241	上久保	平	355	小曾根	平	469	手代山製鉄跡	平
14	内島見A	縄・古墳	128	中山	縄・古墳・古代	242	通上	平・中世	356	榎木大淵	縄	470	手城山	縄
15	引越	奈	129	城山	縄・古墳・平・鎌	243	盛岩寺石仏	中世	357	塚田B	平	471	二本松	平
16	笹山D	平	130	笹山前	縄・古墳・古代	244	細池寺道土	平・中世	358	塚田A	平	472	上野林C	縄
17	笹山B	縄	131	神野社裏	平	245	西江浦	平	359	神ノ館	平	473	上野林B	縄
18	笹山A	平	132	平山	平・鎌	246	尻池の塚	室	360	古田	平	474	上野林M	縄
19	上舟橋	平	133	松山向山	平	247	大開館跡	中世	361	中谷内	平	475	上野林E	先・縄
20	笹山C	縄	134	松山	縄・中世	248	居平	縄	362	浦橋	平	476	上野林J	先・縄・平
21	あかしやだん	平	135	直り山A	平	249	直り山	縄	363	元屋敷	平	477	上野林K	縄
22	内島見B	平	136	直り山B	平	250	諏訪畑	平・中世	364	発久	平	478	上野林L	縄・平
23	内島見C	室	137	小丸山	縄・奈・古墳・平・中世・近世	251	諏訪田	縄・奈	365	下福岡	平	479	上野林I	縄
24	大池	古墳	138	東園	縄・古墳	252	草水町1丁目跡	平	366	滝沢屋敷跡	室	480	山本新家浦	室
25	松影B	古墳	139	茗荷谷墓地	平	253	草水町2丁目跡	平	367	笹岡城跡	南北朝	481	横峰B	室
26	松影C	古墳	140	茗荷谷	縄・古代・中世	254	愛宕澤	縄・平・中世	368	上山屋	平	482	横峰C	縄
27	松影D	古墳	141	笠原	平・鎌	255	滝谷窪跡	平	369	浦林	縄	483	横峰A	縄・奈
28	上黒山	古墳	142	上山	縄・奈・平	256	七本松塚跡群	平	370	馬屋屋	縄	484	横峰D	先
29	松影A	縄・奈・古墳・平・中世	143	駒込小丸山	縄・奈・古墳・古代	257	萩葉2丁目跡	平	371	金屋中道	平	485	行家	縄
30	城山館跡	室	144	丸山	平	258	小手平	縄	372	金屋	室	486	上野林O	縄
31	新五兵衛山	平	145	北山	平	259	萩葉3丁目跡	縄・奈~平	373	宮下	縄	487	上野林A	縄
32	太田城山	縄・古墳	146	清水が丘	平	260	秋葉	縄・奈・平	374	山浦城跡	室	488	上野林N	縄
33	原B	奈~平	147	大道外	平・中世	261	木町石仏	中世	375	田向	平	489	岩野A	縄・古墳・奈
34	名山C	奈~平	148	彦七山	古代	262	菅免	古代	376	柳ノ明	平・中世	490	雲雀田	古墳
35	名山B	縄	149	駒込居浦郷	古代	263	稲島館跡	戦	377	諏訪田	平	491	意下	南北朝
36	原3	奈・古墳・奈~平	150	駒込跡所	縄・古代	264	新津城跡	平・南~戦	378	六反田	平	492	安田城跡	室・江戸
37	名山A	奈~平	151	山ノ家	縄・奈・古墳・古代	265	腰廻	室・安	379	堂前	室	493	門前	室
38	法華島屋C	奈~平	152	前郷	縄・奈・古代	266	諏訪神社石仏	中世	380	唐着	平・室	494	宮ノ越	平・鎌
39	法華島屋D	奈~平	153	迎山	縄・奈~室	267	浄栄	室	381	十ヶ袋	室	495	山下ノ	縄・奈
40	法華島屋B	縄・奈・奈~平	154	砂前	縄・古代	268	小戸下組	平・鎌~室	382	堤下	平	496	物見山	奈
41	法華島屋A	縄	155	砂前前郷	縄・平・江	269	西沼	平	383	外城庚申塚	室	497	藤堂	室
42	葛塚	古墳	156	砂前七ノ山	古代	270	長工門沼	平	384	西ヶ崎長者屋敷	平・鎌	498	中道	縄
43	甲山	平	157	三條岡	古代・中世	271	川根	古代~中世	385	沼塚	縄	499	小山崎	縄
44	正尺B	古墳	158	浦ノ山	平	272	浦野野	古代・中世	386	下島田	奈	500	大坪	中世
45	下大口	古墳	159	金塚山	縄・古代	273	浦ノ木	平・鎌~南	387	金田	平	501	鴨深平	平
46	上大川	古墳	160	前山	縄・古代	274	曾根	平・鎌	388	水原館跡	室	502	寺家浦B	室
47	正尺A	古墳・平・近世	161	塚ノ山	平	275	中郷	平	389	永室	室	503	熊屋上ノ山	縄・平
48	横井	平	162	袋津山	縄	276	古通	平	390	雙善寺	室	504	花田	平
49	正尺D	古墳	163	砂岡	縄・平	277	山崎	縄	391	吉田家蔵	南	505	寺家浦A	平
50	正尺C	古墳	164	茨島	古代	278	城見山	縄・古代・中世	392	七面堂	中世	506	六九	平・中世
51	鳥屋	縄	165	小杉中洲	縄・古墳・平・中世	279	原	縄	393	業師島	平	507	成田屋敷	室
52	たやしき	奈・古墳・鎌~室	166	松嶺寺	古墳・平・中世	280	東島城跡	室	394	庚町	室	508	上江端の石仏	室
53	尾山A	古墳・平	167	松嶺A	平~室	281	大坪	古代	395	下家館跡	室	509	祥雲寺の石仏	室
54	尾山B	平	168	山の上ノサバ	平	282	平林	縄	396	居浦	室	510	新明野	室
55	太田古屋	縄	169	上田	縄・奈~平	283	山崎	縄・奈・江	397	浄業寺の石遺物	中世	511	分田館跡	室
56	尾山C	平	170	小杉上田	縄・古代	284	東島大道下	古墳・古代・鎌・室	398	土居内	中世	512	内山王	室
57	樋ノ入B	縄	171	江尻	平	285	山崎	古墳・平	399	大曲川端	平安・中世	513	村下の石仏	室
58	樋ノ入A	縄	172	新田郷	平	286	森田	縄・奈・古墳・平・中世	400	羽宮館	中世	514	玉泉寺の石仏	室
59	横山	古墳・平・中世	173	宮尻郷	古墳・古代・中世	287	西島館跡	中世	401	善四郎谷内C	平・中世	515	玉泉寺の石仏	中世
60	向山	平	174	下郷	平	288	樺大門	平	402	轟	平・中世	516	大岡家蔵石仏群	南北朝~室
61	神谷内	古代・中世	175	下郷経塚	安	289	西谷内	古代	403	土居内西	奈・平・中世	517	八百刈	平
62	寺ノ山	室	176	曾根島所	平	290	舟戸	奈・古墳・古代	404	千刈	室	518	蔵敷林	縄・平
63	樋ノ入C	縄	177	横越館跡	室	291	塚幸	奈・古墳・古代・中世	405	駒林家書跡	室	519	院殿塚	室
64	築上山	平	178	上郷B	古代	292	高矢C	古墳	406	山鳥屋敷	古墳・古代・中世	520	用水林	縄
65	新崎	古代	179	上郷A	古墳・古代・中世	293	高矢A	縄	407	善四郎谷内	平	521	五輪敷沢窪跡	平
66	下前川原	平・室	180	上郷C	平	294	高矢B	縄	408	大淵	中世	522	山下B	平
67	森下古掘出土	室	181	川根谷内墓所	平・室・近世	295	二石列	縄・古代	409	菊山	奈	523	野中	平
68	高森	平	182	川根谷内	古代	296	下谷地	縄	410	曾郷前	中世	524	野中	縄
69	藤内	平	183	上沼	古代	297	古津八幡山	古墳・古墳	411	村下	古墳・平安・中世	525	藤ノ沢	縄
70	上土地亀	古墳・平	184	岡田	平	298	古津初越古	古代	412	下谷地	中世	526	円山	先・縄
71	上土地亀B	古墳・古代	185	三王山	古墳・平・中世	299	古津初越A	古代	413	曾根	平	527	徳正寺	縄
72	浦水	平	186	亀田城山B	南・室・江	300	古津八幡山	古墳・奈・古墳・平	414	城館跡	平	528	不動院	平
73	村下	古代	187	齊助山	縄・奈・古代	301	金津初越古	古代	415	本田裏	中世	529	新瀬	縄
74	内沼浦	古代	188	亀田城山A	縄・奈・古代	302	金津初越A	古代	416	町道土	中世	530	六野瀬館跡	南北朝~室
75	豊原長湯	古墳・近世	189	牛道	平	303	大入	古代	417	山口	奈・古代・中世	531	北郷	平~南北朝
76	真原飯倉	奈~平	190	市助裏	平・鎌	304	鳥塚(打)場	縄	418	柳目木	古代・中世	532	赤坂山B	縄
77	一本柳	古代	191	川西	平・鎌	305	神田	縄・奈~平	419	清水家石仏	中世	533	赤坂山A	縄
78	五本柳B	古代	192	狐山	古代	306	居村A	平	420	下の橋館跡	室	534	宮林	縄
79	鷲津	平	193	貝塚	古代	307	居村B	奈・古代	421	紺屋	中世	535	荻野	縄
80	川東	古代	194	荒木前	縄・平・中世	308	居村C	縄・奈・古代	422	村前東	中世	536	渡場赤坂A	縄・奈
81	長場館跡	室	195	中山	古代・中世	309	十ヶ沢A	奈	423	藤の木	室	537	渡場赤坂B	縄
82	中道A	古代	196	手代山北	平・中世	310	十ヶ沢B	縄	424	諏訪神社	中世	538	六野瀬	縄・奈
83	中道B	古代	197	手代山	奈・古墳・古代・鎌	311	金津城跡	奈・南	425	三辺稲荷	奈・平・中世	539	馬下稲場	縄
84	長場	平	198	日本南	縄・奈・古墳・古代・室	312	坪入	縄	426	細田	平	540	六ヶ寺道南	平
85	城の湯	平	199	日本水	古墳・古代・中世	313	寺尊館	中世	427	久孫添	縄・平	541	宮ノ浦	平
86	五本柳A	奈~平	200	日本水	縄・奈・平	314	西善寺石仏	中世	428	野地城跡	室	542	高山石造物群	平
87	狐川渡	奈~平	201	城所道下	平	315	三沢A	室	429	久孫添の庚申塚	室	543	桑山石仏	中世
88	上大月	奈~平	202	武左衛門裏	縄・奈・古墳・古代	316	三沢原	縄	430	大坪	平	544	越前川上土その1	中世
89	居浦	古墳	203	八幡前	奈・平	317	三沢B	平	431	大坪南	平	545	越前川上土その2	中世
90	山飯野石仏	中世	204	養海山	縄・奈・古墳・平	318	五本田館跡	古代・室	432	原	南・室	546	小実山	縄・奈・古代
91	岡新田	平	205	大蔵	古代	319	東腰付	平	433	七ヶ塚	南	547	下野山	縄
92	山飯野	平	206	西郷	縄・奈・古墳・古代	320	大沢谷内北	縄・奈・古代	434	土橋	縄・平	548	山崎窪跡	奈
93	上郷石仏C	中世	207	泥沼	平	321	大沢谷内	縄・奈・古墳・飛~平・中世	435	堤塚	奈・古墳・古代・中世	549	寛下	奈~平
94	上郷石仏B	中世	208	下西	古墳	322	横川浜堤外地	縄・平・中世	436	石船戸	縄	550	村付	奈~平
95	池田B	古代	209	鶴ノ子	平	323	東港亀塚	平	437	中瀬明宮の石仏	室	551	中野	縄・奈~平
96	上郷田	平	210	駒首湯	古墳・平	324	下新田	平	438	中瀬の龍音権石仏	室	552	五泉城跡	室
97	池田A	古代	211	早通前	平・鎌	325	道下	平・中世	439	天神林の石仏	中世	553	横表	奈~平・中世
98	山飯野神田A	古代	212	早通郷	縄・古代	326	別行	縄・平	440	川河原	中世	554	横表南	鎌~南
99	桜曾根	古代	213	川原	中世	327	連野I	縄・平	441	嘉瀬島諏訪社	中世	555	丸田	平
100	大夫曾根	平	214											

日水南遺跡があり、自然堤防上では中の山遺跡（195）や手代山北遺跡（196）がある。荒木前遺跡は、船載陶磁器などの出土遺物から在地領主層の居住域と想定される13世紀の遺跡である。竪穴状遺構や柱列遺構が検出された三王山遺跡からは青磁・白磁などの貿易陶磁器の他に青銅香炉や鉄鉢、硯、刀剣研磨用と考察される砥石のセットなど貴重な遺物が多数出土しており、富豪層や寺院との関係も予想されている。中の山遺跡からは鍛冶遺構や井戸が検出されており、船載陶磁器や瀬戸系の天目碗が出土している。

第3節 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化三（647）年に淳足柵・翌年に磐舟柵が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二柵の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝二（702）年に越中国4郡（頸城・古志・魚沼・蒲原）を割いて越後国に編入『続日本紀』し、和銅五（712）年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平十五（743）年に佐渡国を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝四（752）年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡国は復置されている。佐渡国3代国司穴人朝臣和麿の天平宝字五（761）年に造営が始まった佐渡国分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。

日水遺跡のある亀田郷は、旧阿賀野川（現在の通船川）以西を蒲原郡とする一般的な説〔小林ほか1996〕に従えば蒲原郡に属していたことになるが、遺跡の多い亀田砂丘周辺が沼垂郡に属していた可能性も指摘されている〔坂井ほか1989、上野・春日1997〕。

古代の蒲原郡には宝亀十一（780）年の『西大寺資財流記帳』によって、鶉橋荘・槐田荘という荘園が施入されていた事が知られており、鶉橋荘は五泉市橋田、槐田荘は三条市周辺とされている。これらの西大寺領荘園は、神護景雲三（769）年の『越後国水田并墾田地帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。西大寺領荘園は早くに衰退したと思われるが、その理由として、東大寺領荘園に較べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている〔木村1993〕。

中世の亀田郷は、新津地域を中心とした国衙領金津保の保域に含まれると考えられている。金津保の成立時期は、明確ではないが、他の公領と同様に11世紀後半～12世紀後半に至る院政期に考察されている。金津保の文献上の初見は、建武三（1336）年11月18日の『羽黒義成軍忠状写』に、足利（北朝）方の義成が9月2日に金津保新津城に引き籠もり、新田（南朝）方の小国政光らと戦ったと記載がある。しかし、これ以前にも室町期に成立した『義経記』では承安四（1174）年に金津庄の名が見られ、また寿永年間（1182～1183）には、鎌倉幕府成立後金津保の地頭職となり承久の乱（1221年）に際し鎌倉方の北条朝時に従軍し上洛した、平賀（金津）蔵人資義が金津に居館を構えている。日水遺跡に近い茅野山本慶寺「御裏書控」には、金津保という記載のある近世の裏書が4点あり、近世においてもこの地域は金津保と認識されていたと考察される。

蒲原郡における国衙領は、田畑などの生産域のみならず、河川流域や潟湖なども主要素として成立している。信濃川・阿賀野川の最下流域にあり、蒲原津という越後国を代表する港津の背後という立地や、国衙領の凌駕した頸城郡と、大規模な荘園群が在した阿賀野川以北の中間という地理的環境から、金津保の重要性が高かったことは想像できよう。現に、14世紀前半の南北朝の動乱に際しては、蒲原津を軍事的に占拠し中・下越地方を制圧しようとした南朝軍と、阿賀野川を挟んで対峙した北朝軍との蒲原津から新津丘陵周辺での攻防が前記の『羽黒義成軍忠状写』に記されている。この動乱を経て、越後国は守護上杉氏・守護代長尾氏により室町幕府の統治下によって領国支配が推進されることとなる。

『温古之葉』（明治20年代刊行）には「金津荘城所手代山に古城跡あり、孤立せし小山の頂上凡二千坪平坦にし

て井壺空壕の痕幽に見ゆ、元享年中（1321～1323年）国の守護職北条家に於て蒲原沖日水手代山に柵を構ふと古書に見ゆるは此処なるべし、近辺に日水の地名もあり永禄年中（1558～1569年）より上杉家の一将荒木五郎左衛門為久の居城とす。…略」との記述がある。現在、城所や手代山に古城跡は見当たらないが、手代山は「出城山」、養海山は「要害山」とする説もあり、また城所に「荒木浦」「荒木前」、手代山に「内荒木」「外荒木」という地字があることや、荒木前遺跡が在地領主層の居住域を想定させることから、14世紀には在地領主層の拠点が日水遺跡周辺にあったと考察される。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになり、享禄・天文の乱（1530～1551年）の天文四（1535）年には、新津市周辺も戦場と化したようである。この時期の金津保の実態については不明な部分が多いが、後世の『上杉家御年譜』や『上杉史料集』の「北越軍談」には、金津伊豆守祐高や新津彦二郎など、金津や新津郷を領有した人物の名が見られる。

天文十九（1550）年には長尾景虎（上杉謙信）が越後国主となり、天正六（1578）年3月に上杉謙信が急逝すると養子である景勝・景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」が起き国内領主層の分裂をもたらした。この間における亀田郷に関する直接的な史料はないが、天正年間に謙信方・景勝方として戦陣に参加した武将として亀田小三郎岳信、亀田小三郎長乗の名が見られる。しかし、史料上では彼らの越後国での活動は皆無である。

景勝の移封に伴い、慶長三（1598）年に加賀国大聖寺から新発田に溝口秀勝が入封し、亀田郷は新発田領となった。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が画期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。新発田藩は壱田治水に力を注ぎ、秀勝入封時には慶長元（1596）年に開村したとされる袋津村以外は荒野沼沢地であった亀田地域を、慶長15（1610）年の茅野山村の開発から、長瀉・丸瀉各村の開発年代とされる寛文十（1670）年までの約60年間で各集落は成立をみている。

日水の地名が文献に登場するのは、横越島絵図である。同絵図は寛永十六（1639）年に作成された現存する最古の亀田郷絵図である。「ひみず」と地名のみの標記で、村・新田等の記載がないことから茅野山村の一部であった可能性が考えられる。

村の誕生により商品流通が盛んになり、元禄五（1692）年に交通の要所を占めていた中谷内新田から宿場町・六斎市の開設請願がなされた。元禄六（1693）年には中谷内新田から亀田町と改名し、同年10月に町屋敷の完成、翌七（1694）年には六斎市の開設に至った。

廃藩置県後、日水遺跡のある茅野山村は手代山村と合併し茅野山村となり、明治22（1889）年の町制施行により城所村を加えて茅野城村となった。明治34（1901）年には早通村と合併し、大正14（1925）年には亀田町と合併した。平成17（2005）年には亀田町を含む13市町村が合併し、新しい新潟市となり現在にいたっている。〔亀田町史編さん委員会1988、南ほか2003〕。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘調査 (図版5、第7・8図)

市道亀田300号線道路改良工事に伴い、開発予定面積9,030m² (長さ=645m、幅=14m)を対象に平成22年10月14日から10月19日にわたり試掘調査を実施した(第5次調査)。試掘調査は重機(バックホウ)で表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。試掘調査面積は61.2m² (長さ=2.0m×幅=1.8m×17か所)である。調査の結果、開発予定地の北西側の、標高が1.3～1.5mを測る13～17Tの範囲で平安時代の遺構・遺物が確認され、現在梨畑および畑として利用されている微高地を中心に遺跡が広がることが判明した。概ね、現地表面から-0.4～-0.5mのIV層(にぶい黄褐色土層)が平安時代の遺物包含層で、V層上面が遺構確認面である。これらの結果を踏まえ、日水遺跡の遺跡範囲変更の手続きをとった。

以上の結果を踏まえ、東部地域土木事務所建設課市道整備係と協議を行い、道路部分の約1,510m²について本発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査

A 調査方法

1) 現況

現況は、標高1.3～1.5mの畑地である。古くから梨の果樹栽培が行われており、今でも大半は梨畑である。一部は春から晩秋まで畑として利用されていたところもある。また、調査区の北東は、平成17(2005)年から工事が行われた鍋田土地区画整理事業により宅地造成が終了し、住宅団地となっている。その先には、亀田排水路(旧栗ノ木川)が南東から北西に流れている。調査区の南側は水田が営まれており、標高も低くなる。

2) グリッドの設定 (図版6・7、第9図)

グリッドを設定するにあたっては、新座標系(世界測地系)を用いた。平成24(2012)年度調査から日水遺跡範囲の全域にグリッド設定を行い、その基点を1A-1A1杭とした。1A-1A1杭の座標はX座標206700.000、Y座標53000.000(平面直角座標系第Ⅷ系)、緯度37°51'40"33444、経度139°06'08"44431である。基点に対し国土地理院の第Ⅷ系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸(南北)をアラビア数字、長軸(東西)をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「5B15」のように呼称した。

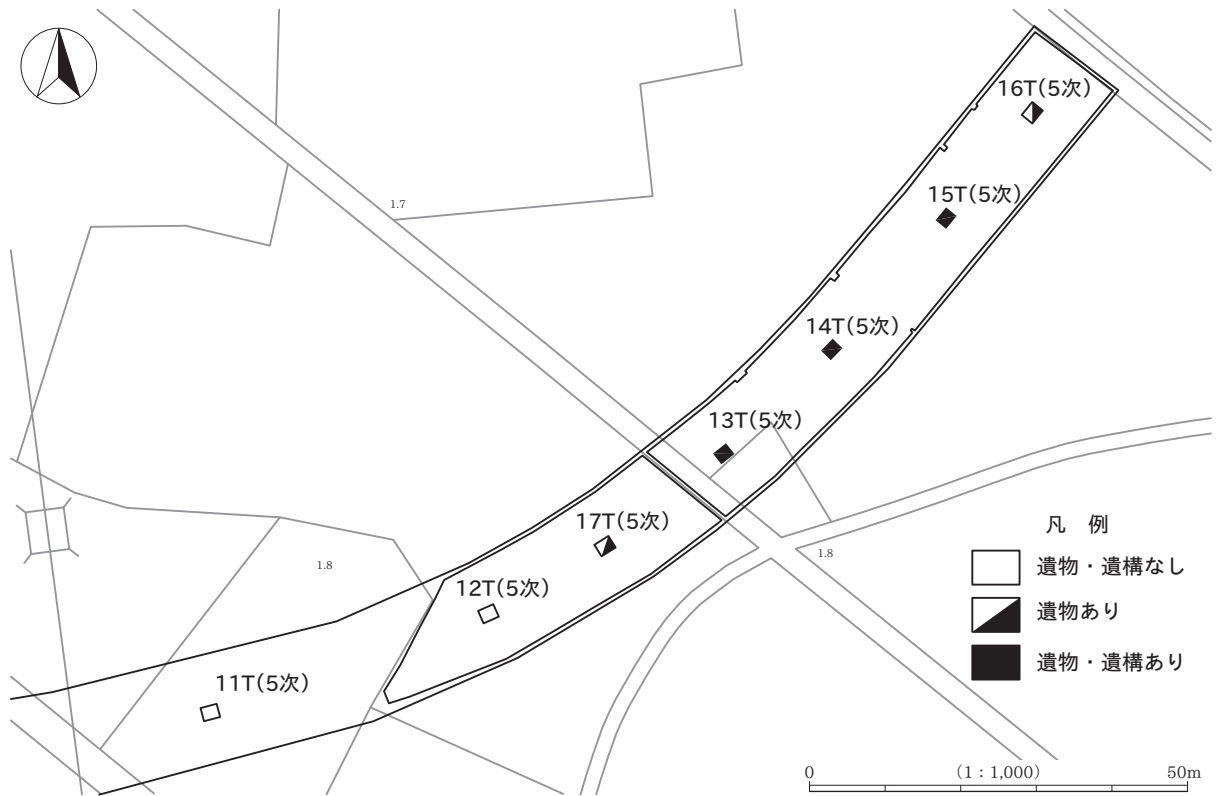
発掘調査区3点の座標(新座標)は次の通りである。

1C-9A1 杭 (X座標206620.000、Y座標53200.000、杭頭高1.097m、緯度:37°51'37"69765、
経度:139°06'16"60551)

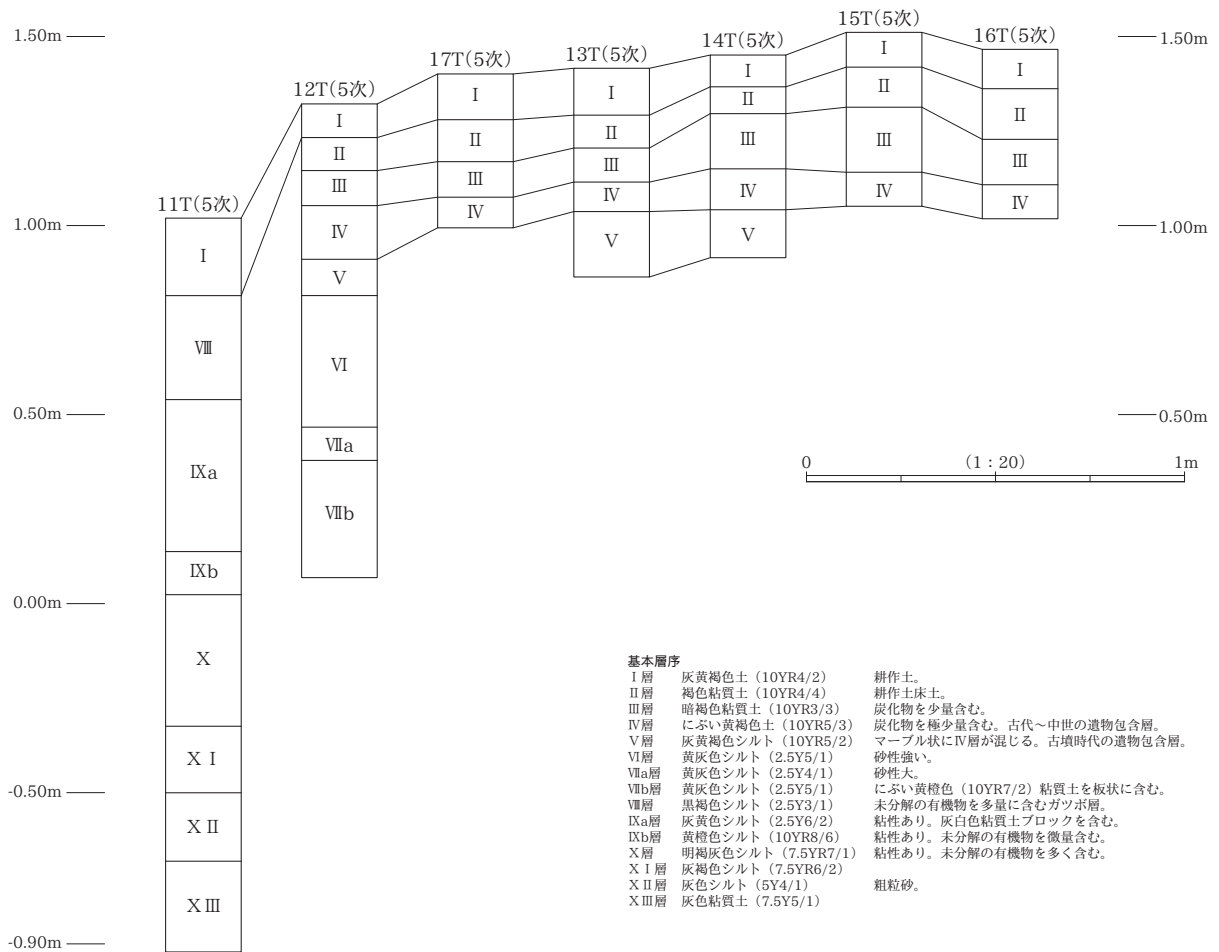
2B-3H1 杭 (X座標206580.000、Y座標53170.000、杭頭高1.204m、緯度:37°51'36"40652、
経度:139°06'15"36757)

2B-5E1 杭 (X座標206560.000、Y座標53140.000、杭頭高1.049m、緯度:37°51'35"76411、
経度:139°06'14"13493)

1C-9A1 杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度22分15秒東偏し、磁北は真



第7図 日水遺跡試掘調査位置図



第8図 日水遺跡試掘調査土層柱状図

第2節 発掘調査



第9図 日水遺跡グリッド設定図

北に対し8度3分西偏する。

3) 調査方法

① 表土剥ぎ 試掘調査によって遺物の出土が少量であると予想されたことから、遺物包含層（IV層）上面まで遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。排土は、道路法線上の調査区外の南西側に置いた。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また湛水防止のために表土剥ぎと平行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2インチのポンプで強制排水を行った。土側溝は、幅30cm、深さ30cm程度に人力で掘削した。壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝である。土側溝による遺構の破壊が考えられるが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘 重機（バックホウ）で掘削後、人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力およびベルトコンベアで調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真 実測図は断面を縮尺20分の1で作成した。平・断面図や各種測量点は、株式会社シン技術コンサルに委託してトータルステーションを用いて作成し、併せて俯瞰写真を撮影した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ、35mm版・6×7版の銀塩カメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

④ 遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は遺構単位・層単位で小グリッドごとに一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析 古環境復元のために、植物珪酸体分析・花粉分析を行った。

B 調査経過

平成24年8月21日から諸準備を開始し、9月3日から9月14日まで重機により表土掘削を行った。その後、適宜追加で表土掘削を行った。表土掘削と並行して作業員10名程度で土側溝掘削、法面仕上げ、包含層掘削を行った。9月5日からグリッド杭打ちを行った。9月後半の長雨のため遺構精査が難しい状況が続いた。9月25日より作業員全員での作業を開始し、10月1日から本格的な遺構検出・掘削作業を実施した。10月4日にV層下面の遺構から、古墳時代の須恵器が確認され、古墳時代の包含層の存在が明らかになった。10月10日に基本層序の自然科学分析サンプリングを行った。10月24日に南西側のIV層下面の調査区から小溝（SD）が密集して検出され、畑遺構（SN）が南西側に広がる可能性が出てきたため、10月30日より当初予定していなかった100m²程度南西側に調査区の拡張を行った。11月15日に上層遺構の精査をほぼ終了したためラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、翌16日に高所作業車による写真撮影を行った。11月24日に現地説明会が行われ、荒天の中100名の参加があった。その後下面の確認調査を行い、包含層中から古墳時代の遺物は確認できたが、SX1以外の遺構は検出出来なかった。12月18日に東部地域土木事務所と引き渡し協議を行った。20日に機材撤収を含め全ての調査が終了した。

最終的な発掘調査面積は上端1509.521m²、下端1443.294m²である。

C 調査体制

【第5次調査（試掘調査）平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	廣野耕造（新潟市埋蔵文化財センター 主査）

【第6次調査（本発掘調査）平成24年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	立木宏明（新潟市文化財センター 主査）
調査員	細野高伯（株式会社シン技術コンサル）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)にして65箱である。古墳時代・平安時代の土器が中心であるが、鉄製品、鉄滓などの鍛冶関連遺物・石製品など各種の遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別、種別の重量計測。④遺構出土遺物の器種毎の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図、観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレース図と版下作成は、業者に委託しデジタルトレースで行った。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、縮尺40分の1の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の各種縮尺図の遺構平面図は業者が作成し、デジタルデータ化した。その他の図面は整理補助員が作成した。

B 整理経過

発掘調査作業中に、出土遺物の水洗・注記を行った。調査終了後出土遺物の計測・接合・実測と写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平・断面図はデジタルデータを用いた。この間職員および調査員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。平成24年度の調査終了後の整理体制については、第2節の調査体制に併せて記した。

平成25年度は報告書刊行のみ行った。

【報告書刊行 平成25年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和 遠藤恭雄 本間敏則）
調査担当	立木宏明（新潟市文化財センター 主査）

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

日水遺跡は、新潟砂丘の新砂丘 I-1 列上の北斜面およびその北側に形成された自然堤防上に立地する(第 1 図、図版 2)。遺構の検出は基本土層 V 層上面で実施したが、古墳時代の遺構や遺物の検出を目的として VI 層上面までトレンチ調査および面下げを実施した。

検出した遺構は、古墳時代の性格不明遺構 (SX) 1 基、古代の溝 (SD) 83 条、土坑 (SK) 18 基、畑 (SN) 5 枚、性格不明遺構 (SX) 9 基、ピット (Pit) 95 基で、総数 211 遺構からなる。

出土遺物は古代～近世にわたっているが、ほとんどの遺物が平安時代(9世紀後半)のものであり、同時期の遺構が主体をなすと考えられる。

第 2 節 層 序 (図版 16)

基本層序は図版 16 に示した通り、6 層に大別される。I・II 層は耕作土であり、遺物の出土はほとんど見られない。III・IV 層は中世～古代の遺物包含層、V 層は古墳時代の遺物包含層で、VI 層で遺跡限界となる。各層の概要は以下の通りである。

I 層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 現在の耕作土。層厚 6～12cm。

II 層 褐色粘質土 (10YR4/4) 現在の耕作土の床土。層厚 8～18cm。

III 層 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 炭化物を少量含む。僅かに中世～古代の遺物を含む。層厚 9～22cm。

IV 層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 炭化物を極少量含む。中世～古代の遺物包含層。層厚 4～19cm。

V 層 灰黄褐色シルト (10YR5/2) マーブル状に IV 層が混じる。古墳時代の遺物包含層。層厚 8～16cm。

VI 層 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 砂質強い。層厚 12～40cm。

第 3 節 遺 構

遺構番号は、遺構の種類に関わらず検出順に付した。説明は時代別に溝・土坑・畑・性格不明遺構・ピットの順に記す。

詳しい遺構の計測値等は別表 1 に示した。遺構の形態分類は、平面形は円形・楕円形・長楕円形・長方形・隅丸方形の 5 種類に、断面形は半円状・台形状・箱状・階段状・U 字状・V 字状・弧状の 7 種類に分類した。

遺構の所属時期は、IV 層から掘り込まれている遺構から古代の土器が多く出土している。V 層中には古墳時代の遺物が包含され、V 層下面に遺構確認面がある。中世土器は少量出土しているが、いずれも遺構上面に落ち込むように出土しており、中世遺構として確認されたものはない。その他に近世遺構として堀田の痕跡が確認された。性格不明遺構 (SX) として掲載する。

A 古墳時代の遺構

古墳時代の遺構は唯一、1C-8A1・2 グリッドで確認された性格不明遺構 (SX1) である。古墳時代の包含層

であるV層の掘り下げを行ったが、それ以外の遺構は確認することは出来なかった。

SX1 (図版8、写真図版9)

1C-8A1・2グリッドに位置する。重機(バックホウ)で包含層(IV層)上面まで表土掘削を行った後、調査区内排水のための幅30cm、深さ30cm程度の土側溝を掘削中に須恵器直口壺が出土した。土側溝断面の精査を行ったところ、V層下面から掘り込まれる幅44cm、深さ16cm、底面標高0.73mの断面形が半円状、覆土は単層の遺構が確認された。横で検出された古代の溝(SD2)との切り合い関係は無いが、古代の遺構がV層上面からの掘り込みであるのに対し本遺構はV層下面からの掘り込みであるため、本遺構が古いことは明白である。平面形は、土側溝で切られた部分を補完すると楕円形になる。須恵器直口壺(図版33-1)は横倒しの状態で、口縁部と体部が若干ずれて確認された。土側溝掘削の際に発掘機器で損傷を受け口縁部は一部破損しているが、本来は完形であったと思われる。遺構中の覆土および須恵器内に詰まった土壌を1mmメッシュで篩ったが、細粒の砂は確認できたものの、炭化物や微細な遺物は確認できなかった。

B 古代の遺構

古代遺構の検出は、基本土層V層上面で実施した。

遺構種別は、溝(SD)83条、土坑(SK)18基、畑(SN)5枚、性格不明遺構(SX)9基、ピット(Pit)95基で、総数210遺構からなる。

出土遺物は古代～近世にわたっているが、ほとんどの遺構は平安時代の所産と考えられる。

1) 遺 構 各 説

溝状遺構(SD)

本遺跡では83条の溝が検出された。このうち67条は畑に伴う一連の小溝であるため、実質は16条である。調査区北側では、道路状に2条一対の様相を呈しているものも確認されている。

SD3 (図版10・11・17、写真図版11)

1B-8J5・10・15・20・25、9J5・10・15・19・20・24・25、10J4・8・9・13・14・18、1C-8A1・6・11・16・21、9A1・6・11に位置する。SD2と凡そ1.8m幅で並走し、重複関係にあるSD9、SX37、Pit66の中で一番新しい。走行方向は北側ではN-5°-Wとほぼ南北方向を指し、南下するに従いN-13～21°-Eとやや湾曲する。確認長は25.60mで、南北両端は調査区外へ延びる。最大幅0.49m、深度35cmを測り、断面形はU字状ないしは台形状を呈する。覆土は褐灰色土や灰黄褐色土が主体で6層もしくは8層に分層され、堆積状態はレンズ状である。

遺物は、古墳時代の土師器鉢(35)、平安時代の須恵器杯蓋(36)・無台杯(37～40)・短頸壺(41)・甕(42・43)、土師器長甕(44)・小甕(45～49)・鍋(50)、砥石(3)・敲石(4・5)・磨石(6)・軽石製石製品(7)、棒状鉄製品(14)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕体部片、平安時代の土師器無台碗体部片が出土している。

SD2 (図版10・11・17、写真図版11)

1B-9J20・25、10J5・9・10・14、1C-7A21、8A1・6・11・12・16・17・21・22、9A1・2・6・11・16・21に位置する。SD3と並走し、重複するSD5・9・13・29、Pit53の中で一番新しい。走行方向は北側ではN-3°-Wとほぼ南北方向を指し、南下するに従いN-19～26°-EとSD3に並行しながら湾曲する。確認長24.48m、最大幅0.52m、深度24cmを測る。覆土は褐灰色土および灰黄褐色土が主体で大略5層に分層でき、断面形態は台形状を呈する。本溝以南では遺構がまばらになる事からSD3と2条一対で道路などの区画となる機能が考えられるが、路面と推定される遺構間の硬度等の測定はしておらず断定はできない。

遺物は、古墳時代の土師器壺(51)、平安時代の須恵器無台杯(52・53)・有台杯(54)・甕(55・56)、土師器小甕(57・58)、敲石(8)、羽口(6)を図示した。その他に古墳時代の土師器甕体部片、平安時代の土師器無台碗体部片・長甕口縁部と体部片、軽石製石製品(21・22)が出土している。

SD13 (図版 10・17、写真図版 11・12)

1C-8A11～17、8B11・12 に位置する。重複する Pit19・20 より新しく、SD2、SK8・17、SX6 より古い。SD5 と並走して SD2 に直行し、走行方向は N-85° -E を指す。確認長 11.76m、最大幅 0.58m、深度 20cm を測り、東端は調査区外へ延びる。覆土は 6 層に分層され、断面形は弧状を呈す。

遺物は土師器無台椀 (59) を図示した。その他に土師器長甕体部片が出土している。

SD5 (図版 10・17、写真図版 11・12)

1C-8A16～20・22・23 に位置する。走行方向は N-85° -E を指し、SD13 と 2.4m 幅で並走する。重複する SK10～12 より新しく、SD2、SX6 より古い。規模は、全長 8.36m、最大幅 0.70m、深度 60cm を測る。覆土は最大 11 層に分層でき、断面形は台形状を呈する。SD13 と 2 条一対で道路状遺構の側溝であったと推察され、東隣する SD18 と同一溝の可能性も考えられる。

遺物は、須恵器長頸壺 (60)、土師器無台椀 (61)・長甕 (62)、砥石 (9) を図示した。その他に古墳時代の土師器甕・壺・高杯、平安時代の土師器鍋の体部片が出土している。

SD18 (図版 10・26、写真図版 23)

1C-8A20、8B16 に位置する。重複する Pit21 より新しく、SK7、SX6 より古い。走行方向は N-85° -W を指し、確認長 2.28m、最大幅 0.44m、深度 12cm を測り、東端は調査区外へ延びる。覆土は単層で、断面形は弧状を呈す。

遺物は古墳時代の土師器甕の細片が出土している。

SD9 (図版 10・17、写真図版 12)

1B-9J20、1C-9A16・17 に位置し、重複する SD29、Pit66 より新しく、SD2・3 より古い。走行方向は N-80° -W を指し、東端は調査区外へ延びる。確認長 4.16m、最大幅 0.39m、深度 19cm を測り、断面形は弧状を呈す。覆土は 4 層に分層され、褐灰色粘質土が主体となっている。

遺物は、須恵器甕 (63)、土師器無台椀 (64)・長甕 (65) を図示した。その他に古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器小甕・鉢の体部片が出土している。

SD29 (図版 10・17、写真図版 12)

1C-9A16・17・21・22 に位置し、重複する SD2・9 より古い。走行方向は N-75° -E ～ N-72° W とやや蛇行しており、東端は調査区外へ延びる。確認長 2.47m、最大幅 0.52m、深度 22cm を測り、断面形は台形状を呈す。覆土は 8 層に分層でき、灰黄褐色土が主体である。

遺物は土師器鍋 (66) が出土している。

SD62 (図版 11・17、写真図版 12)

1B-10I11～13・17～19・24・25、10J21、2B-11I5、1J1・2 に位置する。重複する SK84 より古く、両端は調査区外へ延びる。走行方向は N-60° -W を指し、確認長 12.76m、最大幅 0.80m、深度 24cm を測る。断面は弧状を呈し、覆土は灰黄褐色土を主体に 2～6 層に分層される。

遺物は須恵器無台杯口縁部片、土師器無台椀体部・底部片が出土しており、他に古墳時代の土師器甕の細片が出土している。

SD86 (図版 11・12・18、写真図版 13)

2B-1G20・25、1H3・4・7・8・11・12・16・21 に位置し、重複する SD55 より古い。走行方向は N-39° -E を指し、北端は調査区外へ延びる。確認長 11.00m、最大幅 0.39m、深度 13cm を測り、断面は浅い弧状を呈す。覆土は、にぶい黄褐色土と灰黄褐色粘質土の 2 層に分層される。

遺物は土師器長甕体部片、軽石製石製品 (24) が出土しており、他に古墳時代土師器甕の細片がある。

SD81 (図版 11・18、写真図版 13)

2B-1H8～10 に位置し、重複する SD55 より古い。走行方向は N-82° -E を指し、全長 5.22m、幅最大幅

0.20m、深度 16cm を測り、断面は半円状を呈す。覆土は灰黄褐色土と褐灰色土の 2 層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土しており、他に古墳時代土師器甕の細片がある。

SD55 (図版 11・18、写真図版 13・14)

2B-1H9・10・12～14、1I6～10、1J6 に位置する。重複する SD81、SK82 より新しく、SD54 より古い。走行方向は調査区西側では N-83° -E を指す東西溝であるが、一旦 N-37° -E と屈曲し、調査区東側では N-87° -E と再び東西溝に戻る。両端は調査区外に延び、確認長 10.08m、最大幅 0.76m、深度 27cm を測る。断面は台形状もしくは U 字状を呈し、覆土は褐灰色土を主体に 2～6 層に分層される。

遺物は土師器無台椀 (67)、珠洲焼壺 R 種 (68) を図示した。その他に須恵器短頸壺体部片、土師器無台椀体部・底部片・長甕体部片・小甕体部片、古墳時代土師器甕の体部片、軽石製石製品 (23) が出土している。

SD59 (図版 11・18、写真図版 14)

2B-1I7～9 に位置する。重複する Pit58 より古い。走行方向は調査区西側では N-87° -E を指す東西溝である。確認長 4.42m、最大幅 0.40m、深度 14cm を測る。断面は台形状を呈し、覆土は褐灰色土を主体に 2～3 層に分層される。

遺物は古墳時代の土師器甕細片、平安時代の土師器無台椀体部片・鍋体部片が出土している。

SD54 (図版 11・18、写真図版 13)

1B-10I25、2B-1I5・10、1J6 に位置し、重複する SD55 より新しい。走行方向は N-24° -E を指し、東端は調査区外へ延びる。確認長 4.22m、最大幅 0.26m、深度 8cm を測り、断面は弧状を呈し、覆土は単層である。

遺物は出土していない。

SD148 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C20・25、5D16・21・22、6D1・2 に位置し、重複する SD149、SK198、SN150、Pit210～212 より新しい。走行方向は N-45° -W を指し、東端は調査区外へ延びる。確認長 4.96m、最大幅 0.64m、深度 10cm を測り、断面は浅い弧状を呈する。覆土は、褐色シルトの単層である。

遺物は出土していない。

SD183 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C20・25 に位置し、重複する SN150、Pit184 より新しく、SD149、Pit182 より古い。走行方向は N-40° -W を指し、全長 1.58m、最大幅 0.16m、深度 6cm を測る。断面は浅い弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。規模や形態、覆土などから畑に伴う小溝と考えられるが、隣接する SN150 より 1 本のみはみ出すため、溝とした。

遺物は出土していない。

SD149 (図版 14・15・18、写真図版 14)

2B-5C15・20・24・25、5D11・16、6C3・4・8・9 に位置する。重複する SD153・157・183、SN150 より新しく、SD148、SX147 より古い。走行方向は N-38° -E を指し、北端は先細りし、南端は調査区外へ延びる。確認長 9.96m、最大幅 0.48m、深度 10cm を測り、断面は浅い弧状を呈す。覆土は、黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に分層される。本溝は SN150 耕作範囲の東側に位置しており、SN150 の区画を成していた可能性が推察される。

遺物は土師器無台椀・鍋の体部片が出土している。

土 坑 (SK)

土坑は 18 基検出された。この内には、形態的には SX や Pit と考えられるものも含まれるが、調査時の所見に基づき土坑とした。また、本遺跡の特徴の一つとして、長楕円形 (小判形) の 7 基の土坑が挙げられる。

SK4 (図版 10・19、写真図版 15)

1C-7A23 に位置する。平面は円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長軸 0.67m、短軸 0.65m を測り、確認面からの深度は 15cm である。覆土は 6 層に分層され、ブロック状の堆積状況を示す。

遺物は土師器鍋体部片が出土している。その他に古墳時代の土師器甕底部片(69)が出土している。

SK36 (図版10・19、写真図版15)

1C-8A7・12に位置する。主軸方向はN-3°-Wを指し、平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.98m、短軸0.52mを測り、確認面からの深度は62cmで底面標高は0.40mを測る。覆土は、灰黄褐色粘質土を主体に15層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片、敲石(10)が出土している。

SK15 (図版10・19、写真図版15)

1C-8A7・8・12・13に位置する。主軸方向はN-3°-Eを指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.11m、短軸0.92mを測り、確認面からの深度は64cmで底面標高は0.37mを測る。覆土は7層に分層され、ほぼレンズ状の堆積状況を示す。

遺物は須恵器長頸壺高台片(70)を図示した。その他に土師器長甕体部片、古墳時代土師器甕細片が出土している。

SK17 (図版10・19、写真図版15)

1C-8A12・17に位置し、重複するSD13より新しい。主軸方向はN-18°-Wを指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.14m、短軸0.69m、確認面からの深度は33cmで底面標高は0.68mを測る。覆土は灰黄褐色シルトブロックを含む土が主体で、7層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SK8 (図版10・19、写真図版16)

1C-8A13に位置し、重複するSD13より新しい。主軸方向はN-0°を指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.13m、短軸0.78mを測り、確認面からの深度は64cmで底面標高は0.44mを測る。覆土は13層に分層され、底面付近はブロック状の堆積状況を示す。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。その他に珠洲焼壺R種底部片(71)がある。

SK7 (図版10・19、写真図版16)

1C-8A15・20に位置し、重複するSD18より新しく、SX6より古い。主軸方向はN-60°-Wを指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.20m、短軸0.96mを測り、確認面からの深度は49cmで底面標高は0.48mを測る。覆土は5層に分層され、褐灰色粘質土が主体である。

遺物は須恵器無台杯底部片(72)、土師器長甕口縁部片(73)、軽石製石製品(11)を図示した。その他に土師器無台椀体部片が出土している。

SK10 (図版10・20、写真図版17)

1C-8A17に位置し、重複するSD5より古い。主軸方向はN-2°-Wを指し、平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.94m、短軸0.65mを測り、確認面からの深度は42cmで底面標高は0.78mを測る。覆土は粘質シルトを主体とし、6層に分層される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SK32 (図版10・20、写真図版17)

1C-8A19・20に位置し、重複するSK12に南壁を切られる。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸確認長0.34m、短軸0.43mを測り、確認面からの深度は17cmである。覆土は、にぶい黄褐色土を主体に3層に分層される。

遺物は出土していない。

SK11 (図版10・20、写真図版12・17)

1C-8A19・20・25に位置し、重複するSD5、SX6より古い。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈すると推察される。規模は推定で長軸0.54m、短軸0.38m程度と考えられ、確認面からの深度は22cmを測る。覆土

は4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示す。

遺物は出土していない。

SK12 (図版10・20、写真図版12・17)

1C-8A19・20に位置し、重複するSK32より新しく、SD5により南半を切られる。平面は円形と推察され、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.66m、短軸は確認長で0.30mを測り、確認面からの深度は18cmを測る。覆土は2層に分層され、共ににぶい黄褐色土ブロックを多く含む。覆土や形態から、SK11と同一遺構の可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

SK31 (図版10・20、写真図版17)

1C-9A4に位置し、重複するSK30に西壁を切られる。平面は円形で、断面形は弧状を呈す。規模は推定で直径0.32mほどであり、確認面からの深度は16cmを測る。覆土は3層に分層される。平断面の規模からはピットとも考えられるが、埋土がレンズ状の堆積であるため土坑とした。

遺物は出土していない。

SK30 (図版10・20、写真図版17)

1C-9A4・9に位置し、重複するSK31より新しい。平面は円形と推定され、断面形は弧状を呈す。規模は長軸推定で0.60m程度、短軸0.57mを測り、確認面からの深度は11cmを測る。覆土は、にぶい黄橙色土の含有状況により4層に分層される。

遺物は出土していない。

SK28 (図版10・20、写真図版17・18)

1C-9A7に位置する。平面は長楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.59m、短軸0.34mを測り、確認面からの深度は18cmを測る。覆土は5層に分層される。

遺物は出土していない。

SK57 (図版10・20、写真図版18)

1C-9A12・13・17・18に位置し、北壁を重複するPit52に切られ東半は調査区外へ延びる。平面は円形もしくは隅丸方形になると推定され、断面形は階段状を呈す。規模は長軸1.28m、短軸は確認長0.57mを測り、確認面からの深度は32cmを測る。覆土は、上段は黒褐色土、下段は褐灰色粘質土主体で8層に分層されるが、堆積状況からは2つの遺構とも考えられる。形態的には、井戸の可能性もある。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。その他に古墳時代土師器甕の細片がある。

SK84 (図版11・20、写真図版18)

1B-10I11に位置し、重複するSD62より新しく、西半は調査区外へ延びる。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸確認長で0.46m、短軸は確認長で0.35mを測り、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は3層に分層され、褐灰色砂質土ブロックを含む粘質土が主体である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

SK42 (図版11・20、写真図版18)

1B-10J21・22に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.67m、短軸0.55mを測り、確認面からの深度は16cmを測る。覆土は4層に分層され、褐灰色粘質土が底面付近に認められる。

遺物は出土していない。

SK82 (図版11・20、写真図版18)

2B-1H10に位置し、北半を重複するSD55に切られる。平面は円形と推察され、断面形は弧状を呈する。規模は長軸0.62m、短軸は現況で0.26mを測り、確認面からの深度は8cmを測る。覆土は2層に分かれ、褐灰色土が主体である。

遺物は古墳時代の土師器甕体部片が出土している。

SK198 (図版 14・15・20、写真図版 18)

2B-5D21、6D1 に位置し、重複する SD148、Pit189~191 に切られる。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸確認長で 0.94m、短軸 0.91m を測り、確認面からの深度は 18cm を測る。覆土は 2 層に分層されるが、いずれも褐灰色粘質土である。

遺物は須恵器無台杯体部片、土師器鍋体部片が出土している。

畑 (SN)

調査区南端において、畑が 5 枚検出された。小溝からなる陸田 (耕地) と考えられ、平安時代以前には畑という字は使用されていないため本来ならば「畠」と表記すべきであるが、「発掘調査の手引き」〔文化庁文化財部記念物課監修 2010〕に従い畑とした。5 枚の畑は、等高線に沿った東西の無遺構帯の南北に配置される。1 枚の畑の規模は長辺 8.04~17.58m とまちまちであるが、作り替えや重複を考慮すれば 1 枚当たりの長辺は 8~9m 程度であったと推察される。

SN130 (図版 13~15・21、写真図版 19)

2B-4C25、4D5・9・10・12~24、4E1・2・6・7・11・12・16、5C4・5・9・10・15、5D1~4・6・7・11 に位置する。SD131~137・139~146 の 15 条の小溝からなり、残存する畝の高さは調査区西壁の土層観察から 20cm 程度である。耕作によると考えられる土壌の変質部 (以下、「耕作土」とする) は長辺 17.58m、短辺確認長 5.58m の範囲で認められ、西側は調査区外へ延びる。耕作土の層厚は 10~15cm 程度である。SD131~137 の畝間は 1.10m もしくは 1.20m とほぼ等間であるが、SD137~146 においては 0.20~1.60m と規格性が窺えない。これは、畝替えによるもの、2 枚の畑に分別される、などの可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から 1 枚の畑として扱った。広い畝間は、防湿効果を高めるために高畝にしたなどの理由も考察できる。

他遺跡の調査事例から畝間の広い畑は陸稲栽培が指摘されているが、自然科学分析により本畑からもイネ科の花粉が検出されており (第VI章参照)、稲作をしていた可能性が高いと考えられる。

遺物は SD136 出土の土師器無台椀 (74)、SD139 出土の土師器鍋 (75)、SD141 出土の須恵器横瓶 (76)、SD144 出土の須恵器甕 (77)、耕作土出土の須恵器無台杯 (78)、土師器無台椀 (79)・小甕 (80) が出土している。

SD146 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・2 に位置する SN130 北端の溝で、北端は調査区外へ延びる。走行方向は N-41°-W を指し、確認長 1.08m、最大幅 0.28m、深度 8cm を測る。断面形は半円状で、SD145 との条間は 0.52m を測る。覆土はにぶい黄褐色シルトと黒褐色シルトに分層され、畑に伴う小溝はすべて同一である。

遺物は出土していない。

SD145 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・2・6~8・12・13 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-40°-W を指し、確認長 4.04m、最大幅 0.42m、深度 11cm を測る。断面形は台形状で、SD144 との条間は 1.04m である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD144 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4E1・6・7・12 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-45°-W を指し、確認長 3.64m、最大幅 0.36m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD143 との条間は 0.90m を測る。

遺物は須恵器甕 (77) を図示した。その他に土師器無台椀体部片が出土している。

SD143 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D5・10、4E1・6・11・12 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向は N-41°-W を指し、確認長 3.96m、最大幅 0.24m、深度 10cm を測る。断面形は半円状で、SD142 との条間は 1.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD142 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D10・15、4E11 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-39°-Wを指し、確認長3.84m、最大幅0.28m、深度9cmを測る。断面は浅い弧状で、SD141との条間は0.90mを測る。

遺物は出土していない。

SD141 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D9・10・15、4E11・16 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長3.98m、最大幅0.28m、深度19cmを測る。断面形はU字状で、SD140との条間は0.80mを測る。

遺物は須恵器横瓶(76)を図示した。その他に須恵器甕、土師器無台椀体部片が出土している。

SD140 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D9・14・15・20 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-42°-Wを指し、確認長4.12m、最大幅0.36m、深度11cmを測る。断面形は浅い弧状で、SD139との条間は1.30mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD139 (図版 13・14・21、写真図版 19) 2B-4D13・14・19・20 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-42°-Wを指し、確認長4.04m、最大幅0.32m、深度8cmを測る。断面形は弧状で、SD137との条間は1.20mを測る。

遺物は土師器鍋(75)が出土している。

SD137 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D13・18・19・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長4.68m、最大幅0.28m、深度11cmを測る。断面形は台形状で、SD136との条間は1.30mを測る。

遺物は出土していない。

SD136 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D12・17・18・23・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-42°-Wを指し、確認長4.88m、最大幅0.24m、深度10cmを測る。断面形は半円状で、SD135との条間は1.34mを測る。

遺物は、土師器無台椀(74)を図示した。

SD135 (図版 14・21、写真図版 19) 2B-4D17・22・23、5D3 に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-43°-Wを指し、確認長4.94m、最大幅0.32m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD134との条間は2.65mを測るが、中間にSX177があるため、本来は1.3m程度の条間であったと考察される。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD134 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-4D21、5D1・2 に位置する。走行方向はN-43°-Wを指し、全長3.60m、最大幅0.24m、深度6cmを測る。断面形は弧状で、SD133との条間は1.34mを測る。

遺物は出土していない。

SD133 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-4C25、4D21、5C5、5D1・2・6・7 に位置し、東端は試掘坑(12T)によって切られる。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長4.46m、最大幅0.26m、深度14cmを測る。断面は箱状で、SD132との条間は1.34mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD132 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-5C5・10、5D1・6 に位置し、東端は試掘坑(12T)によって切られる。走行方向はN-42°-Wを指し、確認長3.24m、最大幅0.32m、深度4cmを測る。断面は浅い弧状で、SD131との条間は1.28mを測る。

遺物は出土していない。

SD131 (図版 14・15・21、写真図版 19) 2B-5C4・5・10・15、5D6・11 に位置し、東端は試掘坑(12T)

によって切られる。走行方向はN-43°-Wを指し、確認長3.32m、最大幅0.24m、深度8cmを測る。断面は弧状で、SN130最南の溝である。

遺物は出土していない。

SN209 (図版13・14・22、写真図版19)

2B-4D9・10・13～15・19・20、4E1・2・6・7・11・12・16に位置する。SN130北部と完全に重複し、SN130の下から検出された。耕作土は削平され残存しないため耕作範囲は不明であるが、小溝の残存部であるSD138・202～208の8条が検出された。西側は調査区外へ延びている。SN130以前の畑跡であり、SN130とは畝間が異なるため耕作物の変更に伴う畑の作り変えの可能性がある。

SD208 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4E1・6・7に位置するSN209最北の溝である。西端は調査区外へ延び、一部はSN130のSD144に切られる。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長3.08m、最大幅0.20m、深度5cmを測る。断面形は台形状で、SD207との条間は0.28mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD207 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4E1・6に位置し、西端は調査区外へ延びる。SN130のSD144に切られている。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長2.28m、最大幅0.25m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD206との条間は0.42mを測る。

遺物は出土していない。

SD206 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D5・10、4E6に位置し、大半が調査区外へ延び、端のみの検出である。走行方向はN-39°-Wを指し、確認長0.82m、最大幅0.24m、深度2cmを測る。断面形は弧状で、SD205との条間は0.12mを測る。

遺物は出土していない。

SD205 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D10、4E6・11に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-41°-Wを指し、確認長3.40m、最大幅0.20m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD204との条間は0.14mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD204 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D10に位置し、本体は調査区外へ延びる。走行方向はN-39°-Wを指し、確認長0.44m、最大幅0.24m、深度10cmを測る。断面形は台形状で、SD203との条間は1.06mを測る。

遺物は出土していない。

SD203 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D9・10・15に位置し、西端は調査区外へ延びる。SN130のSD141に大部分が切られている。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長2.64m、最大幅0.24m、深度12cmを測る。断面形は台形状で、SD202との条間は0.70mを測る。

遺物は出土していない。

SD202 (図版13・14・22、写真図版19) 2B-4D9に位置し、東端のみの検出である。走行方向はN-38°-Wを指し、確認長0.12m、最大幅0.20m、深度12cmを測る。断面形はU字状で、SD138との条間は1.68mを測る。

遺物は出土していない。

SD138 (図版14・22、写真図版19) 2B-4D13・14・19に位置するSN209最南端の溝である。西端は調査区外へ延びる。SN130のSD139に一部切られる。走行方向はN-43°-Wを指し、確認長3.30m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は半円状である。

遺物は出土していない。

SN112 (図版13・14・23、写真図版20)

2B-4E18・19・22～24、5E1～4・6～8・11・12に位置する。SD113～118の6条の小溝からなり、残

存する畝の高さは28cmほどである。耕作土範囲は長辺8.04m、短辺確認長4.56mを測り、西側は調査区外へ延びる。耕作土は層厚8cm程度確認された。SD113～117の畝間は1.0mほどでほぼ等間であるが、SD117・118間が0.4cmと規格からはずれている。SD118はその南に位置するSN129内のSD119と規格・断面形状が一致しており、両者が対となり畑間の道路状遺構である可能性が考えられる。

遺物はSD115出土の須恵器無台杯(81)、土師器長甕(82)、SD116出土の土師器無台椀(83・84)、耕作土出土の須恵器無台杯(85～90)、土師器無台皿(91)・長甕(92)・鍋(93)を図示した。その他に耕作土からは土師器無台椀体部片が出土している。

SD113(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E23・24、5E4に位置するSN112最北の溝である。端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長4.20m、最大幅0.32m、深度20cmを測る。断面形状は台形状で、SD114との条間は1.00mを測る。

遺物は出土していない。

SD114(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E23、5E3に位置し、端は調査区外へ延びる。Pit201を切っている。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長3.52m、最大幅0.28m、深度9cmを測る。断面形状は弧状で、SD115との条間は0.90mを測る。

遺物は須恵器無台杯体部片が出土している。

SD115(図版13・14・23、写真図版20) 2B-4E22、5E2・3・8に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長3.48m、最大幅0.40m、深度9cmを測る。断面形状は弧状で、SD116との条間は1.10mを測る。

遺物は須恵器無台杯(81)、土師器長甕(82)を図示した。その他に須恵器長頸壺口縁部細片が出土している。

SD116(図版13・14・23、写真図版20) 2B-5E1・2・7・8に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-27°-Wを指し、確認長3.84m、最大幅0.48m、深度21cmを測る。断面形状は半円状で、SD117との条間は0.92mを測る。

遺物は土師器無台椀(83・84)が出土している。

SD117(図版13・14・23、写真図版20) 2B-5E1・6・7・11・12に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向はN-29°-Wを指し、確認長3.56m、最大幅0.38m、深度22cmを測る。断面形状は台形状で、SD118との条間は0.40mを測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD118(図版14・23、写真図版20) 2B-5E6・11・12に位置するSN112最南の溝である。西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-28°-Wを指し、確認長2.32m、最大幅0.20m、深度17cmを測る。断面形状は箱形に近い台形状である。

遺物は出土していない。

SN129(図版14・15・24、写真図版21)

2B-5D9・10・13～15・17～20・22～24、5E6・11・16に位置する。SD119～128・199の11条の小溝からなり、残存する畝の高さは36cm程である。耕作土範囲は長辺8.04m、短辺確認長3.24mを測り、東側は調査区外へ延びる。耕作土は層厚10cm程度確認された。畝間は0.40～0.60mに収まるが、小溝の幅を見ると若干幅広のもの(SD120・122・124・126・128)と幅狭のもの(SD119・121・123・125・127)が交互に配置されているのが分かる。幅広の小溝間の畝間は1.00～1.20m、幅狭の小溝による畝間1.20～1.40mを測る。両者は畝替えによる2枚の重複する畑跡の可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から1枚の畑として扱った。SD119については上述のようにSN112のSD118との関連性が考えられる。

遺物はSD120出土の土師器鍋(94)、SD124出土の軽石製石製品(25)、耕作土出土の須恵器長頸壺(95)、土師器無台椀(96～99)・小甕(100～102)・長甕(103～106)・鍋(107)を図示した。その他に耕作土からは須

恵器甕体部片が出土している。

SD199 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5E6・11 に位置する SN129 最北の溝である。Pit178・179 に切られ、端が開渠により切られている。走行方向は N-30°-W を指し、確認長 1.80m、最大幅 0.12m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD119 との条間は 0.48m を測る。

遺物は出土していない。

SD119 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D10・15、5E11 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-34°-W を指し、確認長 2.52m、最大幅 0.24m、深度 22cm を測る。断面形は U 字状で、SD120 との条間は 0.64m を測る。

遺物は出土していない。

SD120 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D10・15・20、5E11・16 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-35°-W を指し、確認長 2.92m、最大幅 0.36m、深度 12cm を測る。断面形は半円状で、SD121 との条間は 0.34m を測る。

遺物は土師器鍋 (94) が出土している。

SD121 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D15・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-35°-W を指し、確認長 2.74m、最大幅 0.16m、深度 12cm を測る。断面形は半円状で、SD122 との条間は 0.60m を測る。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

SD122 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D14・15・19・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-46 ~ 22°-W を指し、若干湾曲している。確認長 2.80m、最大幅 0.38m、深度 13cm を測る。断面形は台形状で、SD123 との条間は 0.34m を測る。

遺物は出土していない。

SD123 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D14・19・20 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-30°-W を指し、確認長 2.44m、最大幅 0.24m、深度 13cm を測る。断面形は台形状で、SD124 との条間は 0.42m を測る。

遺物は土師器無台椀・鍋体部片が出土している。

SD124 (図版 14・24、写真図版 21) 2B-5D13・14・19 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-31°-W を指し、確認長 2.88m、最大幅 0.32m、深度 17cm を測る。断面形は U 字状で、SD125 との条間は 0.40m を測る。

遺物は須恵器無台杯体部片、軽石製石製品 (25) が出土している。

SD125 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D13・18・19 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-32°-W を指し、確認長 2.60m、最大幅 0.22m、深度 12cm を測る。断面形は台形状で、SD126 との条間は 0.60m を測る。

遺物は出土していない。

SD126 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D18・19・23・24 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-32°-W を指し、確認長 2.56m、最大幅 0.28m、深度 16cm を測る。断面形は U 字状で、SD127 との条間は 0.40m を測る。

遺物は出土していない。

SD127 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D18・23 に位置し、端は調査区外へ延びる。走行方向は N-25°-W を指し、確認長 2.23m、最大幅 0.16m、深度 13cm を測る。断面形は U 字状で、SD128 との条間は 0.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD128 (図版 14・15・24、写真図版 21) 2B-5D17・18・23 に位置する SN129 最南の溝である。西端は調

査区外へ延びる。走行方向はN-30°-Wを指し、確認長2.32m、最大幅0.36m、深度13cmを測る。断面形はU字状である。

遺物は須恵器無台杯体部片、土師器無台椀体部片が出土している。

SN150 (図版14・15・25、写真図版22)

2B-5C8・9・13～15・17～25, 6B10・14・15, 6C1～4・6～8・11・12に位置する。SD151～176・185の27条の小溝からなり、残存する畝の高さは29cm程である。耕作土範囲は長辺14.76m、短辺は確認長4.88mを測り、西側は近世の地業による盛土(以下、「地業盛土」という。)により切られている。耕作土は層厚8cm程度確認された。耕作範囲東際に位置するSD149は本遺構の区画の可能性が考えられる。畝間は0.10mほどの狭いものから0.70mほどの広いものまであり、さらには小溝が重複するものもある。小溝の長さも長短様々であるため、畝替え、もしくは何枚かの畑が重複している可能性が考えられるが、耕作土の検出状況から1枚の畑として扱った。

遺物はSD156出土の土師器小甕(108)、SD158出土の土師器無台椀(109)、SD163出土の土師器鍋(110)、耕作土出土の須恵器甕(111～113)、土師器無台椀(114・115)・小甕(116・117)・鍋(118)を図示した。耕作土からはその他に土師器長甕体部片が出土している。

SD185 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C14に位置するSN150最北の溝である。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長は0.68mと短い。最大幅0.16m、深度4cmを測る。断面形は弧状で、SD151との条間は0.30mを測る。

遺物は出土していない。

SD151 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C8・9・13～15・19・20に位置し、東端をSD148、西端を攪乱と近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-48°-Wを指し、確認長4.78m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は弧状で、SD152との条間は0.22mを測る。

遺物は土師器鍋底部片が出土している。

SD152 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13に位置する。確認長は0.28mと短く、西側大半を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-51°-Wを指し、最大幅0.16m、深度8cmを測る。断面形は弧状で、SD153との条間は0.66mを測る。

遺物は出土していない。

SD153 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・14・19・20・24・25に位置し、東端をSD149、西端を近世の地業盛土に切られている。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長4.44m、最大幅0.34m、深度10cmを測る。断面形は弧状で、SD154との条間は0.44mを測る。

遺物は土師器鍋体部片が出土している。

SD154 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・18・19に位置する。走行方向はN-46°-Wを指し、確認長1.84m、最大幅0.16m、深度8cmを測る。断面形はU字状で、SD155との条間は0.40mを測る。

遺物は出土していない。

SD155 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C13・18・19・24に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-44°-Wを指し、確認長4.16m、最大幅0.28m、深度8cmを測る。断面形は台形状で、SD156との条間は0.34mを測る。

遺物は出土していない。

SD156 (図版14・15・25、写真図版22) 2B-5C17・18に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向はN-50°-Wを指し、確認長2.04m、最大幅0.28m、深度5cmを測る。断面形は弧状で、SD157との条間は0.32mを測る。

遺物は土師器小甕(108)が出土している。

SD157 (図版 14・25、写真図版 22) 2B-5C17・18・23・24、6C4 に位置し、東端を SD149、西端を近世の地業盛土に切られている。走行方向は N-45° -W を指し、確認長 4.44m、最大幅 0.40m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD158 との条間は 0.30m を測る。

遺物は土師器鍋底部片が出土している。

SD158 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C17・22・23 に位置する。走行方向は N-44° -W を指し、確認長 3.28m、最大幅 0.32m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD159 との条間は 0.40m を測る。

遺物は土師器無台椀 (109) が出土している。

SD159 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C22・23、6C3 に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向は N-46° -W を指し、確認長 4.04m、最大幅 0.40m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD160 との条間は 0.40m を測る。

遺物は出土していない。

SD160 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C22 に位置する。走行方向は N-54° -W を指し、確認長は 0.92m と短い。最大幅 0.16m、深度 7cm を測る。断面形は台形状で、SD161 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD161 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22、6C2・3 に位置し、西端を近世の地業盛土に切られる。走行方向は N-51° -W を指し、確認長は 3.36m、最大幅 0.26m、深度 8cm を測る。断面形は台形状で、SD161 との条間は 0.10m を測る。

遺物は須恵器無台杯底部片が出土している。

SD162 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22 に位置する。走行方向は N-50° -W を指し、確認長は 0.72m と短い。最大幅 0.20m、深度 10cm を測る。断面形は弧状で、SD162 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD163 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21・22、6C2・3 に位置する。走行方向は N-51° -W を指し、確認長は 3.96m、最大幅 0.20m、深度 9cm を測る。断面形は弧状で、SD164 との条間は 0.50m を測る。

遺物は土師器鍋 (110) を図示した。その他に黒色土器無台椀体部片が出土している。

SD164 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-5C21、6C1・2 に位置し、西端を近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-55° -W を指し、確認長は 0.96m と短い。最大幅 0.24m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD165 との条間は 0.30m を測る。

遺物は出土していない。

SD165 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・2・7 に位置する。走行方向は N-52° -W を指し、確認長は 2.76m、最大幅 0.20m、深度 4cm を測る。断面形は弧状で、SD166 との条間は 0.58m を測る。

遺物は出土していない。

SD166 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・2・6・7 に位置する。走行方向は N-47° -W を指し、確認長は 2.12m、最大幅 0.20m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD167 との条間は 0.12m を測る。

遺物は出土していない。

SD167 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・6・7 に位置する。走行方向は N-56° -W を指し、確認長は 3.88m、最大幅 0.28m、深度 10cm を測る。断面形は弧状で、SD168 との条間は 0.38m を測る。

遺物は出土していない。

SD168 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C1・6 に位置する。走行方向は N-55° -W を指し、確認長は 2.12m、最大幅 0.22m、深度 11cm を測る。断面形は弧状で、SD169 の西半部と接している。

遺物は出土していない。

SD169 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6C6・7・12 に位置し、東端は調査区外へ延びる。走行方向は

N-46° -W を指し、途中で途切れるが全体の確認長は 2.20m、最大幅 0.20m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD170 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD170 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6・11・12 に位置する。東端は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-57° -W を指し、確認長は 3.12m、最大幅 0.20m、深度 14cm を測る。断面形は半円状で、SD171 との条間は 0.10m を測る。

遺物は出土していない。

SD171 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6 に位置する。走行方向は N-52° -W を指し、確認長は 0.80m と短い。最大幅 0.16m、深度 7cm を測る。断面形は弧状で、SD172 との条間は 0.06m を測る。

遺物は出土していない。

SD172 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6・11 に位置する。走行方向は N-50° -W を指し、確認長は 1.24m とやや短い。最大幅 0.24m、深度 5cm を測る。断面形は弧状で、SD173 との条間は狭く 0.02m を測る。

遺物は出土していない。

SD173 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10、6C6 に位置する。走行方向は N-48° -W を指し、確認長は 1.04m とやや短い。最大幅 0.16m、深度 8cm を測る。断面形は弧状で、SD174 との条間は狭く 0.28m を測る。

遺物は出土していない。

SD174 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B10・15、6C11 に位置する。東半部は調査区外へ延びる。走行方向は N-58° -W を指し、確認長は 2.04m、最大幅 0.40m、深度 17cm を測る。断面形は U 字状で、SD175 との条間は 0.68m を測る。

遺物は出土していない。

SD175 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B15 に位置する。東半部は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-57° -W を指し、確認長は 1.32m、最大幅 0.24m、深度 12cm を測る。断面形は U 字状で、SD176 との条間は狭く 0.12m を測る。

遺物は出土していない。

SD176 (図版 15・25、写真図版 22) 2B-6B15 に位置する SN150 最南の溝である。東半部は調査区外へ延び、西端は近世の地業盛土に僅かに切られる。走行方向は N-56° -W を指し、確認長は 1.04m、最大幅 0.14m、深度 10cm を測る。断面形は U 字状である。

遺物は出土していない。

性格不明遺構 (SX)

本遺跡で検出された性格不明遺構は 9 基ある。形態としては土坑に分類すべき遺構でも、覆土の堆積状況などから不明遺構としたものもある。

SX27 (図版 10・26、写真図版 23)

1C-8A2・7 に位置する。平面形は長楕円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸 0.96m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 11cm を測る。覆土は 5 層に分層され、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が主体である。規模や視覚的には土坑と考察されるが、埋土がブロック状の堆積であり確認面からの深度も浅いことから SX とした。

遺物は出土していない。

SX40 (図版 10・27、写真図版 23)

1B-8J18・19・24 に位置し、西端は調査区外へ延びる。規模は確認長 3.34m、最大幅 0.16m、確認面からの深度は 21cm で底面座標は 0.86m を測る。U 字状の断面形で、覆土が粗粒の灰黄褐色砂単層であることから、

地割れ痕と考察される。

遺物は出土していない。

SX37 (図版 10・27、写真図版 24)

1B-8J25、9J5、1C-8A21、9A1 に位置し、重複する SD3 に東壁を切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.64m、短軸 1.18m、確認面からの深度は 27cm を測る。覆土は黒褐色粘質土を主体に 7 層に分層され、黒色粘質土が帯状に入る特徴がある。規模や形態からは土坑の一形態と考察されるが、帯状に入る黒色粘質土の堆積状況から不明遺構として扱った。

遺物は須恵器無台杯 (119)・甕 (120)、土師器小甕 (121・122)、土製円盤 (1) を図示した。その他に須恵器杯蓋天井部片、土師器無台椀口縁部片・長甕体部片・鍋体部片が出土している。

SX14 (図版 10・27、写真図版 24)

1C-8A24・25、9A4・5 に位置し、重複する Pit26 より新しい。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.79m、短軸 1.36m、確認面からの深度は 22cm を測る。覆土は褐灰色粘質土を主体に 6 層に分層され、底面付近はブロック状の堆積状況を示す。

遺物は出土していない。

SX83 (図版 12・27、写真図版 24)

2B-1H21・22 に位置する。平面形は長楕円形、断面形は階段状を呈し、主軸方向は N-64°-E を指す。規模は長軸 1.56m、短軸 0.69m を測り、確認面からの深度は 49cm で底面座標は 0.48m を測る。覆土は灰黄褐色粘質土と褐灰色粘質土を主体に、9 層に分層される。形態や土層の堆積状況から、土坑とピットの 2 遺構に分離される可能性や倒木痕の可能性も考察される。

遺物は古墳時代土師器甕 (123) が出土している。

SX107 (図版 13・27、写真図版 24)

2B-4F7・8・11~13・16・17・21 に位置し、重複する Pit111 より新しい。平面形は長楕円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸 5.84m、短軸 1.22m、確認面からの深度は 16cm を測る。覆土は 4 層に分層され、灰黄褐色粘質土が主体となる。形態から溝状の攪乱とも考えたが、覆土および堆積状況から遺構とした。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

SX177 (図版 14・15・28、写真図版 25)

2B-4D16・17・21~23、5D2・3 に位置し、重複する SN130 を切る。溝状を呈し、断面形は弧状で、西端は調査区外へ延びる。規模は確認長 5.92m、最大幅 1.12m、確認面からの深度は 21cm を測る。西壁の土層観察によれば本遺構は近世水田遺構転作時のものと考えられる盛土下での検出であり、実際の深度は 40cm 程度と推察される。覆土は 3 層に分層され、褐灰色粘質土が主体である。走行方向は N-43°-W を指し SN130 の小溝群と類似するが、形態や覆土から SN130 には伴わないと考察される。

遺物は土師器無台椀 (124・125) が出土している。

ピ ッ ト (Pit)

ピットは 95 基検出した。深度が浅く小規模なものが大半であるが、柱穴規模のものも存在する。まず、建物跡の可能性のあるものを記す。

Pit35 (図版 10・29)

1C-8A22 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は長軸 0.28m、短軸 0.24m を測り、確認面からの深度は 44cm を測る。覆土は単層である。

遺物は出土していない。

Pit72 (図版 10・29、写真図版 25)

1C-8A23、9A3 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は直径 0.32m ほどであり、確認

面からの深度は35cmを測る。覆土は8層に分けられ、1・3・4層が柱痕と考えられる堆積状況である。

遺物は出土していない。

Pit23 (図版10・29、写真図版26)

1C-9A3に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈す。規模は直径0.50mほどであり、確認面からの深度は38cmを測る。覆土は8層に分けられ、3・4・6層の粘質土が柱痕と考えられる。

遺物は出土していない。

Pit24 (図版10・29、写真図版26)

1C-9A7に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈す。規模は長軸0.32m、短軸0.28m、確認面からの深度は40cmを測る。覆土は7層に分けられ、1・2層の粘質土が柱痕と考えられる。

遺物は土師器長甕口縁部片が出土している。

Pit25 (図版10・29、写真図版26)

1C-9A8に位置する。平面形は隅丸方形、断面形はU字状を呈す。規模は直径0.24mほどであり、確認面からの深度は33cmを測る。覆土は単層である。

遺物は出土していない。

上記のPit23～25・35・72は覆土に柱痕状の堆積が見られるもの、柱穴状の規模を有するものである。これら5基のピットはいずれも調査区北東部のSD2・3とSD5・13による道路状遺構の可能性を含む溝群の交点付近に位置している(図版10)。他の遺構群の在り方から集落本体側に含まれる。これら5基の深度は近似しており、さらにPit24・25・35・72の配置を見ると、南北方向に軸をもつ桁行1間×梁行1間の掘立柱建物の可能性が考えられる。その場合棟方向はN-6°-Eを指し、柱間寸法は梁間長2.10m(7尺)、桁行長2.70m(9尺)を測る。Pit23はこれら4基のPit群の対角線交点上に位置している。規格性が窺えるため建物の施設と考えられるが、構造上の役割は不明である。

以下では特徴的なもの、遺物が出土したピットについて記す。

Pit21 (図版10・29)

1C-8B16に位置し、SX6とSD18に切られる。平面形は楕円形、断面形は浅い弧状を呈す。規模は長軸0.35m、短軸確認長は0.22m、確認面からの深度は4cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀口縁部片が出土している。

Pit41 (図版10・29、写真図版25)

1B-8J24, 9J4に位置する。平面形は円形、断面形は台形状であり小規模な土坑状を呈す。規模は長軸0.48m、短軸0.43m、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は2層のレンズ状堆積であり、黒褐色と褐灰色の砂質土からなる。他のピットの覆土は大半がシルト・粘質土であるのに対し特異な状況である。

Pit26 (図版10・29)

1C-8A24・25に位置し、SX14に切られる。平面形は円形、断面形は浅い台形状を呈す。規模は長軸0.38m、短軸0.33m、確認面からの深度は11cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

Pit43 (図版10・29)

1B-9I15, 9J11・16に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は直径0.28mほどであり、確認面からの深度は19cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit69 (図版10・29)

1C-9A12に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.40m、短軸0.37m、確認面からの深度は14cmを測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit50 (図版 11・30)

1B-10I13 に位置する。平面形は円形、断面形は箱状を呈す。規模は直径 0.32m、確認面からの深度は 23cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit101 (図版 11・30)

2B-1H14・19 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.25m、短軸 0.22m、確認面からの深度は 8cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit75 (図版 11・31)

2B-1I13 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は直径 0.20m ほどであり、確認面からの深度は 7cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀 (126) が出土している。その他に古墳時代土師器甕細片がある。

Pit94 (図版 12・31)

2B-1H17 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は直径 0.25m ほどであり、確認面からの深度は 24cm を測る。覆土は単層である。

遺物は須恵器無台杯 (127) が出土している。その他に土師器長甕体部片がある。

Pit77 (図版 11・31、写真図版 26)

2B-1H19・24 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.44m、短軸 0.37m、確認面からの深度は 21cm を測る。覆土は 4 層のレンズ状堆積であるが、遺構底面直上に灰黄褐色粘質土 (4 層) が薄く堆積し、その上に褐灰色粘質土 (1・3 層) に黒褐色粘質土 (2 層) が挟まれる状態で堆積しており、他とは異なる状況であった。

遺物は土師器小甕体部片が出土している。

Pit105 (図版 11・12・31)

2B-2H5 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.32m、短軸 0.24m、確認面からの深度は 14cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器長甕体部片が出土している。

Pit89 (図版 11・12・31)

2B-2H10 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.33m、短軸 0.29m、確認面からの深度は 11cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器鍋 (128) が出土している。

Pit184 (図版 14・15・32)

2B-5C25 に位置し、SD183 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.22m、短軸確認長は 0.08m、確認面からの深度は 7cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

Pit182 (図版 14・15・32)

2B-5C25 に位置し、SD183 を切っている。平面形は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.29m、短軸 0.28m、確認面からの深度は 6cm を測る。覆土は単層である。

遺物は土師器無台椀体部片が出土している。

C 近世の遺構

近世の遺構としたものは、Ⅱ層もしくはⅢ層から掘り込まれている。以下の2遺構のみである。

SX6 (図版10・26、写真図版16・23)

1C-8A15・20・25、8B6・11・12・16・17・21に位置する。重複するSD5・13・18、SK7・11、Pit20・21より新しく、北側および東側は調査区外へ延びる。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。現況での規模は、確認長で長軸5.40m、短軸2.48mを測り、確認面からの深度は28cmを測る。覆土は暗褐色土および褐灰色土を主体に8層に分層され、堆積状況は水平である。基本土層Ⅰ層下からの構築であり、近世以降の所産と考えられる。日水遺跡第3次調査において近世水田遺構とされている遺構〔今井・相沢2007〕と形態が類似することから、本遺構も畑に転作された際の地業と考察される。

遺物は出土していない。

SX147 (図版14・15・28、写真図版14・25)

2B-5C15・20、5D11・16・17・21・22、6D2に位置し、重複するSD149、SN150より新しい。溝状を呈し、断面形は深い弧状で、東端は調査区外へ延びる。規模は確認長6.56m、最大幅1.08m、確認面からの深度は13cmを測る。東壁の土層観察によれば本遺構は基本土層Ⅱ層下からの掘り込みであり、実際の深度は43cm程度である。覆土は4層に分層され、炭化物を極少量含む黒褐色および暗褐色シルトが主体となる。掘り込み面および覆土から近世の遺構と考察される。

遺物は出土していない。

第V章 遺物

第1節 遺物の概要

出土遺物総量はコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして65箱出土した。内訳は古墳時代の土器11箱、古代の土器44箱、中世陶磁器1箱、鉄製品・鍛冶関連遺物3箱、石製品6箱である。基本層序IV層中からは主に古代・中世（室町時代）の土器・陶磁器が、V層からは古墳時代の土器が出土している。ただし、古墳時代の土器は後世の攪乱等の影響でV層以外の上層から出土した点数が多い。

各遺物の出土位置・種別・器種・胎土・法量・色調・焼成・調整・遺存率等については、別表2～6に示した。土器については遺存率が高くなくても、口縁部・底部などが把握できるものは可能な限り抽出し図化した。

第2節 古墳時代の遺物

古墳時代の土器類は、須恵器と土師器がある。SX1出土の須恵器直口壺1点以外全て、包含層あるいは古代以降の遺構覆土内から出土の土師器である。土師器は1,282点、8,865.01g出土している。全体の点数（比率）は甕1,128点（88.0%）、壺93点（7.3%）、鉢14点（1.1%）、高杯35点（2.7%）、器台12点（0.9%）である。全体の重量比率は甕7,003.98g（79.0%）、壺1,209.29g（13.7%）、鉢96.57g（1.1%）、高杯499.68g（5.6%）、器台55.49g（0.6%）である。甕類の出土が多く、次に壺類が多く出土した。高杯・器台・鉢などは少量が出土した。甕・壺の分類に迷った体部片も多いが、それを差し引いても甕の率が高い。

包含層の出土状況（第10図）を見ると、調査区北東部の1C-7A・8Aグリッド周辺および調査区中央部の2B-1H・1Iグリッド周辺、調査区の南西側の2B-3Fグリッド周辺に比較的多く出土しているが、破片は小さい。包含層出土土器のうち、完形土器に復元できる土器は皆無である。その状況から、古墳時代遺跡本体から若干外れた位置にあったと考えられる。

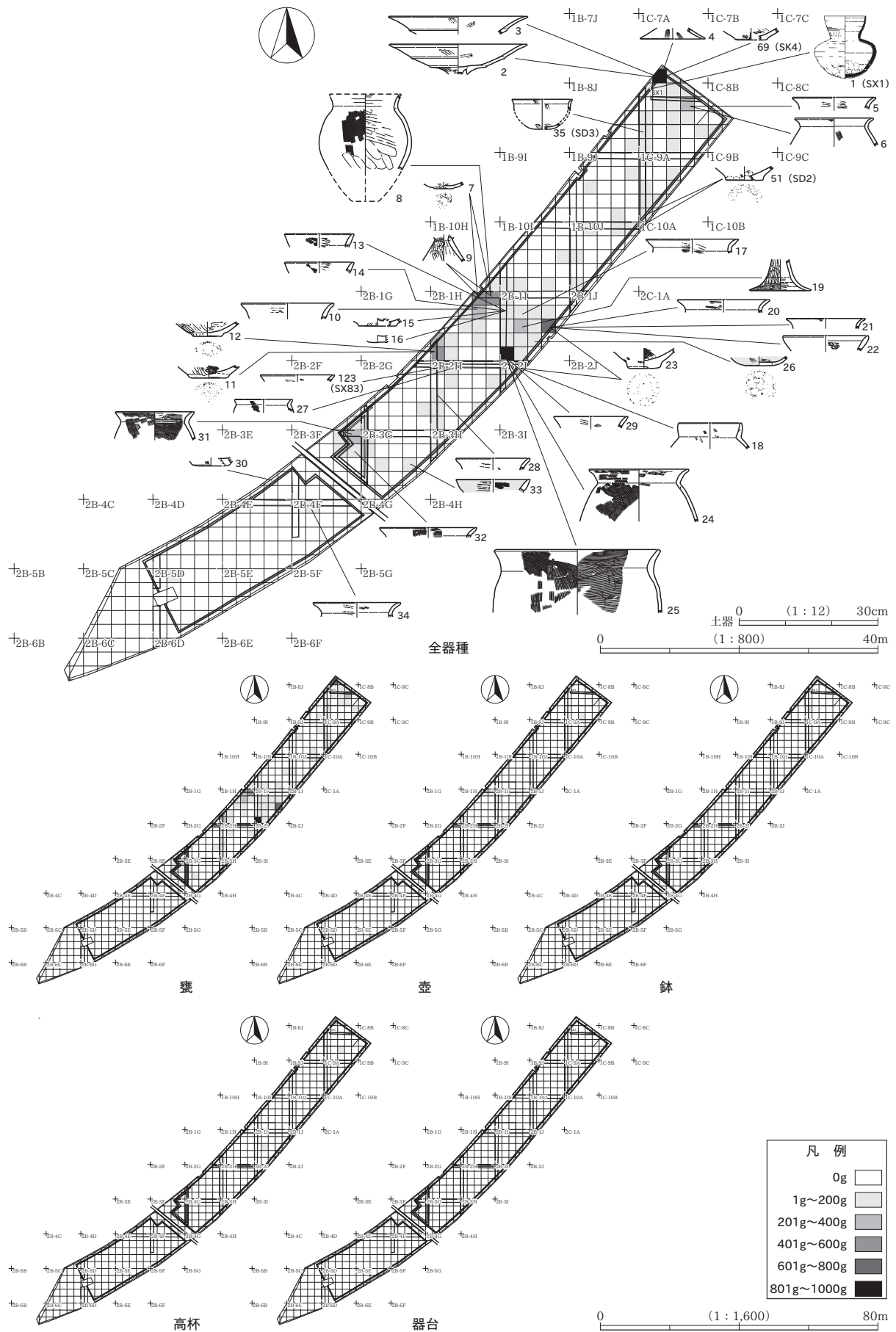
A 土器の分類と記述

記述は最初に土器分類を行い、次に下層遺構・下層包含層・上層遺構出土土器の順で記した。なお、上層遺構中から出土した遺物は古墳時代の遺物の中で記述を行った。

使用する用語は上大川遺跡〔渡邊・池田2009〕にならい、成形・調整の名称は次のように記述した。

- 1 ハケメ：板の木口面を用い、土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される。
- 2 ヘラナデ：ハケメと同様の工具で、調整の際に残る木目の凹凸が明瞭でないもの。
- 3 ケズリ：板状の工具で器面を削るもので、砂礫の移動痕が明瞭に残るもの。
- 4 ミガキ：幅の狭い工具で器面を磨いているもので、工具痕が明瞭に残るもの。
- 5 ナデ：不定方向のナデ。回転を用いてなでるもので、工具痕が明瞭に残るものと残らないものがある。
- 6 指頭圧痕：指による強い圧痕。

胎土については、資料的な制約があり分類を行っていない。土器は、甕・壺・鉢・高杯・器台の5器種である（第11図）。器種ごとに細分しアルファベット（A・B……）とし、さらに細分する場合は数字を用いた。土師器の分類は川村浩司氏による分類〔川村2000〕、上大川遺跡〔渡邊・池田2009〕などを参考にし、高杯のみ杯部と脚部



第10図 古墳時代土器重量分布図

を分けて分類した。土師器壺類の中には「小型壺」とみられる体部破片もあったが、口縁部および底部資料が確認できなかったので壺で一括した。

1) 須恵器

直口壺 体部が球胴形で口縁部が体部から直口して立ち上がる小形の壺である。

2) 土師器

甕

甕 A 類：口縁部が「く」字状または「コ」字状に屈曲するもの。

甕 A1 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部がある程度の長さを持ち、45 度程度屈曲するもの。

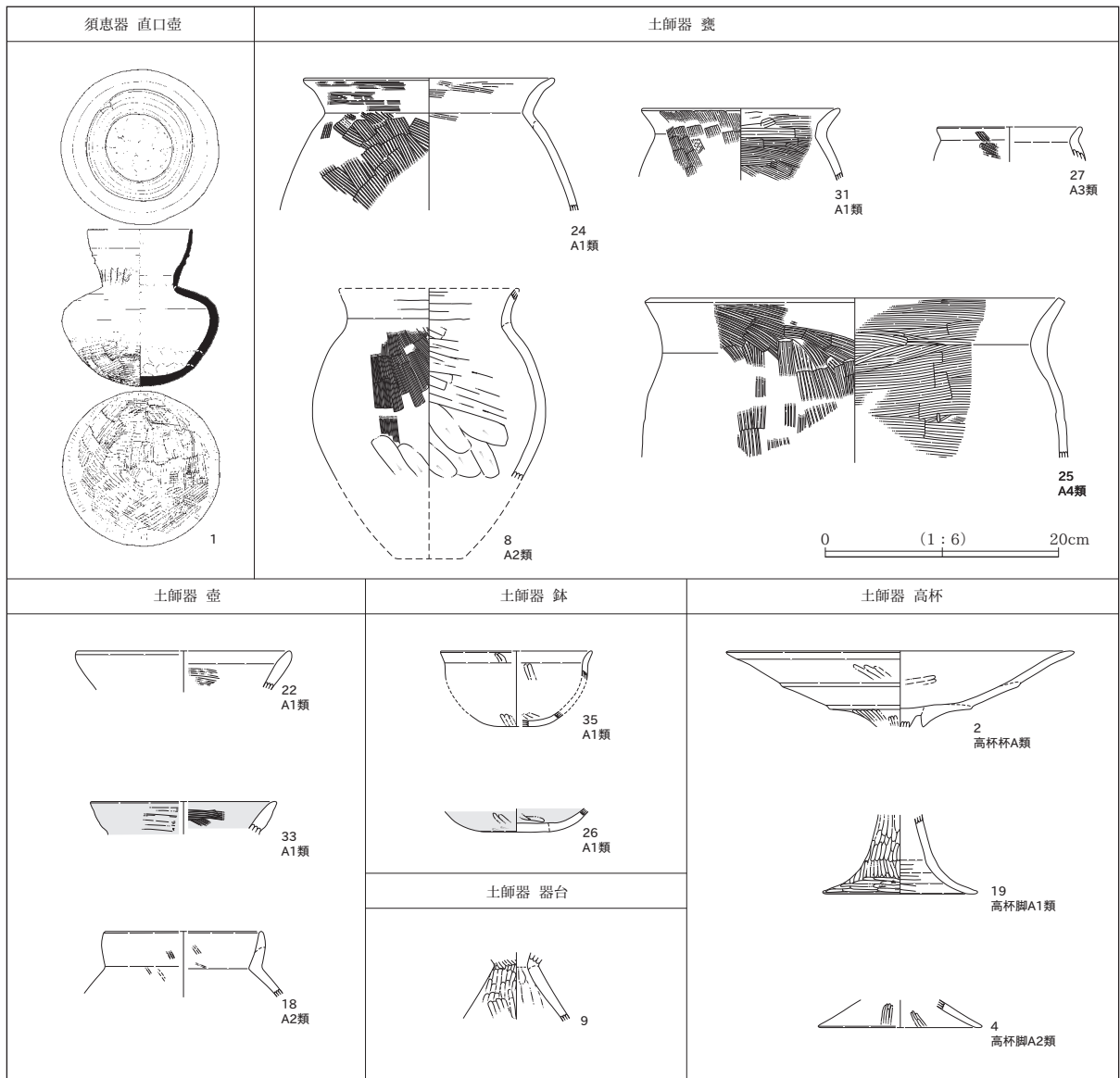
甕 A2 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部がある程度の長さを持ち、60 度程度屈曲するもの。

甕 A3 類：口端部が丸く収まり、さらに口縁部が短く、60 度程度屈曲するもので、比較的小形のもの。

甕 A4 類：口縁部に面を持ち、さらに口縁部がある程度の長さを持つ、比較的大形のもの。

壺

壺 A 類：口縁部が「く」字状に屈曲するもの



第 11 図 古墳時代土器分類図 (S=1/6)

壺 A1 類：口縁部が「く」字状に屈曲し、45 度程度外反するもの。

壺 A2 類：口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁部が直立気味に立ち上がるもの。

鉢

鉢 A 類：椀形の体部に「く」字状に屈曲する口縁部をもつもの。

高杯

高杯杯 A 類：杯部に段を持つもの（有段高杯）。

高杯脚 A 類：脚部に屈折を持たない脚を持つもの。

高杯脚 A1 類：脚部が緩やかなカーブで口端部にいたるもの。

高杯脚 A2 類：脚部が直線的に口端部にいたるもの。

器台

器台：受部が内湾気味に立ち上がるもの。

B 出土土器各説

掲載遺物は遺構出土、次に包含層出土を掲載した。

1) 古墳時代遺構出土土器

性格不明遺構 (SX)

SX1 (図版 33、写真図版 27)

須恵器直口壺 (1) が出土している。口縁部が一部欠けているが、ほぼ完形である。口縁部の破損は調査時の発掘機器での破損である。口径 9.0cm、底径 12.0cm、器高 13.4cm、重量 507.6g である。器壁は口縁部近くで 2~3mm、体部の頸部近くで 4~5mm で、非常に薄手の造りである。体部は球胴形で外面の底部近くには平行タタキが底部全体に行われている。底部下底から 4cm 程上の位置でタタキが器面に対して平行して行われた後にナデられている。口縁部中ほどには断面三角形の隆帯が並行して 2 条廻る。その下には細密な波状文が全周し、11~14 単位確認できる。体部と口縁部の継目にはケズリ痕が残る。内面の底部近くには指頭圧痕が残る。胎土は精良で焼きは緻密である。底部の中心に使用による擦れ痕が残る。

2) 古墳時代包含層出土土器 (図版 34・35、写真図版 28)

1C-7A グリッド (図版 34、写真図版 28)

22 グリッドの高杯 (2~4) を図示した。2 は屈曲段を 2 段持つ高杯杯 A 類である。3 は同じく高杯杯 A 類である。胎土や焼成から別個体としたが、同一個体の可能性もある。4 は小形の高杯の脚部である。高杯脚 A2 類である。

1C-8A グリッド (図版 34、写真図版 28)

9 グリッドの甕 (5・6) を図示した。5 は A1 類の甕、6 も同様に A1 類の甕である。6 は、胎土が粗く、砂粒が多い。

2B-1H グリッド (図版 34、写真図版 28)

4 グリッドの甕 (7)、5 グリッドの甕 (8)・器台 (9)、9 グリッドの甕 (10)、21 グリッドの壺 (11・12) を図示した。7 は甕の底部資料である。底部に指頭圧痕が残る。8 は A2 類の甕である。口縁部が僅かに欠損する。外面体部に細かいハケメが入る。長胴化した甕として復元した。9 は器台である。外面にミガキがある。10 は復元口径が 20cm の中形の甕である。A1 類に分類される。11・12 は壺の底部資料である。

2B-1I グリッド (図版 34・35、写真図版 28)

6 グリッドの壺 (13~16)、7 グリッドの甕 (17)、12 グリッドの高杯 (19)、14 グリッドの甕 (20・21)、壺 (22)、18 グリッドの鉢 (26)、21 グリッドの甕 (24・25)、22 グリッドの壺 (23) を図示した。13・14 は A1 類の口縁部が直口する壺である。15・16 は壺の底部資料である。17 は A1 類の甕である。19 は高杯の脚部である。脚部屈曲部が低位置にあり、緩やかなカーブで口端部にいたる。器面の剥落が激しいが、外面にはミガキがある。20・21 は A1 類の甕である。22 は A1 類の壺口縁部資料、23 は壺底部資料で、底部中央が凹む。24

はA1類の甕である。外面にハケメが残る。25はA4類の甕である。復元口径は36cmで比較的大形である。26はA類の鉢である。外面に赤彩がわずかに残る。器面の剥落が著しいが内外面ともに本来赤彩されていたものと考えられる。

2B-2H グリッド (図版 35、写真図版 28)

2グリッドの甕(27)、11グリッドの甕(28)を図示した。27は甕A3類で小形の口縁部資料である。28はA1類の甕である。

2B-2I グリッド (図版 34・35、写真図版 28)

1グリッドの甕(29)・2グリッドの壺(18)を図示した。29は甕A1類である。18は口縁部が直口気味に立ち上がる壺でA2類である。

2B-3E グリッド (図版 35、写真図版 28)

19グリッドの甕(30)を図示した。30は甕の底部資料である。

2B-3F グリッド (図版 35、写真図版 28)

5グリッドの甕(31)、10グリッドの甕(32)を図示した。31・32ともにA1類の甕である。

2B-3G グリッド (図版 35、写真図版 28)

14グリッドの壺(33)である。33の壺は内外面に赤彩されている。

2B-4F グリッド (図版 35、写真図版 28)

2グリッドの甕(34)である。34の甕はA1類に分類される。

3) 平安時代遺構出土土器 (図版 36・37・38、写真図版 29・30)

本来の原位置を離れて平安時代の遺構中に包含された古墳時代土器の一部を提示する。以下の4遺構のみを取り上げたが、その他にも少量の出土がある。出土点数は別表7に示した。

SD3 (図版 36、写真図版 29)

鉢(35)を図示した。その他に甕の細片が出土している。35の鉢は口径13cm、器高6.5cmに復元された。外面は良くミガキが施されている。口縁部が外反する。

SD2 (図版 36、写真図版 29)

壺(51)を図示した。その他に甕が少量出土している。51の壺は底部が凹み、内外面は指頭圧痕が強く残る。

SK4 (図版 36、写真図版 29)

甕(69)のみが出土している。底部片で内外面にハケメが残る。

SX83 (図版 38、写真図版 30)

甕(123)が出土している。口縁部片で甕A1類に分類される。

C 古墳時代の石製品 (図版 42、写真図版 27・33)

古墳時代の石製品は石製紡錘車(1)・敲石(2)の2点出土している。少量のため分類は行わない。出土状況は第14図に示した。

1は滑石製の石製紡錘車である。2B-2G18グリッドⅢ層から出土している。形態上の特徴から古墳時代の石製品と判断した。単独出土で、同グリッドから古墳時代の土器は出土していない。約半分で古く欠損する。茶灰色を呈する滑石を石材としており、糸魚川方面からの搬入品である。直径42.2mm、高さ15.9mm程度で断面形は片そろばん玉状で、中心に直径6mmの穴を穿けている。器面全面を研磨されており、表面は放射状の研磨痕が観察できる。2は安山岩製の敲石である。1C-8A25グリッドのV層から出土している。古墳時代包含層出土のため、古墳時代遺物と認定した。楕円形の自然石を素材として、長軸の両端に敲打痕が残る。

第3節 古代の遺物

古代の土器は、土師器・須恵器などコンテナにして44箱が出土している。土器以外では、石製品・土製品・鉄製品・鍛冶関連遺物がある。

土器の大半は包含層からの出土であるが、第12図で示したように調査区全域から出土している。

A 土器の分類と記述

1) 用語の説明

記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の須恵器・土師器・黒色土器の順に記した。形態や手法による分類はアルファベット(A・B……)で表記し、法量による分類はローマ数字(I・II……)で表した。

土器分類および成形・調整技法の表現は、駒首潟遺跡第3・4次調査報告書〔渡邊まほか2009〕などの記載を参考に、以下のとおりとした。

1. 「ロクロナデ」→ロクロ・回転台使用、「ナデ」→ロクロ・回転台未使用。
2. 「ロクロケズリ」→ロクロ・回転台使用、「ケズリ」→ロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」→ロクロ・回転台使用、「ハケメ」→ロクロ・回転台未使用。
4. 「ミガキ」→ロクロ・回転台未使用。
5. 「タタキメ」→外面成形痕、「あて具痕」→内面成形痕。
6. 底部の「ヘラ切り」・「糸切り」は、いずれもロクロの回転を利用したものである。本来ならば「回転ヘラ切り」・「回転糸切り」とすべきものであるが、「回転」は省略した。
7. 「無調整」は切り離し後に調整を行わず、「再調整」はロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ・ケズリ・ハケメなどの調整を行う。
8. 非ロクロ成形による小甕底部の「無調整」は切り離し技法の認められないもの。
9. 須恵器・土師器の区別は、基本的に形態による区分を重視した。

2) 分類(第13図)

I 須恵器

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には杯蓋・無台杯・有台杯があり、貯蔵具には長頸壺(瓶)・横瓶・甕がある。須恵器の分類は、器形の判明する無台杯についてのみ行い、他の器種については行っていない。

杯蓋 杯に伴う蓋で、本来は有台杯に伴うと考えられる。

無台杯 杯のうち高台を持たないもの。器形の判るものが少なく器高指数による分類は出来なかったため、口縁部の形状により2類に分類し、口径により6類に細別した。

A類：口縁部が直立もしくは外反するもの。

B類：口縁部が内湾するもの。

法量は、I：口径10cm以下、II：口径11cm前後、III：口径12cm前後、IV：口径13cm前後、V：口径14cm前後、VI：口径15cm前後、の6類に細別した。B類は法量III～Vのものしか確認されていない。

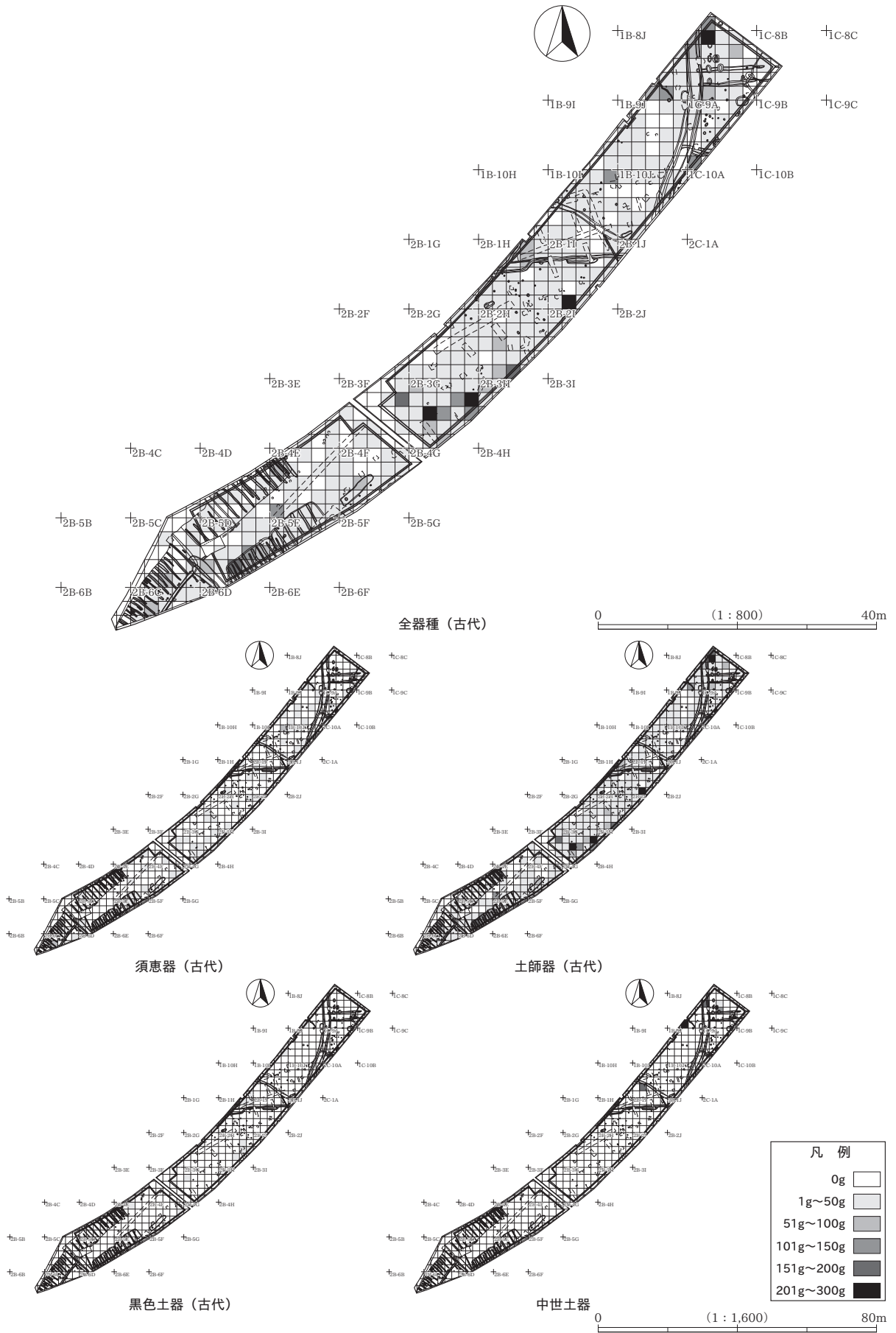
有台杯 杯のうち高台を持つもの。54・150の2点のみであり、分類は行っていない。

長頸壺 長い頸部を持つ壺・瓶。9点図示したが、分類は行っていない。

横瓶 俵形の体部に、「く」字状の短い口縁部がつくもの。2点(76・179)を図示した。

短頸壺 球形に近い体部に、短く直立した口部が付く壺。器形の判るものはないが、形状から2点(41・232)を短頸壺とした。

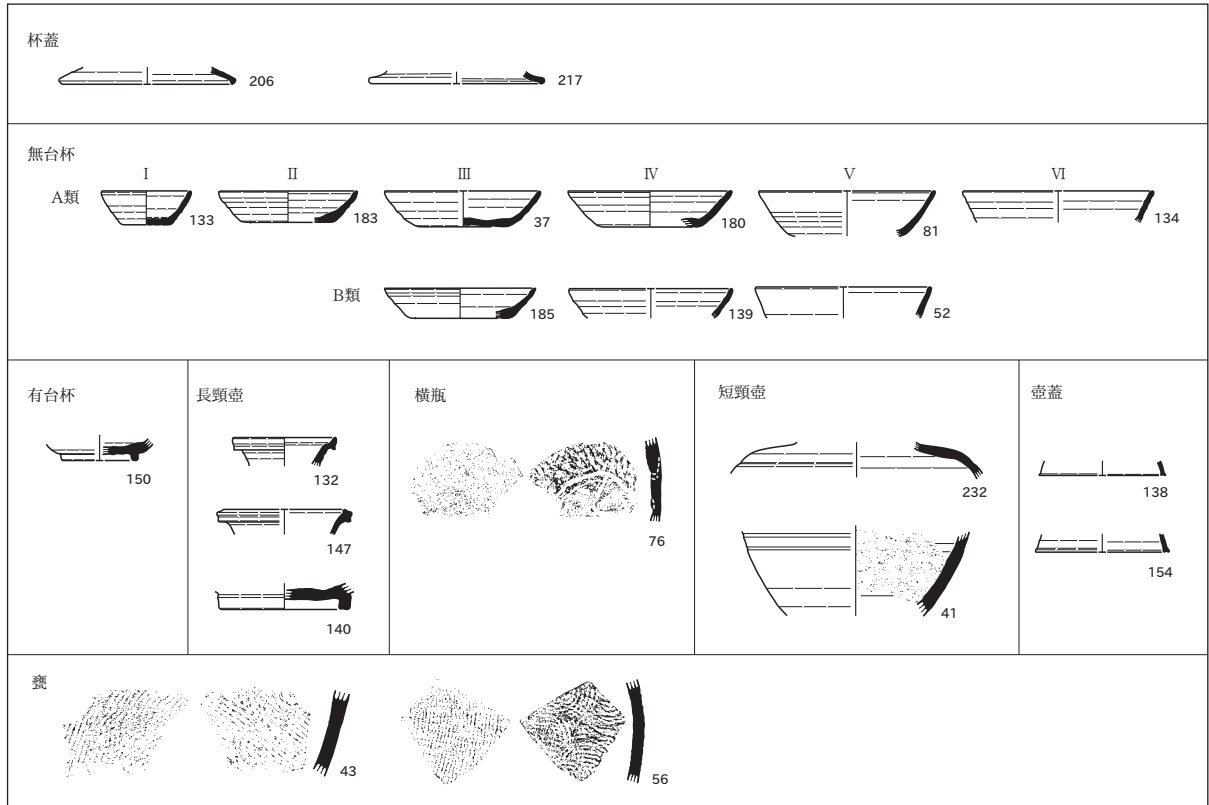
壺蓋 短頸壺に伴うと考えられる蓋。2点(138・154)が出土している。



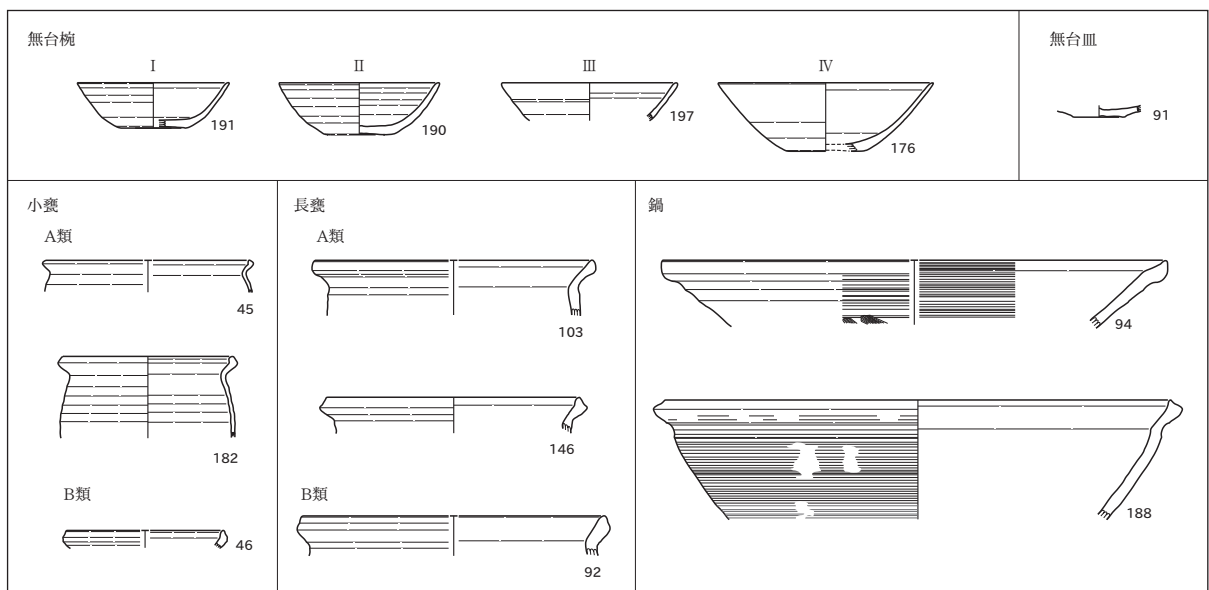
第 12 図 古代・中世土器重量分布図

第3節 古代の遺物

須恵器



土師器



黒色土器



0 (1:6) 20cm

第13図 古代土器分類図

甕 大きな体部を持ち、貯蔵を目的としたもの。所謂大甕であるが、器形全体が把握できるものは少ない。また口縁部の形状が判る資料も少ないため分類は行っていない。

Ⅱ 土師器

食膳具は無台椀、煮炊具は長甕、小甕、鍋の3種が出土している。

無台椀 ロクロ成形のもののみである。51点を図示したが、法量が判る資料が少ないため口径により、Ⅰ：口径12cm前後、Ⅱ：口径13cm前後、Ⅲ：口径14cm前後、Ⅳ：口径15cm以上の4種に細分した。

無台皿 ロクロ成形のものが1点(91)出土している。

小甕 小形の甕で、おおむね器高が18cm未満のもの。ロクロ成形のもののみであり、口縁部形状により分類した。

A類：口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁端部は丸みを帯びるもの。

B類：口縁部がほぼ直立もしくは内湾するもの。

長甕 長胴の甕。付着物はほとんど確認できなかった。ロクロ成形のもののみであるため、口縁部形状により分類した。

A類：外傾もしくは外反する口縁部をもち、口縁端部が丸みを帯びるもの。

B類：僅かに外傾もしくは外反する短い口縁部をもち、口縁端部が肥厚するもの。

鍋 ロクロ成形のものを14点図示したが、分類はしていない。

Ⅲ 黒色土器

食膳具の無台椀と有台皿が、少量出土している。

無台椀 ロクロ成形のものが、4点(130・153・167・173)出土している。

有台皿 ロクロ成形のものが、1点(235)出土している。

3) 遺構出土遺物

SD3 (図版36、写真図版29)

須恵器杯蓋(36)・無台杯(37~40)・短頸壺(41)・甕(42・43)、土師器長甕(44)・小甕(45~49)・鍋(50)の15点を図示した。36の返りは不明であるが、深めの法量になると考えられる。37は黒斑が顕著な器高指数23.0のAⅢ類、38は口縁部が玉縁状になるAⅢ類である。41は外面に自然釉が付着する。36~43は、いずれも佐渡小泊窯産と考察される。44はタタキメの体部片である。45はA類、46はB類と考えら、47~49はいずれも底部片である。50は、口径40cm前後と考えられる。

SD2 (図版36、写真図版29)

須恵器無台杯(52・53)・有台杯(54)・甕の体部片(55・56)、土師器小甕(57・58)を図示した。52は玉縁状の口縁部が僅かに内湾するBⅤ類、53はAⅢ類である。52~56は、いずれも佐渡小泊窯産と考察される。57は口縁端部が摘み上げられたA類である。

SD13 (図版36、写真図版29)

土師器無台椀(59)を図示した。底部は糸切りである。

SD5 (図版36、写真図版29)

須恵器長頸壺(60)、土師器無台椀(61)・長甕(62)を図示した。60の底部内面には自然釉が付着する。62はA類で、口縁端部が摘み上がる。

SD9 (図版36、写真図版29)

須恵器甕片(63)、土師器無台椀(64)・長甕(65)を図示した。63は小泊窯産、64は糸切りの底部である。65はA類で、受け口状の口縁部である。

SD29 (図版36、写真図版29)

土師器鍋(66)を図示した。ロクロ成形で、口縁端部に面を持つ。

SD55 (図版 36、写真図版 29)

土師器無台椀 (67) を図示した。糸切りの底部片である。

SK15 (図版 36、写真図版 29)

須恵器長頸壺 (70) を図示した。高台片で、小泊窯産と考察される。

SK7 (図版 37、写真図版 29)

須恵器無台杯(72)、土師器長甕(73)を図示した。72 は小泊窯産と考察されるが、胎土に焼土粒が混じる。73 は、口縁端部が摘み上げられる A 類である。

SN130 (図版 37、写真図版 29)

SD136 出土の土師器無台椀 (74)、SD139 出土の土師器鍋 (75)、SD141 出土の須恵器横瓶 (76)、SD144 出土の須恵器甕 (77)、耕作土出土の須恵器無台杯 (78)、土師器無台椀 (79)・小甕 (80) を図示した。75 は口径 40cm 程度で、口縁端部が摘み上がる。76 は閉塞板で、小泊窯産と考察される。78 は A V 類で、小泊窯産。79 は糸切りの底部と考えられるが、摩耗により不明瞭であり、焼成が硬質であることから酸化焰焼成須恵器の可能性もある。

SN112 (図版 37、写真図版 29)

SD115 出土の須恵器無台杯 (81)、土師器長甕 (82)、SD116 出土の土師器無台椀 (83・84)、耕作土出土の須恵器無台杯 (85~90)、土師器無台皿 (91)・長甕 (92)・鍋 (93) を図示した。81 は A V 類であるが、口縁端部が僅かに内傾する。82 は A 類。83 は II 類、84 は III 類である。85 は A III 類、86 は B III 類、87 は A IV 類、88~90 は底部片である。88 は胎土が粗く、焼成不良もしくは笹神丘陵窯跡群など阿賀北産の可能性はある。それ以外は小泊窯産と考察される。91 は、底部を疑高台状に調整する。92 は B 類である。

SN129 (図版 37・38、写真図版 29・30)

SD120 出土の土師器鍋 (94)、耕作土出土の須恵器長頸壺 (95)、土師器無台椀 (96~99)・小甕 (100~102)・長甕(103~106)・鍋(107)を図示した。94 は口縁部で、内外面共にカキメ調整が施される。95 は高台で、小泊窯産と考察され外面に自然釉が付着する。96 は口縁端部がやや外反する III 類、97 は大振りの椀、98・99 は共に底径 6.0cm である。100~102 は、いずれも糸切りの底部である。103・104 は A 類、105 は外面カキメ調整される B 類、106 はタタキメが顕著である。107 は、口縁端部に面を持つ。

SN150 (図版 38、写真図版 30)

SD156 出土の土師器小甕 (108)、SD158 出土の土師器無台椀 (109)、SD163 出土の土師器鍋 (110)、耕作土出土の須恵器甕 (111~113)、土師器無台椀 (114・115)・小甕 (116・117)・鍋 (118) を図示した。108 は A 類、109 は I 類である。111・112 は、外面を砥石に 2 次利用される。114 は II 類、115 は IV 類の大形の椀と考察される。116 は A 類、117 は B 類と考えられる。

SX37 (図版 38、写真図版 30)

須恵器無台杯 (119)・甕 (120)、土師器小甕 (121・122) を図示した。119 は玉縁状の口縁を有する A III 類で、120 と共に小泊窯産である。121 は A 類、122 は口縁端部を受け口状に摘み上げた A 類と考えられる。

SX177 (図版 38、写真図版 30)

土師器無台椀 (124・125) を図示した。124 は I 類、125 は糸切りの底部である。

Pit75 (図版 38、写真図版 30)

土師器無台椀 (126) を図示した。口縁部がやや外反する I 類である。

Pit94 (図版 38、写真図版 30)

須恵器無台杯 (127) を図示した。A IV 類で、口縁端部はやや玉縁状を呈す。

Pit89 (図版 38、写真図版 30)

土師器鍋 (128) を図示した。やや受け口状の口縁部で、口径は 41.0cm である。

4) 包含層出土遺物

1B-8J グリッド (図版 38、写真図版 30)

23 グリッド出土の須恵器杯蓋 (129) を図示した。小泊窯産で、内外面ともにロクロナデ調整される。

1B-9I グリッド (図版 38、写真図版 30)

20 グリッド出土の黒色土器無台椀 (130) を図示した。ミガキを施した後に、内面黒色処理される。法量は無台椀の皿類に比定される。

1B-9J グリッド (図版 38・39、写真図版 30)

5 グリッド出土の須恵器無台杯 (131)、10 グリッド出土の須恵器長頸壺 (132)、14・17・23 グリッド出土の須恵器無台杯 (133)、17 グリッド出土の須恵器無台杯 (134・135)、21 グリッド出土の須恵器無台杯 (136)、土師器小甕 (137)、23 グリッド出土の須恵器壺蓋 (138) を図示した。131 は糸切り後ケズリをした底部片、132 は口縁部片である。133 は A I 類で、口径 7.0cm・器高指数 38.6・底径指数 57.1 と小形である。134 は A VI 類、135・136 は糸切りの底部片である。138 は薄手の壺蓋である。131～136・138 はいずれも小泊窯産と考えられる。

1B-10I グリッド (図版 39、写真図版 30)

5 グリッド出土の須恵器長頸壺 (140)、土師器小甕 (141)、15 グリッド出土の須恵器無台杯 (139) を図示した。139 は口唇部が僅かに内湾する B IV 類、140 は高台付の底部である。いずれも小泊窯産と考えられる。141 は A 類である。

1B-10J グリッド (図版 39、写真図版 30)

1 グリッド出土の須恵器無台杯 (142)、2 グリッド出土の須恵器無台杯 (143)、13 グリッド出土の須恵器無台杯 (144)、17 グリッド出土の須恵器長頸壺 (145) を図示した。142 は A III 類、143 は A IV 類、144 は A V 類である。142～145 はいずれも小泊窯産と考えられる。

1C-8A グリッド (図版 39、写真図版 30)

1 グリッド出土の土師器長甕 (146)、17 グリッド出土の須恵器長頸壺 (147) を図示した。146 は A 類、147 は小泊窯産の口縁部片である。

1C-9A グリッド (図版 39、写真図版 30)

6 グリッド出土の須恵器無台杯 (148)、13 グリッド出土の須恵器無台杯 (149)、21 グリッド出土の須恵器有台杯 (150)・甕 (151) を図示した。148 は口唇部が僅かに内湾する B III 類、149 は B IV 類である。150 は底部片、151 は体部片である。148～151 は、いずれも小泊窯産と考えられる。

2B-1G グリッド (図版 39、写真図版 30)

25 グリッド出土の須恵器無台杯 (152) を図示した。小泊窯産と考えられる。

2B-1H グリッド (図版 39、写真図版 30)

4・5 グリッド出土の黒色土器無台椀 (153)、9 グリッド出土の須恵器壺蓋 (154)、19 グリッド出土の土師器無台椀 (155)、須恵器甕 (156)、23 グリッド出土の土師器無台椀 (157) を図示した。153 は体部を縦方向にミガキされた後に内面黒色処理される。154 は薄手、155 は硬質で酸化焰焼成須恵器の可能性もある。156 は、外面を砥石に転用されている。157 は、外面が摩耗する。

2B-1I グリッド (図版 39、写真図版 30・31)

1 グリッド出土の土師器小甕 (158)、3 グリッド出土の須恵器無台杯 (159)、8 グリッド出土の土師器小甕 (160)、16 グリッド出土の須恵器無台杯 (161) を図示した。158 は糸切り、160 はヘラ切りの底部である。159 は A V 類、161 は A IV 類で、ともに小泊窯産と考えられる。

2B-2G グリッド (図版 39、写真図版 31)

5 グリッドと 15 グリッド出土の土師器無台椀 (162・163) を図示した。ともに糸切りの底部である。

2B-2H グリッド (図版 39、写真図版 31)

6 グリッド出土の須恵器無台杯 (164)、7 グリッド出土の須恵器無台杯 (165)・甕 (166)、9 グリッド出土の黒色土器無台椀 (167)、土師器小甕 (168)、11・12・14 グリッド出土の土師器無台椀 (169~171)、15 グリッド出土の土師器無台椀 (172)、黒色土器無台椀 (173)、19 グリッド出土の土師器無台椀 (174)、22 グリッド出土の土師器鍋 (175)、23 グリッド出土の土師器無台椀 (176・177) を図示した。164 は器高指数が 25.0 の A Ⅲ類、165 は口唇部が僅かに内湾する B Ⅳ類、166 は外面に自然釉が付着しており砥石として転用された可能性もある。167 は器高指数 36.0 とやや深めで、内面黒色処理される。168 は、摩耗が著しいが A 類と考えられる。169 はⅢ類、170~172 は底部片である。173 は、内面黒色処理された後に縦位のミガキが丁寧に施される。174 は底部片、175 は短く僅かに外反する口縁部をもつ。176 は口径 17.0cm、器高指数 32.1 と大振りのⅣ類、177 は糸切りの底部片である。

2B-3E グリッド (図版 39、写真図版 31)

20 グリッド出土の須恵器無台杯 (178)、23 グリッド出土の須恵器横瓶 (179) を図示した。178 は A Ⅵ類、179 は閉塞板で内面を砥石に転用される。ともに小泊窯産と考えられる。

2B-3F グリッド (図版 39、写真図版 31)

10 グリッド出土の須恵器無台杯 (180)、土師器無台椀 (181) を図示した。180 は小泊窯産の A Ⅳ類、181 は器高指数 30.8 のⅡ類である。

2B-3G グリッド (図版 39・40、写真図版 31・32)

1 グリッド出土の土師器小甕 (182)、4・5・9 グリッド出土の須恵器無台杯 (183~185)、10 グリッド出土の土師器無台椀 (186)・小甕 (187)・鍋 (188)、12 グリッド出土の須恵器無台杯 (189)、土師器無台椀 (190~193)、13 グリッド出土の須恵器甕 (194)、土師器小甕 (195・196)、14 グリッド出土の土師器無台椀 (197~200)、15 グリッド出土の土師器小甕 (201)・鍋 (202)、16 グリッド出土の土師器無台椀 (203)、19 グリッド出土の須恵器無台杯 (204・205)、23 グリッド出土の須恵器杯蓋 (206) を図示した。182 は A 類、183 は器高指数 22.7 の A Ⅱ類、184・185 は口唇部が僅かに内湾する B Ⅲ類で 185 は玉縁状となる。186 は糸切りの底部、187 は A 類、188 は口縁端部に面を持つ。189 は底部片、190 は器高指数 32.3 のⅡ類、191 はⅠ類、192 はⅡ類と考えられる。193 は底部片、194 は体部片、195・196 はともに糸切りの底部片である。197 はⅢ類、198・199 はⅠ類、200 は底径が 6.5cm と大きい。201 は糸切りの底部、202 は口縁端部が摘み上げられる。203・205 は底部片、204 は A Ⅴ類、206 は口径 13.4cm で返りは浅い。須恵器はいずれも小泊窯産と考えられる。

2B-3H グリッド (図版 40、写真図版 32)

1 グリッド出土の須恵器無台杯 (207)、土師器無台椀 (208)、2 グリッド出土の土師器無台椀 (209・210)、6 グリッド出土の須恵器無台杯 (211)、7 グリッド出土の土師器無台椀 (212・213) を図示した。207・208・210 は底部片、209 はⅢ類、211 は口唇部が僅かに内湾し玉縁状となる B Ⅲ類である。212・213 は底部片である。

2B-4E グリッド (図版 40・41、写真図版 32)

2・10 グリッド出土の土師器無台椀 (214・215)、13 グリッド出土の須恵器甕 (216)、20 グリッド出土の須恵器杯蓋 (217)、21 グリッド出土の土師器無台椀 (218)、22 グリッド出土の土師器鍋 (219) を図示した。214 は小振りと推察され、215 は底部片である。216 は外面を砥石に転用した可能性が考えられ、217 の口縁端部には、丸みを帯びた返りが付く。218 はⅢ類、219 は短口縁である。

2B-4F グリッド (図版 41、写真図版 32)

4 グリッド出土の土師器無台椀 (220)、6 グリッド出土の須恵器無台杯 (221)、土師器無台椀 (222)、10 グリッド出土の須恵器無台杯 (223)、12 グリッド出土の土師器小甕 (224)・鍋 (225)、16 グリッド出土の土師器小甕 (226・227)、17 グリッド出土の須恵器無台杯 (228) を図示した。220・222 は底部片、221 は A Ⅱ類、223 は A Ⅳ類である。224 は底部片、225 は短口縁で端部に面を持つ。226 は B 類、227 は A 類、228 は A Ⅳ類

である。

2B-5D グリッド (図版 41、写真図版 32)

12 グリッド出土の土師器無台椀 (229) を図示した。底径 4.5cm の底部片である。

2B-6C グリッド (図版 41、写真図版 32)

5 グリッド出土の須恵器長頸壺 (230) を図示した。口縁部片で、内面に薄く自然釉が付着する。小泊窯産と考えられる。

5) 攪乱出土遺物 (図版 41、写真図版 32)

2B-1I9 グリッド出土の須恵器無台杯 (231)、2H2 グリッド出土の須恵器短頸壺 (232)、2H7 グリッド出土の須恵器無台杯 (233)、5D2 グリッド出土の須恵器長頸壺 (234)、5D17 グリッド出土の黒色土器有台皿 (235)、5E8 グリッド出土の土師器無台椀 (236) を図示した。231・233 は底部片、232 は肩部、234 は高台部で、すべて小泊窯産と考えられる。235 は内面黒色処理が施され、高台の接地部はアーチ状の窪みを持つ。236 は、糸切りの底部片である。

B 石製品・礫 (図版 42・43、写真図版 33)

古墳時代の石製品 2 点を除くその他 28 点の石製品は、包含層Ⅲ・Ⅳ層あるいは平安時代の遺構覆土中から出土している。わずかに中世の陶磁器が包含層中から出土しているが絶対量が少なく、石製品の帰属時期は大多数の平安時代土器と同時期として提示する。出土した石製品種別は、砥石・台石・敲石・磨石・軽石製石製品などがある。石材は安山岩・花崗岩・チャート・凝灰岩などを用いており、阿賀野川流域などの近隣河川などからの入手が考えられる。出土状況は第 14 図に示したとおりである。観察表は別表 4 に示した。資料数が少数のため、器種ごとに示した。また、細分類は行っていない。遺跡内から出土した礫の総数は 53 点 (5645.17g) であり、阿賀野川流域の安山岩などの石材を搬入して利用している。

砥石 5 点 (3・9・14・17・18) 出土している。3 は凝灰岩製の砥石の破損資料である。上下端を欠損している。形状から手持ち砥石と考えられる。1 面に砥面を持つ。9 は凝灰岩製の砥石である。3 面に砥面が確認できる。断面形が四角になる典型的な手持ち砥石と考えられるが、上下端が欠損している。14 は凝灰岩製の砥石である。砥面が表・裏・側面の 3 面に確認できる。砥石破損品の再加工品と考えられる。17 は、緑色凝灰岩製の砥石破片である。砥石の再加工の際の剥片と考えられる。18 は、砂岩製の棒状の砥石である。砥面が 4 面確認できる。

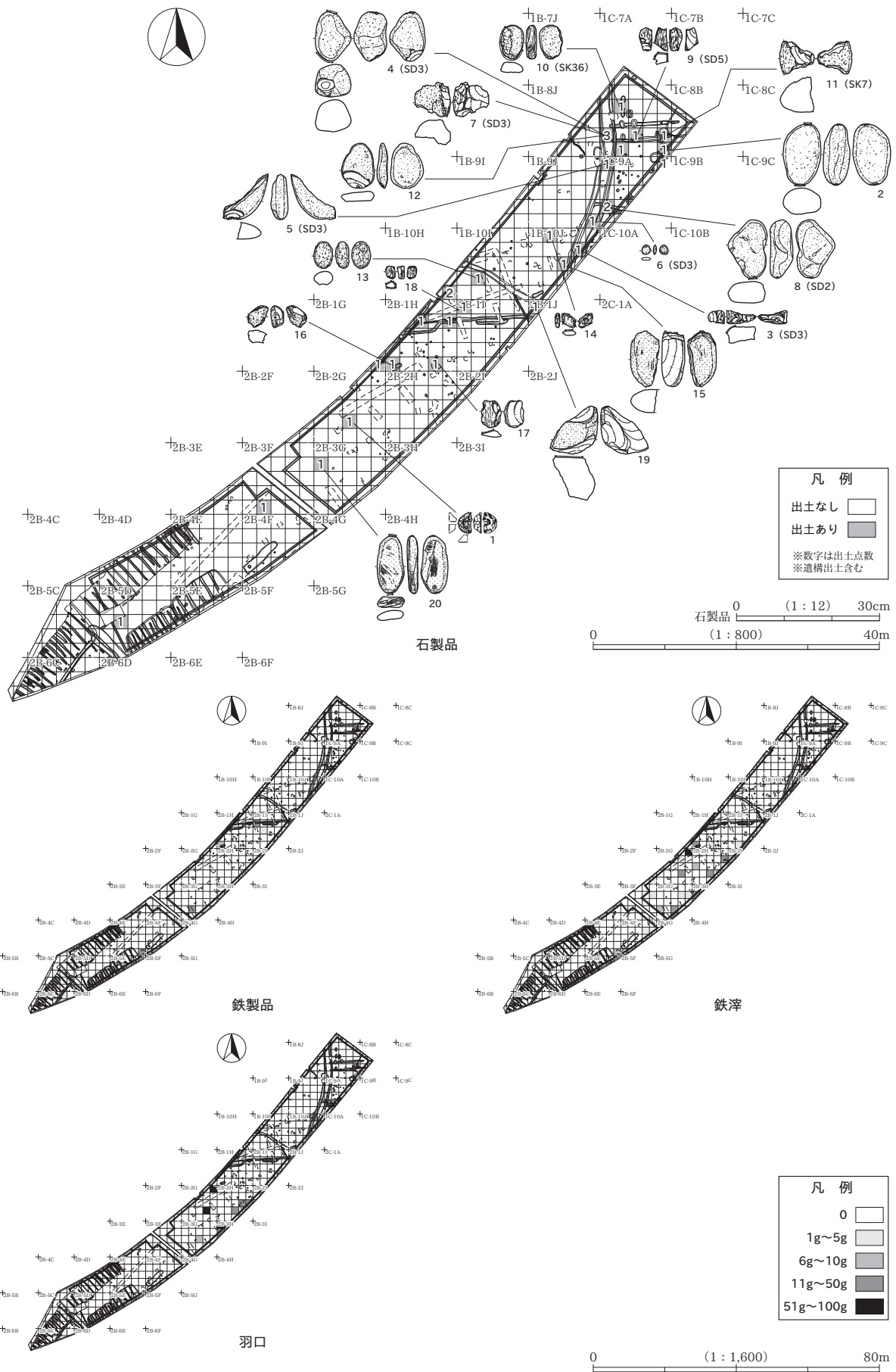
台石 2 点 (15・19) 出土している。15 は花崗岩製の台石片である。わずかに表裏面に磨痕が確認できる。19 は安山岩製の台石破損片である。

敲石 6 点 (4・5・8・10・12・20) 出土している。4 は凝灰岩製の両端に敲痕が残る資料である。5 は花崗岩製の敲石である。上端が破損している。8 はチャート製の敲石である。端部に敲痕が残る。10 は花崗岩製の敲石である。風化が激しく、側面が崩れている。下端部に敲跡が残る。12 は凝灰岩製の敲石である。敲痕が下端に残る。20 はホルンフェルス製の敲石である。両端に敲痕が残る。表裏面に砥面が残り、手持ち砥石として転用されている。

磨石 1 点 (6) 出土している。小形の円形自然石を用いており、凝灰岩製である。表裏面に弱い磨痕が残る。

軽石製石製品 14 点出土している。破片の 10 点を除き、4 点 (7・11・13・16) 出土している。軽石は阿賀野川流域で産出し、福島県沼沢の縄文時代前期末 (約 5,000 年前) に起きた火山活動により噴出した軽石が、阿賀野川によって下流域に運ばれたものである。現在でも、阿賀野川流域で行われている砂利取り場で確認できる。軽石製石製品は、明らかに遺跡内に使用を目的に搬入されている。何かを擦るような作業が行われたと考えられるが、表面の加工や使用痕が分かりにくいいため分類せず一括して報告する。資料の増加によっては、将来細分類されるものとも考える。7 は大形の楕円形資料の破片である。11 も楕円礫の破片である。使用痕等是不明瞭

第3節 古代の遺物



第14図 石製品・鉄製品、鍛冶関連遺物重量分布図

である。13は楕円形の軽石製品である。16は不正形の平面形を持つ。

第4節 中世の遺物

珠洲焼片口鉢類・壺・甕、青磁が数点出土しているが、出土量が少なく分類は行っていない。また、口縁部片がないため明確な時期は不明であるが、珠洲焼片口鉢類の形状から吉岡編年〔吉岡1994〕のIV期頃（14世紀、室町時代）と考察される。出土状況を第12図に示した。

1) 遺構出土遺物

SD55（図版36、写真図版29）

珠洲焼壺（68）を図示した。紐ロクロ成形によるR種の体部片である。

SK8（図版37、写真図版29）

珠洲焼壺（71）を図示した。紐ロクロ成形によるR種の底部片である。底部近くの体部外面には指頭圧痕が見られ、立ち上がり角度からF類と考察される。

2) 包含層出土遺物

1B-8J グリッド（図版41、写真図版32）

23グリッド出土の珠洲焼片口鉢（237）を図示した。内面の卸目は幅2.1cmの8本一単位である。

1B-10I グリッド（図版41、写真図版32）

17グリッド出土の珠洲焼片口鉢（238）を図示した。内面が摩耗しており、卸目、調整等は不明である。

1C-8A グリッド（図版41、写真図版32）

6・8グリッド出土の珠洲焼甕（239・240）を図示した。239は大甕の体部片で、外面はタタキメ、内面はあて具痕による調整で、内外面および1側縁の3面を砥石に転用している。240は体部片で、外面をタタキメ、内面をあて具痕による調整である。

2B-1I グリッド（図版41、写真図版32）

6グリッド出土の青磁（241）を図示した。碗の体部片と思われるが、小片であり外面文様も確認できないため、詳細は不明である。

2B-4F グリッド（図版41、写真図版32）

16グリッド出土の珠洲焼甕（242）を図示した。外面をタタキメ、内面をあて具痕により調整される。

第5節 土製品（図版44、写真図版34）

土製円板（1）・転用砥石（2～5）を図示した。1はSX37出土で、須恵器甕の体部を素材とする。側縁を両面からの敲打により成形し、長軸2.30cm、短軸1.95cmを測る。2・3はSN150耕作土出土の須恵器甕で、体部外面を砥石に転用する。4は2B-3E23グリッド出土の須恵器横瓶で、閉塞板の内面を砥石に二次利用する。5は1C-8A6グリッド出土の珠洲焼大甕で、内・外面および1側縁の3面を砥石に二次利用する。

第6節 鍛冶関連遺物（図版44、写真図版34）

鞆の羽口8点（6～13）、棒状製品（14）・板状製品（15）・釘類（16～18）・鍛冶滓（19～26）を図示した。出土状況は第14図に示した。

6は1B-10J10グリッド出土で、外径8.0cm、孔径3.6cmと大形の羽口で、長さは8.4cmである。断面は六角形で、外面には粘土質溶解物が厚く付着する。7は1C-9A16グリッド出土で、外径は7.6cmと推定され

る。8は2B-2G5グリッド出土で、外径6.6cm、孔径3.0cmで外面の溶解が進んでいる。9は2B-2G19グリッド出土で、外径5.0cm、孔径2.2cm、長さ5.7cmを測る。10は2B-2H15グリッド出土で、外径5.5cm、孔径2.8cm、長さ2.9cmである。11は2B-2H18グリッド出土で、外径6.8cm、孔径2.8cmを測り、外面の面取り状態から断面は8角形になると考察される。12・13は2B-3H1グリッド出土で、12は外径5.4cm、孔径3.2cm、長さ2.7cm、13は外径6.0cm、孔径3.1cm、長さ5.4cmを測る。

14はSD3出土で、長さ3.35cmで端部がほぼ直角に折れ曲がる断面円形の製品である。15は2B-1H21グリッド出土の厚さ0.55cmの薄板で、刃部の可能性もあるが区などが無いため板状製品とした。16は2B-1I6グリッド出土の頭部を一部欠損した環頭釘で、幅0.5cm、厚さ0.7cmを測る。長さは7.2cmであるが、先端を欠損しており3寸釘であると推察される。17は2B-3G17グリッド出土で環頭釘状を呈するが、身の断面が円形であり留金具の可能性が高い。幅2.0cm、厚さ1.9cm、長さ3.5cmで先端は欠損する。18は2B-4E25グリッド出土の釘と考えられるが、両端を欠損するため形状は不明である。幅0.95cm、厚さ0.80cm、長さ4.4cm。

19はSD3出土の鉄滓で、重さ98.92gを測る。20・21はSD5出土の鉄滓で、20は重さ54.26g、21は長さ8.3cm、幅8.2cm、厚さ2.5cmの椀形滓である。22はPit104出土の鉄滓で、重さ22.62gで僅かに発泡する。23は2B-1I23グリッド出土で、重さ42.93gの椀形滓と考えられる。24は2B-2G5グリッド出土の重さ41.10gの鉄滓、25は2B-2G19グリッド出土の重さ29.11gの椀形滓と考えられる。26は2B-3G17グリッド出土で、重量8.0gの鉄滓である。

第VI章 自然科学分析

第1節 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている [杉山 2000]。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である [藤原・杉山 1984]。

B 試料

分析試料は、基本層序のIV層 (古代~中世) とV層 (古墳時代) から採取された2点、および畑状遺構 (平安時代) の溝部 (3層) と畝部 (4層) から採取された6点の計8点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 [藤原 1976] を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)。
- 2) 試料約 1g に対し直径約 $40\mu\text{m}$ のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法 (550°C ・6時間) による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射 (300W ・ 42KHz ・10分間) による分散。
- 5) 沈底法による $20\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる [杉山 2000]。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第15図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真 (第16図) を示す。

第3表 日水遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

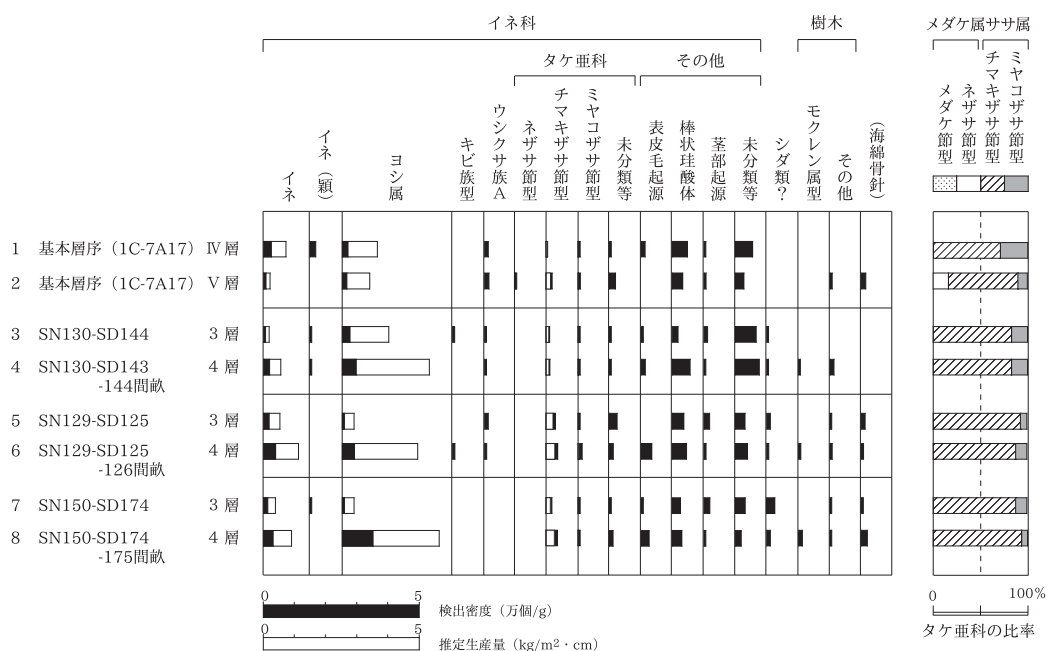
分類群	学名	地点・試料							
		1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科	Gramineae								
イネ	<i>Oryza sativa</i>	25	7	6	19	18	39	13	31
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)	18		6	6			6	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	18	14	24	45	6	39	6	50
キビ族型	Paniceae type			6			7		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	12	14	6	6	12	7		
タケ亜科	Bambusoideae								
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		7						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	6	20	12	13	31	39	19	37
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	6	7	6	6	6	13	6	6
未分類等	Others	6	20	6	6	25	13	6	12
その他のイネ科	Others								
表皮毛起源	Husk hair origin	12		6	13		33	6	25
棒状珪酸体	Rodshaped	49	34	18	58	37	46	26	31
茎部起源	Stem origin	6	7	12	6	18	7	19	6
未分類等	Others	55	27	67	77	31	39	32	19
シダ類	Fern			6	6	12	7	26	12
樹木起源	Arboreal								
モクレン属型	<i>Magnolia</i> type				6		7		12
その他	Others		7		13	6	7	6	6
(海綿骨針)	Sponge spicules		14			12	7	6	19
植物珪酸体総数	Total	215	163	183	283	203	300	174	248

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.72	0.20	0.18	0.57	0.54	1.15	0.38	0.91
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.16	0.85	1.54	2.84	0.39	2.47	0.41	3.12
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		0.03						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.05	0.15	0.09	0.01	0.23	0.29	0.15	0.28
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02

タケ亜科の比率 (%)

ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		16						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	71	74	83	83	93	88	88	94
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	29	10	17	17	7	12	12	6
メダケ率	Medake ratio	0	16	0	0	0	0	0	0



第15図 日水遺跡における植物珪酸体分析結果

[イネ科]

イネ、イネ（穎の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

[イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

[シダ類]

[樹木]

モクレン属型、その他

2) 植物珪酸体の検出状況

① 基本層序

V層（試料1）では、イネ、ヨシ属、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも比較的少量である。イネの密度は700個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を下回っている。なお、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があることから、イネの密度は水田よりもかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多い〔杉山2000〕。

IV層（試料2）では、イネがやや増加し、イネの籾殻（穎の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も認められた。イネの密度は2,500個/gと比較的低い値である。なお、イネ以外のイネ科栽培植物（ムギ類、ヒエ属、キビ属など）に由来する植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢となっている。

② 畑状遺構の溝部と畝部

畑状遺構の畝部（4層：試料4、6、8）では、ヨシ属が比較的多く検出され、イネ、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、およびモクレン属型などの樹木も認められた。イネの密度は、試料6と試料8では3,900個/gおよび3,100個/gと比較的高い値であり、試料4では1,900個/gと比較的低い値である。また、試料4ではイネの籾殻（穎の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も認められた。

溝部（3層：試料3、5、7）でも、おおむね同様の分類群が検出されたが、イネやヨシ属は減少しており、イネの密度は1,300～1,900個/gと比較的低い値である。なお、イネ以外のイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、とくに畝部（4層）で比較的多くなっている。

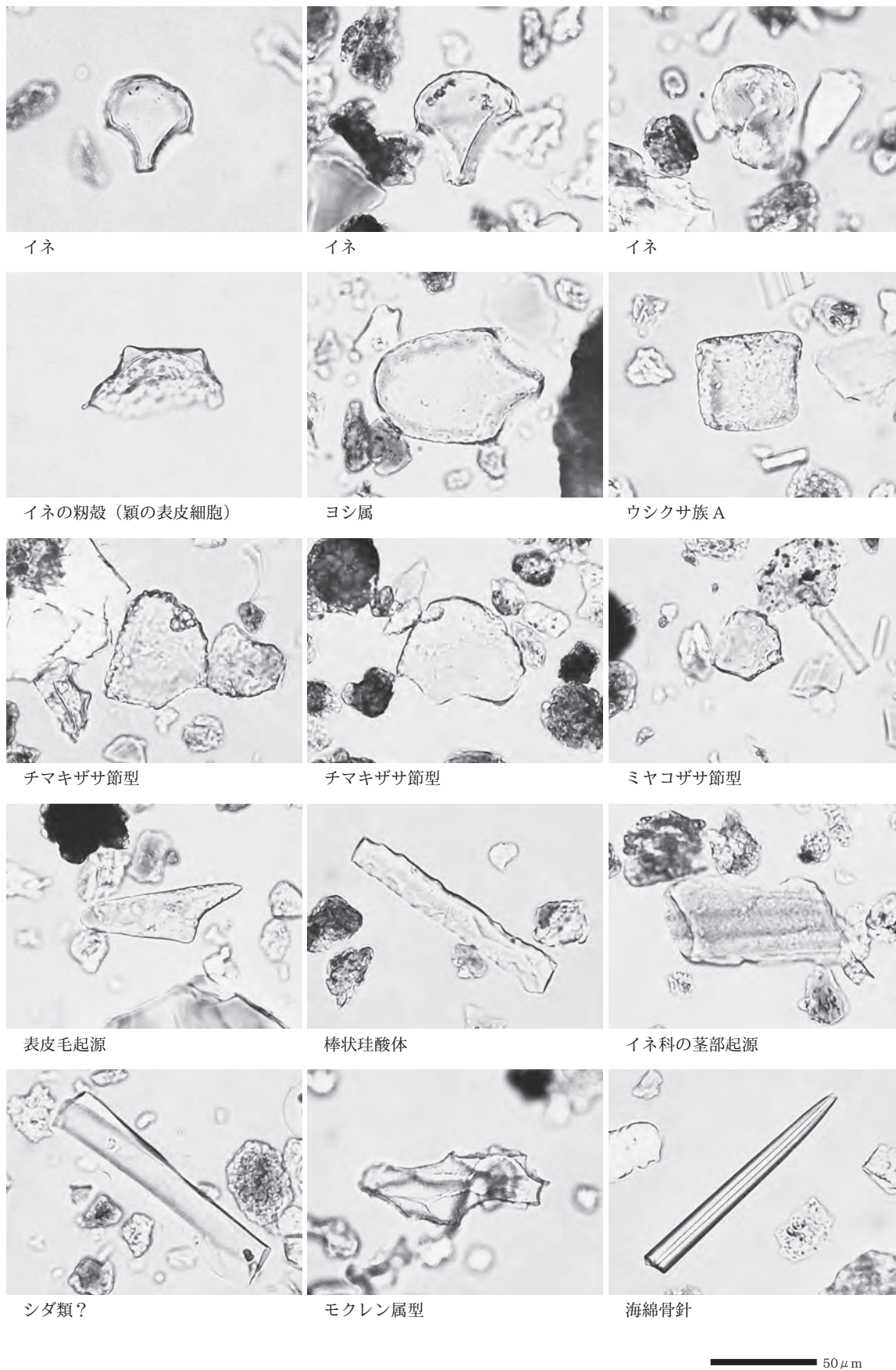
E 植物珪酸体分析から推定される植生・環境・土地利用形態

1) 基本層序

V層（古墳時代）からIV層（古代～中世）にかけては、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節など）やウシクサ族などが生育していたと考えられる。

2) 畑状遺構

平安時代とされる畑状遺構の畝部（4層）および溝部（3層）の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節など）やウシクサ族などが生育していたと考えられ、遺跡周辺にはモクレン属など何らかの樹木が分布していたと推定される。



第16図 日水遺跡の植物珪酸体 (プラント・オーバー)

第2節 花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試料

分析試料は、植物珪酸体分析に用いられたものと同一の計8点である。

C 方法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から 1cm³ を秤量。
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加えて 15 分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す。
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 300~1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村〔1974, 1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

D 結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 13、樹木花粉と草本花粉を含むもの 1、草本花粉 13、シダ植物孢子 2 形態の計 29 である。分析結果を第 4 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム (第 17 図) を示した。主要な分類群について顕微鏡写真 (第 18 図) を示す。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複雑管束亜属、スギ、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属—ムクノキ、トチノキ、ツツジ科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科ーヒコ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

① 基本層序

Ⅳ層(試料1)とⅤ層(試料2)では、イネ科、ヨモギ属、シダ植物胞子などが検出されたが、いずれもわずかである。

② 畑状遺構

畑状遺構の畝部(4層:試料4、6、8)では、マツ属複雑管束亜属、スギ、ハンノキ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、イネ科、ナデシコ科、タンポポ亜科、ヨモギ属などが検出され、試料8ではさらにソバ属も認められた。ただし、いずれも少量である。

溝部(3層:試料3、5、7)のうち、試料3では樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優勢で、ヨモギ属、アブラナ科、タンポポ亜科、ナデシコ科、サジオモダカ属、アカザ科ーヒコ科などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、コナラ属コナラ亜属、サワグルミなどが伴われ、樹木および草本花粉のクワ科ーイラクサ科も認められた。試料7でも、おおむね同様の結果であるが、花粉密度が比較的低く、樹木花粉のスギ、マツ属複雑管束亜属なども認められた。試料5では、花粉がほとんど検出されなかった。

E 花粉分析から推定される植生と環境

1) 基本層序

Ⅴ層(古墳時代)とⅣ層(古代~中世)では、花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、1) 乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、2) 土層の堆積速度が速かったこと、3) 水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられるが、土層の堆積状況や植物珪酸体分析結果などから、ここでは1)の要因が大きいと考えられる。

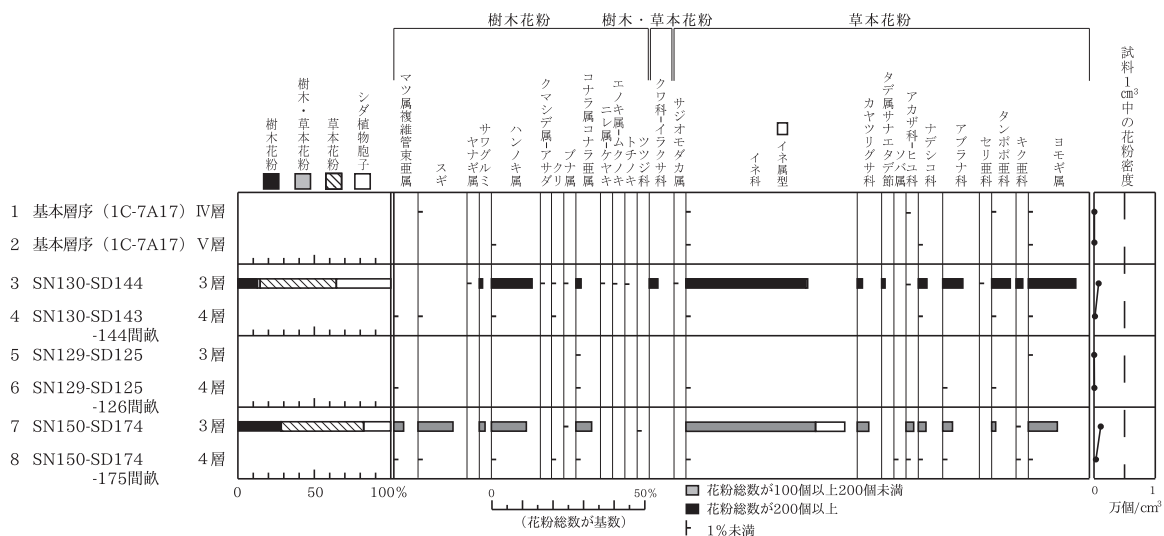
2) 畑状遺構

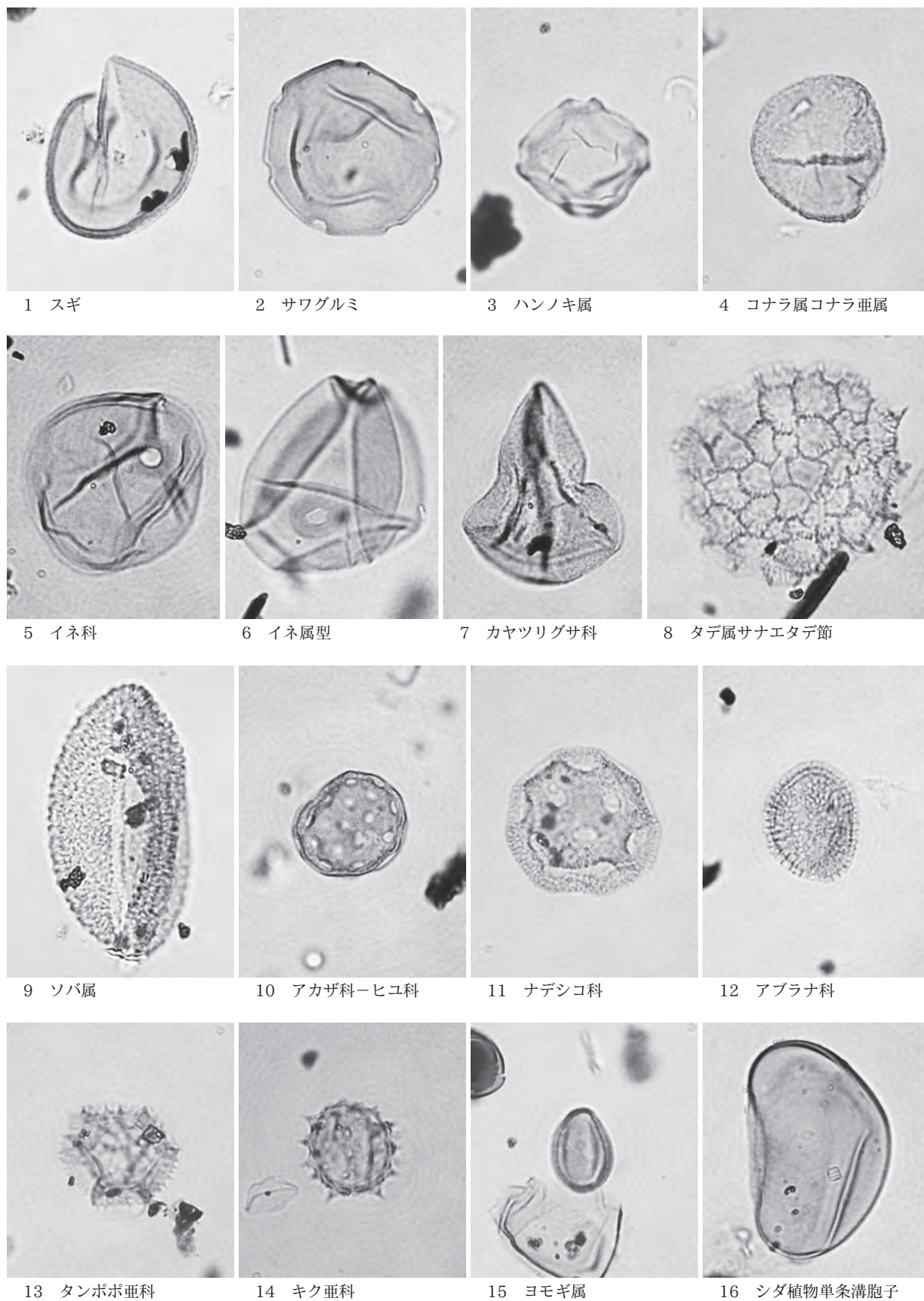
平安時代とされる畑状遺構の畝部(4層)では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、部分的に少量ながらソバ属が認められることから、周辺でソバの栽培が行われていた可能性が考えられる。ソバ属は虫媒花であり、風媒花と比較して現地性が高く花粉の生産量も少ないことから、他の分類群と比較して過大に評価する必要がある。

溝部(3層)では、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、アブラナ科が伴われることから、調査地点もしくはその周辺で稲作が行われていたと考えられ、アブラナ科が栽培されていた可能性も認められた。アブラナ科には、アブラナ(ナタネ)、ダイコン、ハクサイ、タカナ、カブなど多くの栽培植物が含まれている。また、周囲の比較的乾燥したところにはイネ科、ヨモギ属、タンポポ亜科、ナデシコ科、キク亜科、アカザ科ーヒコ科などの草本類が生育していたと考えられ、周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹林およびスギ林が分布していたと推定される。

第4表 日水遺跡における花粉分析結果

分類群		試料							
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8
Arboreal pollen 樹木花粉									
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属				1		1	5	1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1			1			18	3
<i>Salix</i>	ヤナギ属			1					
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			2				3	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		1	24	3			18	8
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ			1					
<i>Castanea crenata</i>	クリ			1	2				1
<i>Fagus</i>	ブナ属			1				1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属			3		1	1	8	2
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			1					
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ			1					
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ			1					
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科							1	
Arboreal・Nonarboreal pollen 樹木・草本花粉									
Moraceae-Urticaceae クワ科-イラクサ科				5					
Nonarboreal pollen 草本花粉									
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属			1					
Gramineae	イネ科	1	1	71	6		1	67	10
<i>Oryza</i> type	イネ属型			1					4
Cyperaceae	カヤツリグサ科			3				6	
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節			2					
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属								2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2		1				4	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1	5	2			4	1
Cruciferae	アブラナ科			12			1	5	1
Apioidae	セリ亜科			1					
Lactuoidae	タンポポ亜科	1		11	1		1	2	
Asteroidae	キク亜科			4				1	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1	4	28	3	1		15	6
Fern spore シダ植物胞子									
Monolate type spore	単条溝胞子	5	5	98	15	3	8	33	32
Trilate type spore	三条溝胞子			2				1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	1	1	36	7	1	2	54	15
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	5	0	0	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	5	6	140	12	1	3	104	27
Total pollen	花粉総数	6	7	181	19	2	5	158	42
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	4.8	5.6	7.5	1.4	1.4	4.0	1.1	3.0
		×10	×10	×10 ²	×10 ²	×10	×10	×10 ³	×10 ²
Unknown pollen	未同定花粉			7	1			6	1
Fern spore	シダ植物胞子	5	5	100	15	3	8	34	33
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	< (+)	< (+)	(+)	(+)	< (+)	(+)	< (+)	(+)





10 μm

第18図 日水遺跡の花粉

第七章 総 括

第1節 日水遺跡の遺物

A 古墳時代の土器

日水遺跡の古墳時代土器については、前述したとおり須恵器直口壺以外は全て包含層出土である。須恵器直口壺は、田辺昭三氏の示した「須恵器各器形の消長」の模式図〔田辺 1981〕によると田辺編年Ⅰ期の前半から中葉に多くあり、後半には細々と存続する状況が図で読み取れる。実際、類似した形態の壺は、小型の製品はⅡ期の終末まであり、一部Ⅲ期前半まで続く器種である。それに対して直口壺は存続時期が短いのが特徴である。田辺氏の『須恵器大成』の中にも、この須恵器の特徴である頸部に2条の断面三角形状になる稜線を持ち、その下に波状文を持つ資料の類例は少なく、島根県金崎古墳例や、稜線は1本であるが底部外面のタタキ痕跡が類似する長野県鳥羽山洞窟遺跡例がある程度である。また、新潟県内においても古墳時代中～後期の須恵器壺の出土は僅少である〔細井 2012〕。編年的所属時期については、類似器種の壺であれば時代が下るに従い頸部が長頸化する傾向が認められる。直口壺は、長頸化などの傾向は確認できない。産地が明確であれば粗雑化することによって傾向が窺える可能性もあるが、現状では不明である。敢えて示せば、田辺編年Ⅰ期の幅の中でTK208型式併行期あるいはその前後のTK216、TK23型式併行期に相当すると考えておきたい^{注1)}。また、実年代についてはこの資料に付随する自然科学分析などの情報を得られなかったが、この土器をTK208型式併行期と仮定すると、5世紀中頃(AD450年前後)の資料と考えられる〔酒井 2004、宮崎ほか 2006〕。

次に須恵器直口壺の産地についてであるが、新潟県内においては古墳時代の須恵器窯の発見例は無い。近隣の北陸では田辺編年Ⅱ期のTK47型式併行期において須恵器生産が開始し、能登羽咋窯跡群の一支群である柳田ウワノ1号窯が最古資料である〔望月 2004〕。TK208型式前後の須恵器の焼成は、北陸では開始されていない。この状況から、本資料が薄手で精緻な造りで胎土も水挽された精良なものを利用されていることから、大阪府泉北丘陵周辺地域の古墳時代の中心的な窯跡群である陶邑古窯跡群産の可能性が高いと考えている。今後の科学分析や類例の増加に期待したい。

いずれにしる新潟市を含む新潟県下越地方においてTK208型式併行期に前後する須恵器は、現状では胎内市天野遺跡〔水澤 2009〕の杯身・杯蓋や阿賀野市腰廻遺跡〔川上・中山 2002〕の杯身・杯蓋、新潟市西蒲区御井戸B遺跡〔前山・相田 2003・2004〕の高杯杯部と杯身など数えるほどしか無い。本資料は初期須恵器の移入形態を考えるうえで貴重な資料である。

次に包含層出土の土師器について触れたい。土師器は遺構に伴わず、出土状況も散発的で、一括性は高くない。しかし、古墳時代包含層中での出土高低差はそれほどないことから、時期的には近接した一群と考えている。指標となる土器としては、有段杯高杯(図版 34-2・3)がある。脚部の様相が不明であるが、杯部が2段の段を持つのが特徴的である。新潟県上越地方の資料に基づき古墳時代編年を構築した川村浩司氏の編年(以下、「川村編年」という。)(川村 2000)に従えば、10段階に相当する。上越市中嶋廻り遺跡SX18〔小島 1991、金子ほか 2003〕出土の有段脚高杯に、日水遺跡出土例は類似する。川村編年10段階は須恵器TK208型式に並行すると捉えられ、県外では漆町13群と並行する。これは、前述の須恵器の年代観に合致する。但し、中嶋廻り遺跡例は段が不明瞭化していることがこの段階での位置付けの根拠とし、段の明瞭なものを川村編年9段階に置いた胎内市六斗蒔遺跡の例〔岡安ほか 2005〕もある。いずれにしる川村編年9～10段階の位置づけである。その他に下方でのわずかな屈曲が見られる脚(図版 34-19)や比較的直線的な脚(図版 34-4)も川村編年10段階に見られる。甕・壺は全体形が分かる資料が無いが、長胴化した甕(図版 34-8)の存在や口唇部に面を持たない資料が多いことか

らも中期的な様相が窺える。鉢とした資料の中に内外面に赤彩した資料(図版35-26)などがあるが、若干、古い様相と考える。また、器台が1点(図版34-9)出土している。漆町11群、川村編年7段階では器台は激減する〔滝沢2012〕ことからこの段階以前の資料と考えられ、古墳時代前期に遡る可能性もある。

以上のことから、日水遺跡出土古墳時代土器は中期中葉の川村編年9～10段階が主体で、一部前期に遡る資料があると考えられる。また、土器ではないが、1点出土した石製紡錘車(図版42-1)は、新潟県上越地方の糸魚川市周辺から産出する滑石を石材としている。糸魚川市六反田南遺跡では、古墳時代後期を中心に紡錘車を含む滑石製品製作を行っている〔細井ほか2010〕。日水遺跡は、若干時期が遡る古墳時代中期の消費地遺跡例である。

B 古代の土器

日水遺跡で出土した古代の土器は、コンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)にして44箱ある。しかしその大部分は小破片であり、また遺構出土遺物よりも包含層出土遺物が多いのが現状である。

本来であれば、遺構出土の一括資料の器種構成比率や組成比率などを基に遺物を論ずべきであるが、一括資料もなく遺構出土遺物も乏しいため、総体的に概観し土器の位置付けを考えたい。考察にあたっては、春日真実氏によって詳細にまとめられている〔春日1991・1997・1999・春日ほか2004他〕、日水遺跡が所在する信濃川・阿賀野川下流域における土器編年(以下、「春日編年」という。)に従う。

須恵器について見てみると、その生産地が佐渡小泊窯跡群に限定されている。越後国内では9世紀に入ると佐渡小泊窯跡産の須恵器が大量に流入し、在地の須恵器窯跡群は衰退し始め、9世紀後半になると須恵器は佐渡小泊窯跡産にほぼ限定されるようになる。10世紀に入ると須恵器は大幅に減少するため、須恵器からすれば本遺跡の出土遺物は9世紀後半、春日編年のVI期に比定できる。

食膳具の構成を見ると、須恵器無台杯と土師器無台碗を一定量組成し、僅かではあるが黒色土器も確認できる。中でも土師器無台碗は器高指数(器高÷口径×100)が全て30以上あり、黒色土器ではあるが167のように35以上のものや口径が15cmを超える115・176も存在している。このように器高指数が35以上となるものは、9世紀第4四半世紀から10世紀初頭のみ存在するという指摘もあり、春日編年VI2期にあたりと考えられる。また、須恵器無台杯について見てみると、器高指数が20～38.6、底径指数(底径÷口径×100)が56.5～66.7と法量にばらつきが見られる。佐渡小泊窯跡群の須恵器杯類は時期が新しくなるにつれ法量のばらつきが顕著になる傾向にあり〔坂井1991〕、このばらつきにあたる遺物と考えられる。また1点ずつではあるが、土師器無台皿(91)と黒色土器有台皿(235)が出土しており、土師器皿の組成や黒色土器を含む食膳具の構成などからもVI期とするのが妥当である。貯蔵具において、横瓶に比べ長頸壺が多くなることもVI期の裏付けと考えられる。

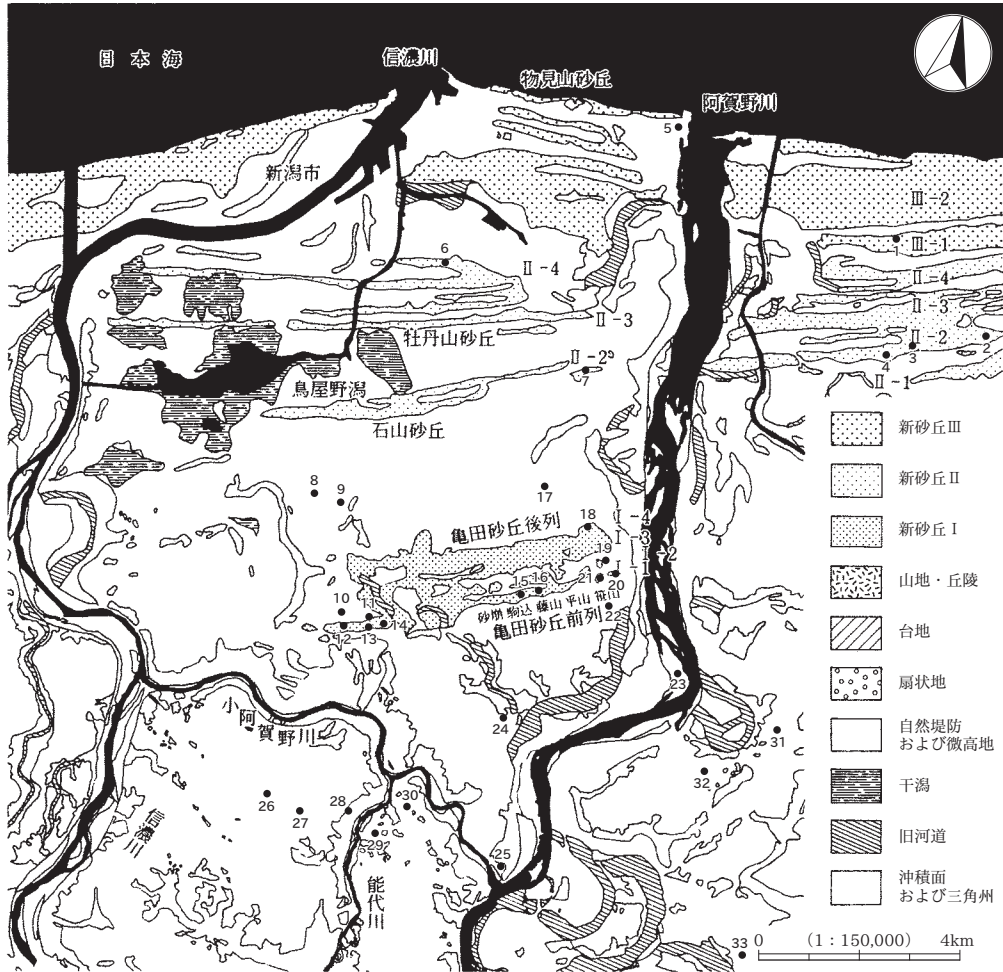
以上のように、本遺跡の出土遺物は春日編年VI期の範疇に比定され、土師器無台碗の法量からVI2期(9世紀第4四半世紀)が主体と考えられる。

第2節 遺跡と遺構

A 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡

日水遺跡周辺の地形分類と古墳時代遺跡分布図を第19図に示し、一覧表を第5表に示した。また、遺跡ごとに立地と大まかな時期を示した。以下、便宜的に図・表に付した番号で阿賀野川以西の遺跡を中心に説明する。砂丘形成年代は鴨井幸彦氏ほかの研究成果〔鴨井ほか2006〕による。

日水遺跡(11)周辺は新砂丘Iの前列にあたり、新砂丘I-1列(約6,000年前形成)に相当する^{注2)}。砂丘列周辺には、古墳時代の遺跡が密集する。新砂丘I-1列に立地する遺跡は、9遺跡を数える。その中でも武左衛門裏遺跡(13)は、県教委が平成18(2006)年に行った本発掘調査範囲では古墳時代前期の土器の出土は少量



第 19 図 日水遺跡周辺の地形と古墳時代遺跡
(新潟県「土地分類基本調査新潟・新津」1972・1974)〔酒井 2000〕一部改変

第 5 表 日水遺跡周辺の古墳時代遺跡

No.	遺跡 No.	遺跡名	立地	古墳時代			備 考	引用参考文献
				前期	中期	後期		
1	23	横山	新砂丘Ⅲ-1		1	採集資料	〔甘粕ほか 1994〕	
2	253	内島見 A	新砂丘Ⅱ-2			採集資料	〔関ほか 1988〕	
3	261	たやしき	新砂丘Ⅱ-2			採集資料	〔関ほか 1988〕	
4	273	尾山 A	新砂丘Ⅱ-2			採集資料	〔関ほか 1988〕	
5	123	阿賀野川河口	新砂丘Ⅲ-2 (新砂丘Ⅱ)			採集資料	〔加藤・尾崎 2002〕	
6	112	山木戸	新砂丘Ⅱ-4			採集資料	〔小池 1999〕	
7	85	石動	新砂丘Ⅱ-2			採集資料・本発掘調査	〔甘粕ほか 1994、廣野 1996〕	
8	723	駒首潟	自然堤防		1	本発掘調査	〔渡辺まほか 2009〕	
9	397	下西	自然堤防			採集資料	〔亀田町史編さん委員会 1988〕	
10	426	西郷	自然堤防	1		本発掘調査	〔土橋ほか 2009〕	
11	398	日水	新砂丘Ⅰ-1、自然堤防			本発掘調査	〔本書〕	
12	420	養海山	新砂丘Ⅰ-1			平成 15 年旧亀田町立会調査		
13	396	武左衛門裏	新砂丘Ⅰ-1、自然堤防			旧亀田町立会調査	〔亀田町史編さん委員会 1988、土橋ほか 2007〕	
14	391	日水南	新砂丘Ⅰ-1			平成 12 年旧亀田町確認調査		
15	362	山ノ家	新砂丘Ⅰ-1	1		本発掘調査	〔川上 1993、酒井 2000〕	
16	359	駒込小丸山	新砂丘Ⅰ-1			本発掘調査	〔川上 1986、酒井 2000〕	
17	114	東園	自然堤防 (砂丘間低地)			本発掘調査	〔朝岡・謙山 2003〕	
18	88	小丸山	新砂丘Ⅰ-4			本発掘調査	〔小池・本間 1995〕	
19	1	中山	新砂丘Ⅰ-1		1	採集資料	〔酒井ほか 1987、甘粕ほか 1994〕	
20	28	城山	新砂丘Ⅰ-1			採集資料・本発掘調査	〔甘粕ほか 1994、廣野 1997〕	
21	7	笹山前	新砂丘Ⅰ-1			本発掘調査	〔廣野 1997〕	
22	366	宮尻郷	自然堤防			採集資料	〔酒井 2000〕	
23	387	小杉中州	不明			採集資料、阿賀野川中州 A 遺跡〔甘粕ほか 1994〕と同一遺跡か	〔甘粕ほか 1994、酒井 2000〕	
24	383	上郷 A	自然堤防			本発掘調査	〔上野・春日 1997〕	
25	577	居屋敷	自然堤防	1		本発掘調査	〔謙山 2007〕	
26	143	結	自然堤防		1	採集資料	〔川上ほか 1989〕	
27	739	中田	自然堤防			本発掘調査	〔謙山 2009〕	
28	209	結七島	自然堤防	1		本発掘調査	〔田中・丹下ほか 2004〕	
29	149	沖ノ羽	自然堤防			2005 年度本発掘調査で古墳時代後期土器群が出土している	〔星野・石川ほか 1996、立木・澤野ほか 2005、立木・澤野・八藤ほか 2008〕	
30	200	中谷内	自然堤防			本発掘調査	〔北村・菊池 2004〕	
31	134	山島屋敷	自然堤防			採集資料、阿賀野市		
32	127	村下	自然堤防			本発掘調査、阿賀野市	〔古澤ほか 2004〕	
33	401	境塚	自然堤防			本発掘調査、阿賀野市	〔古澤ほか 2011〕	

凡例 1. 黒塗り 遺物が比較的多い 灰色 遺物が少量 白 1 遺物が一点のみ 空白 遺物なし
 2. 古墳時代の時期区分は、滝沢規昭氏の整理〔滝沢 2012〕に従い、漆町編年〔田嶋 1986〕の 4 群を古墳時代の初めとし、川村浩司氏の編年〔川村 2008〕川村 7 段階、漆町 11 群までを前期とした。中期は川村 8～11 段階、漆町 10～13 群までとした。後期は田辺昭三氏の陶器編年〔田辺 1981〕TK47 を指標とし、川村 12～16 段階までを後期とした。
 3. 個々の遺物の判断は筆者が行った。実見していないものも多く、原則、記載に従った。不備があるがご容赦願いたい。

であったが〔土橋ほか2007〕、北側の砂丘地斜面からは大量の古墳時代前期の土器が採集されており^{注3)}、拠点的な集落の存在が窺える。隣接した日水遺跡とは、何らかの関係があると思われる。笹山前遺跡(21)は、古墳時代後期の集落跡である〔廣野1997〕。古墳時代前期から後期にかけて砂丘上に集落を構え、周辺での生業活動が窺える。砂丘列から外れる西郷遺跡(10)〔土橋ほか2009〕は、砂丘からほど近い自然堤防上に立地している。古墳時代前期の土器が、隣接した河川跡から出土している。遺跡の時期は縄文時代晩期～弥生時代中期が主体で、弥生時代後期には集落が移動している。弥生時代の炭化米も大量に出土しており、稲作を生活の中心とし、大量の動物獣骨の出土から、狩猟・漁労の両面の生活が古墳時代の前代に行われていた様相が明らかである。

新砂丘Ⅰ-2～4には遺跡は少なく、新砂丘Ⅰ-4(約4500年前形成)の小丸山遺跡(18)〔小池・本間1995〕で多少の前期土器が出土している。新砂丘ⅠとⅡの間の東園遺跡(17)〔朝岡・諫山2003〕は、砂丘間低地の自然堤防上にあり古墳時代前期の集落の一部と考えられる。炭化米が多量に出土しており、農業を基盤とした集落を営んでいたようである。

新砂丘Ⅱ-2(約3500年前形成)の石動遺跡(7)〔廣野1996〕と新砂丘Ⅱ-4(約2,000～1,700年前形成)の山木戸遺跡(6)〔小池1999〕では、古墳時代前期の土器が出土している。石動遺跡は出土量も比較的多い。海岸や阿賀野川に近いことから、生業形態が他の集落と異なる可能性もある。

新砂丘Ⅲ-2(約1100年前以降)の阿賀野川河口遺跡(5)〔加藤・尾崎2002〕では、古墳時代前期土器が僅かに出土している。この事例の場合は新砂丘Ⅲ-2の下に新砂丘Ⅱがあり、海岸での浸食で下の地層の遺物が露出したことが考慮されている。

砂丘の形成年代から見ていくと、砂丘形成の古い新砂丘Ⅰ-1周辺に遺跡が密集していることが見て取れ、新砂丘Ⅱ・Ⅲには遺跡数が少ない。形成年代の新しい砂丘周辺は、地形が一定せず新砂丘Ⅲ周辺の砂丘間低地は水田耕作など農業経営には不利な条件であったのではと推測する。

日水遺跡より南側には砂丘は確認されておらず、小阿賀野川以南の自然堤防上に古墳時代の前期から後期の遺跡が集中する。結七島遺跡(28)〔田中・丹下ほか2004〕では古墳時代中期が主体で有段杯高杯も出土しており、日水遺跡と隣接した時期の集落である。南側の新津丘陵には古墳時代前期の古津八幡山古墳〔甘粕・川村ほか1992〕や弥生時代後期が主体の古津八幡山遺跡〔渡邊朋・立木ほか2001・2004〕が所在し、周辺地域に多くの遺跡が確認できる〔「シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会2005〕。

このように立地と遺跡の関係を見ていくと、古墳時代には新砂丘Ⅱ-2周辺境から北側の日本海に至る地域は集落形成に不利な状況が窺える。また、日水遺跡周辺では弥生時代後期の遺跡は少なく意味付けは難しいが、古墳時代の初めには日水遺跡周辺で新津丘陵裾部と新砂丘Ⅰ周辺から低地にかけての進出と拡大が窺われる。その選地には、当時の河川が密接に関わっていると思われる。居住地は洪水被害の少ない新砂丘Ⅰ-1上に住み、周辺低地で耕作を行っていた姿が垣間見える。周辺の微地形については後述するが、日水遺跡なども洪水の少ない適地だったのであろう。

B 古代の日水遺跡

1) 遺跡周辺の地形(第20図)

新潟砂丘と呼ばれる砂丘列は、内陸側から新砂丘Ⅰ・新砂丘Ⅱ・新砂丘Ⅲの3群が識別されており、それぞれに枝番が付され10列に細別されている。その形成年代は海側から新しいとされており、新砂丘Ⅰ-1が約6,000年前、新砂丘Ⅰ-2が6,000～5,500年前、新砂丘Ⅰ-3が5,000年前、新砂丘Ⅰ-4が約4,500年前、新砂丘Ⅱ-1が約4,000年前、新砂丘Ⅱ-2が約3,500年前、新砂丘Ⅱ-3が約3,000年前、新砂丘Ⅱ-4が2,000～1,700年前、新砂丘Ⅲ-1が1,700～1,100年前、新砂丘Ⅲ-2が約1,100年前以降とされている〔新潟古砂丘グループ1974、仲川1987、鴨井ほか2006〕。

日水遺跡は現在の海岸線からおよそ10kmと最も内陸に位置する、新砂丘Ⅰ-1の北斜面および連続して南北



第 20 図 日水遺跡周辺の地形

に延びる自然堤防上に位置する。自然堤防の分布状況から、当初河川は新砂丘I-1の南側に流路をとっていたと推察されるが、度重なる氾濫により砂丘の所々を浸食し変流したと考察される。本遺跡の占地する砂丘も東西両側に浸食の痕跡が見られ、東側の浸食は現在も河道（亀田排水路）となっている。このような流路変更により、本遺跡の主体部が位置する自然堤防は形成されたと考察出来る。河川の氾濫は砂丘間低地にも大量の土砂をもたらし、湖沼地を残しつつも安定した土壌を形成していったと考えられる。

亀田排水路は下流では栗ノ木川と呼ばれるが、7本もの砂丘を直角に横断する不自然な流路を取っている。本河川は人工の開鑿による排水路「削り抜き」川〔植村ほか1978〕と考えられており、砂丘間低湿地の排水を目的として律令期に開鑿されたと考察されている〔金子1986、1996〕。前述のように、排水路の開鑿された場所は安定化した砂丘間低地と自然堤防と考えられる微高地に挟まれている。古代には浅い谷状の窪地であったと推察され、開鑿地となった理由の一つとも考えられる。

新砂丘の形成については前記の年代が与えられており、形成直後の縄文時代から遺跡として利用されている。本遺跡の占地する自然堤防は、今回の調査成果から古墳時代中期には形成されていた事が判明したが、遺跡としての利用は平安時代になってから盛行する。砂丘間低地については、荒木前遺跡や中の山遺跡など中世になってから積極的に利用される傾向が窺えるが、これは敷地面積の確保や水利などの利便性によるものと推察される。また中世の集落でもある中の山遺跡や三王山遺跡は、残丘状の砂丘に位置しており、「山」などの地名をもって砂丘間低地内には多くの小砂丘が残存するものと考えられる。

2) 遺構について

日水遺跡では、溝・土坑・畑などの遺構が検出された。一部切り合い関係は認められるが、出土遺物から大きな時期差はなく、概ね9世紀後半の遺構である。掘立柱建物や井戸など集落を構成する遺構が検出されていない事から、本調査区は集落の縁辺から生産域に至る地点と推察される。以下、今回検出した特徴的な遺構について触れてみたい。

溝

調査区北側で、視覚的に2条一対をなす溝が検出された。SD2・3は湾曲するものの南北に、SD5・13は直線的に東西に、それぞれ約2mの間隔を保ちながら走行する。これらは地形に沿って造られておらず、方向を重視して構築された溝と考察される。SD3以南では遺構がまばらになる事から、SD2・3は集落の西辺を区画する溝とも考えられる。SD2・3に直行するSD5・13の10m南には東西溝のSD29が走行しており、これらも屋敷境など一連の区画をなす溝の可能性はあるが、区画内に明確な掘立柱建物などは確認されていない。生産域という概念からすれば牧などの区画も想定されるが、関連する遺構は検出されていない。2条一対であることから道路状遺構の側溝もしくは土留め施設の布掘り溝とも考えられるが、道路面の硬度などの計測は行っていない。

土坑群

1C-8Aグリッドで、平面長楕円形（小判形）の土坑が6基検出された。これらは平面形以外にも、南北に主軸を持つことや規模、土層堆積状況など類似点が多い。形態からは陥し穴と思われるが、逆茂木などの底面設備も伴わず、また一か所に集中する配列も通常の陥し穴とは異なっている。埋土に見られる粘質土層や貼壁したかのような堆積状況から、防湿効果を高めた貯蔵穴などの可能性も考えられる。しかし底面標高が湧水レベルに達しており、また蓋などの上部構造も確認されていないため用途は不明である。今後、類例の増加に伴いより明確な機能が論じられると考えられる。

畑

調査区南側で、畑が5枚検出された。この内SN112・129・130の3枚の畑は、幅4mの帯（道路）状の間隔を挟んで整然と区画され、南端にSN150が広がる。

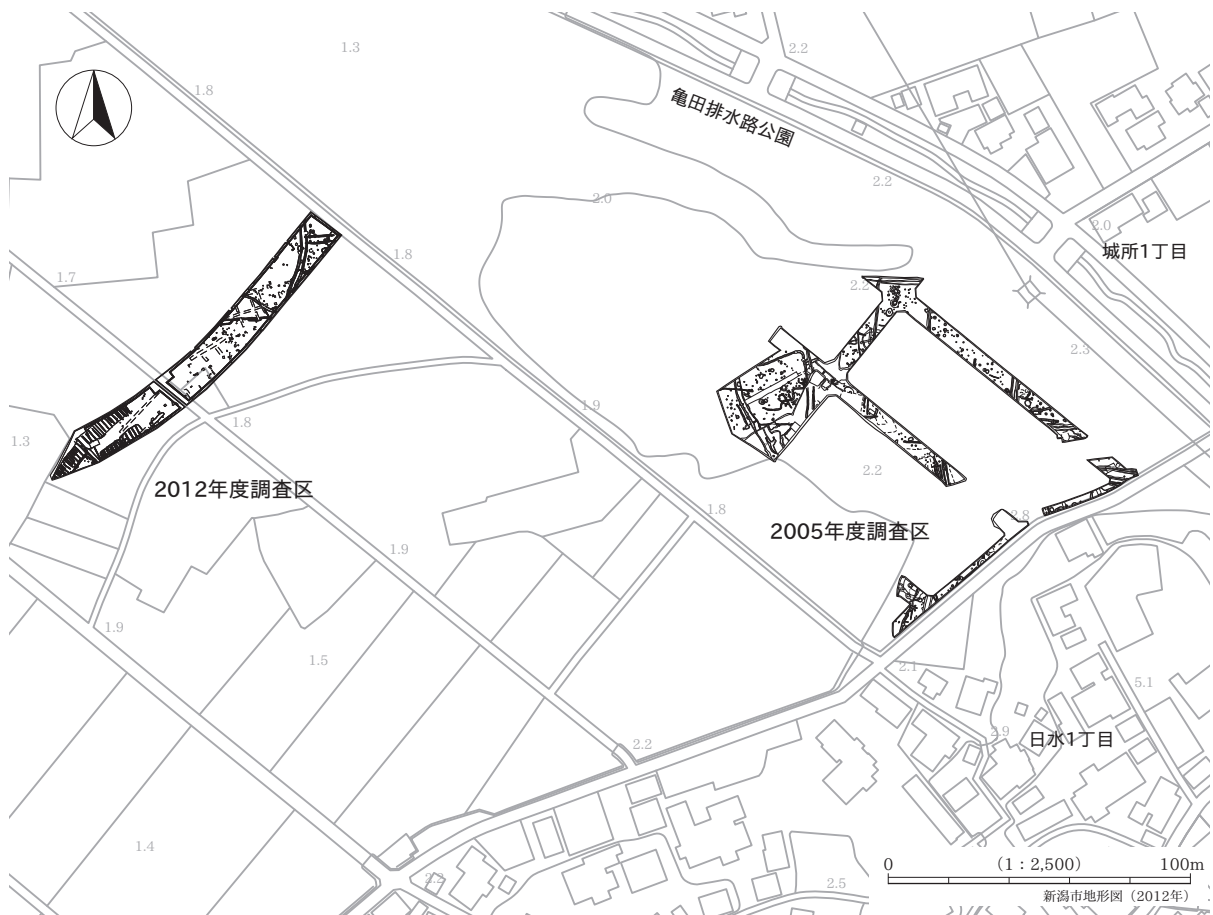
SN112とSN129は隣接し、小溝の走行方向はN-28～30°-W前後を指す。畝間はSN112で約1.0m等間、

SN129 は幅広と幅狭の溝が1条置きにあり畝間は0.40～0.60mを測るが、同幅の小溝で考えると約1.20m等間となる。SN129の自然科学分析により、畝部から3,900個/gと高い密度のイネの植物珪酸体やイネ科の花粉が認められ稲作主体であったと考察され、規模や方向など類似点が多いSN112も稲作主体であったと推察される。また両畑の畑境には幅1.4mで並走するSD118・119が位置し、この2条の溝は断面が台形状を呈すなど他の小溝と差異が見られ、農道の側溝である可能性も考察される。SN130の畝間も1.10～1.20mでほぼ等間であり、自然科学分析によって確認された畝部のイネの密度は1,900個/gと比較的低い値であるが、溝部ではイネの籾殻に由来する植物珪酸体も確認されており、稲作主体の畑であったと考察される。他遺跡の調査事例でも畝間の広い畑での陸稲栽培が指摘されており、本遺跡でも同様の結果が得られている。

一方、27条の小溝からなるSN150は小溝の長さも様々であり、畝間も0.10～0.70mと規格性がない。本畑は自然堤防の東端に営まれており、乾湿を繰り返す環境下であったと考えられるため、何枚かの畑が重複している可能性が高い。自然科学分析の結果、本畑からはイネ以外にソバ属が確認されている。ソバ属は虫媒花であるため本畑もしくは周辺でソバの栽培が行われていた可能性が高い。

第3節 日水遺跡の性格

最後に日水遺跡の性格について述べる。今回の調査で、日水遺跡は古墳時代から中世（室町時代）まで存続する遺跡であることが確認された。特に古墳時代では、遠隔地産と考えられる須恵器TK208型式併行期の直口壺が発見され、遺跡の時期的な位置づけが可能となった。検出した遺構はこの須恵器が埋納された性格不明遺構(SX1)のみであったが、古墳時代の甕・壺・高杯・器台・鉢などの土器が出土しており、周辺域に集落がある



第21図 日水遺跡の調査区

ことが想定される。また、古墳時代包含層（V層）のプラントオパール分析（第VI章参照）では、少量イネ科が検出されているが周辺はヨシの繁茂する低湿な環境が推定されている。イネ科の出現率が低いので断定的には言えないが、周辺で農耕を行った可能性もある。

古代における日水遺跡は、出土遺物から9世紀後半代に営まれた遺跡で、検出した遺構から集落縁辺にあたる畑を主体とした生産域と考えられる。9世紀後半の集落は住耕一体型が通常と考えられており〔坂井1999〕、本遺跡を「耕」とした場合、本遺跡の約200m東に位置し平成17（2005）年に発掘調査された日水遺跡第3次調査区（第21図）が「住」になる可能性が高いと考察される。第3次調査区は、出土遺物から本遺跡と同様9世紀後半代が主体であり、掘立柱建物や井戸など集落を構成する遺構が検出されているが、2条一対の東西溝をはじめ溝の走行方向など本遺跡との類似性が高い。第3次調査区は出土遺物から10世紀初頭まで存続すると考えられており、10世紀代には本遺跡から「耕」の場所は変遷したと推察され、今後本調査区周辺の調査において本遺跡に後続する生産域が検出される可能性が高いと考えられる。

本遺跡で検出された畑における自然科学分析において（第VI章）、イネ以外のイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は確認されておらず、逆に古代の包含層である基本土層IV層からはイネやイネの籾殻に由来する植物珪酸体が認められているため、当時の遺跡周辺は稲作地帯が広がっていたものと考察される。

また、調査区中央部の2B-2G・Hグリッドを中心に、鍛冶関連遺物が出土している。周辺は梨畑による攪乱が激しく、遺構はほとんど検出されていないため詳細は不明である。須恵器の甕や瓶の小破片を2次利用した転用砥石が本遺跡から一定量出土しており、簡易な刃研ぎは日常的に行われていたと推察される。しかし、台石や大型の置き砥石などは出土しておらず、本調査区周辺で集落内鍛冶が行われていたかは言及しかねる。

このように、日水遺跡は古墳時代・平安時代ともに集落の縁辺部に当たり、平安時代においては低湿地帯を臨む生産域であったと考察される。

古墳時代の集落は砂丘上が中心と推察されるが、古墳時代中期には低地に遺跡が拡大する傾向が窺えるため、本遺跡の占地する自然堤防上や埋没砂丘上に集落が展開する可能性も高い。

平安時代の集落についても、9世紀後半代は遺跡が激増する時期に当たるため、第3次調査区周辺以外に別集落がある可能性も考察される。平安時代の生産域である畑では、自然科学分析によってイネを主体にアブラナ・ダイコン・ハクサイなどのアブラナ科、ソバなどの植物が栽培されていた可能性が認められている。

注

注1) 例言で上げさせて頂いた多くの研究者にご教示を頂いたが、TK208型式かもしれないが、TK216型式の可能性もあるとの意見と、TK208型式が妥当でTK23型式の可能性もあるとの二者のご意見を頂いた。さらに、器壁の薄さや精緻な胎土などは古い様相の可能性があり、さらにTK73まで遡る可能性もあるとの意見もある。器種類例の過少さという特殊性もあり、結論は下せない。

注2) 砂丘列を扱った論考の中には亀田砂丘前列を新砂丘Iの細分を明確に示されていない〔新潟古砂丘グループ1974、田中ほか1996、鴨井ほか2006〕。砂丘前列に位置する砂崩遺跡〔廣野・酒井2002〕や笹山前遺跡〔廣野1997〕からの縄文時代前期前葉から前半の土器が出土している状況から本稿では〔酒井2000〕に従い新砂丘I-1列に相当すると判断した。さらに、鴨井幸彦氏から新砂丘I-1列相当との御教示を頂いた。

注3) 酒井和男氏所蔵資料による。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相 ―頸城・魚沼流域の土師器を中心として―」『新潟考古』第15号 新潟県考古学会
- 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳』巻町教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ』巻町教育委員会
- 赤羽正春・高橋知之 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第62集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東国遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 朝岡政康^{ほか} 2009 『手代山北遺跡 第2・3次調査 ―市道亀田南建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 朝岡政康^{ほか} 2010 『三王山遺跡Ⅱ第4・7次調査 ―新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭 1983 「六地山遺跡発掘調査の概要」『昭和57年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭^{ほか} 1986 『六地山遺跡 ―1982年発掘調査を中心に―』新潟市教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭^{ほか} 1993 『越後山谷古墳』巻町教育委員会・新潟大学考古学研究室
- 甘粕 健・川村浩司^{ほか} 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ』新潟市教育委員会
- 甘粕 健^{ほか} 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
- イ 飯坂盛泰 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第139集 一般国道17号六日町バイパス発掘調査報告書Ⅰ 余川中道遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡』横越村教育委員会
- 五十嵐太郎 1996 「亀田郷 ―信濃川・阿賀野川の下流低湿地における治水」『第四紀研究』第35巻第3号 日本第四紀学会
- 諫山えりか 2007 『居屋敷遺跡第3次調査 ―県営地盤沈下対策事業新潟南部5期地区沢海揚水機場建設事業に伴う居屋敷遺跡第3次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2009 『中田遺跡第2次調査 ―市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 今井さやか・相沢 央 2007 『日水遺跡第3次調査 ―鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 今井さやか 2008 『下大口遺跡 第2次調査 ―宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- ウ 上野一久・春日真実 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植村敏秀・中村豊次郎・近 武郎・青森泰俊 1978 「蒲原低湿地帯における集落立地 ―亀田郷の場合」『亀田郷』新潟県文化財調査年報第17号 新潟県教育委員会
- エ 江口友子 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第102集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 川根谷内墓所遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡安光彦^{ほか} 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第143集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅶ 六斗蒔遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小熊博史 1996 「新潟平野における旧石器・縄文時代の遺跡の立地とその変遷」『第四紀研究』第35巻第3号 日本第四紀学会
- 尾崎高宏 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第107集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅱ 正尺A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭^{ほか} 1994 『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小村 弼 1959 『亀田町史』亀田町公民館
- カ 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院

- 春日真実^{ほか} 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 加藤 学・尾崎高宏 2002 「阿賀野川河口採集の遺物 - 採集地点をめぐる二、三の問題」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 加藤 学 2008 「阿賀野川河口採集の遺物」『新潟考古』第19号 新潟県考古学会
- 金子拓男編 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 金子拓男 1986 「大化元年における越国の奏上について」『研究集録』第14号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と流路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男 1996 「大化元年「越国奏上」についての検討」『越と古代の北陸』名著出版
- 金子拓男 2007 「沼垂柵地の沼垂「王瀬田地」説への疑問」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 金子拓男^{ほか} 2003 『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』通史編上巻 亀田町
- 亀田町史編さん委員会 1990 『亀田の歴史』資料編 亀田町
- 鴨井幸彦・田中里志・安井賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45巻第2号 日本第四紀学会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1986 『小丸山遺跡緊急発掘調査報告書』横越村教育委員会
- 川上貞雄 1991 「六地山遺跡 - 1985年度の調査」『1989年度埋蔵文化祭発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ん家遺跡緊急発掘調査報告書』横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡I 遺構編』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『荒木前遺跡第2次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事内発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川上貞雄・中山俊道 2002 『笹神村文化財調査報告13 主要地方道新潟五泉間瀬線地方特定道路整備費(改築)工事折居川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 腰廻遺跡』笹神村教育委員会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相 - 関川右岸下流域を中心に -」『上越市史研究』第5号 上越市
- キ 北村 淳・菊池康一郎 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 木村茂光 1996 『ハタケと日本人』中公新書
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編上巻 新津市史編纂委員会
- コ 小池邦明・藤塚明・渡邊朋和 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間圭吉 1995 『小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚明^{ほか} 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明 1999 『山木戸遺跡第2次発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 小島幸雄 1991 『中島廻り遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 小林昌二 1996 「越地域における部民分布の再検討」『越と古代の北陸』名著出版
- 小林昌二編 1996 『越と古代の北陸』名著出版
- サ 酒井和男 1966 「亀田町周辺の遺跡調査について - 第1線砂丘を中心に -」『明窓』第4号 新潟東工業高校生徒会
- 酒井和男^{ほか} 1987 『大江山地区の遺跡』新潟市教育委員会
- 酒井和男 1980 『三王山遺跡』亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000 「第2章 考古資料」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 酒井清治 2004 「須志器生産のはじまり」『国立歴史民俗博物館研究報告』第110号 国立歴史民俗博物館
- 坂井秀弥^{ほか} 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局 新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥^{ほか} 1991 「佐渡の須志器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1999 「第4章 古代 第1節 総論」『新潟県の考古学』高志書院
- 坂上有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- セ 関 雅之^{ほか} 1988 『豊栄市史 資料編 1 考古』 豊栄市
- タ 滝沢規朗 2012 「越後における古墳時代中期の土器編年」『新潟県考古学談話会発表要旨』 新潟県考古学談話会
- 田嶋明人 1986 「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』I 石川県埋蔵文化財センター
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 田中一廣・丹下昌之^{ほか} 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 田中久夫 1978 「蒲原低湿地帯の微地形と表層地質」『亀田郷』新潟県文化財調査年報第 17 新潟県教育委員会
- 田中久夫・長谷川正・木村澄江・岡本郁栄・坂井陽一 1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』第 35 巻第 3 号 日本第四紀学会
- ツ 立木宏明^{ほか} 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子^{ほか} 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人^{ほか} 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ第 15 次調査 - 県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第 8 次発掘調査報告書 -』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2013 「日水遺跡」『平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- テ 寺崎裕助^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 135 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫目遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺村光晴 1960a 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 國學院大学考古学会
- 寺村光晴 1960b 「新潟県西蒲原郡六地山遺跡」『日本考古学年報』9 日本考古学協会
- ト 土橋由理子^{ほか} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 91 集 国道 49 号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 166 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ⅧⅧ 馬見坂遺跡 正尺 A 遺跡 正尺 C 遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子^{ほか} 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 177 集 一般国道 49 号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 城所道下遺跡 武佐衛門裏遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子^{ほか} 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 200 集 一般国道 49 号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 西郷遺跡 大蔵遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 仲川隆夫 1987 「新潟平野の形成史」『地質学雑誌』第 93 巻第 8 号 日本地質学会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『NHK』Vol.3 長岡市立科学博物館友の会
- ニ 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡 - 新潟砂丘の形成史Ⅰ -」『第四紀研究』第 13 巻第 2 号 日本第四紀学会
- 新潟古砂丘グループ 1979 「新潟平野をめぐる地形と地質 - 5 砂丘と平野」『アーバンクボタ』17 久保田鉄工(株)
- 新潟県教育庁文化行政課 1980 『昭和 54 年度新潟県遺跡地図』 新潟県教育委員会
- 「シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会 2005 『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 新潟市 2007 『新潟市の遺跡』新潟市
- 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会 2000 『はたけの考古学』 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会
- ハ 橋本博文 2001 「六日町飯綱山古墳群の調査が提起する二、三の問題」『新潟県考古学会第 13 回大会発表要旨』 新潟県考古学会
- ヒ 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成 7 年度発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 廣野耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』 新潟市教育委員会
- フ 古澤妥史^{ほか} 2004 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 村下遺跡』京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史^{ほか} 2011 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』阿賀野市教育委員会
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課
- ホ 星野信明・石川智紀^{ほか} 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 80 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ (B 地区)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井佳浩^{ほか} 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 211 集 北陸新幹線関係発掘調査報告書ⅩⅥ 一般国道 8 号糸川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅵ 六反田南遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 細井佳浩 2012 「新潟県における古墳時代中・後期の須恵器について（序）」『三面川流域の考古学』第10号 奥三面を考える会
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- マ 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡 縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査』巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2003 『御井戸遺跡Ⅰ - 2002年度確認調査の概要』巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ - 2002年度確認調査の概要』巻町教育委員会
- ミ 水澤幸一 2009 『胎内市埋蔵文化財調査報告第16集 新潟県胎内市天野遺跡3・4次 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書11』胎内市教育委員会
- 南 憲一 2002 「阿賀野川河口の変化について」『新潟史学』第49号 新潟史学会
- 南 憲一ほか 2003 『横越町史 通史編』横越町
- 宮崎泰史ほか 2006 『大阪府立近つ飛鳥博物館図録40 年代のものさし - 陶邑 -』大阪府立近つ飛鳥博物館
- モ 望月精司 2004 「北陸地域における飛鳥時代須恵器の様相 - 飛鳥Ⅰ～Ⅲ期併行の北陸諸窯の様相差を中心として -」『白門考古論叢 稲生典太郎先生追悼考古学論集』中央考古会・中央大学考古学研究会
- ヨ 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉田恵二編 1982 『緒立八幡神社遺跡』黒埼町教育委員会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書 - 平成5年度範囲確認調査 -』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書 - 第11・12・13・14次調査』新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1991 『荒木前遺跡』亀田町教育委員会
- 渡邊ますみ 1998 「第2章 原始・古代 - 御立遺跡 -」『黒埼町史資料編1 原始・古代・中世』黒埼町
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首遺跡 第3・4次調査 - 大型小売店舗建設に伴う駒首遺跡第3・4次発掘調査報告書 -』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・池田ひろ子 2009 『上大川遺跡 第2次調査 - 市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次調査報告書 -』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第2次調査 - (仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書』新潟市教育委員会

第Ⅵ章 自然科学分析参考文献

(第1節)

- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定 - 古環境推定の基礎資料として -」『考古学と自然科学』19 p.69-84.
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体 (プラント・オパール)」『考古学と植物学』同成社 p.189-213.
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法 -」『考古学と自然科学』9 p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -」『考古学と自然科学』17 p.73-85.

(第2節)

- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262.
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- 中村 純 1967 『花粉分析』古今書院 p.82-102.
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193.
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』10 p.21-30.
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91

別表 1 遺構計測表

- 凡例 1. 観察表の記載順は遺構の種類ごと、番号順であり、あわせて分割図版 No.・個別図版 No.・写真図版 No. を明記し、索引としての役割をもたせてある。
 2. 遺構の分類及び項目・切り合い関係等は、本文第4章の記述に対応する。
 3. 規模の() 内数値は残存部の確認長である。
 4. 重複関係の表示は、>…切る・<…切られる・=…不明。

分割図版 No.	個別図版 No.	写真図版 No.	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		覆土	堆積状況	重複関係	遺物図版頁	出土遺物	備考	
								上端		下端			深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸										
	8	9	SX 1	1C-8A1・2	古墳時代	V層下面	N-93°-E	0.44	(0.22)	0.24	(0.19)	0.16	0.73	楕円形	半円状	1	単層	<SD2	33	古墳時代須恵器直口壺 (1)	
10・11	17	11	SD 2	1B-9J20・25, 10J5・9・10・14, 1C-7A21, 8A1・6・11・12・16・17・21・22, 9A1・2・6・11・16・21	古代	V層上面	N-3°-W ~ N-19°~26°-E	(24.48)	0.52	(24.48)	0.34	0.24	0.79	-	台形状	5	ブロック状	>SX1, SD5・9・13・29, Pit53 =Pit47	36・42・44	古墳時代土師器壺 (51)・須恵器無台杯 (52・53)・有台杯 (54)・甕 (55・56)・土師器小甕 (57・58)・甍石 (8)・羽口 (6)・軽石製石製品 (21・22)・古墳時代土師器小片・土師器無台杯小片・土師器長甕小片	
10・11	17	11	SD 3	1B-8J5・10・15・20・25, 9J5・10・15・19・20・24・25, 10J4・8・9・13・14・18, 1C-8A1・6・11・16・21, 9A1・6・11	古代	V層上面	N-5°-W ~ N-13°~21°-E	(25.60)	0.49	(25.60)	0.20	0.35	0.68	-	U字状	8	レンズ状	>SD9, SX37, Pit66	36・42・44	古墳時代土師器鉢 (35)・須恵器杯蓋 (36)・無台杯 (37~40)・短頸壺 (41)・甕 (42・43)・土師器長甕 (44)・小甕 (45~49)・鉢 (50)・砥石 (3)・甍石 (4・5)・磨石 (6)・軽石製石製品 (7)・棒状鉄製品 (14)・古墳時代土師器小片・土師器無台杯小片	
10	19	15	SK 4	1C-7A23	古代	V層上面	N-88°-W	0.67	0.65	0.40	0.32	0.15	0.75	円形	弧状	6	ブロック状		36	古墳時代土師器壺 (69)・土師器鍋小片	
10	17	11・12	SD 5	1C-8A16 ~ 20・22・23	古代	V層上面	N-85°-E	8.36	0.70	8.24	0.28	0.60	0.30	-	台形状	11	レンズ状	>SK10 ~ 12 <SD2, SX6	36・43・44	須恵器長頸壺 (60)・土師器無台杯 (61)・長甕 (62)・砥石 (9)・古墳時代土師器小片・壺小片・高杯小片・土師器鍋小片	
10	26	16・23	SX 6	1C-8A15・20・25, 8B6・11・12・16・17・21	近世以降	I層下面	-	(5.40)	(2.48)	(5.12)	(2.26)	0.28	0.72	長方形	台形状	8	水平	>SD5・13・18, SK7・11, Pit20・21			
10	19	16	SK 7	1C-8A15・20	古代	V層上面	N-60°-W	1.20	0.96	0.76	0.26	0.49	0.48	楕円形	台形状	5	ブロック状	>SD18 <SX6	37・43	須恵器無台杯 (72)・土師器長甕 (73)・軽石製石製品 (11)・土師器無台杯小片	
10	19	16	SK 8	1C-8A13	古代	V層上面	N-0°	1.13	0.78	0.79	0.34	0.64	0.44	楕円形	台形状	13	ブロック状	>SD13	37	珠洲焼壺 R種 (71)・土師器無台杯小片	
10	17	12	SD 9	1B-9J20, 1C-9A16・17	古代	V層上面	N-80°-W	(4.16)	0.39	(4.16)	0.26	0.19	0.83	-	弧状	4	レンズ状	>SD29, Pit66 <SD2・3	36	須恵器壺 (63)・土師器無台杯 (64)・長甕 (65)・古墳時代土師器小片・土師器小甕小片・鉢小片	
10	20	17	SK 10	1C-8A17	古代	V層上面	N-2°-W	0.94	0.65	0.67	0.26	0.42	0.78	楕円形	台形状	6	ブロック状	<SD5		土師器無台杯小片	
10	20	12・17	SK 11	1C-8A19・20・25	古代	V層上面	-	0.54	0.38	0.38	0.24	0.22	0.76	楕円形	弧状	4	レンズ状	<SD5, SX6			
10	20	12・17	SK 12	1C-8A19・20	古代	V層上面	N-77°-E	0.66	(0.30)	0.28	(0.20)	0.18	0.82	円形	台形状	2	レンズ状	>SK32 <SD5			
10	17	11・12	SD 13	1C-8A11 ~ 17, 8B11・12	古代	V層上面	N-85°-E	(11.76)	0.58	(11.70)	0.34	0.20	0.76	-	弧状	6	レンズブロック	>Pit19・20 <SD2, SK8・17, SX6	36	土師器無台杯 (59)・土師器長甕小片	
10	27	24	SX 14	1C-8A24・25, 9A4・5	古代	V層上面	N-89°-E	1.79	1.36	1.52	1.07	0.22	0.82	楕円形	台形状	6	ブロック状	>Pit26			
10	19	15	SK 15	1C-8A7・8・12・13	古代	V層上面	N-3°-E	1.11	0.92	0.72	0.22	0.64	0.37	楕円形	台形状	7	レンズブロック		36	須恵器長頸壺 (70)・古墳時代土師器小片・土師器長甕小片	
10	19	15	SK 17	1C-8A12・17	古代	V層上面	N-18°-W	1.14	0.69	0.85	0.34	0.33	0.68	楕円形	台形状	7	ブロック状	>SD13		土師器無台杯小片	
10	26	23	SD 18	1C-8A20, 8B16	古代	V層上面	N-85°-W	(2.28)	0.44	(2.38)	0.36	0.12	0.50	-	弧状	1	単層	>Pit21 <SK7, SX6		古墳時代土師器小片	
10	29	-	Pit 19	1C-8A15	古代	V層上面	N-77°-E	0.28	0.27	0.14	0.15	0.11	0.76	円形	弧状	1	単層	<SD13			
10	29	-	Pit 20	1C-8B11	古代	V層上面	N-90°-E	0.36	0.27	0.28	0.19	0.07	0.69	楕円形	弧状	1	単層	<SX6, SD13			
10	29	-	Pit 21	1C-8B16	古代	V層上面	N-87°-W	0.35	(0.22)	0.28	(0.11)	0.04	0.64	楕円形	弧状	1	単層	<SX6, SD18		土師器無台杯小片	
10	29	26	Pit 23	1C-9A3	古代	V層上面	N-33°-W	0.51	0.49	0.27	0.20	0.38	0.62	円形	U字状	8	ブロック状			建物柱穴カ	
10	29	26	Pit 24	1C-9A7	古代	V層上面	N-3°-E	0.32	0.28	0.26	0.13	0.40	0.61	円形	U字状	7	ブロック状			土師器長甕小片	
10	29	26	Pit 25	1C-9A8	古代	V層上面	N-17°-W	0.24	0.23	0.08	0.07	0.33	0.64	隅丸方形	U字状	1	単層			建物柱穴カ	
10	29	-	Pit 26	1C-8A24・25	古代	V層上面	N-11°-E	0.38	0.33	0.23	0.14	0.11	0.89	円形	台形状	1	単層	<SX14		土師器無台杯小片	
10	26	23	SX 27	1C-8A2・7	古代	V層上面	N-0°-E	0.96	0.56	0.81	0.46	0.11	0.76	長楕円形	弧状	5	ブロック状				
10	20	17・18	SK 28	1C-9A7	古代	V層上面	N-36°-E	0.59	0.34	0.37	0.18	0.18	0.81	長楕円形	弧状	5	レンズブロック				
10	17	12	SD 29	1C-9A16・17・21・22	古代	V層上面	N-75°-E ~ N-72°-W	(2.47)	0.52	(2.43)	0.22	0.22	0.74	-	台形状	8	ブロック状	<SD2・9	36	土師器鍋 (66)	
10	20	17	SK 30	1C-9A4・9	古代	V層上面	N-60°-W	(0.38)	0.57	(0.30)	(0.45)	0.11	0.91	円形	弧状	4	ブロック状	>SK31			
10	20	17	SK 31	1C-9A4	古代	V層上面	N-55°-W	(0.26)	(0.32)	(0.20)	(0.24)	0.16	0.87	円形	弧状	3	レンズ状	<SK30			
10	20	17	SK 32	1C-8A19・20	古代	V層上面	N-7°-W	(0.34)	0.43	(0.27)	0.31	0.17	0.84	円形	台形状	3	ブロック状	<SK12			
10	29	-	Pit 33	1C-9A2・7	古代	V層上面	N-86°-E	0.30	0.26	0.17	0.12	0.07	0.95	円形	弧状	1	単層				
10	29	-	Pit 34	1C-9A7	古代	V層上面	-	0.33	0.29	0.15	0.12	0.16	0.83	円形	台形状	1	単層				
10	29	-	Pit 35	1C-8A22	古代	V層上面	-	0.28	0.24	0.13	0.09	0.44	0.57	円形	U字状	1	単層			建物柱穴カ	
10	19	15	SK 36	1C-8A7・12	古代	V層上面	N-3°-W	0.98	0.52	0.80	0.31	0.62	0.40	長楕円形	台形状	15	ブロック状		43	甍石 (10)・土師器無台杯小片	
10	27	24	SX 37	1B-8J25, 9J5, 1C-8A21, 9A1	古代	V層上面	N-2°-W	1.64	1.18	1.36	0.92	0.27	0.76	楕円形	台形状	7	ブロック状	<SD3	38・44	須恵器無台杯 (119)・甕 (120)・土師器小甕 (121・122)・土製円盤 (1)・須恵器杯蓋小片・土師器無台杯小片・長甕小片・鍋小片	
10	29	-	Pit 38	1C-9A7	古代	V層上面	N-85°-E	0.18	0.16	0.04	0.03	0.11	0.82	円形	V字状	1	単層				
10	29	-	Pit 39	1C-9A8	古代	V層上面	N-87°-E	0.22	0.15	0.12	0.06	0.08	0.91	円形	弧状	1	単層				
10	27	23	SX 40	1B-8J18・19・24	古代	V層上面	N-36°~91°~35°-W	(3.34)	0.16	(3.20)	0.07	0.21	0.86	-	U字状	1	単層				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 座標 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	遺物 図版 頁	出土遺物	備考
								上 端		下 端		深度		平 面	断面						
								長軸	短軸	長軸	短軸										
10	29	25	Pit	41	1B-8J24, 9J4	古代	V層上面	—	0.48	0.43	0.38	0.26	0.19	0.82	円形	台形状	2	レンズ状			
11	20	18	SK	42	1B10J21・J22	古代	V層上面	N-69°-E	1.67	0.55	1.47	0.41	0.16	0.87	長楕円形	台形状	4	ブロック状			
10	29	—	Pit	43	1B-9I15, 9J11・16	古代	V層上面	—	0.28	0.27	0.20	0.19	0.19	0.83	円形	台形状	1	単層			土師器長囊小片
10	30	—	Pit	44	1B-9J16	古代	V層上面	—	0.14	0.13	0.07	0.06	0.21	0.72	円形	U字状	1	単層			
10	30	—	Pit	45	1B-10J10	古代	V層上面	N-48°-W	0.36	0.18	0.17	0.16	0.19	0.84	楕円形	弧状	1	単層			
10	30	—	Pit	46	1B-10J5・10	古代	V層上面	N-12°-E	0.39	0.16	0.24	0.07	0.22	0.77	楕円形	半円状	1	単層	>Pit47		
10	30	—	Pit	47	1B-10J5	古代	V層上面	N-42°-E	(0.14)	(0.14)	(0.12)	(0.10)	0.08	0.92	楕円形	弧状	1	単層	<Pit46 =SD2		
11	30	—	Pit	48	1B-10I9	古代	V層上面	N-44°-E	0.29	0.23	0.18	0.12	0.30	0.79	楕円形	U字状	1	単層			
11	30	—	Pit	49	1B-10I4	古代	V層上面	N-89°-W	0.24	0.21	0.14	0.12	0.24	0.84	円形	U字状	1	単層			
11	30	—	Pit	50	1B-10I13	古代	V層上面	—	0.32	0.32	0.26	0.19	0.23	0.83	円形	箱状	1	単層			土師器小囊小片
11	30	—	Pit	51	1B-10I15	古代	V層上面	—	0.31	0.31	0.19	0.15	0.31	0.76	円形	U字状	1	単層			
10	30	—	Pit	52	1C-9A13	古代	V層上面	N-45°-W	0.50	0.28	0.29	0.19	0.12	0.83	楕円形	弧状	1	単層	>SK57		
10	29	—	Pit	53	1C-9A2	古代	V層上面	N-90°-E	0.24	(0.12)	0.14	0.07	0.12	0.88	楕円形	半円状	1	単層	<SD2		
11	18	13	SD	54	1B-10I25, 2B-1I5・10, 1J6	古代	V層上面	N-24°-E	(4.22)	0.26	(4.08)	0.14	0.08	0.98	—	弧状	1	単層	>SD55		
11	18	13・14	SD	55	2B-1H9・10・12～14, 1I6 ～10, 1J6	古代	V層上面	N-83～37～87° -E	(10.08)	0.76	(10.08)	0.16	0.27	0.88	—	台形状	6	ブロック状	>SD81, SK82 <SD54	36	土師器無台碗(67)、珠洲焼壺R種(68)、軽石製石製品(23)、古墳時代土師器囊小片、須恵器短頸壺小片、土師器無台碗小片・長囊小片・小囊小片
10	29	—	Pit	56	1C-8A7	古代	V層上面	N-90°-E	0.24	0.12	0.16	0.14	0.14	0.87	円形	台形状	1	単層			
10	20	18	SK	57	1C-9A12・13・17・18	古代	V層上面	N-47°-W	1.28	(0.57)	0.52	(0.21)	0.32	0.61	円形	階段状	8	レンズブロック	<Pit52		古墳時代土師器囊小片、土師器小囊小片
11	30	—	Pit	58	2B-1I9	古代	V層上面	N-84°-W	0.20	(0.14)	0.13	0.12	0.08	0.92	円形	半円状	1	単層	>SD59		
11	18	14	SD	59	2B-1I7～9	古代	V層上面	N-87°-E	(4.42)	0.40	(4.28)	0.14	0.14	0.90	—	台形状	3	レンズブロック	<Pit58		古墳時代土師器囊小片、土師器無台碗小片・鍋小片
11	30	—	Pit	60	1B-10I3	古代	V層上面	—	0.25	0.24	0.14	0.13	0.09	1.03	円形	台形状	1	単層			
11	30	—	Pit	61	1B-10I3	古代	V層上面	N-29°-E	0.22	0.20	0.12	0.09	0.10	1.09	円形	台形状	1	単層			
11	17	12	SD	62	1B-10I11～13・17～19・ 24・25, 10J21, 2B-1I5, 1J1・2	古代	V層上面	N-60°-W	(12.76)	0.80	(12.76)	0.40	0.24	0.84	—	弧状	6	ブロック状	<SK84		古墳時代土師器囊小片、須恵器無台杯小片、土師器無台碗小片
11	30	—	Pit	63	1B-10I7	古代	V層上面	N-52°-W	0.21	0.19	0.10	0.09	0.14	0.97	円形	台形状	1	単層			
11	30	—	Pit	64	2B-1I7	古代	V層上面	N-49°-E	0.20	0.20	0.09	0.09	0.14	0.90	円形	U字状	1	単層			
11	30	—	Pit	65	2B-1I8	古代	V層上面	—	0.26	0.24	0.15	0.12	0.11	0.98	円形	台形状	1	単層			
10	30	—	Pit	66	1B-9J20	古代	V層上面	—	0.16	0.07	0.09	0.03	0.10	0.87	楕円形	台形状	1	単層	<SD3・9		
10	30	—	Pit	67	1C-9A21	古代	V層上面	N-43°-E	0.27	0.11	0.14	0.14	0.15	0.82	楕円形	U字状	1	単層			
10	29	—	Pit	68	1C-9A12	古代	V層上面	N-3°-E	0.24	0.18	0.14	0.14	0.22	0.77	円形	U字状	1	単層			
10	29	—	Pit	69	1C-9A12	古代	V層上面	N-5°-W	0.40	0.37	0.30	0.22	0.14	0.86	円形	台形状	1	単層			土師器長囊小片
10	29	—	Pit	70	1C-9A12	古代	V層上面	N-77°-W	0.20	0.18	0.12	0.09	0.14	0.85	円形	U字状	1	単層			
10	29	—	Pit	71	1C-9A7	古代	V層上面	N-82°-W	0.18	0.18	0.09	0.07	0.17	0.81	円形	U字状	1	単層			
10	29	25	Pit	72	1C-8A23, 9A3	古代	V層上面	N-80°-E	0.32	0.31	0.09	0.09	0.35	0.66	円形	U字状	8	ブロック状			建物柱穴カ
10	29	—	Pit	73	1C-8A23	古代	V層上面	N-11°-E	0.22	0.22	0.07	0.06	0.21	0.81	円形	台形状	1	単層			
10	29	—	Pit	74	1C-8A18	古代	V層上面	N-67°-E	0.20	0.16	0.03	0.03	0.19	0.70	円形	U字状	1	単層			
11	31	—	Pit	75	2B-1I13	古代	V層上面	N-60°-E	0.20	0.19	0.11	0.08	0.07	0.90	円形	台形状	1	単層			土師器無台碗(126)、古墳時代土師器囊小片
11	31	—	Pit	76	2B-1H18	古代	V層上面	N-62°-W	0.21	0.21	0.07	0.07	0.12	0.84	円形	U字状	1	単層			
11	31	26	Pit	77	2B-1H19・24	古代	V層上面	N-17°-W	0.44	0.37	0.29	0.19	0.21	0.78	円形	台形状	4	レンズ状			土師器小囊小片
11	31	—	Pit	78	2B-1H24	古代	V層上面	N-61°-E	0.18	0.17	0.08	0.08	0.11	0.88	円形	台形状	1	単層			
12	31	—	Pit	79	2B-2H3	古代	V層上面	N-80°-W	0.35	0.33	0.25	0.17	0.12	0.85	円形	弧状	1	単層			
11	18	13	SD	81	2B-1H8～10	古代	V層上面	N-82°-E	5.22	0.20	5.22	0.10	0.16	0.92	—	半円状	2	水平	<SD55		古墳時代土師器囊小片、土師器無台碗小片
11	20	13・18	SK	82	2B-1H10	古代	V層上面	N-90°-E	0.62	(0.26)	0.49	(0.20)	0.08	0.92	楕円形	弧状	2	ブロック状	<SD55		古墳時代土師器囊小片
12	27	24	SX	83	2B-1H21・22	古代	V層上面	N-64°-E	1.56	0.69	0.41	0.40	0.49	0.48	長楕円形	階段状	9	ブロック状		38	古墳時代土師器囊(123)
11	20	18	SK	84	1B-10I11	古代	V層上面	N-75°-E	(0.46)	(0.35)	(0.39)	(0.25)	0.19	0.85	楕円形	弧状	3	ブロック状	>SD62		土師器長囊小片
11	30	—	Pit	85	1B-10I8・13	古代	V層上面	N-56°-E	0.42	(0.32)	0.31	(0.25)	0.07	0.99	楕円形	弧状	1	単層			
11・12	18	13	SD	86	2B-1G20・25, 1H3・4・7・ 8・11・12・16・21	古代	V層上面	N-39°-E	(11.00)	0.39	(10.92)	0.27	0.13	0.92	—	弧状	2	レンズ状	<SD55		軽石製石製品(24)、古墳時代土師器囊小片、土師器長囊小片
11	30	—	Pit	87	1B-10I19・20	古代	V層上面	N-32°-W	0.32	0.24	0.26	0.21	0.19	0.90	楕円形	台形状	1	単層			
11	30	—	Pit	88	2B-1I13	古代	V層上面	N-0°-E	0.20	0.18	0.10	0.07	0.12	0.96	楕円形	U字状	1	単層			
11・12	31	—	Pit	89	2B-2H10	古代	V層上面	N-64°-E	0.33	0.29	0.22	0.19	0.11	0.24	円形	台形状	1	単層		38	土師器鍋(128)
11	30	—	Pit	90	2B-1H12	古代	V層上面	N-5°-E	0.22	0.18	0.12	0.12	0.11	0.88	円形	弧状	1	単層			
11	30	—	Pit	91	2B-1H12	古代	V層上面	N-35°-E	0.22	0.19	0.09	0.09	0.10	0.89	円形	台形状	1	単層			
11	30	—	Pit	92	2B-1H13・18	古代	V層上面	N-5°-E	0.27	0.24	0.19	0.18	0.06	0.89	円形	弧状	1	単層			
11・12	31	—	Pit	93	2B-1H18	古代	V層上面	—	0.15	0.15	0.06	0.04	0.11	0.85	円形	U字状	1	単層			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 座標 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	遺物 図版 頁	出土遺物	備考				
								上 端		下 端			深度	平 面							断 面			
								長軸	短軸	長軸	短軸													
12	31	—	Pit	94	2B-1H17	古代	V層上面	N-55°-E	0.26	0.24	0.13	0.13	0.24	0.73	円形	U字状	1	単層		38	須恵器無台杯 (127)、土師器長囊小片			
11	30	—	Pit	95	2B-1H15	古代	V層上面	—	0.27	0.25	0.19	0.17	0.13	0.94	円形	台形状	1	単層						
12	31	—	Pit	96	2B-2G5	古代	V層上面	N-43°-W	0.26	0.25	0.10	0.09	0.12	0.82	隅丸方形	弧状	1	単層						
12	31	—	Pit	97	2B-2G5	古代	V層上面	N-8°-W	0.25	0.24	0.12	0.12	0.16	0.79	円形	U字状	1	単層						
11・12	31	—	Pit	98	2B-1H18・23・24	古代	V層上面	N-37°-W	0.20	0.26	0.12	0.14	0.20	0.76	円形	U字状	1	単層						
11・12	31	—	Pit	99	2B-1H18	古代	V層上面	N-10°-W	0.21	0.18	0.09	0.08	0.11	0.85	円形	台形状	1	単層						
11	31	—	Pit	100	2B-1H18	古代	V層上面	N-32°-W	0.20	0.18	0.10	0.08	0.08	0.80	円形	弧状	1	単層						
11	30	—	Pit	101	2B-1H14・19	古代	V層上面	N-82°-E	0.25	0.22	0.12	0.12	0.08	0.92	円形	弧状	1	単層					土師器小囊小片	
11	31	—	Pit	102	2B-1H20	古代	V層上面	N-15°-W	0.18	0.18	0.12	0.12	0.22	0.82	円形	U字状	1	単層						
11	31	—	Pit	103	2B-2I1・2	古代	V層上面	N-12°-E	0.18	0.16	0.05	0.04	0.14	0.96	隅丸方形	U字状	1	単層						
11・12	31	—	Pit	104	2B-2H5	古代	V層上面	—	0.30	0.28	0.15	0.12	0.16	0.88	隅丸方形	半円状	1	単層			44	鉄滓 (22)		
11・12	31	—	Pit	105	2B-2H5	古代	V層上面	N-11°-W	0.32	0.24	0.15	0.12	0.14	0.92	楕円形	台形状	1	単層					土師器長囊小片	
12	31	—	Pit	106	2B-2H8	古代	V層上面	N-38°-E	0.40	0.36	0.32	0.28	0.12	0.86	円形	台形状	1	単層						
13	27	24	SX	107	2B-4F7・8・11～13・16・17・21	古代	V層上面	N-48°-E	5.84	1.22	5.61	1.03	0.16	0.86	長楕円形	弧状	4	ブロック状	>Pit111				土師器長囊小片	
13	31	—	Pit	108	2B-4F13	古代	V層上面	—	0.22	0.20	0.14	0.14	0.10	0.98	円形	半円状	1	単層						
13	31	—	Pit	109	2B-4F17	古代	V層上面	N-74°-W	0.20	0.18	0.12	0.10	0.12	0.96	円形	箱状	1	単層						
13	31	—	Pit	110	2B-4F21	古代	V層上面	N-40°-W	0.20	0.18	0.08	0.08	0.10	0.86	隅丸方形	U字状	1	単層						
13	31	—	Pit	111	2B-4F16	古代	V層上面	N-53°-W	0.45	0.36	0.30	0.20	0.12	1.02	楕円形	弧状	4	ブロック状	<SX107					
13・14	23	20	SN	112	2B-4E18・19・22～24, 5E1～4・6～8・11・12	古代	V層上面	—	8.04	(4.56)	7.84	(4.42)	0.28	0.92	—	—	IV		>Pit200・201 <SN129 Pit178・180・181	37	須恵器無台杯 (81・85～90)、土師器長囊 (82・92)・無台碗 (83・84)・無台皿 (91)・鍋 (93)、土師器無台碗小片			
13・14	23	20	SD	113	2B-4E23・24, 5E4	古代	V層上面	N-28°-W	(4.20)	0.32	(4.16)	0.16	0.20	0.90	—	台形状	3	レンズ状					SN112	
13・14	23	20	SD	114	2B-4E23, 5E3	古代	V層上面	N-28°-W	(3.52)	0.28	(3.42)	0.20	0.09	0.88	—	弧状	3	レンズ状	>Pit201				SN112	
13・14	23	20	SD	115	2B-4E22, 5E2・3・8	古代	V層上面	N-28°-W	(3.48)	0.40	(3.38)	0.28	0.09	0.88	—	弧状	3	レンズ状		37	須恵器無台杯 (81)、土師器長囊 (82)、須恵器長頸壺小片		SN112	
13・14	23	20	SD	116	2B-5E1・2・7・8	古代	V層上面	N-27°-W	(3.84)	0.48	(3.80)	0.24	0.21	0.84	—	半円状	3	レンズ状		37	土師器無台碗 (83・84)		SN112	
13・14	23	20	SD	117	2B-5E1・6・7・11・12	古代	V層上面	N-29°-W	(3.56)	0.38	(3.52)	0.22	0.22	0.87	—	台形状	3	レンズ状					SN112	
14	23	20	SD	118	2B-5E6・11・12	古代	V層上面	N-28°-W	(2.32)	0.20	(2.28)	0.12	0.17	0.91	—	台形状	3	レンズ状					SN112	
14	24	21	SD	119	2B-5D10・15, 5E11	古代	V層上面	N-34°-W	(2.52)	0.24	(2.48)	0.16	0.22	0.88	—	U字状	3	水平					SN129	
14	24	21	SD	120	2B-5D10・15・20, 5E11・16	古代	V層上面	N-35°-W	(2.92)	0.36	(2.84)	0.20	0.12	0.88	—	半円状	3	水平			37	土師器鍋 (94)		SN129
14	24	21	SD	121	2B-5D15・20	古代	V層上面	N-35°-W	(2.74)	0.16	(2.72)	0.12	0.12	0.90	—	半円状	3	水平					SN129	
14	24	21	SD	122	2B-5D14・15・19・20	古代	V層上面	N-46～22°-W	(2.80)	0.38	(2.76)	0.24	0.13	0.84	—	台形状	3	レンズ状					SN129	
14	24	21	SD	123	2B-5D14・19・20	古代	V層上面	N-30°-W	(2.44)	0.24	(2.38)	0.12	0.13	0.88	—	台形状	3	レンズ状					SN129	
14	24	21	SD	124	2B-5D13・14・19	古代	V層上面	N-31°-W	(2.88)	0.32	(2.80)	0.18	0.17	0.88	—	U字状	3	レンズ状					SN129	
14・15	24	21	SD	125	2B-5D13・18・19	古代	V層上面	N-32°-W	(2.60)	0.22	(2.52)	0.08	0.12	0.84	—	台形状	3	水平					SN129	
14・15	24	21	SD	126	2B-5D18・19・23・24	古代	V層上面	N-32°-W	(2.56)	0.28	(2.52)	0.14	0.16	0.86	—	U字状	3	水平					SN129	
14・15	24	21	SD	127	2B-5D18・23	古代	V層上面	N-25°-W	(2.23)	0.16	(2.28)	0.08	0.13	0.89	—	U字状	3	レンズ状					SN129	
14・15	24	21	SD	128	2B-5D17・18・23	古代	V層上面	N-30°-W	(2.32)	0.36	(2.26)	0.16	0.13	0.88	—	U字状	3	水平					SN129	
14・15	24	21	SN	129	2B-5D9・10・13～15・17～20・22～24, 5E6・11・16	古代	V層上面	—	8.04	(3.24)	7.72	(3.00)	0.27	0.84	—	—	IV	水平	>SN112, Pit178・179	37・38	須恵器長頸壺 (95)、土師器無台碗 (96～99)・小囊 (100～102)・長囊 (103～106)・鍋 (94・107)、軽石製石製品 (25)、須恵器長小片			
13～15	21	19	SN	130	2B-4C25, 4D5・9・10・12～24, 4E1・2・6・7・11・12・16, 5C4・5・9・10・15, 5D1～4・6・7・11	古代	V層上面	—	17.58	(5.58)	—	—	0.28	0.90	—	—	IV	水平	>SN209, Pit213 <SX177	37	須恵器横瓶 (76)・大甕 (77)・無台杯 (78)、土師器無台碗 (74・79)・鍋 (75)・小囊 (80)			
14・15	21	19	SD	131	2B-5C4・5・10・15, 5D6・11	古代	V層上面	N-43°-W	(3.32)	0.24	(3.24)	0.16	0.08	0.70	—	弧状	3	レンズ状					SN130	
14・15	21	19	SD	132	2B-5C5・10, 5D1・6	古代	V層上面	N-42°-W	(3.24)	0.32	(3.21)	0.28	0.04	0.82	—	弧状	3	レンズ状					SN130	
14・15	21	19	SD	133	2B-4C25, 4D21, 5C5, 5D1・2・6・7	古代	V層上面	N-41°-W	(4.46)	0.26	(4.40)	0.12	0.14	0.68	—	箱状	3	レンズ状					SN130	
14・15	21	19	SD	134	2B-4D21, 5D1・2	古代	V層上面	N-43°-W	3.60	0.24	3.44	0.12	0.06	0.76	—	弧状	3	レンズ状					SN130	
14	21	19	SD	135	2B-4D17・22・23, 5D3	古代	V層上面	N-43°-W	(4.94)	0.32	(4.88)	0.24	0.08	0.80	—	台形状	3	レンズ状					SN130	
14	21	19	SD	136	2B-4D12・17・18・23・24	古代	V層上面	N-42°-W	(4.88)	0.24	(4.82)	0.16	0.10	0.80	—	半円状	3	レンズ状		37	土師器無台碗 (74)		SN130	
14	21	19	SD	137	2B-4D13・18・19・24	古代	V層上面	N-44°-W	(4.68)	0.28	(4.64)	0.16	0.11	0.80	—	台形状	3	レンズ状					SN130	
14	22	19	SD	138	2B-4D13・14・19	古代	V層上面	N-43°-W	(3.30)	0.28	(3.24)	0.16	0.08	0.80	—	半円状	5	水平	<SN130SD139				SN209	
13・14	21	19	SD	139	2B-4D13・14・19・20	古代	V層上面	N-42°-W	(4.04)	0.32	(3.96)	0.16	0.08	0.82	—	弧状	3	レンズ状	>SN209SD138	37	土師器鍋 (75)		SN130	
13・14	21	19	SD	140	2B-4D9・14・15・20	古代	V層上面	N-42°-W	(4.12)	0.36	(4.02)	0.24	0.11	0.83	—	弧状	3	レンズ状					SN130	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 座標 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	遺物 図版 頁	出土遺物	備考	
								上 端		下 端			深度	平 面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸										
13・14	21	19	SD 141	2B-4D9・10・15, 4E11・16	古代	V層上面	N-44°-W	(3.98)	0.28	(3.88)	0.20	0.19	0.80	-	U字状	3	レンズ状	>SN209SD203	37	須恵器横瓶 (76)・甕小片、土師器無台碗小片	SN130
13・14	21	19	SD 142	2B-4D10・15, 4E11	古代	V層上面	N-39°-W	(3.84)	0.28	(3.76)	0.16	0.09	0.91	-	弧状	3	水平				SN130
13・14	21	19	SD 143	2B-4D5・10, 4E1・6・11・12	古代	V層上面	N-41°-W	(3.96)	0.24	(3.94)	0.16	0.10	0.86	-	半円状	3	水平	>SN209SD206			SN130
13・14	21	19	SD 144	2B-4E1・6・7・12	古代	V層上面	N-45°-W	(3.64)	0.36	(3.50)	0.22	0.08	0.84	-	台形状	3	レンズ状	>SN209SD207, Pit213	37	須恵器甕 (77)・土師器無台碗小片	SN130
13・14	21	19	SD 145	2B-4E1・2・6・8・12・13	古代	V層上面	N-40°-W	(4.04)	0.42	(3.96)	0.16	0.11	0.84	-	台形状	3	水平			土師器無台碗小片	SN130
13・14	21	19	SD 146	2B-4E1・2	古代	V層上面	N-41°-W	(1.08)	0.28	(1.04)	0.14	0.08	0.86	-	半円状	3	水平				SN130
14・15	28	14・25	SX 147	2B-5C15・20, 5D11・16・17・21・22, 6D2	近世	II層下面	N-47°-W	(6.56)	1.08	(6.46)	0.92	0.13	0.84	-	弧状	4	水平	>SD149, SN150			
14・15	18	14	SD 148	2B-5C20・25, 5D16・21・22, 6D1・2	古代	V層上面	N-45°-W	(4.96)	0.64	(4.80)	0.48	0.10	0.88	-	弧状	1	単層	>SD149, SK198, SN150, Pit210～212			
14・15	18	14	SD 149	2B-5C15・20・24・25, 5D11・16, 6C3・4・8・9	古代	V層上面	N-38°-E	(9.96)	0.48	(9.96)	0.36	0.10	0.84	-	弧状	2	レンズ状	>SD153・157, 183, SN150, <SD148, SX147		土師器無台碗小片・鍋小片	
14・15	25	22	SN 150	2B-5C8・9・13～15・17～25, 6B10・14・15, 6C1～4・6～8・11・12	古代	V層上面	-	14.76	(4.88)	14.40	(4.72)	0.26	0.91	-	-	IV	-	<SD149・183, Pit186・192～196	38・44	須恵器甕 (111～113)・土師器小甕 (108・116・117)・無台碗 (109・114・115)・鍋 (110・118)・長甕小片、転用砥石 (2・3)	
14・15	25	22	SD 151	2B-5C8・9・13～15・19・20	古代	V層上面	N-48°-W	(4.78)	0.28	(4.72)	0.13	0.08	0.72	-	弧状	3	レンズ状	<SD148, 近世地業盛土		土師器鍋小片	SN150
14・15	25	22	SD 152	2B-5C13	古代	V層上面	N-51°-W	(0.28)	0.16	(0.12)	0.06	0.08	0.70	-	弧状	-	レンズ状	<近世地業盛土			SN150
14・15	25	22	SD 153	2B-5C13・14・19・20・24・25	古代	V層上面	N-44°-W	(4.44)	0.34	(4.44)	0.18	0.10	0.76	-	弧状	3	レンズ状	<SD149, 近世地業盛土		土師器鍋小片	SN150
14・15	25	22	SD 154	2B-5C13・18・19	古代	V層上面	N-46°-W	1.84	0.16	1.72	0.08	0.08	0.80	-	U字状	3	レンズ状				SN150
14・15	25	22	SD 155	2B-5C13・18・19・24	古代	V層上面	N-44°-W	(4.16)	0.28	(4.08)	0.16	0.08	0.76	-	台形状	3	レンズ状	<近世地業盛土			SN150
14・15	25	22	SD 156	2B-5C17・18	古代	V層上面	N-50°-W	(2.04)	0.28	(1.96)	0.14	0.05	0.80	-	弧状	3	レンズ状	<近世地業盛土	38	土師器小甕 (108)	SN150
14・15	25	22	SD 157	2B-5C17・18・23・24, 6C4	古代	V層上面	N-45°-W	(4.44)	0.40	(4.44)	0.24	0.08	0.80	-	台形状	3	レンズ状	<SD149, 近世地業盛土		土師器鍋小片	SN150
15	25	22	SD 158	2B-5C17・22・23	古代	V層上面	N-44°-W	3.28	0.32	3.12	0.20	0.08	0.79	-	台形状	3	レンズ状		38	土師器無台碗 (109)	SN150
15	25	22	SD 159	2B-5C22・23, 6C3	古代	V層上面	N-46°-W	(4.04)	0.40	(3.92)	0.18	0.08	0.80	-	台形状	3	水平	<近世地業盛土			SN150
15	25	22	SD 160	2B-5C22	古代	V層上面	N-54°-W	0.92	0.16	0.80	0.08	0.07	0.68	-	台形状	3	水平				SN150
15	25	22	SD 161	2B-5C21・22, 6C2・3	古代	V層上面	N-51°-W	(3.36)	0.26	(3.28)	0.12	0.08	0.76	-	台形状	3	レンズ状	<近世地業盛土		須恵器無台碗小片	SN150
15	25	22	SD 162	2B-5C21・22	古代	V層上面	N-50°-W	0.72	0.20	0.64	0.10	0.10	0.68	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 163	2B-5C21・22, 6C2・3	古代	V層上面	N-51°-W	3.96	0.20	3.76	0.12	0.09	0.80	-	弧状	3	レンズ状		38	土師器鍋 (110)・黒色土器無台碗小片	SN150
15	25	22	SD 164	2B-5C21, 6C1・2	古代	V層上面	N-55°-W	0.96	0.24	0.84	0.12	0.08	0.80	-	弧状	3	レンズ状	<近世地業盛土			SN150
15	25	22	SD 165	2B-6C1・2・7	古代	V層上面	N-52°-W	2.76	0.20	2.68	0.12	0.04	0.76	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 166	2B-6C1・2・6・7	古代	V層上面	N-47°-W	2.12	0.20	2.00	0.09	0.08	0.72	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 167	2B-6C1・6・7	古代	V層上面	N-56°-W	3.88	0.28	3.76	0.16	0.10	0.84	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 168	2B-6C1・6	古代	V層上面	N-55°-W	2.12	0.22	1.92	0.13	0.11	0.76	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 169	2B-6C6・7・12	古代	V層上面	N-46°-W	(2.20)	0.20	(0.88)	0.08	0.08	0.72	-	弧状	2	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 170	2B-6B10, 6C6・11・12	古代	V層上面	N-57°-W	(3.12)	0.20	(3.04)	0.08	0.14	0.84	-	半円状	3	レンズ状	<近世地業盛土			SN150
15	25	22	SD 171	2B-6B10, 6C6	古代	V層上面	N-52°-W	0.80	0.16	0.72	0.08	0.07	0.76	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 172	2B-6B10, 6C6・11	古代	V層上面	N-50°-W	1.24	0.24	1.12	0.16	0.05	0.76	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 173	2B-6B10, 6C6	古代	V層上面	N-48°-W	1.04	0.16	9.02	0.08	0.08	0.75	-	弧状	3	レンズ状				SN150
15	25	22	SD 174	2B-6B10・15, 6C11	古代	V層上面	N-58°-W	(2.04)	0.40	(1.96)	0.28	0.17	0.75	-	U字状	3	水平				SN150
15	25	22	SD 175	2B-6B15	古代	V層上面	N-57°-W	(1.32)	0.24	(1.28)	0.13	0.12	0.76	-	U字状	3	水平	<近世地業盛土			SN150
15	25	22	SD 176	2B-6B15	古代	V層上面	N-56°-W	(1.04)	0.14	(1.00)	0.09	0.10	0.76	-	U字状	3	水平	<近世地業盛土			SN150
14・15	28	25	SX 177	2B-4D16・17・21～23, 5D2・3	古代	V層上面	N-43°-W	(5.92)	1.12	(5.78)	0.72	0.21	0.60	-	弧状	3	レンズ状	>SN130	38	土師器無台碗 (124・125)	
14	32	-	Pit 178	2B-5D10, 5E6	古代	V層上面	N-90°-E	0.57	0.52	0.41	0.37	0.09	0.83	円形	弧状	1	単層	<SN129SD199			
14	32	-	Pit 179	2B-5E11	古代	V層上面	-	0.51	0.49	0.34	0.31	0.11	0.87	円形	弧状	1	単層	<SN129SD199			
13・14	32	-	Pit 180	2B-5E6・7	古代	V層上面	-	0.35	0.37	0.23	0.22	0.16	0.80	円形	台形状	1	単層	>SN112, Pit181			
13・14	32	-	Pit 181	2B-5E6・7	古代	V層上面	-	(0.20)	0.27	0.06	0.07	0.14	0.81	円形	半円状	1	単層	>SN112 <Pit180			
14・15	32	-	Pit 182	2B-5C25	古代	V層上面	N-81°-W	0.29	0.28	0.22	0.22	0.06	0.90	円形	台形状	1	単層	>SD183		土師器無台碗小片	
14・15	18	14	SD 183	2B-5C20・25	古代	V層上面	N-40°-W	1.58	0.16	1.52	0.08	0.06	0.88	-	弧状	2	レンズ状	>SN150, Pit184 <SD149, Pit182			
14・15	32	-	Pit 184	2B-5C25	古代	V層上面	-	0.22	(0.08)	0.11	(0.04)	0.07	0.88	楕円形	台形状	1	単層	<SD183		土師器無台碗小片	
14・15	25	22	SD 185	2B-5C14	古代	V層上面	N-46°-W	(0.68)	0.16	(0.52)	0.08	0.04	1.12	-	弧状	3	レンズ状				SN150
14・15	32	-	Pit 186	2B-5C24	古代	V層上面	-	0.21	0.20	0.08	0.09	0.13	0.74	円形	U字状	1	単層	>SN150			
14・15	32	-	Pit 187	2B-5C25	古代	V層上面	N-60°-W	0.21	0.18	0.07	0.05	0.12	0.81	隅丸方形	U字状	1	単層				
14・15	32	-	Pit 188	2B-5C25, 6C5	古代	V層上面	N-64°-E	0.24	0.21	0.13	0.10	0.12	0.83	隅丸方形	U字状	1	単層				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 座標 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	遺物 図版 頁	出土遺物	備 考
								上 端		下 端		深度		平 面	断面						
								長軸	短軸	長軸	短軸										
14・15	32	—	Pit	189	2B-6D1	古代	V層上面	N-37°-W	0.26	0.26	0.11	0.10	0.20	0.78	円形	V字状	1	単層	>SK198		
14・15	32	—	Pit	190	2B-6D1	古代	V層上面	—	0.26	0.25	0.12	0.12	0.12	0.86	円形	U字状	1	単層	>SK198		
14・15	32	—	Pit	191	2B-6D1	古代	V層上面	—	0.25	0.24	0.12	0.12	0.10	0.86	円形	U字状	1	単層	>SK198		
15	32	—	Pit	192	2B-6C7・8	古代	V層上面	N-23°-W	0.18	0.18	0.10	0.09	0.12	0.77	円形	台形状	1	単層	>SN150		
15	32	—	Pit	193	2B-6C3	古代	V層上面	—	0.25	0.25	0.14	0.11	0.11	0.78	隅丸方形	台形状	1	単層	>SN150		
15	32	—	Pit	194	2B-6C3	古代	V層上面	—	0.17	0.17	0.09	0.07	0.07	0.81	隅丸方形	半円状	1	単層	>SN150		
14・15	32	—	Pit	195	2B-5C24	古代	V層上面	—	0.15	0.15	0.09	0.06	0.15	0.73	円形	U字状	1	単層	>SN150		
15	32	—	Pit	196	2B-6C3	古代	V層上面	—	0.15	0.13	0.07	0.06	0.10	0.79	隅丸方形	U字状	1	単層	>SN150		
15	32	—	Pit	197	2B-6C4・9	古代	V層上面	N-90°-E	0.15	0.17	0.07	0.06	0.12	0.83	隅丸方形	U字状	1	単層			
14・15	20	18	SK	198	2B-5D21, 6D1	古代	V層上面	N-19°-E	(0.94)	0.91	(0.82)	0.64	0.18	0.81	楕円形	弧状	2	レンズ状	<SD148, Pit189 ~ 191		須恵器無台杯小片、土師器鍋小片
14	24	21	SD	199	2B-5E6・11	古代	V層上面	N-30°-W	(1.80)	0.12	(1.76)	0.08	0.08	0.87	—	台形状	3	単層	>Pit178・179		SN129
13・14	31	—	Pit	200	2B-5E1	古代	V層上面	N-43°-W	0.29	0.25	0.15	0.19	0.07	0.80	円形	弧状	1	単層	<SN112		
13・14	32	—	Pit	201	2B-5E3・4	古代	V層上面	N-32°-E	0.31	0.29	0.19	0.18	0.05	0.85	隅丸方形	台形状	1	単層	<SN112SD114		
13・14	22	19	SD	202	2B-4D9	古代	V層上面	N-38°-W	(0.12)	0.20	(0.06)	0.16	0.12	0.98	—	U字状	5	単層	<SN130		SN209
13・14	22	19	SD	203	2B-4D9・10・15	古代	V層上面	N-46°-W	(2.64)	0.24	(2.62)	0.08	0.12	0.94	—	台形状	5	単層	<SN130SD141		SN209
13・14	22	19	SD	204	2B-4D10	古代	V層上面	N-39°-W	(0.44)	0.24	(0.44)	0.12	0.10	0.90	—	台形状	5	単層	<SN130		SN209
13・14	22	19	SD	205	2B-4D10・4E6・11	古代	V層上面	N-41°-W	(3.40)	0.20	(3.28)	0.08	0.08	1.04	—	台形状	5	単層	<SN130		土師器無台碗小片 SN209
13・14	22	19	SD	206	2B-4D5・10, 4E6	古代	V層上面	N-39°-W	(0.82)	0.24	(0.76)	0.14	0.02	1.08	—	弧状	5	単層	<SN130SD143		SN209
13・14	22	19	SD	207	2B-4E1・6	古代	V層上面	N-41°-W	(2.28)	0.25	(2.24)	0.19	0.08	1.04	—	台形状	5	単層	<SN130SD144		SN209
13・14	22	19	SD	208	2B-4E1・6・7	古代	V層上面	N-41°-W	(3.08)	0.20	(3.04)	0.12	0.05	1.05	—	台形状	5	単層	<SN130SD144		土師器無台碗小片 SN209
13・14	22	19	SN	209	2B・4D9・10・13 ~ 15・19・20, 4E1・2・6・7・11・12・16	古代	V層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	V	水平	<SN130		土師器無台碗小片
14・15	32	—	Pit	210	2B-5D21	古代	V層上面	N-47°-E	0.33	0.28	0.22	0.19	0.09	0.71	円形	台形状	1	単層	>Pit211・212<SD148		
14・15	32	—	Pit	211	2B-5D21	古代	V層上面	N-42°-W	0.30	(0.20)	0.16	0.14	0.09	0.71	隅丸方形	弧状	1	単層	<SD148, Pit210		
14・15	32	—	Pit	212	2B-5D21	古代	V層上面	N-45°-E	0.30	(0.20)	0.17	0.15	0.12	0.69	円形	U字状	1	単層	<SD148, Pit210		
13・14	31	—	Pit	213	2B-4E7	古代	V層上面	N-52°-E	0.17	0.15	0.07	0.06	0.14	0.54	円形	U字状	1	単層	<SN130SD144		
13・14	31	—	Pit	214	2B-4E11・16	古代	V層上面	—	0.20	0.20	0.16	0.09	0.12	0.71	円形	台形状	1	単層			

別表 2 古墳時代土器観察表

図版 No.	写真図 版No.	報告書 No.	出 土 位 置 遺構	グリッド	層位	種別	器種	分類	胎 土		法 量 (cm)			色 調		焼成	調 整			遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考			
									含有物	密度	口径	底径	器高	外 面	内 面		内 面	外 面	底 面	口縁部	底部	全体	内 面	外 面				
33	27	1	SK1	1C-8A1	I	須恵器	直口壺		石・チ・白	精	9.0	12.0	13.4	灰 (N4/)	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ 底：指頭圧痕	ロクロナデ 口：波状文 底：平行タ タキ	体：指ナデ 底：平行タ タキ	平行タタキ	35/36		36/36				重量： 507.6g	
34	28	2	包含層	1C-7A22	V	土師器	高杯	高杯杯 A	石・長・チ・白・ 海	普通	30.0			浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	酸化	ミガキ	ミガキ			3/36		10/36					
34	28	3	包含層	1C-7A22	V	土師器	高杯	高杯杯 A	石・長・チ・白・ 海	粗	30.0			橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	酸化	ミガキ	ミガキ・剥落			4/36		1/36					
34	28	4	包含層	1C-7A22	IV	土師器	高杯	高杯脚 A2	石・長・チ・白	普通		(14.0)		橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	酸化	(ミガキ) 剥落	(ミガキ) 剥落				2/36		1/36				
34	28	5	包含層	1C-8A9	IV	土師器	甕	A1	石・長・雲・チ・ 白・海	普通	(17.8)			褐灰 (10YR 4/1)	明黄褐 (10YR 6/6)	酸化	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ			2/36		1/36					
34	28	6	包含層	1C-8A9	IV	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・ 海	粗	16.5			橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	酸化	ハケメ→ヨコナデ・剥落	ハケメ→ヨコナデ・剥落			4/36		1/36			コゲ (口縁部)		
34	28	7	包含層	2B-1H4 2B-1H5	III	土師器	甕		石・チ・白・海	普通		4.2		褐灰 (10YR 5/1)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	ナデ	底部付近指頭圧痕・ナデ	ヘラ切り・ナデ		9/36		1/36			スス		
34	28	8	包含層	2B-1H5	III	土師器	甕	A2	石・長・雲・チ・ 白・海	普通		(23.4)		にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	酸化	口：ヨコナデ 体：ヨコナデ・ケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケメ・ケズリ					9/36		コゲ	コゲ・スス		
34	28	9	包含層	2B-1H4 2B-1H5	III	土師器	器台		石・長・チ・焼・ 白	普通				にぶい黄橙 (7.5YR 6/4)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	ナデ	ミガキ					3/36					
34	28	10	包含層	2B-1H9	III	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・ 海	普通	(20.0)			橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	剥落	ヨコナデ			2/36		1/36					
34	28	11	包含層	2B-1H21	V	土師器	壺		石・長・チ・焼・ 白	普通		8.0		にぶい橙 (7.5YR 7/3)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	酸化	体：ハケメ 底：ヘラナデ	体：ヘラナデ	ヘラナデ 体：ヘラナデ 底部：ケズリ			10/36		1/36				
34	28	12	包含層	2B-1H21	IV	土師器	壺		長・チ・白	粗		6.0		にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	酸化	体：ヨコナデ	体：ミガキ・ヨコナデ 底部つけ根：指頭圧痕	ヘラナデ ミガキ			14/36		1/36				
34	28	13	包含層	2B-1H6	V	土師器	壺	A1	石・長・チ・白・ 海	普通	(14.6)			灰白 (10YR 8/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	酸化	ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ			2/36		1/36					

図版 No.	写真図 版No.	報告書 No.	出土位置			種別	器種	分類	胎土			法 量 (cm)			色 調		焼成	調 整			遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考	
			遺構	グリッド	層位				含有物	密度	口径	底径	器高	外 面	内 面	内 面		底 面	口縁部	底部	全体	内面	外 面				
																外 面								内 面			
34	28	14	包含層	2B-116	Ⅲ	土師器	壺	A1	石・長・チ・白・海	普通	(14.6)			にぶい黄褐 (10YR 5/3)	にぶい黄褐 (10YR 4/3)	酸化	ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ		2/36		1/36					
34	28	15	包含層	2B-116	Ⅲ	土師器	壺		石・長・焼・白	普通		8.0		にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	酸化	ナデ	ナデ	ヘラナデ		4/36	1/36	スス	スス			
34	28	16	包含層	2B-116	V	土師器	壺		石・長・焼・白・海	普通		4.0		黒褐 (5YR 3/1)	橙 (5YR 6/8)	酸化	指頭圧痕	剥落			9/36	1/36					
34	28	17	包含層	2B-117	Ⅲ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(20.0)			橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	口：ヨコナデ 体：ハケメ	口：ヨコナデ 体：ハケメ		1/36		1/36					
34	28	18	包含層	2B-212	Ⅲ	土師器	壺	A2	石・長・白・海	粗	(13.4)			にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	酸化	ハケメ→ヨコナデ・剥落	ハケメ→ヨコナデ・剥落		2/36		1/36					
35	28	19	包含層	2B-1112	Ⅳ	土師器	高坏	高坏脚 A1	石・長・チ・焼・白・海	普通		13.2		浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	酸化	ナデ・剥落	ナデ・ミガキ 剥落			21/36	15/36			被熱		
35	28	20	包含層	2B-1114	Ⅳ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(20.0)			にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	酸化	(ヨコナデ)	ハケメ→ヨコナデ		2/36		1/36	土の塊				
35	28	21	包含層	2B-1114	Ⅳ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(17.0)			橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	(ヨコナデ) 剥落	ハケメ→ヨコナデ		2/36		1/36					
35	28	22	包含層	2B-1114	Ⅲ	土師器	壺	A1	石・長・白・海	粗	(18.0)			浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	酸化	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ		2/36		1/36			攪乱		
35	28	23	包含層	2B-1122 2B-212	Ⅳ Ⅲ	土師器	壺		石・長・チ・白・海	普通		7.0		浅黄橙 (10YR 8/3)	灰白 (10YR 8/2)	酸化	体：ハケメ	体：ハケメ→ナデ	指頭圧痕・ケズリ		36/36	2/36					
35	28	24	包含層	2B-1121	Ⅲ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	21.5			橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/8)	酸化	口：ハケメ・ヨコナデ 体：ハケメ・ヨコナデ 全体に剥落	口：ヨコナデ 体：ハケメ		7/36		1/36					
35	28	25	包含層	2B-1121	Ⅲ	土師器	甕	A4	石・長・雲・チ・焼・白・海	普通	35.0			にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	口～体：ハケメ	口～体：ハケメ		3/36		1/36					
35	28	26	包含層	2B-1118	Ⅲ	土師器	鉢	A	石・長・焼・白・海	普通		6.4		橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	ミガキ	ケズリ→ミガキ	ヘラナデ指頭圧痕		30/36	10/36		赤彩	攪乱		
35	28	27	包含層	2B-2H2	Ⅲ	土師器	甕	A3	石・長・チ・海	普通	(12.0)			明黄褐 (10YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	酸化	ヨコナデ・剥落	ハケメ→ヨコナデ		2/36		1/36					
35	28	28	包含層	2B-2H11	Ⅲ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)			浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	酸化	ハケメ→ヨコナデ 剥落	ヨコナデ		2/36		1/36					
35	28	29	包含層	2B-211	Ⅲ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)			橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	酸化	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ		1/36		1/36					
35	28	30	包含層	2B-3E19	Ⅳ	土師器	甕		石・長・チ・白・海	普通		8.0		橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	ナデ	ハケメ→ナデ			7/36	1/36					
35	28	31	包含層	2B-3F5	V	土師器	甕	A1	石・長・チ・焼・白・海	普通	17.0			にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄褐 (10YR 5/4)	酸化	口：ハケメ→ヨコナデ 体：ハケメ	口：ハケメ→ヨコナデ 体：ハケメ		4/36		1/36					
35	28	32	包含層	2B-3F10	V	土師器	甕	A1	石・長・雲・チ・白・海	普通	(21.0)			浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	酸化	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ		2/36		1/36					
35	28	33	包含層	2B-3G14	Ⅳ	土師器	壺		石・長・チ・白・海	普通	(16.0)			にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	酸化	ハケメ→ナデ	ヨコナデ		2/36		1/36	赤彩	赤彩			
35	28	34	包含層	2B-4F2	Ⅲ	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(18.9)			橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	酸化	(ヨコナデ) 剥落	ハケメ→ヨコナデ		1/36		1/36					
36	29	35	SD3	1C-8A16	4	土師器	鉢	A	石・白・海	普通	(13.0)	4.0	(6.5)	橙 (2.5YR 6/6)	橙 (2.5YR 6/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	ヘラナデ		1/36	17/36	3/36				
36	29	51	SD2	1C-9A21 1C-10A1	4 Ⅲ	土師器	壺		石・長・チ・白・海	普通		8.0		褐灰 (10YR 5/1)	橙 (7.5YR 7/6)	酸化	ハケメ→ナデ 底：指頭圧痕 全体に剥落	ハケメ→ナデ 指頭圧痕			15/36	1/36			攪乱		
36	29	69	SK4	1C-7A23	1	土師器	甕		石・長・チ・白・海	普通		7.0		浅黄橙 (10YR 8/3)	橙 (5YR 8/3)	酸化	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	ヘラナデ		6/36	1/36					
38	30	123	SX83	2B-2H1	3	土師器	甕	A1	石・長・チ・白・海	普通	(16.0)			にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	酸化	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ		2/36		1/36					

別表3 古代・中世土器観察表

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
36	29	36	SD3	1C-8A21	4	須恵器	杯蓋	A III	—	—	(1.75)	—	—	白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	3/36	
36	29	37	SD3	1C-9A1	3	須恵器	無台杯	A III	12.4	7.0	2.85	23.0	56.5	チャ・白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	2/36	21/36	10/36	
36	29	38	SD3	1C-8A16・21	4	須恵器	無台杯	A III	(12.4)	—	(2.6)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
36	29	39	SD3	1C-8A16	4	須恵器	無台杯		—	(8.2)	(1.5)	—	—	チャ・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	7/36	5/36	
36	29	40	SD3	1C-8A21	2	須恵器	無台杯		—	(5.4)	(0.75)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	3/36	3/36	
36	29	41	SD3	1B-10J9	4	須恵器	短頸壺		—	—	(6.7)	—	—	雲・白凝	小泊	5Y3/1 オリーブ黒	N7/ 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	3/36	
36	29	42	SD3	1B-8J25	2	須恵器	甕		—	—	(7.1)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	43	SD3	1C-8A11	2	須恵器	甕		—	—	(6.8)	—	—	石・長・白凝	小泊	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	44	SD3	1C-8A16	2	土師器	長甕		—	—	(4.0)	—	—	雲・チャ		10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	酸化	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	45	SD3	1C-8A21	4	土師器	小甕	A	(16.2)	—	(2.6)	—	—	長・チャ		5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
36	29	46	SD3	1C-8A11	2	土師器	小甕	B	(12.4)	—	(1.4)	—	—	石・長・チャ		2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR6/8 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
36	29	47	SD3	1C-8A21	4	土師器	小甕		—	(7.0)	(2.6)	—	—	長・雲・チャ		10YR4/3 にぶい黄褐	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	14/36	3/36	
36	29	48	SD3	1C-8A21	2	土師器	小甕		—	(7.8)	(1.9)	—	—	石・長・焼土粒・白凝		5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	5/36	5/36	
36	29	49	SD3	1C-9A6	2	土師器	小甕		—	(8.6)	(1.2)	—	—	石・長・チャ		7.5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	9/36	1/36	
36	29	50	SD3	1C-8A21	2	土師器	鍋		(39.8)	—	(2.5)	—	—	石・チャ		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
36	29	52	SD2	1C-8A22	1	須恵器	無台杯	B V	(13.8)	—	(2.5)	—	—	石・長	小泊	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
36	29	53	SD2	1C-8A22	1	須恵器	無台杯	A III	(12.0)	—	(1.9)	—	—	雲・チャ	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
36	29	54	SD2	1C-9A11	1	須恵器	有台杯		—	(7.4)	(1.05)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ?		—	1/36	1/36	
36	29	55	SD2	1C-9A11	1	須恵器	甕		—	—	(3.7)	—	—	チャ	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	56	SD2	1C-9A11	3	須恵器	甕		—	—	(8.2)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	57	SD2	1C-8A6	1	土師器	小甕	A	(13.2)	—	(1.6)	—	—	チャ・白凝		5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
36	29	58	SD2	1C-8A17	1	土師器	小甕		—	(9.3)	(1.9)	—	—	石・長・チャ・白凝		7.5YR6/8 橙	10YR7/6 明黄褐	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	5/36	1/36	
36	29	59	SD13	1C-8A13	1	土師器	無台碗		—	(5.0)	(1.7)	—	—	石・チャ・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	5Y7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	7/36	2/36	
36	29	60	SD5	1C-8A18	2	須恵器	長頸壺		—	(7.0)	(1.0)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	3/36	1/36	
36	29	61	SD5	1C-8A20	1	土師器	無台碗		—	(6.0)	(0.9)	—	—	石・白凝		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	3/36	1/36	
36	29	62	SD5	1C-8A23	3	土師器	長甕	A	(24.0)	—	(2.1)	—	—	石・焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
36	29	63	SD9	1C-9A16	1	須恵器	甕		—	—	(2.6)	—	—	石・長	小泊	5Y6/1 灰	5Y4/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
36	29	64	SD9	1C-9A17	2	土師器	無台碗		—	(7.2)	(1.05)	—	—	石・長・チャ		7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6 橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	3/36	1/36	
36	29	65	SD9	1C-9A16	1	土師器	長甕	A	(22.6)	—	(3.0)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	酸化	ナデ	ナデ		3/36	—	1/36	
36	29	66	SD29	1C-9A21	1	土師器	鍋		(38.4)	—	(3.8)	—	—	石・長・雲		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
36	29	67	SD55	2B-1H9	1	土師器	無台碗		—	(8.0)	(1.2)	—	—	チャ		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	3/36	—	1/36	
36	29	68	SD55	2B-1I7	1	珠洲焼	壺 R 種		—	—	(5.7)	—	—	石・白凝		5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	
36	29	70	SK15	1C-8A13	6	須恵器	長頸壺	小泊	—	(10.8)	(1.4)	—	—	石・白凝		5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	1/36	1/36	
37	29	71	SK8	1C-8A13	1	珠洲焼	壺 R 種		—	(8.6)	(5.5)	—	—	石・白凝		N6/ 灰白	N6/ 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	7/36	5/36	
37	29	72	SK7	1C-8A20	9	須恵器	無台杯		—	(7.2)	(1.0)	—	—	焼土粒・白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	14/36	9/36	
37	29	73	SK7	1C-8A20	9	土師器	長甕	A	(19.6)	—	(3.8)	—	—	チャ		10YR5/6 黄褐	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロ		2/36	—	1/36	
37	29	74	SN130 SD136	2B-4D23	1	土師器	無台碗		—	(8.3)	(0.9)	—	—	石・チャ・焼土粒・白凝		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/6 黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	剥離により不明瞭		—	3/36	1/36	
37	29	75	SN130 SD139	2B-4D19	1	土師器	鍋		(40.0)	—	(2.1)	—	—	石・長・白凝		7.5YR5/2 にぶい橙灰褐	7.5YR6/4 にぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
37	29	76	SN130 SD141	2B-4D15	1	須恵器	横瓶		—	—	(6.7)	—	—	石・チャ・白凝	小泊	10YR6/1 褐灰	2.5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	無調整		—	—	2/36	
37	29	77	SN130 SD144	2B-4E6	1	須恵器	甕		—	—	(5.25)	—	—	石・白凝	小泊	5Y3/1 オリーブ黒	N5/ 灰	還元	タタキ	あて具痕		—	—	1/36	
37	29	78	SN130	2B-4D21	4	須恵器	無台杯	A V	(14.0)	—	(2.8)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
37	29	79	SN130	2B-4D18	3	土師器	無台碗		—	5.5	(1.4)	—	—	石・白凝		10YR8/4 浅黄橙	10YR6/2 灰黄褐	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	19/36	4/36	
37	29	80	SN130	2B-5C10	4	土師器	小甕		—	(6.0)	(2.4)	—	—	石・長・チャ		2.5Y8/6 黄	2.5Y8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	9/36	2/36	
37	29	81	SN112 SD115	2B-3E2	3	須恵器	無台杯	A V	(14.0)	—	(3.6)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
37	29	82	SN112 SD115	2B-3E2	3	土師器	長甕	A	(20.0)	—	(3.2)	—	—	石・長・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	酸化	ロクロナデ	カキメ		1/36	—	1/36	
37	29	83	SN112 SD116	2B-5E7	1	土師器	無台碗	II	(13.0)	—	(3.2)	—	—	チャ		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロ	ロクロ		5/36	—	2/36	
37	29	84	SN112 SD116	2B-5E7	3	土師器	無台碗	III	(14.4)	—	(2.3)	—	—	石・長・チャ		5YR8/3 淡橙	5YR8/3 淡橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
37	29	85	SN112	2B-4E23	3	須恵器	無台杯	A III	(12.0)	—	(2.75)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	2/36	
37	29	86	SN112	2B-5E3	4	須恵器	無台杯	B III	(12.4)	—	(1.8)	—	—	石・長・白凝	小泊	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
37	29	87	SN112	2B-5E8	4	須恵器	無台杯	A IV	(12.8)	—	(3.5)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
37	29	88	SN112	2B-5E3	4	須恵器	無台杯		—	(7.0)	(2.0)	—	—	焼土粒・白凝	阿賀北	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	6/36	3/36	
37	29	89	SN112	2B-5E7	4	須恵器	無台杯		—	(6.0)	(1.3)	—	—	チャ	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	8/36	3/36	
37	29	90	SN112	2B-4E22	4	須恵器	無台杯		—	(7.0)	(0.7)	—	—	長・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	5/36	1/36	
37	29	91	SN112	2B-5E2	3	土師器	無台皿		—	4.1	(0.9)	—	—	石・チャ・白凝		10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	36/36	4/36	
37	29	92	SN112	2B-5E6	3	土師器	長甕	B	(24.0)	—	(3.2)	—	—	石・白凝		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
37	29	93	SN112	2B-5E3	3	土師器	鍋		(38.8)	—	(1.72)	—	—	石・長・チャ・白凝・角		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
37	29	94	SN129 SD120	2B-5D15	2	土師器	鍋		(40.0)	—	(5.4)	—	—	石・チャ		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ		3/36	—	3/36	
37	30	95	SN129	2B-5D19	4	須恵器	長頸壺		—	(10.0)	(1.65)	—	—	石・長・チャ・白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	7/36	1/36	
37	30	96	SN129	2B-5D19	4	土師器	無台碗	III	(13.9)	—	(3.35)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
37	30	97	SN129	2B-5D15	4	土師器	無台碗		—	(4.5)	(4.9)	—	—	石・チャ・焼土粒・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	15/36	10/36	
37	30	98	SN129	2B-5D19	4	土師器	無台碗		—	(6.0)	(2.5)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	6/36	2/36	
37	30	99	SN129	2B-5D20	3	土師器	無台碗		—	(6.0)	(1.6)	—	—	石・長・チャ		7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	8/36	2/36	
37	30	100	SN129	2B-5D18	3	土師器	小甕		—	4.9	(1.7)	—	—	長・焼土粒・白凝		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	35/36	10/36	
37	30	101	SN129	2B-5D18	3	土師器	小甕		—	6.0	(2.1)	—	—	チャ・白凝		7.5YR8/2 灰白	5YR7/4 にぶい橙	酸化	ロクロナデ	摩耗により不明瞭		—	23/36	2/36	
37	30	102	SN129	2B-5D18	4	土師器	小甕		—	(5.4)	(2.4)	—	—	石・長・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	15/36	9/36	
37	30	103	SN129	2B-5D19	4	土師器	長甕	A	(22.0)	—	(4.4)	—	—	長・チャ・白凝		7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	酸化	ロクロ	カキメ		3/36	—	1/36	
38	30	104	SN129	2B-5D14	3	土師器	長甕	A	(26.0)	—	(4.5)	—	—	石・長・雲・チャ・焼土粒・白凝		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
38	30	105	SN129	2B-5D15	4	土師器	長甕	B	—	—	(5.5)	—	—	石・チャ・白凝・角		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	酸化	カキメ	ロクロナデ、カキメ		—	—	1/36	
38	30	106	SN129	2B-5D15	4	土師器	長甕		—	—	(7.8)	—	—	石・長・チャ・白凝		2.5Y8/3 浅黄	10YR6/3 にぶい黄橙	酸化	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
38	30	107	SN129	2B-5D19	4	土師器	鍋		(26.0)	—	(2.0)	—	—	石・長・チャ・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		2/36	—	1/36	
38	30	108	SN150 SD156	2B-5C18	2	土師器	小甕	A	(11.0)	—	(1.45)	—	—	石・長・チャ		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
38	30	109	SN150 SD158	2B-5C22	2	土師器	無台碗	I	(11.9)	—	(1.85)	—	—	石・チャ・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
38	30	110	SN150 SD163	2B-6C3	1	土師器	鍋		(40.0)	—	(3.8)	—	—	石・長・白凝		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	酸化	ロクロナデ、カキメ	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
38	30	111	SN150	2B-6C7	4	須恵器	甕		—	—	(4.7)	—	—	白凝	小泊	5Y 灰		還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
38	30	112	SN150	2B-6C6	4	須恵器	甕		—	—	(2.9)	—	—	石・長・白凝	小泊	10Y6/1 灰	10Y4/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
38	30	113	SN150	2B-6C7	4	須恵器	甕		—	—	(5.9)	—	—	石・長・チャ・白凝	小泊	7.5Y5/1 灰	10Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
38	30	114	SN150	2B-5D21	4	土師器	無台碗	II	(12.9)	—	(3.4)	—	—	石・焼土粒・白凝		10YR にぶい黄橙	10YR にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	剥離により不明瞭		5/36	—	1/36	
38	30	115	SN150	2B-5C23	4	土師器	無台碗	IV	(15.7)	—	(2.85)	—	—	石・長・チャ		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
38	30	116	SN150	2B-5C23	4	土師器	小甕	A	(12.8)	—	(2.4)	—	—	石・長・チャ		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
38	30	117	SN150	2B-6C3	4	土師器	小甕	B	(13.8)	—	(1.3)	—	—	焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄橙		酸化	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、ナデ		2/36	—	1/36	
38	30	118	SN150	2B-6C1	4	土師器	鍋		—	—	(5.35)	—	—	石・長・チャ・焼土粒・白凝		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	タタキメ	あて具痕・ハケメ		—	—	1/36	
38	30	119	SX37	1B-8J25	3	須恵器	無台杯	A III	(11.8)	—	(2.9)	—	—	チャ・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	3/36	
38	30	120	SX37	1B-8J25	3	須恵器	甕		—	—	(2.4)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y4/1	10YR7/1	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
38	30	121	SX37	1B-8J25	3	土師器	小甕	A	(11.0)	—	(3.0)	—	—	石・長・チャ		5YR7/4 にぶい橙	2.5Y8/2 灰白	還元	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		3/36	—	1/36	
38	30	122	SX37	1B-8J25	3	土師器	小甕	A	(8.0)	—	(1.0)	—	—	石・白凝		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	酸化	カキメ	ロクロナデ		5/36	—	1/36	
38	30	124	SX177	2B-4D22	3	土師器	無台碗	I	(12.0)	—	(2.6)	—	—	白凝		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
38	30	125	SX177	2B-4D22	3	土師器	無台碗		—	(5.2)	(1.5)	—	—	石・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	9/36	2/36	
38	30	126	Pit75	2B-1113	1	土師器	無台杯	I	(12.0)	—	(1.2)	—	—	石・チャ・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
38	30	127	Pit94	2B-1H17	1	須恵器	無台杯	A IV	(13.0)	—	(2.0)	—	—	白凝	小泊	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
38	30	128	Pit89	2B-2H10	1	土師器	鍋		(41.0)	—	(2.7)	—	—	石・チャ・焼土粒・白凝		10YR8/6 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	カキメ		2/36	—	1/36	
38	30	129	包含層	1B-8J23	III	須恵器	杯蓋		(15.4)	—	(0.7)	—	—	石・白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	1/36	1/36	
38	30	130	包含層	1B-9J20	IV	黒色土器	無台碗	III	(14.0)	—	(2.4)	—	—	石・チャ		10YR8/4 浅黄橙	10YR 黒 1.7/1	酸化	ロクロナデ	ミガキ		2/36	—	1/36	
38	30	131	包含層	1B-9J5	IV	須恵器	無台杯		—	(8.0)	(1.8)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切→ケズリ	—	8/36	3/36	
38	30	132	包含層	1B-9J10	V	須恵器	長頸壺		(8.0)	—	(2.3)	—	—	石・長・チャ・白凝	小泊	10YR4/1 褐灰	5YR6/1 褐灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	1/36	
38	30	133	包含層	1B-9J14・ 17・23	IV	須恵器	無台杯	A I	7.0	4.0	2.7	38.6	57.1	チャ・白凝	小泊	10BG3/1 暗青灰	10BG3/1 暗青灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	7/36	11/36	6/36	
38	30	134	包含層	1B-9J17	IV	須恵器	無台杯	A VI	(15.0)	—	(2.5)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ・ナデ		2/36	—	1/36	
38	30	135	包含層	1B-9J17	IV	須恵器	無台杯		—	(9.5)	(0.9)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y7/1 灰白		還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	3/36	2/36	
38	30	136	包含層	1B-9J21	V	須恵器	無台杯		—	(7.0)	(1.1)	—	—	石・白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	13/36	10/36	
39	30	137	包含層	1B-9J21	IV	土師器	小甕		—	(6.0)	(1.05)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	7/36	1/36	
39	30	138	包含層	1B-9J23	IV	須恵器	壺蓋		—	(10.0)	(1.2)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	2/36	—	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
39	30	139	包含層	1B-10115	IV	須恵器	無台杯	B IV	(13.0)	—	(2.4)	—	—	白凝	小泊	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	140	包含層	1B-1015	IV	須恵器	長頸壺		—	(10.5)	(2.1)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y4/1 灰	2.5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	14/36	1/36	
39	30	141	包含層	1B-1015	IV	土師器	小甕	A	(22.8)	—	(4.9)	—	—	石・長・チャ・焼土粒・白凝・角		10YR8/4 浅黄橙	2.5YR8/3 淡黄	酸化	摩耗により不明瞭	ナデ		3/36	—	1/36	
39	30	142	包含層	1B-10J1	IV	須恵器	無台杯	A III	(12.0)	—	(3.9)	—	—	チャ・白凝	小泊	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	3/36	
39	30	143	包含層	1B-10J2	V	須恵器	無台杯	A IV	(13.0)	—	(1.7)	—	—	チャ・白凝	小泊	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	144	包含層	1B-10J13	IV	須恵器	無台杯	A V	(14.0)	—	(1.5)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	145	包含層	1B-10J17	IV	須恵器	長頸壺		(12.0)	—	(2.3)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	1/36	
39	30	146	包含層	1C-8A1	V	土師器	長甕	A	(20.0)	—	(2.8)	—	—	石・長・チャ		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
39	30	147	包含層	1C-8A17	IV	須恵器	長頸壺		(9.6)	—	(2.0)	—	—	石・長	小泊	10Y4/1 灰	10Y4/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
39	30	148	包含層	1C-9A6	IV	須恵器	無台杯	B III	(12.4)	—	(1.9)	—	—	石・長・白凝	小泊	2.5Y7/1 灰白	10YR7/2 ぶい黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	149	包含層	1C-9A13	IV	須恵器	無台杯	B IV	(13.0)	—	(2.4)	—	—	石・長・白凝	小泊	5B6/1 青灰	5B5/1 青灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	150	包含層	1C-9A21	IV	須恵器	有台杯		—	(6.0)	(1.7)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	糸切	—	6/36	3/36	
39	30	151	包含層	1C-9A21	IV	須恵器	甕		—	—	(4.5)	—	—	石・白凝	小泊	5Y4/1 灰	5Y5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
39	30	152	包含層	2B-1G25	III	須恵器	無台杯		—	(7.0)	(1.0)	—	—	石・長・白凝	小泊	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	6/36	2/36	
39	30	153	包含層	2B-1H4・5	III	黒色土器	無台杯		—	(5.0)	(2.0)	—	—	石・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR2/1 黒	酸化	ミガキ	ミガキ	ヘラ切	—	5/36	3/36	
39	30	154	包含層	2B-1H9	III	須恵器	壺蓋		—	(10.3)	(1.4)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	1/36	1/36	
39	30	155	包含層	2B-1H19	III	土師器	無台杯		—	(6.9)	(2.05)	—	—	石・長		10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	還元	摩耗により不明瞭	ナデ	糸切?	—	6/36	3/36	
39	30	156	包含層	2B-1H19	III	須恵器	甕		—	—	(1.9)	—	—	石・長	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
39	30	157	包含層	2B-1H23	III	土師器	無台杯		—	(6.0)	(2.2)	—	—	石・長・チャ		7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/6 黄橙	還元	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	15/36	3/36	
39	30	158	包含層	2B-1I1	III	土師器	小甕		—	(5.8)	(1.2)	—	—	長・雲・チャ		10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 ぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	4/36	1/36	
39	30	159	包含層	2B-1I3	IV	須恵器	無台杯	A V	(14.0)	—	(1.7)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	30	160	包含層	2B-1I8	IV	土師器	小甕		—	(5.5)	(1.8)	—	—	石・長		7.5YR7/4 ぶい黄橙	10YR7/4 ぶい黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	—	—	
39	31	161	包含層	2B-1I16	III	須恵器	無台杯	A IV	(13.0)	—	(2.8)	—	—	石・チャ・白凝	小泊	N6/ 灰	N6/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	31	162	包含層	2B-2G5	III	土師器	無台杯		—	(5.6)	(1.4)	—	—	石・長・チャ		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	8/36	2/36	
39	31	163	包含層	2B-2G15	IV	土師器	無台杯		—	(4.5)	(0.75)	—	—	チャ・白凝		7.5YR7/8 黄橙	7.5YR7/8 黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	16/36	5/36	
39	31	164	包含層	2B-2H6	III	須恵器	無台杯	A III	12.4	7.2	3.1	25.0	58.0	チャ・白凝	小泊	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	13/36	17/36	17/36	
39	31	165	包含層	2B-2H7	V	須恵器	無台杯	B IV	(12.6)	—	(2.1)	—	—	石・長	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	1/36	
39	31	166	包含層	2B-2H7	III	須恵器	甕		—	—	(3.4)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
39	31	167	包含層	2B-2H9	IV	黒色土器	無台杯		13.2	5.0	4.75	36.0	37.9	石・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR2/1 黒	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ミガキ	ヘラ切	3/36	8/36	3/36	
39	31	168	包含層	2B-2H9	IV	土師器	小甕	A	(19.0)	—	(1.85)	—	—	焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄	10YR8/3 浅黄	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
39	31	169	包含層	2B-2H11	III	土師器	無台杯	III	(14.0)	—	(2.7)	—	—	長・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
39	31	170	包含層	2B-2H12	V	土師器	無台杯		—	4.2	1.75	—	—	チャ		5YR7/6 橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	糸切	—	26/36	18/36	
39	31	171	包含層	2B-2H14	V	土師器	無台杯		—	(5.8)	(1.7)	—	—	チャ		7.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	7/36	1/36	
39	31	172	包含層	2B-2H15	III	土師器	無台杯		—	(7.6)	(2.0)	—	—	石・チャ・白凝		5Y8/4 淡橙	5Y8/4 淡橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	3/36	1/36	
39	31	173	包含層	2B-2H15	III	黒色土器	無台杯		(14.0)	—	(4.72)	—	—	石・焼土粒・白凝		2.5Y8/3 淡黄	7.5Y2/1 黒	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	ミガキ	5/36	—	6/36	
39	31	174	包含層	2B-2H19	IV	土師器	無台杯		—	5.0	(1.7)	—	—	チャ		10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	ヘラ切	—	18/36	2/36	
39	31	175	包含層	2B-2H22	IV	土師器	鍋		(32.8)	—	(5.15)	—	—	チャ		10YR7/4 ぶい黄橙	7.5YR7/4 ぶい黄橙	酸化	摩耗により不明瞭、カキメ	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
39	31	176	包含層	2B-2H23	III	土師器	無台杯	IV	17.0	6.0	5.45	32.1	35.3	焼土粒・白凝		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	ヘラナデ? ハケメ?		4/36	31/36	20/36	
39	31	177	包含層	2B-2H23	III	土師器	無台杯		—	(6.2)	(1.2)	—	—	石・白凝		10YR7/3 ぶい黄橙	10YR5/3 ぶい黄褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	8/36	—	
39	31	178	包含層	2B-3E20	IV	須恵器	無台杯	A VI	(14.6)	—	(2.5)	—	—	石・長	小泊	10Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
39	31	179	包含層	2B-3E23	III	須恵器	横瓶		—	—	(2.8)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰	5Y7/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	転用砥石
39	31	180	包含層	2B-3F10	V	須恵器	無台杯	A IV	13.0	8.0	2.8	21.5	61.5	チャ	小泊	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	10/36	15/36	12/36	
39	31	181	包含層	2B-3F10	V	土師器	無台杯	II	13.0	6.0	4.0	30.8	46.2	石・焼土粒		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	7/36	36/36	30/36	
39	31	182	包含層	2B-3G1	V	土師器	小甕	A	(13.5)	—	(6.4)	—	—	石・チャ		10YR7/4 ぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36	—	3/36	
40	31	183	包含層	2B-3G4	III	須恵器	無台杯	A II	11.0	7.0	2.5	22.7	63.6	チャ・白凝	小泊	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4/36	5/36	1/36	
40	31	184	包含層	2B-3G5	III	須恵器	無台杯	B III	(11.8)	—	(1.7)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
40	31	185	包含層	2B-3G9	IV	須恵器	無台杯	B III	12.0	8.0	2.4	20.0	66.7	チャ・白凝	小泊	5Y7/2 灰白	5Y6/2 灰オリブ	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4/36	4/36	7/36	
40	31	186	包含層	2B-3G10	III	土師器	無台杯		—	4.0	(1.45)	—	—	石・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	32/36	2/36	
40	31	187	包含層	2B-3G10	III	土師器	小甕	A	(10.9)	—	(4.1)	—	—	石・白凝		10YR7/4 ぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
40	31	188	包含層	2B-3G10	III	土師器	鍋		(40.0)	—	(9.5)	—	—	長・焼土粒・白凝		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	カキメ	ヘラナデ、カキメ					

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
40	31	193	包含層	2B-3G12	IV	土師器	無台椀		—	(6.0)	(2.2)	—	—	チャ		10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	8/36	2/36	
40	31	194	包含層	2B-3G13・15	IV	須恵器	甕		—	—	(7.7)	—	—	石・白凝	小泊	2.5Y7/1 灰白	N5/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
40	31	195	包含層	2B-3G13	III	土師器	小甕		—	(6.2)	(0.9)	—	—	白凝		7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/3 浅黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	9/36	1/36	
40	31	196	包含層	2B-3G13	IV	土師器	小甕		—	6.0	(3.5)	—	—	石・長・チャ・白凝		5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ハケメ	糸切	—	36/36	6/36	
40	32	197	包含層	2B-3G14	IV	土師器	無台椀	III	(13.6)	—	(3.0)	—	—	雲・チャ		5Y7/6 橙	5Y7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36	—	2/36	
40	32	198	包含層	2B-3G14	IV	土師器	無台椀	I	(12.4)	—	(3.0)	—	—	白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	摩耗により不明瞭	—	—	2/36	
40	32	199	包含層	2B-3G14	IV	土師器	無台椀	I	(12.0)	—	(2.6)	—	—	石・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
40	32	200	包含層	2B-3G14	IV	土師器	無台椀		—	(6.5)	(2.9)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ハケメ、ロクロナデ	糸切	—	11/36	10/36	
40	32	201	包含層	2B-3G15	III	土師器	小甕		—	7.1	(1.25)	—	—	白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	酸化	ヘラナデ?	ロクロナデ	糸切	—	36/36	2/36	
40	32	202	包含層	2B-3G15	III	土師器	鍋		(40.0)	—	(2.0)	—	—	石・焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
40	32	203	包含層	2B-3G16	III	土師器	無台椀		—	(5.8)	(1.6)	—	—	長・チャ・白凝		7.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	9/36	3/36	
40	32	204	包含層	2B-3G19	IV	須恵器	無台杯	A V	(14.0)	—	(1.6)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
40	32	205	包含層	2B-3G19・22	IV・III	須恵器	無台杯		—	(10.0)	(1.6)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	5/36	3/36	
40	32	206	包含層	2B-3G23	III	須恵器	杯蓋		(13.4)	—	(1.4)	—	—	石・長・白凝	小泊	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
40	32	207	包含層	2B-3H1	V	須恵器	無台杯		—	(7.0)	(1.6)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	7/36	5/36	
40	32	208	包含層	2B-3H1	III	土師器	無台椀		—	(5.7)	(1.1)	—	—	石・チャ・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭	ヘラ切	—	11/36	3/36	
40	32	209	包含層	2B-3H2	IV	土師器	無台椀	III	(14.0)	—	(3.2)	—	—	焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	酸化	摩耗により不明瞭	摩耗により不明瞭		1/36	—	1/36	
40	32	210	包含層	2B-3H2	V	土師器	無台椀		—	(5.8)	(1.4)	—	—	石		10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	12/36	5/36	
40	32	211	包含層	2B-3H6	V	須恵器	無台杯	B III	(12.0)	—	(2.8)	—	—	白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
40	32	212	包含層	2B-3H7	V	土師器	無台椀		—	5.4	3.25	—	—	石・白凝		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	30/36	20/36	
40	32	213	包含層	2B-3H7	V	土師器	無台椀		—	(3.8)	(1.3)	—	—	石・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	10/36	2/36	
40	32	214	包含層	2B-4E2	IV	土師器	無台椀		—	5.8	(3.5)	—	—	石・チャ・焼土粒・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	23/36	15/36	
41	32	215	包含層	2B-4E10	IV	土師器	無台椀		—	(4.5)	(1.25)	—	—	石・長・チャ		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	10/36	2/36	
41	32	216	包含層	2B-4E13	III	須恵器	甕		—	—	(5.9)	—	—	白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
41	32	217	包含層	2B-4E20	III	須恵器	杯蓋		(13.4)	—	(1.0)	—	—	石・長	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	1/36	
41	32	218	包含層	2B-4E21	III	土師器	無台椀	III	(13.9)	—	(2.15)	—	—	石・チャ・白凝		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
41	32	219	包含層	2B-4E22	III	土師器	鍋		(40.0)	—	(2.3)	—	—	長・角		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	酸化	カキメ	カキメ		1/36	—	1/36	
41	32	220	包含層	2B-4F4	V	土師器	無台椀		—	(6.5)	(2.0)	—	—	チャ・白凝		5YR7/6 橙	5YR8/4 淡橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	10/36	4/36	
41	32	221	包含層	2B-4F6	IV	須恵器	無台杯	A II	(11.0)	—	(1.4)	—	—	石・白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
41	32	222	包含層	2B-4F6	III	土師器	無台椀		—	(4.1)	(1.3)	—	—	石・チャ・白凝		10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切、ヘラナデ	—	9/36	3/36	
41	32	223	包含層	2B-4F10	III	須恵器	無台杯	A IV	(12.8)	—	(2.35)	—	—	石・白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
41	32	224	包含層	2B-4F12	IV	土師器	小甕		—	(4.0)	(2.9)	—	—	石・チャ・白凝		10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	7/36	3/36	
41	32	225	包含層	2B-4F12	III	土師器	鍋		(34.0)	—	(5.0)	—	—	石・雲・チャ・焼土粒		10YR8/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	カキメ	ロクロナデ、カキメ		1/36	—	1/36	
41	32	226	包含層	2B-4F16	III	土師器	小甕	B	(16.0)	—	(2.3)	—	—	石・長・チャ・白凝		2.5YR6/6 橙	10YR8/3 浅黄橙		ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
41	32	227	包含層	2B-4F16	III	土師器	小甕	A	(13.6)	—	(1.6)	—	—	石・チャ・白凝		2.5YR7/4 淡赤橙	7.5YR7/3 にぶい橙	酸化	ナデ	ナデ		3/36	—	1/36	
41	32	228	包含層	2B-4F17	IV	須恵器	無台杯	A IV	(13.0)	—	(3.1)	—	—	石・長・白凝	小泊	5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	2/36	
41	32	229	包含層	2B-5D12	IV	土師器	無台椀		—	(4.5)	(1.6)	—	—	石・白凝		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ?	ロクロナデ	ヘラ切	—	12/36	5/36	
41	32	230	包含層	2B-6C5	IV	須恵器	長頸壺		(9.8)	—	(1.5)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
41	32	231	攪乱	2B-119		須恵器	無台杯		—	(5.6)	(0.9)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	5/36	1/36	
41	32	232	攪乱	2B-2H2		須恵器	短頸壺		—	—	(2.95)	—	—	石・白凝	小泊	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	
41	32	233	攪乱	2B-2H7		須恵器	無台杯		—	(6.5)	(2.2)	—	—	白凝	小泊	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	4/36	1/36	
41	32	234	攪乱	2B-5D2		須恵器	長頸壺		—	—	(2.6)	—	—	白凝	小泊	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ナデ		—	—	1/36	
41	32	235	攪乱	2B-5D17		黒色土器	有台皿		—	(5.9)	(1.3)	—	—	石・白凝・角		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	酸化	ナデ	ミガキ、黒色		—	2/36	1/36	
41	32	236	攪乱	2B-5E8		土師器	無台椀		—	(6.0)	(2.6)	—	—	石・焼土粒・白凝		7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	—	10/36	5/36	
41	32	237	包含層	1B-8J23	III	珠洲焼	片口鉢		—	(11.0)	(5.2)	—	—	長・白凝		5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	御目 8本一単位 (幅 2.1cm)	ヘラナデ	—	8/36	8/36	
41	32	238	包含層	1B-10I17	IV	珠洲焼	片口鉢		—	(11.0)	(4.0)	—	—	石・白凝		5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	摩耗により不明瞭	糸切	—	15/36	10/36	
41	32	239	包含層	1C-8A6	IV	珠洲焼	大甕		—	—	(5.8)	—	—	石・白凝		5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
41	32	240	包含層	1C-8A8	IV	珠洲焼	甕		—	—	(3.4)	—	—	石		5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
41	32	241	包含層	2B-1I6	III	青磁	椀		—	—	(2.7)	—	—			7.5GY7/1 明緑灰	7.5GY7/1 明緑灰	還元				—	—	1/36	
41	32	242	包含層	2B-4F16	III	珠洲焼	甕		—	—	(2.0)	—	—	石・焼土粒		7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	

別表 4 石製品観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	注記	出土位置			種別	石材	法量 (mm. g)				時代	備考
				遺構	グリッド	層位			法量					
									長さ	幅	厚さ	重量		
42	27・33	1	12 日水・2B-2G18. Ⅲ層	包含層	2B-2G18	Ⅲ	石製紡錘車	滑石	42.2	28.5	15.9	20.80	古墳	
42	33	2	12 日水・1C-8A25. V層	包含層	1C-8A25	V	凝灰岩	安山岩	129.0	78.5	55.0	782.34	古墳	
42	33	3	12 日水・SD3. 1B-10J9. 4層	SD3	1B-10J9	4	凝灰岩	凝灰岩	28.0	61.0	34.5	44.07	平安	
42	33	4	12 日水・SD3. 1C-8A16. 2層	SD3	1C-8A16	2	凝灰岩	凝灰岩	104.4	74.8	68.5	436.44	平安	
42	33	5	12 日水・SD3. 1C-9A1. 3層	SD3	1C-9A1	3	凝灰岩	花崗岩	94.9	93.3	35.3	203.74	平安	
42	33	6	12 日水・SD3. 1B-9J25. 3層	SD3	1B-9J25	3	凝灰岩	凝灰岩	20.0	18.6	5.7	3.25	平安	
42	33	7	12 日水・SD3. 1C-8A16. 2層	SD3	1C-8A16	2	軽石製石製品	軽石	72.8	74.4	52.5	114.94	平安	
42	33	8	12 日水・SD2. 1C-9A16. 3層	SD2	1C-9A16	3	凝灰岩	チャート	122.3	81.7	47.5	630.11	平安	
43	33	9	12 日水・SD5. 1C-8A18. 3層	SD5	1C-8A18	3	凝灰岩	凝灰岩	47.9	27.0	26.8	33.93	平安	
43	33	10	12 日水・SK36. 1C-8A7. 1層	SK36	1C-8A7	1	凝灰岩	花崗岩	71.0	47.3	21.5	116.81	平安	
43	33	11	12 日水・SK7. 1C-8A20. 9層	SK7	1C-8A20	9	軽石製石製品	軽石	69.0	72.5	73.5	150.88	平安	
43	33	12	12 日水・1C-8A16. IV層	包含層	1C-8A16	IV	凝灰岩	凝灰岩	94.9	68.5	22.0	149.53	平安	
43	33	13	12 日水・1B-10I17. カクラン	攪乱	1B-10I17	—	軽石製石製品	軽石	56.5	39.3	28.0	30.48	平安	
43	33	14	12 日水・1B-10J2. カクラン	攪乱	1B-10J2	—	凝灰岩	凝灰岩	30.5	29.5	1.2	8.37	平安	
43	33	15	12 日水・1B-10J13. IV層	包含層	1B-10J13	IV	花崗岩	花崗岩	117.3	60.4	48.5	434.64	平安	
43	33	16	12 日水・2B-1H21. Ⅲ層	包含層	2B-1H21	Ⅲ	軽石製石製品	軽石	45.5	42.7	26.5	14.08	平安	
43	33	17	12 日水・2B-1H24. カクラン	攪乱	2B-1H24	—	凝灰岩	緑色凝灰岩	57.0	41.0	14.5	36.50	平安	
43	33	18	12 日水・2B-1I1. Ⅲ層	包含層	2B-1I1	Ⅲ	凝灰岩	砂岩	26.6	19.8	14.5	9.08	平安	
43	33	19	12 日水・2B-1J1. IV層	包含層	2B-1J1	IV	台石	安山岩	101.3	99.7	99.0	748.74	平安	
43	33	20	12 日水・2B-3G6. IV層	包含層	2B-3G6	IV	凝灰岩	ホルンフェルス	122.5	56.8	22.4	228.96	平安	転用凝灰石
		21	12 日水・SD2. 1C-8A22. 1層	SD2	1C-8A22	1	軽石製石製品	軽石	24.5	21.4	12.8	4.14	平安	未掲載 (法量のみ)
		22	12 日水・SD2. 1C-9A1. 4層	SD2	1C-9A1	4	軽石製石製品	軽石	28.7	19.4	13.5	4.81	平安	未掲載 (法量のみ)
		23	12 日水・2B-1H10	SD55	2B-1H10	3	軽石製石製品	軽石	25.4	25.1	13.3	3.79	平安	未掲載 (法量のみ)
		24	12 日水	SD86	2B-1H8	3	軽石製石製品	軽石	23.0	16.1	7.9	0.53	平安	未掲載 (法量のみ)
		25	12 日水	SD124	2B-5D12	2	軽石製石製品	軽石	18.6	18.4	10.1	2.96	平安	未掲載 (法量のみ)
		26	12 日水・1C-9A5. IV層	包含層	1C-9A5	IV	軽石製石製品	軽石	15.5	9.8	7.4	0.34	平安	未掲載 (法量のみ)
		27	12 日水・1B-10H25	包含層	1B-10H25	Ⅲ	軽石製石製品	軽石	9.1	5.1	6.2	1.07	平安	未掲載 (法量のみ)
		28	12 日水	包含層	1B-10H25	Ⅲ	軽石製石製品	軽石	16.6	12.1	8.0	0.90	平安	未掲載 (法量のみ)
		29	12 日水	包含層	2B-1G25	Ⅲ	軽石製石製品	軽石	8.4	12.6	6.1	0.36	平安	未掲載 (法量のみ)
		30	12 日水・2B-3F22. IV層	包含層	2B-3F22	IV	軽石製石製品	軽石	35.0	30.3	16.1	4.79	平安	未掲載 (法量のみ)

別表 5 土製品観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	法量 (cm)				胎土	色調		焼成	手法			遺存率 / 全体	備考
			遺構	グリッド	層位			法量					外面	内面		外面	内面	底部		
								口径	長軸	底径	短軸									
44	34	1	SX37	1B-8J25	3	土製品	円盤	長: 2.3	短: 1.95	厚: 0.75	石・長・白凝	2.5Y4/1 灰白	10YR5/1 褐灰	還元	タタキメ	あて具痕	1/36	須志器養体部片転用		
44	34	2	SN150	2B-6C6	4	土製品	転用磁石	長: 4.1	短: 2.5	厚: 1.05	石・長・白凝	10Y6/1 灰	10Y4/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕	1/36	須志器養体部片転用 (図版 38-112)		
44	34	3	SN150	2B-6C7	4	土製品	転用磁石	長: 5.5	短: 5.3	厚: 1.5	白凝	5Y 灰	5Y7/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕	1/36	須志器養体部片転用 (図版 38-111)		
44	34	4	包含層	2B-3E23	Ⅲ	土製品	転用磁石	長: 4.0	短: 3.4	厚: 0.85	白凝	5Y7/1 灰	5Y7/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕	1/36	須志器横瓶閉塞板転用 (図版 39-179)		
44	34	5	包含層	1C-8A6	IV	土製品	転用磁石	長: 9.1	短: 6.5	厚: 1.6	石・白凝	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕	1/36	珠洲焼養体部片転用 (図版 41-239)		

別表 6 鍛冶関連遺物観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調		焼成	備考
			遺構	グリッド	層位			法量				外面	内面		
								長さ	外径	孔径					
44	34	6	SD2	1B-10J10	4	土製品	羽口	8.4	8.0	3.6	石・長	2.5Y7/2 灰黄	5YR6/8 橙	酸化	断面六角形
44	34	7	包含層	1C-9A16	IV	土製品	羽口	3.4	7.6	—	石・白凝・白色粒	7.5Y7/6 橙	2.5Y6/1 黄灰	酸化	
44	34	8	包含層	2B-2G5	IV	土製品	羽口	4.1	6.6	3.0	白色粒	5Y3/1 オリーブ黒	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	断面円形
44	34	9	包含層	2B-2G19	Ⅲ	土製品	羽口	5.7	5.0	2.2	長・チャ・白色粒	2.5Y6/2 灰黄	7.5YR8/4 浅黄橙	酸化	断面円形
44	34	10	包含層	2B-2H15	Ⅲ	土製品	羽口	2.9	5.5	2.8	白色粒	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/8 橙	酸化	断面円形
44	34	11	包含層	2B-2H18	Ⅲ	土製品	羽口	4.5	6.8	2.8	石・長・チャ・白色粒	7.5Y8/1 灰白	7.5Y6/6 浅黄橙	酸化	断面八角形
44	34	12	包含層	2B-3H1	Ⅲ	土製品	羽口	2.7	5.4	3.2	石・長・白色粒	2.5Y6/1 灰黄	10YR8/4 浅黄橙	酸化	断面円形
44	34	13	包含層	2B-3H1	Ⅲ	土製品	羽口	5.4	6.0	3.1	石・長・チャ	2.5Y6/1 灰黄	10YR8/4 灰黄橙	酸化	断面円形

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	法量 (cm)			備考
			遺構	グリッド	層位			法量			
								長さ	幅	厚さ	
44	34	14	SD3	1C-8A6	2	鉄製品	棒状製品	3.4	0.8	0.7	断面円形
44	34	15	包含層	2B-1H21	—	鉄製品	板状製品	3.1	2.4	0.6	
44	34	16	包含層	2B-1I6	Ⅲ	鉄製品	釘類	7.2	0.5	0.7	環頭釘・3寸
44	34	17	包含層	2B-3G17	Ⅲ	鉄製品	釘類	3.5	2.0	1.9	留金具力
44	34	18	包含層	2B-4E25	Ⅲ	鉄製品	釘類	4.4	1.0	0.8	両端欠損 形状不明
44	34	19	SD3	1B-9J5	2	鉄滓		5.3	5.0	3.4	
44	34	20	SD5	1C-8A18	3	鉄滓		4.7	3.2	3.0	
44	34	21	SD5	1C-8A18	2	鉄滓	碗形滓	8.3	8.2	2.5	
44	34	22	Pit104	2B-2H5	—	鉄滓		3.6	1.9	1.8	
44	34	23	包含層	2B-1I23	IV	鉄滓	碗形滓	5.0	4.2	2.0	
44	34	24	包含層	2B-2G5	Ⅲ	鉄滓		4.8	3.8	2.1	
44	34	25	包含層	2B-2G19	Ⅲ	鉄滓	碗形滓	4.6	3.7	1.9	
44	34	26	包含層	2B-3G17	Ⅲ	鉄滓		3.0	1.4	1.5	

別表 7 古墳時代土器器種構成率

凡例 1. 古墳時代に所属する遺構には網掛けを行った。

遺構	器種	土 師 器						須恵器 直口壺	不明	合計
		甕	壺	鉢	高杯	器台				
SX1	計測法							0.97: 100.0%		0.97: 100.0%
	口残値							1: 100.0%		1: 100.0%
	口緑数(点)							1.00: 100.0%		1.00: 100.0%
	底残値							1: 100.0%		1: 100.0%
	底部数(点)							2: 100.0%		2: 100.0%
	体部数(点)							507.6: 100.0%		507.6: 100.0%
	総点数(点)									
SD3	口残値							0.03: 100.0%		0.03: 100.0%
	口緑数(点)							1: 100.0%		1: 100.0%
	底残値							0.33: 100.0%		0.33: 100.0%
	底部数(点)							1: 100.0%		1: 100.0%
	体部数(点)	9: 90.0%						1: 10.0%		10: 100.0%
	総点数(点)	9: 75.0%						3: 25.0%		12: 100.0%
	総重量(g)	44.3: 69.3%						19.6: 30.7%		63.9: 100.0%
SD2	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値							0.19: 100.0%		0.19: 100.0%
	底部数(点)							1: 100.0%		1: 100.0%
	体部数(点)	13: 100.0%								13: 100.0%
	総点数(点)	13: 92.9%						1: 7.1%		14: 100.0%
	総重量(g)	96.5: 75.8%						30.8: 24.2%		127.3: 100.0%
SD5	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	2: 28.6%						1: 14.3%		4: 57.1%
	総点数(点)	2: 28.6%						1: 14.3%		4: 57.1%
	総重量(g)	12.7: 9.7%						16.8: 12.8%		131.2: 100.0%
SD9	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	2: 100.0%								2: 100.0%
	総点数(点)	2: 100.0%								2: 100.0%
	総重量(g)	18.0: 100.0%								18.0: 100.0%
SD62	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総点数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総重量(g)	8.3: 100.0%								8.3: 100.0%
SD86	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	3: 100.0%								3: 100.0%
	総点数(点)	3: 100.0%								3: 100.0%
	総重量(g)	37.1: 100.0%								37.1: 100.0%
SD55	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	41: 100.0%								41: 100.0%
	総点数(点)	41: 100.0%								41: 100.0%
	総重量(g)	170.9: 100.0%								170.9: 100.0%
SD81	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	2: 100.0%								2: 100.0%
	総点数(点)	2: 100.0%								2: 100.0%
	総重量(g)	5.8: 100.0%								5.8: 100.0%

遺構	計測法	土 師 器						須恵器 直口壺	不明	合計
		甕	壺	鉢	高杯	器台				
SD59	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	16: 100.0%								16: 100.0%
	総点数(点)	16: 100.0%								16: 100.0%
	総重量(g)	45.6: 100.0%								45.6: 100.0%
SK4	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)	0.14: 100.0%								0.14: 100.0%
	体部数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総点数(点)	12: 100.0%								12: 100.0%
	総重量(g)	75.7: 100.0%								75.7: 100.0%
SK15	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	7: 100.0%								7: 100.0%
	総点数(点)	8: 100.0%								8: 100.0%
	総重量(g)	27.5: 100.0%								27.5: 100.0%
SK57	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	4: 100.0%								4: 100.0%
	総点数(点)	4: 100.0%								4: 100.0%
	総重量(g)	20.7: 100.0%								20.7: 100.0%
SK82	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総点数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総重量(g)	7.4: 100.0%								7.4: 100.0%
SD18	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総点数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総重量(g)	2.9: 100.0%								2.9: 100.0%
SX83	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	2: 100.0%								2: 100.0%
	総点数(点)	3: 100.0%								3: 100.0%
	総重量(g)	18.4: 100.0%								18.4: 100.0%
Pit65	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総点数(点)	1: 100.0%								1: 100.0%
	総重量(g)	2.6: 100.0%								2.6: 100.0%
Pit75	口残値									
	口緑数(点)									
	底残値									
	底部数(点)									
	体部数(点)	4: 100.0%								4: 100.0%
	総点数(点)	4: 100.0%								4: 100.0%
	総重量(g)	28.5: 100.0%								28.5: 100.0%

別表 8 古代土器器種構成率

遺構	器種 計測法	土 師 器				黒 色 土 器		須 恵 器							合 計		
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	長頸壺	短頸壺	横 瓶		杯 蓋	壺 蓋
SD3	口残値				0.58: 84.1%	0.03: 4.3%			0.08: 11.6%								0.69: 100.0%
	口縁数(点)				6: 54.5%	1: 9.1%			4: 36.4%								11: 100.0%
	底残値				0.83: 34.7%				1.56: 65.3%								2.39: 100.0%
	底部数(点)				4: 40.0%				6: 60.0%								10: 100.0%
	体部数(点)	31: 26.0%		49: 41.2%	20: 16.8%	10: 8.4%			4: 3.4%		2: 1.7%		1: 0.8%		2: 1.7%		119: 100.0%
	総点数(点)	31: 22.2%		49: 35.0%	30: 21.4%	11: 7.9%			14: 10.0%		2: 1.4%		1: 0.7%		2: 1.4%		140: 100.0%
総重量(g)	61.6: 9.0%		130.6: 19.0%	95.5: 13.9%	39.8: 5.8%			95.1: 13.8%		174.3: 25.3%		74.3: 10.8%		16.3: 2.4%		687.5: 100.0%	
SD2	口残値	0.06: 21.4%	0.06: 21.4%	0.08: 28.6%				0.08: 28.6%									0.28: 100.0%
	口縁数(点)	1: 16.7%	2: 33.3%	1: 16.7%				2: 33.3%									6: 100.0%
	底残値			0.14: 100.0%													0.14: 100.0%
	底部数(点)			1: 100.0%													1: 100.0%
	体部数(点)	12: 17.9%		38: 56.7%	12: 17.9%				2: 3.0%	1: 1.5%	2: 3.0%						67: 100.0%
	総点数(点)	13: 17.6%		40: 54.0%	14: 18.9%				4: 5.4%	1: 1.4%	2: 2.7%						74: 100.0%
総重量(g)	8.7: 3.5%		114.1: 46.7%	39.2: 16.0%				8.0: 3.3%	0.9: 0.4%	73.5: 30.1%						244.4: 100.0%	
SD13	口残値																
	口縁数(点)	0.33: 100.0%															0.33: 100.0%
	底残値	2: 100.0%															2: 100.0%
	底部数(点)	1: 50.0%		1: 50.0%													2: 100.0%
	体部数(点)	3: 75.0%		1: 25.0%													4: 100.0%
	総重量(g)	17.5: 74.5%		6.0: 25.5%													23.5: 100.0%
SD5	口残値					0.06: 100.0%											0.06: 100.0%
	口縁数(点)					1: 100.0%											1: 100.0%
	底残値	0.08: 57.1%									0.06: 42.9%						0.14: 100.0%
	底部数(点)	1: 50.0%									1: 50.0%						2: 100.0%
	体部数(点)	4: 30.8%		5: 38.5%		4: 30.7%											13: 100.0%
	総重量(g)	82.7: 60.0%		17.2: 12.5%		30.0: 21.8%							1: 6.3%				137.9: 100.0%
SD9	口残値			0.08: 100.0%													0.08: 100.0%
	口縁数(点)			1: 100.0%													1: 100.0%
	底残値	0.08: 100.0%															0.08: 100.0%
	底部数(点)	1: 100.0%															1: 100.0%
	体部数(点)	3: 37.5%		2: 25.0%	1: 12.5%		1: 12.5%				1: 12.5%						8: 100.0%
	総重量(g)	8.9: 16.5%		31.2: 58.0%	0.6: 1.1%		6.6: 12.2%				6.5: 12.1%						53.8: 100.0%
SD29	口残値					0.03: 100.0%											0.03: 100.0%
	口縁数(点)					1: 100.0%											1: 100.0%
	底残値																0
	底部数(点)																1: 100.0%
	体部数(点)								1: 100.0%								2: 100.0%
	総重量(g)								18.2: 100.0%								18.2: 100.0%
SD62	口残値							0.03: 100.0%									0.03: 100.0%
	口縁数(点)							1: 100.0%									1: 100.0%
	底残値	0.03: 100.0%															0.03: 100.0%
	底部数(点)	1: 100.0%															1: 100.0%
	体部数(点)	1: 100.0%															1: 100.0%
	総重量(g)	2.6: 74.3%							0.9: 25.7%								3.5: 100.0%
SD86	口残値																
	口縁数(点)																
	底残値																
	底部数(点)																2: 100.0%
	体部数(点)			2: 100.0%													2: 100.0%
	総重量(g)			2.3: 100.0%													2.3: 100.0%
SD55	口残値																
	口縁数(点)																
	底残値	0.08: 100.0%															0.08: 100.0%
	底部数(点)	1: 100.0%															1: 100.0%
	体部数(点)	18: 58.1%		1: 3.2%	11: 35.5%								1: 3.2%				31: 100.0%
	総重量(g)	17.4: 31.5%		4.3: 7.8%	10.1: 18.3%								23.4: 42.4%				55.2: 100.0%
SD81	口残値																
	口縁数(点)																
	底残値																
	底部数(点)	3: 100.0%															3: 100.0%
	体部数(点)	3: 100.0%															3: 100.0%
	総重量(g)	2.6: 100.0%															2.6: 100.0%

遺構	器種 計測法	土 師 器					黒 色 土 器		須 恵 器					合 計					
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	須 恵 器		短頸壺	横 瓶	杯 蓋	壺 蓋	
SD59	口残值																	0.03	100.0%
	口縁数(点)									0.03	100.0%							1	100.0%
	底残值									1	100.0%								
	底部数(点)																		
	体部数(点)	3	75.0%								1	25.0%							4
総点数(点)	3	60.0%								1	20.0%							5	100.0%
総重量(g)	1.3	23.6%								1.8	32.7%							5.5	100.0%
SD149	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	5	83.3%								1	16.7%							6
総点数(点)	5	83.3%								1	16.7%							6	100.0%
総重量(g)	4.0	85.1%								0.7	14.9%							4.7	100.0%
SK4	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)										5	100.0%							5
総点数(点)										5	100.0%							5	100.0%
総重量(g)										1.8	100.0%							1.8	100.0%
SK36	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	2	100.0%																2
総点数(点)	2	100.0%																2	100.0%
総重量(g)	2.6	100.0%																2.6	100.0%
SK15	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)			2	100.0%														2
総点数(点)			2	66.7%														3	100.0%
総重量(g)			3.2	38.1%														8.4	100.0%
SK17	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	1	100.0%																1
総点数(点)	1	100.0%																1	100.0%
総重量(g)	1.3	100.0%																1.3	100.0%
SK8	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	1	100.0%																1
総点数(点)	1	100.0%																1	100.0%
総重量(g)	0.2	100.0%																0.2	100.0%
SK7	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	2	11.8%																17
総点数(点)	2	10.0%			15	88.2%												20	100.0%
総重量(g)	1.9	2.2%			71.6	83.1%												86.2	100.0%
SK10	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	4	100.0%																4
総点数(点)	4	100.0%																4	100.0%
総重量(g)	2.5	100.0%																2.5	100.0%
SK57	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)										1	100.0%							1
総点数(点)										1	100.0%							1	100.0%
総重量(g)										0.7	100.0%							0.7	100.0%
SK84	口残值																		
	口縁数(点)																		
	底残值																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)										3	100.0%							3
総点数(点)										3	100.0%							3	100.0%
総重量(g)										6.5	100.0%							6.5	100.0%

造構	器種 計測法	土 師 器				黒 色 土 器		須 患 器					合 計															
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	銅	鉢	無台杯	有台杯	大 甕	須 患 器 長頸壺	短頸壺		横 瓶	杯 蓋	壺 蓋												
SK198	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)							1	50.0%												2	100.0%						
	總点数(点)							1	50.0%												2	100.0%						
SN130	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	1	100.0%					0.25	100.0%													1	100.0%					
	總点数(点)	1	33.3%					1	100.0%													1	100.0%					
SD133	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	5	100.0%																				5	100.0%				
	總点数(点)	5	100.0%																				5	100.0%				
SD135	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	2	100.0%																					2	100.0%			
	總点数(点)	2	100.0%																					2	100.0%			
SD136	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値	0.06	100.0%																						0.06	100.0%		
	底部数(点)	1	100.0%																						1	100.0%		
	体部数(点)	1	100.0%																						1	100.0%		
	總点数(点)	2	100.0%																						2	100.0%		
SD139	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)																											
	總点数(点)																											
SD140	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	7	100.0%																							7	100.0%	
	總点数(点)	7	100.0%																							7	100.0%	
SD141	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	2	50.0%																							2	50.0%	
	總点数(点)	2	50.0%																							2	50.0%	
SD144	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	1	50.0%																								1	50.0%
	總点数(点)	1	50.0%																								1	50.0%
SD145	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	2	100.0%																								2	100.0%
	總点数(点)	2	100.0%																								2	100.0%
SD205	口残値																											
	口縁数(点)																											
	底残値																											
	底部数(点)																											
	体部数(点)	2	100.0%																								2	100.0%
	總点数(点)	2	100.0%																								2	100.0%

遺構	器種 計測法	土 師 器								黒 色 土 器		須 恵 器						合 計					
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	須 長頸壺	短頸壺	横 瓶	杯 蓋	壺 蓋						
SD208	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)	2	100.0%															2	100.0%				
	總点数(点)	2	100.0%															2	100.0%				
總重量(g)	6.2	100.0%															6.2	100.0%					
SN112	口残値									0.06	100.0%							0.06	100.0%				
	口緑数(点)									2	100.0%							2	100.0%				
	底残値			1	80.0%					0.25	20.0%							1.25	100.0%				
	底部数(点)			1	33.3%					2	66.7%							3	100.0%				
	体部数(点)	17	80.9%			1	4.8%		1	4.8%	2	9.5%						21	100.0%				
	總点数(点)	17	65.4%			1	3.8%		1	3.8%	2	7.7%						26	100.0%				
總重量(g)	24.2	33.6%			18.0	25.0%			4.4	6.1%	2.3	3.2%					7.8	10.8%	15.2	21.1%			
SD114	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)										2	100.0%							2	100.0%			
	總点数(点)										2	100.0%								2	100.0%		
總重量(g)										3.0	100.0%								3.0	100.0%			
SD115	口残値			0.03	21.4%																		
	口緑数(点)			1	25.0%																		
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)																						
	總点数(点)										1	14.3%											
總重量(g)										12.5	36.8%												
SD116	口残値	0.14	100.0%																				
	口緑数(点)	3	100.0%																				
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)	5	100.0%																				
	總点数(点)	8	100.0%																				
總重量(g)	19.0	100.0%																					
SD117	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)	4	100.0%																				
	總点数(点)	4	100.0%																				
總重量(g)	11.4	100.0%																					
SN129	口残値			0.06	100.0%																		
	口緑数(点)			1	100.0%																		
	底残値	0.14	21.9%																				
	底部数(点)	1	25.0%																				
	体部数(点)	7	46.6%			3	20.0%			3	20.0%												
	總点数(点)	8	40.0%			4	20.0%			5	25.0%												
總重量(g)	38.3	13.2%			141.6	48.9%			52.6	18.1%													
SD120	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)																						
	總点数(点)										1	100.0%											
總重量(g)										123.2	100.0%												
SD121	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)	1	100.0%																				
	總点数(点)	1	100.0%																				
總重量(g)	0.6	100.0%																					
SD123	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)	1	50.0%								1	50.0%											
	總点数(点)	1	50.0%								1	50.0%											
總重量(g)	1.2	12.5%								8.4	87.5%												
SD124	口残値																						
	口緑数(点)																						
	底残値																						
	底部数(点)																						
	体部数(点)																						
	總点数(点)										2	100.0%											
總重量(g)										0.5	100.0%												

遺構	器種 計測法	土 師 器						黒 色 土 器		須 恵 器						合 計		
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	須 長頸壺	須 短頸壺	横 瓶		杯 蓋	壺 蓋
SD128	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)	5	83.3%								1	16.7%						
	總点数(点)	5	83.3%								1	16.7%						
總重量(g)	6.3	52.9%								5.6	47.1%							
SN150	口残值	0.14	100.0%															
	口緑数(点)	2	100.0%															
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)	4	28.6%		1	7.1%		4	28.5%		2	14.3%						
	總点数(点)	6	37.4%		1	6.3%		4	25.0%		2	12.5%				3	21.4%	
總重量(g)	13.8	5.8%		24.0	10.1%		14.6	6.1%		91.9	38.5%				3	18.8%		
SD151	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值										0.06	100.0%						
	底部数(点)										1	100.0%						
	体部数(点)																	
	總点数(点)										1	100.0%						
總重量(g)										16.0	100.0%							
SD153	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)										2	100.0%						
	總点数(点)										2	100.0%						
總重量(g)										4.3	100.0%							
SD156	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)																	
總重量(g)																		
SD157	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)																	
總重量(g)																		
SD158	口残值	0.03	100.0%															
	口緑数(点)	1	100.0%															
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)	1	100.0%															
總重量(g)	1.4	100.0%																
SD161	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)																	
總重量(g)																		
SD163	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)																	
總重量(g)																		
SX37	口残值	0.06	12.5%															
	口緑数(点)	1	20.0%															
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)	1	1.3%															
總重量(g)	1.0	0.4%																
SX107	口残值																	
	口緑数(点)																	
	底残值																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)																	
總重量(g)																		

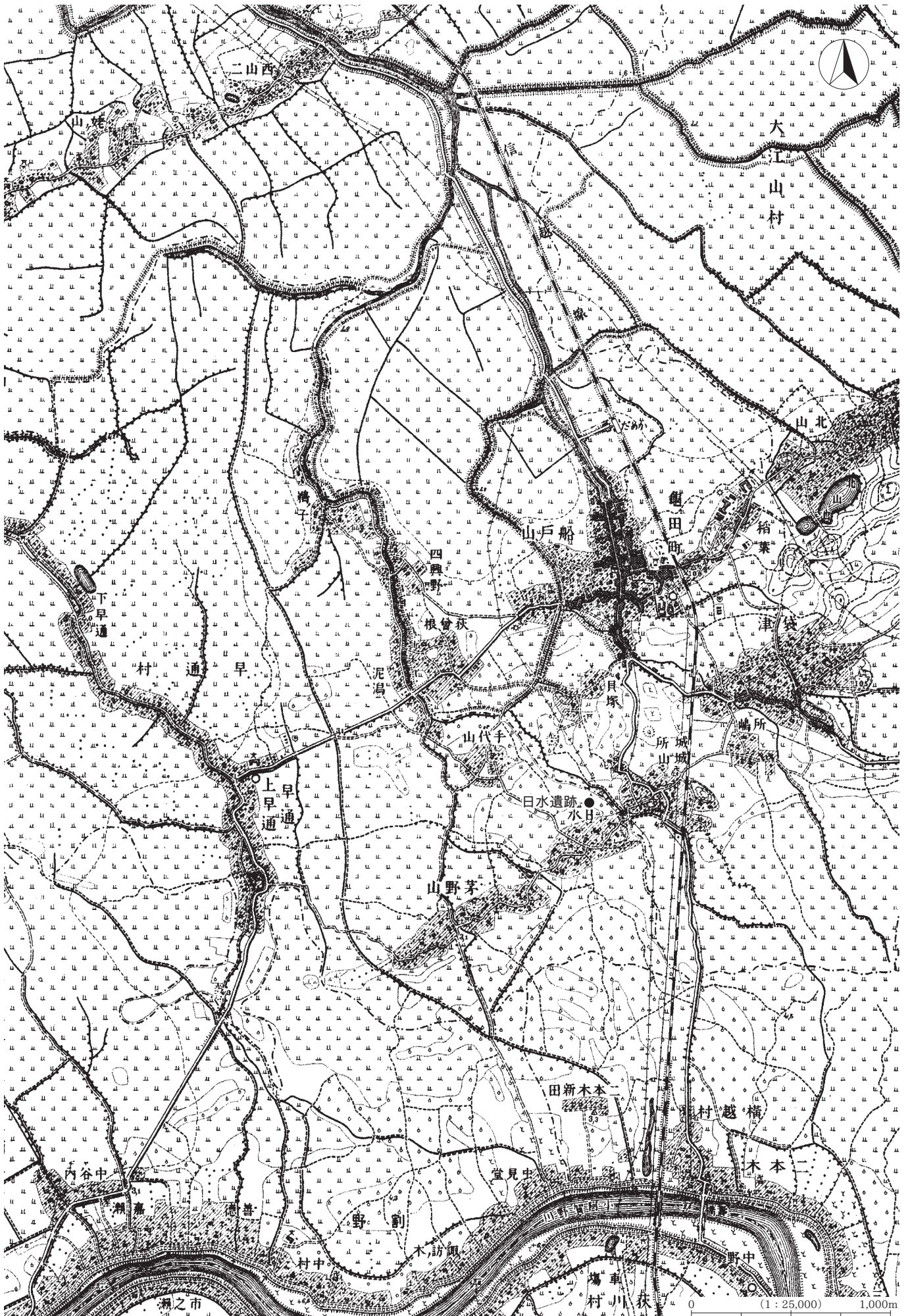
遺構	器種 計測法	土 師 器					黒 色 土 器		須 恵 器					合 計				
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	須 恵 器		短頸壺	横 瓶	杯 蓋	壺 蓋
SX177	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値	0.11: 100.0%																0.11: 100.0%
	底部数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
	体部数(点)	3: 100.0%																3: 100.0%
	總点数(点)	4: 100.0%																4: 100.0%
總重量(g)	16.5: 100.0%																16.5: 100.0%	
Pit21	口残値	0.03: 100.0%																0.03: 100.0%
	口縁数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
總重量(g)	0.9: 100.0%																0.9: 100.0%	
Pit26	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
	總点数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
總重量(g)	0.8: 100.0%																0.8: 100.0%	
Pit24	口残値			0.06: 100.0%														0.06: 100.0%
	口縁数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
總重量(g)			21.3: 100.0%														21.3: 100.0%	
Pit43	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
	總点数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
總重量(g)			6.7: 100.0%														6.7: 100.0%	
Pit69	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
	總点数(点)			1: 100.0%														1: 100.0%
總重量(g)			3.0: 100.0%														3.0: 100.0%	
Pit50	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)						1: 100.0%											1: 100.0%
	總点数(点)						1: 100.0%											1: 100.0%
總重量(g)						1.9: 100.0%											1.9: 100.0%	
Pit101	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)						1: 100.0%											1: 100.0%
總重量(g)						0.9: 100.0%											0.9: 100.0%	
Pit75	口残値	0.03: 100.0%																0.03: 100.0%
	口縁数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)	1: 100.0%																1: 100.0%
總重量(g)	1.1: 100.0%																1.1: 100.0%	
Pit94	口残値									0.03: 100.0%								0.03: 100.0%
	口縁数(点)									1: 100.0%								1: 100.0%
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)										1: 50.0%							2: 100.0%
總重量(g)						5.0: 74.6%				1.7: 25.4%							6.7: 100.0%	
Pit77	口残値																	
	口縁数(点)																	
	底残値																	
	底部数(点)																	
	体部数(点)																	
	總点数(点)										1: 100.0%							1: 100.0%
總重量(g)										1: 100.0%							1.2: 100.0%	

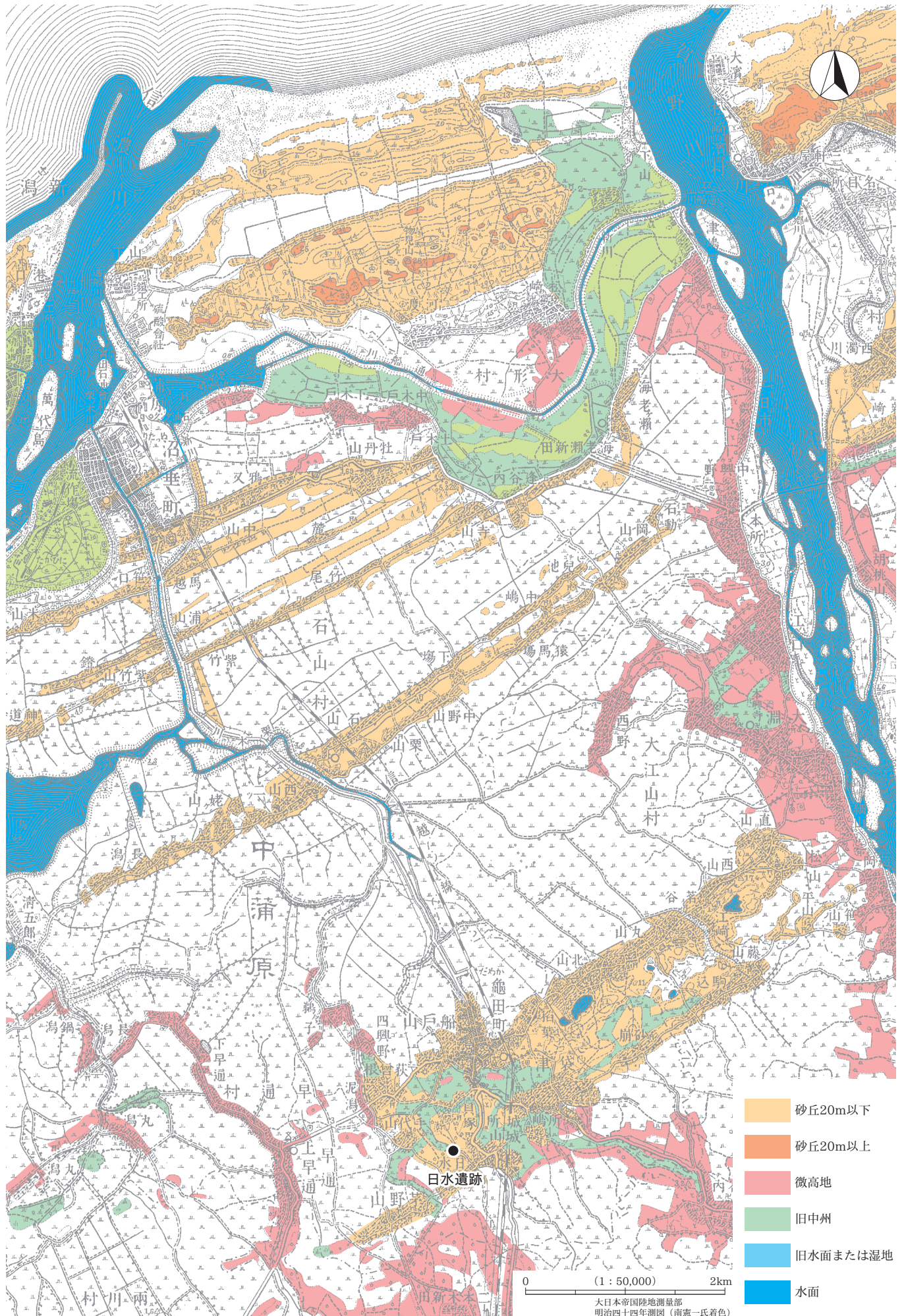
遺構	器種	土 師 器					黒 色 土 器		須 恵 器					合 計					
		無台碗	無台皿	長 甕	小 甕	鉢	鉢	無台碗	有台皿	無台杯	有台杯	大 甕	須 恵 器		短頸壺	横 瓶	杯 蓋	壺 蓋	
Pit105	口残値																		
	口縁数(点)																		
	底残値																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)			1	100.0%													1	100.0%
	總点数(点)			1	100.0%													1	100.0%
總重量(g)			6.1	100.0%													6.1	100.0%	
Pit89	口残値																		
	口縁数(点)																		
	底残値																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)																		
	總点数(点)																	1	100.0%
總重量(g)																	30.6	100.0%	
Pit184	口残値																		
	口縁数(点)																		
	底残値																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	2	100.0%															2	100.0%
	總点数(点)	2	100.0%															2	100.0%
總重量(g)	0.4	100.0%															0.4	100.0%	
Pit182	口残値																		
	口縁数(点)																		
	底残値																		
	底部数(点)																		
	体部数(点)	1	100.0%															1	100.0%
	總点数(点)	1	100.0%															1	100.0%
總重量(g)	2.0	100.0%															2.0	100.0%	

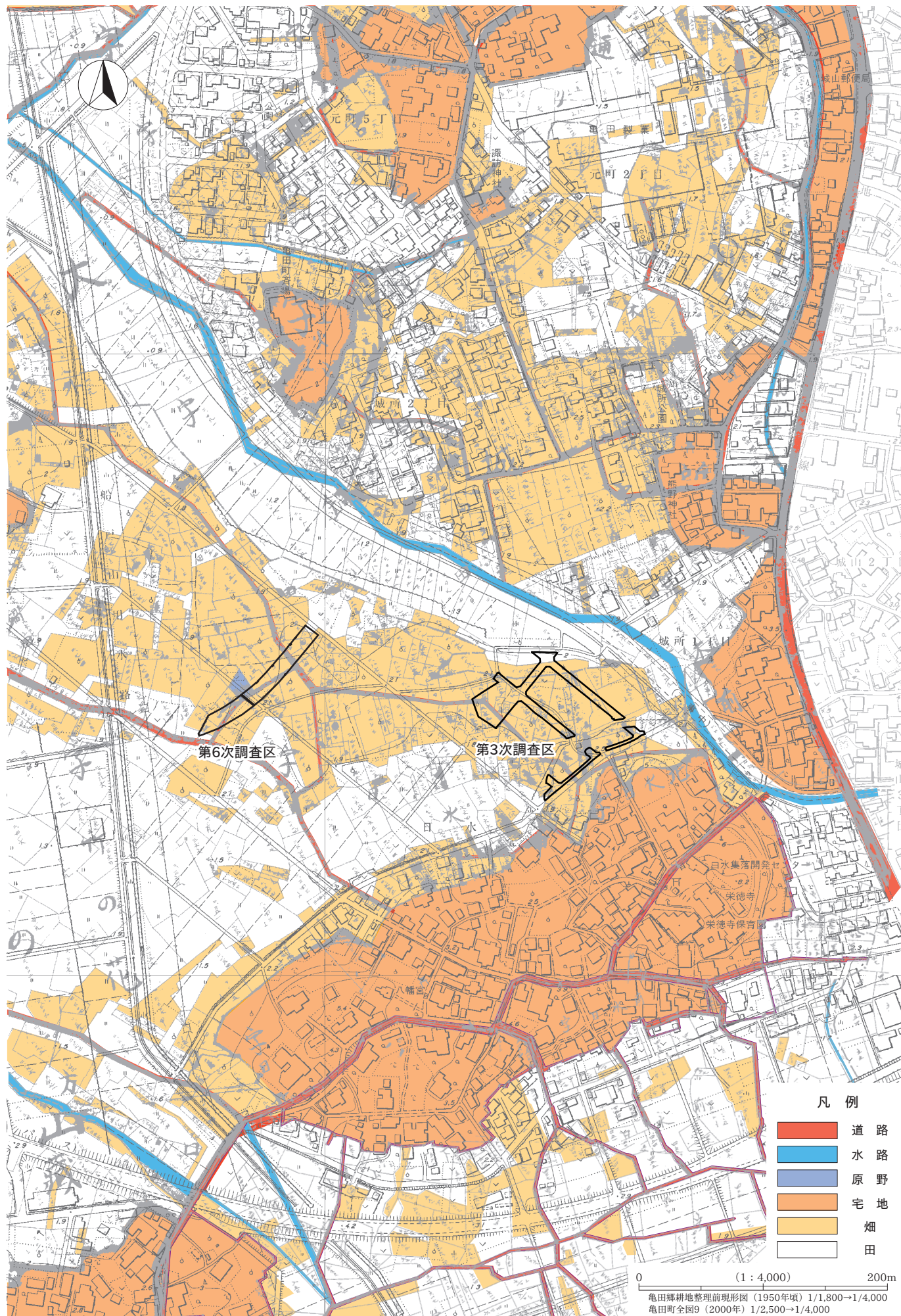
別表 9 遺構別石製品・礫集計表

遺構	種別	石 製 品							搬 入 礫		合 計								
		砥 石	台 石	敲 石	磨 石	軽石製石製品	紡錘車	焼 礫	礫										
SD3	点 数(点)	1	9.0%								6	55.0%	11	100.0%					
	個体数(点)	1	9.0%								6	55.0%	11	100.0%					
	總重量(g)	44.1	3.0%	436.5	35.0%	207.0	17.0%	114.9	9.0%			447.2	36.0%	1249.7	100.0%				
SD2	点 数(点)			1	17.0%			2	33.0%			3	50.0%	6	100.0%				
	個体数(点)			1	17.0%			2	33.0%			3	50.0%	6	100.0%				
	總重量(g)			630.1	73.0%			9.0	1.0%			224.7	26.0%	863.8	100.0%				
SD5	点 数(点)	1	34.0%							1	33.0%	1	33.0%	3	100.0%				
	個体数(点)	1	34.0%							1	33.0%	1	33.0%	3	100.0%				
	總重量(g)	33.9	15.0%							183.1	82.0%	6.6	3.0%	223.6	100.0%				
SD86	点 数(点)							1	100.0%					1	100.0%				
	個体数(点)							1	100.0%					1	100.0%				
	總重量(g)							0.5	100.0%					0.5	100.0%				
SD55	点 数(点)							1	50.0%			1	50.0%	2	100.0%				
	個体数(点)							1	50.0%			1	50.0%	2	100.0%				
	總重量(g)							3.8	2.0%			182.6	98.0%	186.4	100.0%				
SK36	点 数(点)			1	100.0%									1	100.0%				
	個体数(点)			1	100.0%									1	100.0%				
	總重量(g)			116.8	100.0%									116.8	100.0%				
SK7	点 数(点)							1	50.0%			1	50.0%	2	100.0%				
	個体数(点)							1	50.0%			1	50.0%	2	100.0%				
	總重量(g)							150.9	55.0%			123.7	45.0%	274.6	100.0%				
SD124	点 数(点)							1	100.0%					1	100.0%				
	個体数(点)							1	100.0%					1	100.0%				
	總重量(g)							3.0	100.0%					3.0	100.0%				
全体	個体数(点)	2	7.4%	0	0.0%	4	14.8%	1	3.7%	7	25.9%	0	0.0%	1	3.7%	12	44.4%	27	100.0%
總重量(g)	78.0	2.7%	0	0.0%	1387.1	47.5%	3.3	0.1%	282.1	9.7%	0	0.0%	183.1	6.3%	984.8	33.8%	2918.3	100.0%	

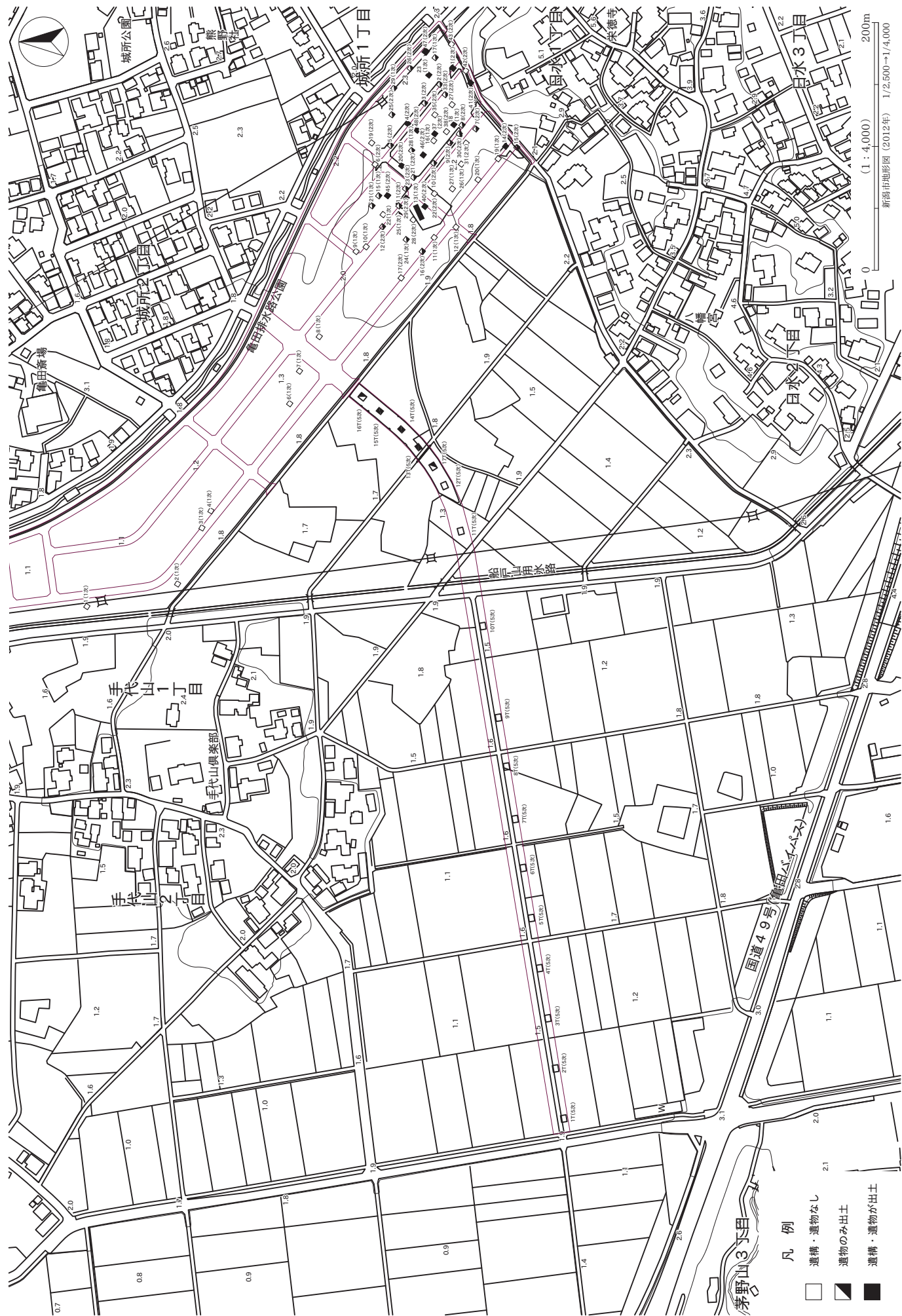
圖 版



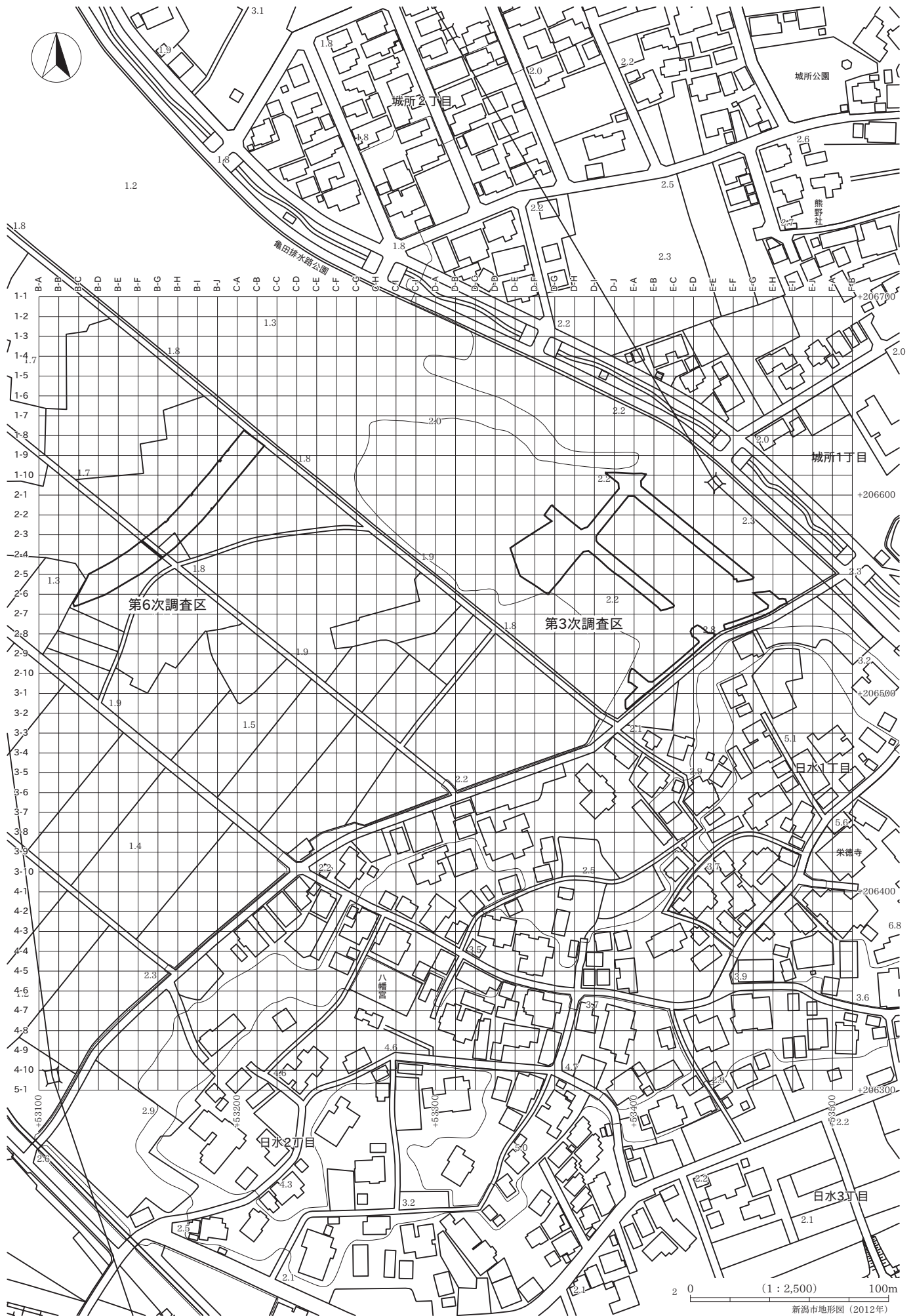


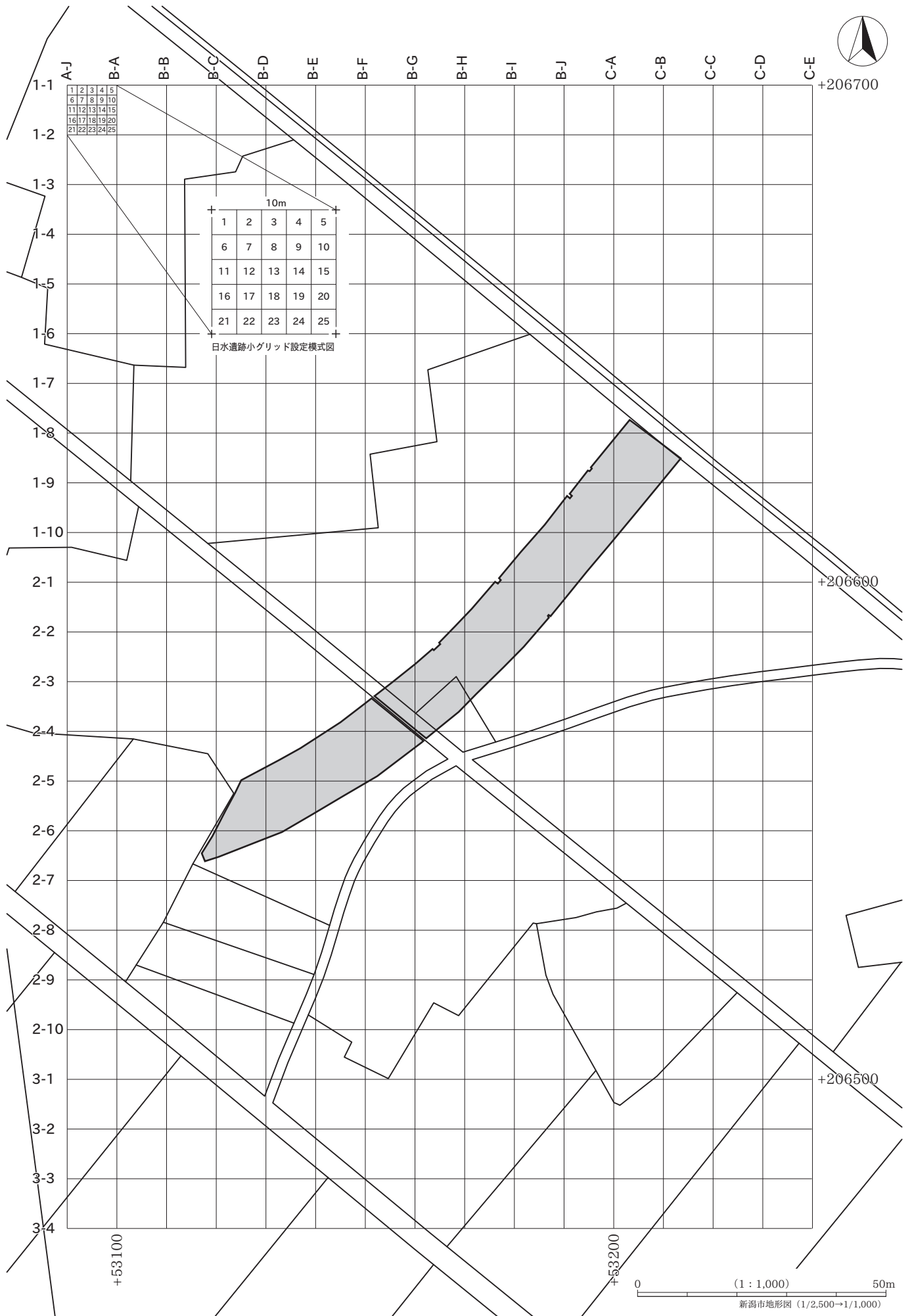


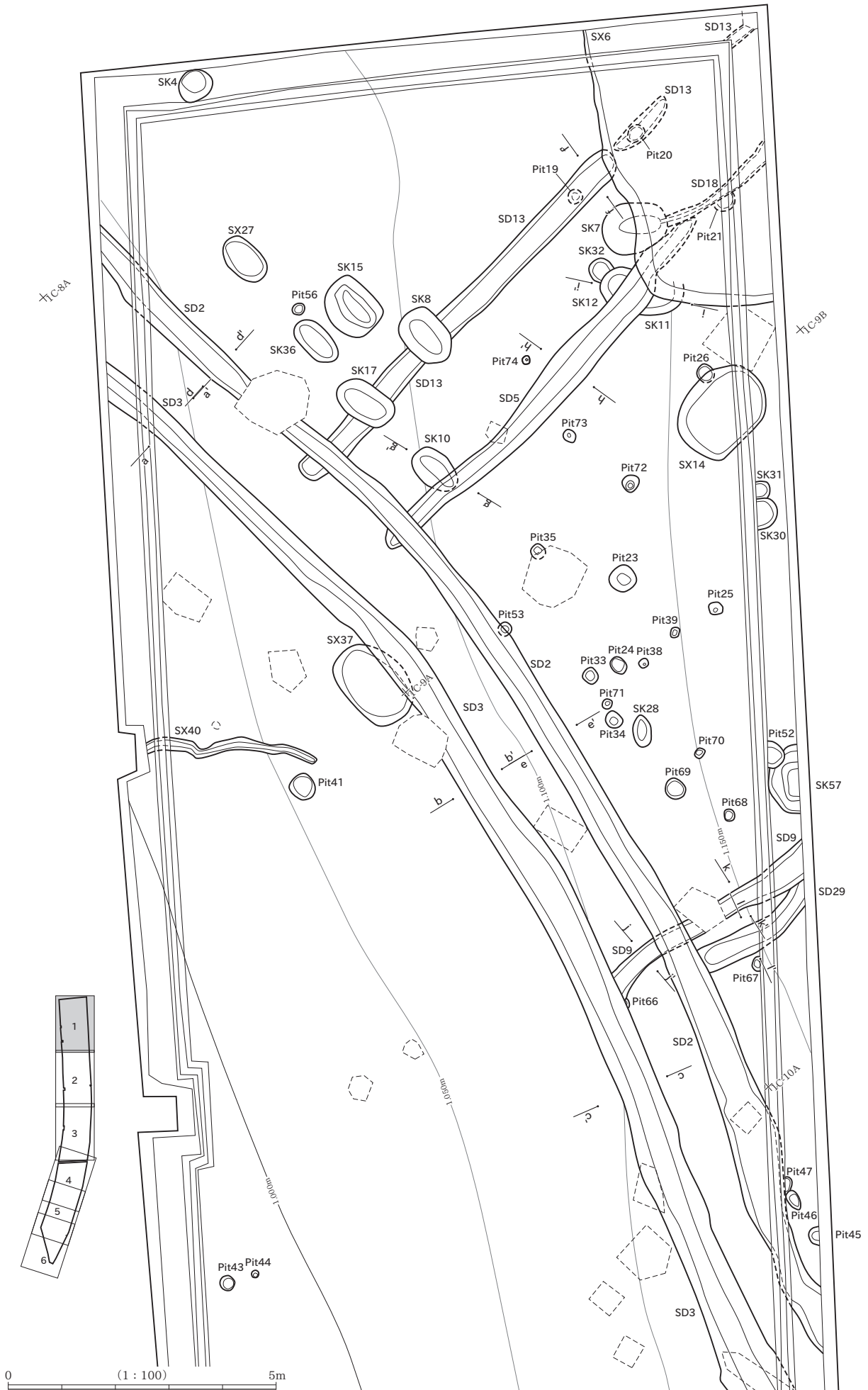


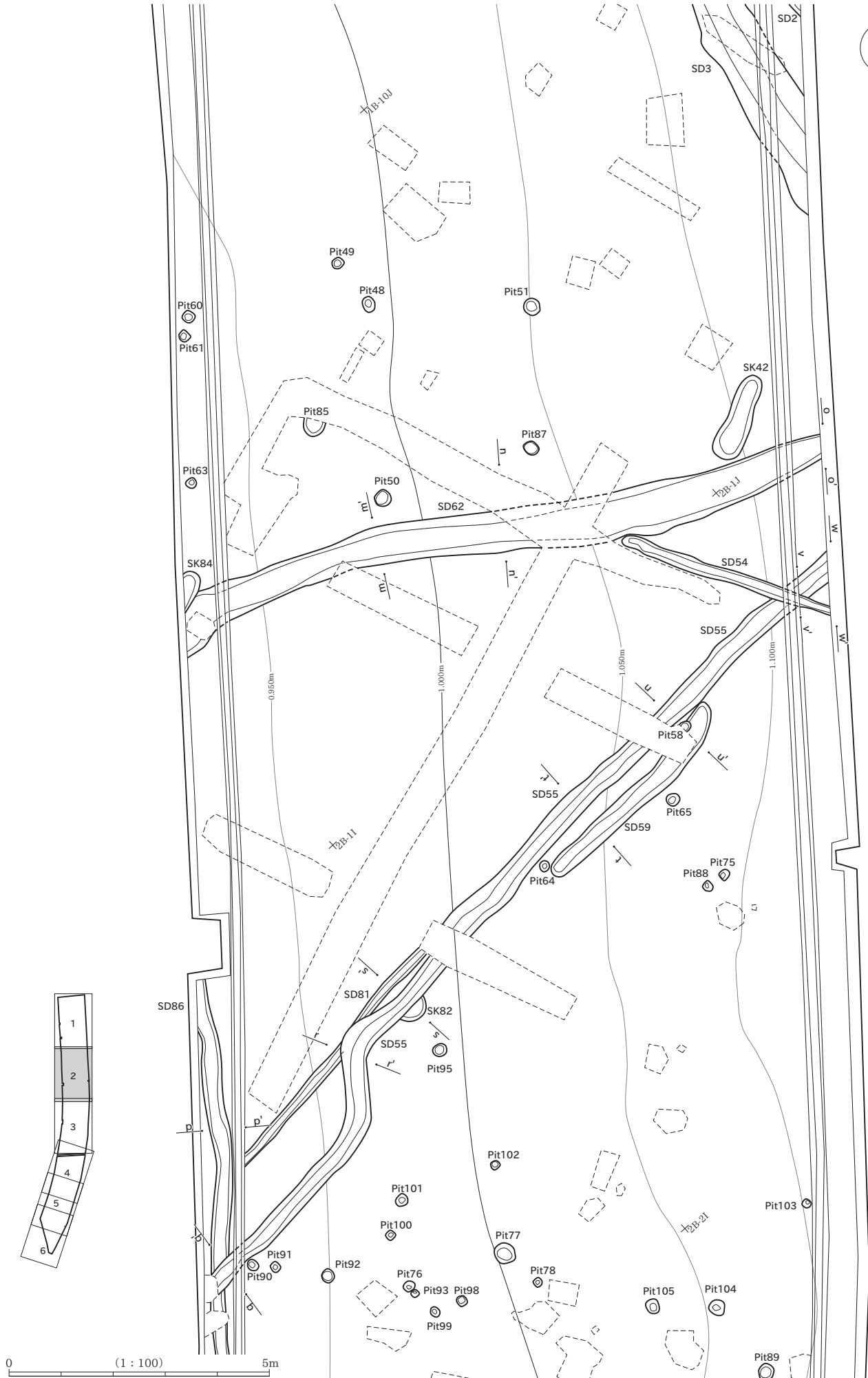


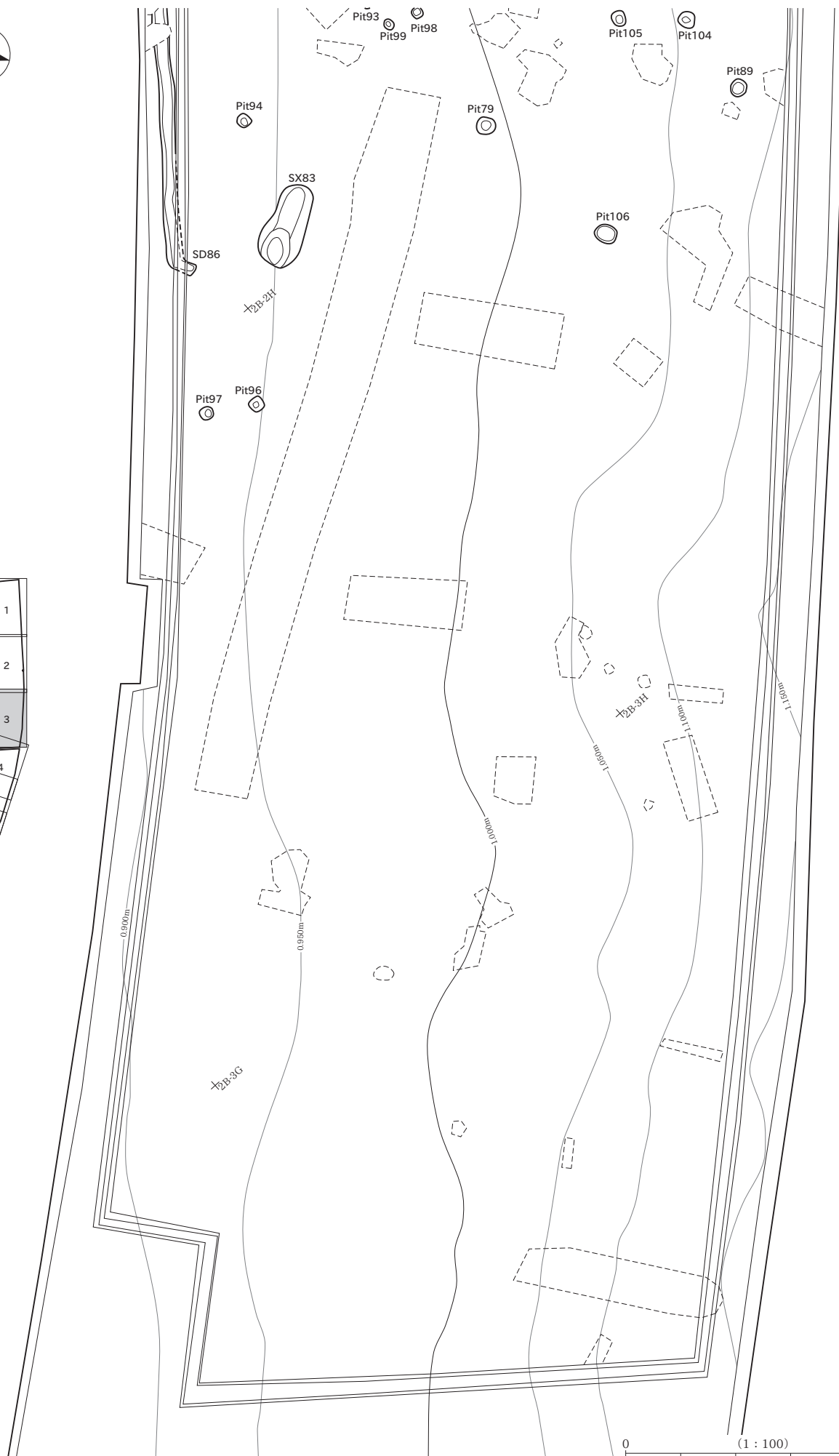
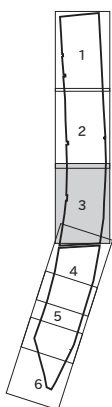
- 凡例
- 遺構・遺物なし
 - ◻ 遺物のみ出土
 - 遺構・遺物が出土

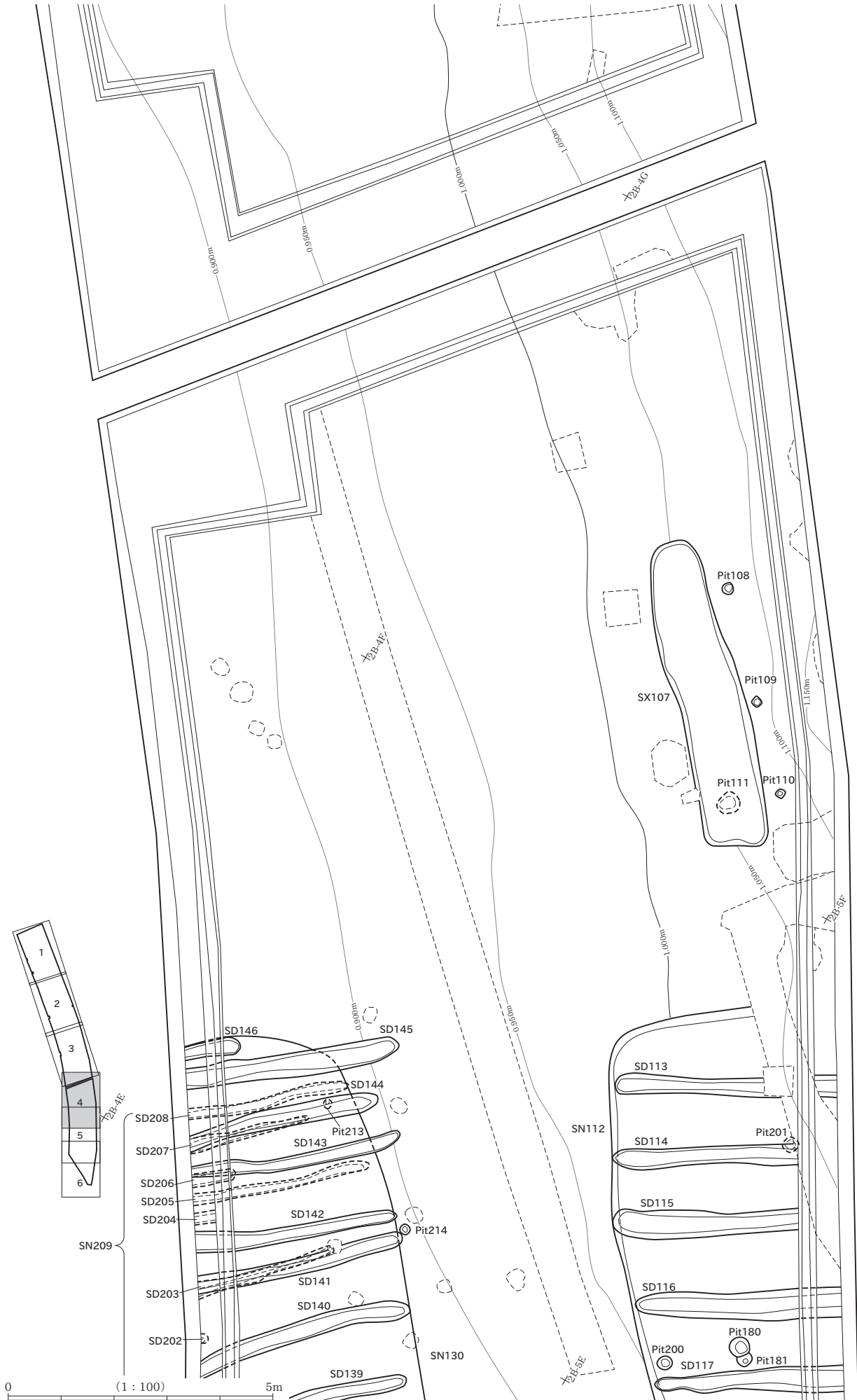


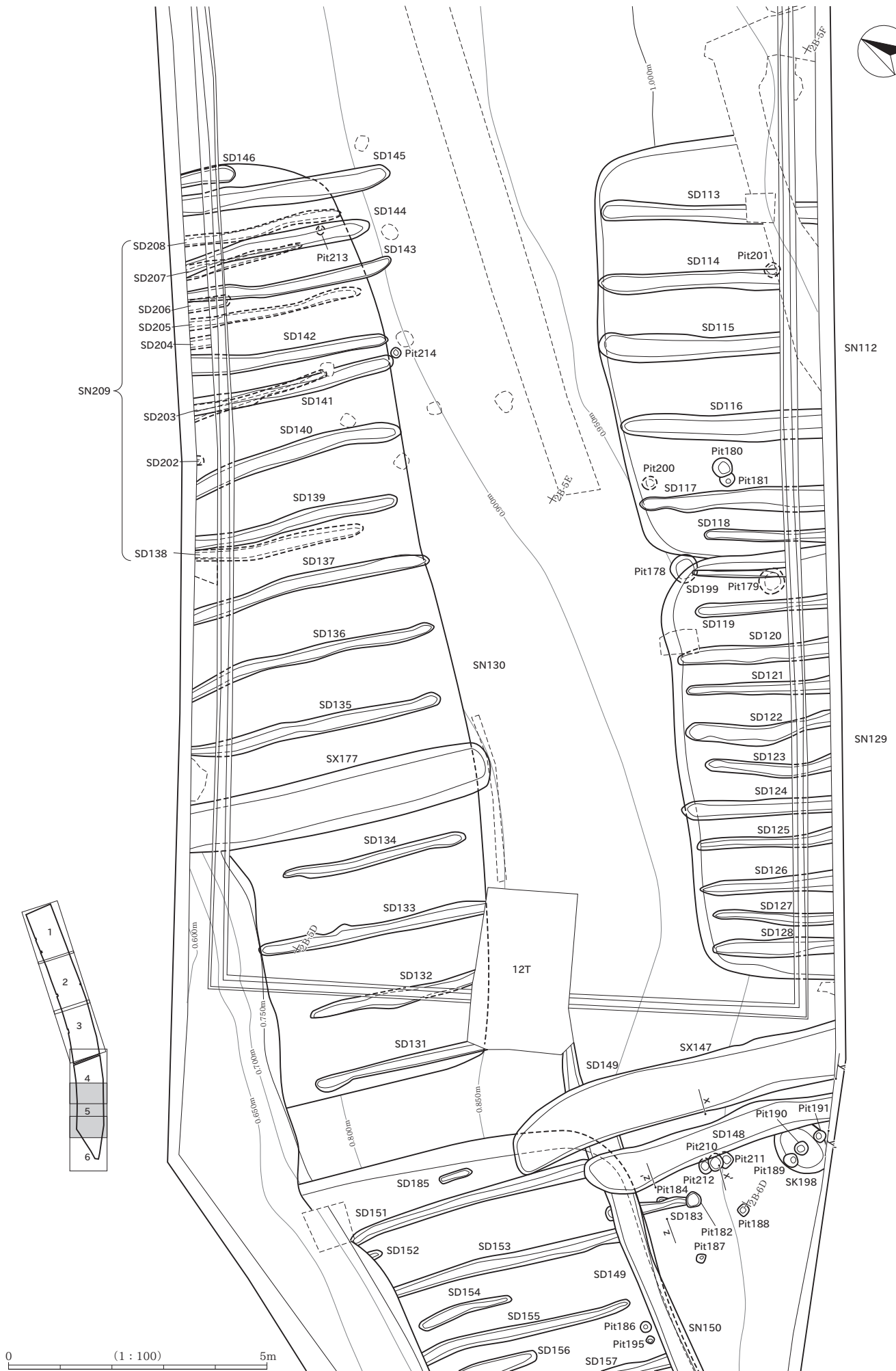


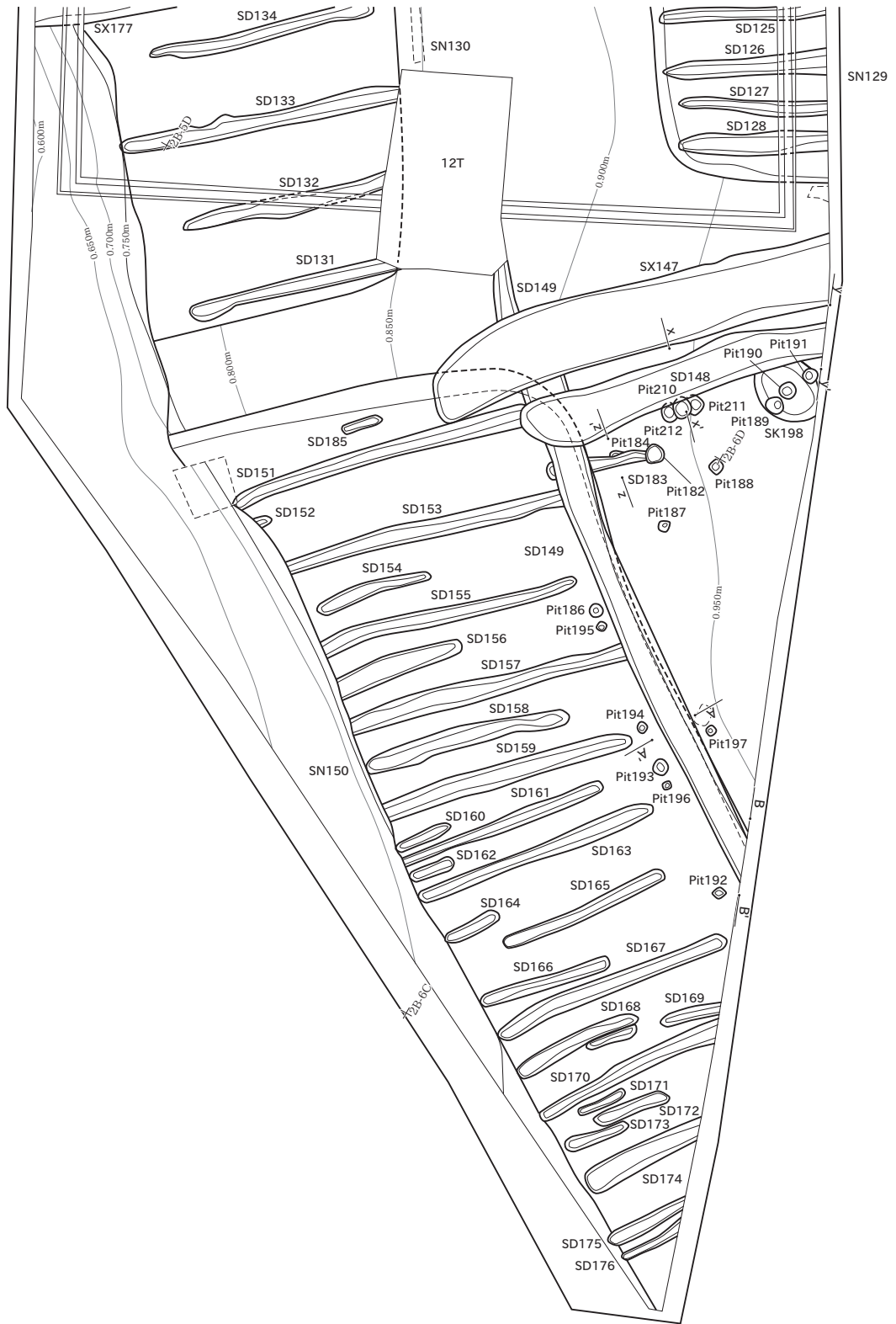






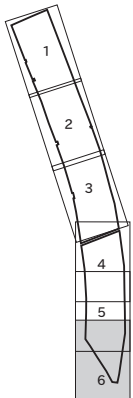




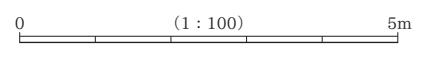


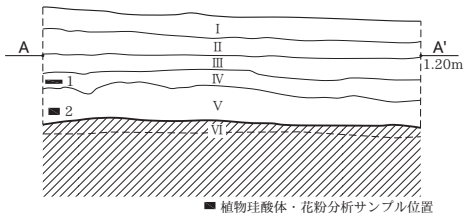
Z-Z

Z-Z

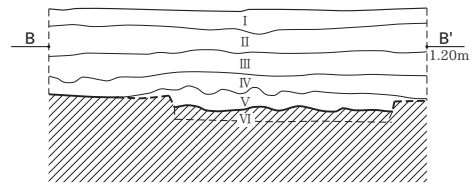


Z-Z

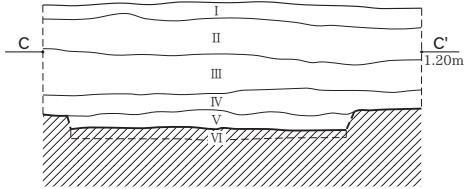




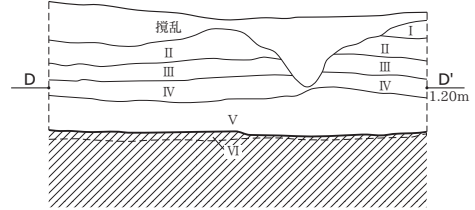
1C-7A17・18・24 (北東壁)



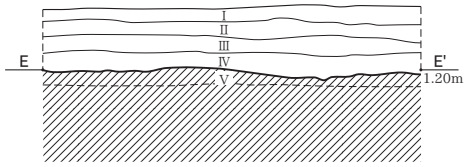
1C-8A25, 9A4・5 (南東壁)



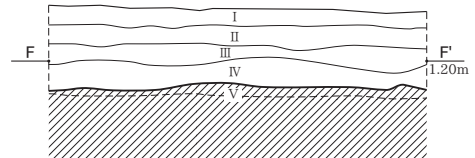
1B-10J5, 1C-9A21, 10A1 (南東壁)



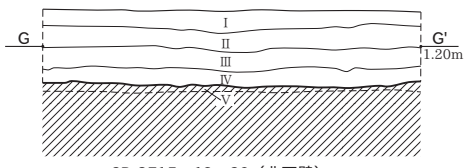
2B-2 | 2・6・7 (南東壁)



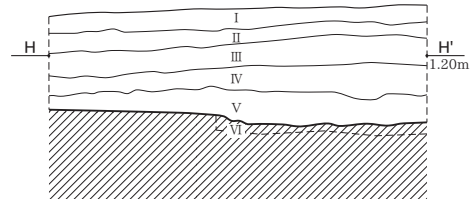
2B-4F10・14・15, 4G6 (南東壁)



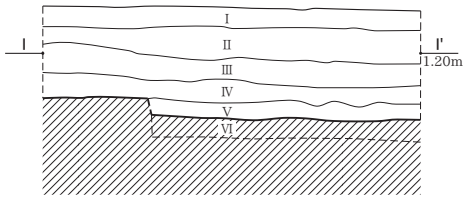
2B-6D1・2 (南東壁)



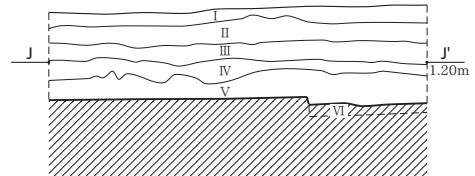
2B-3E15・19・20 (北西壁)



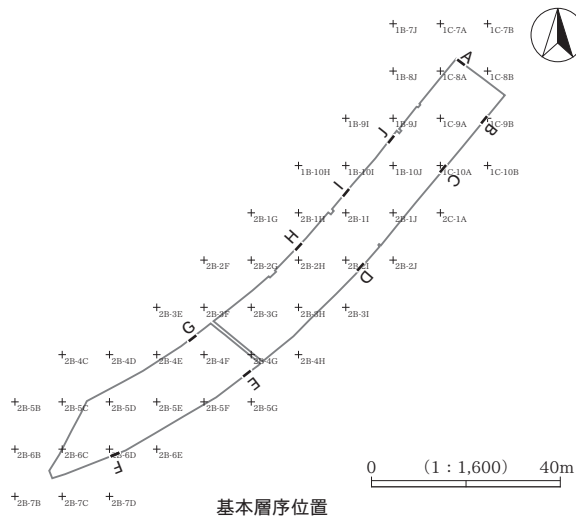
2B-1G20・25, 2H11・16 (北西壁)



1B-10H15・20, 10 | 11 (北西壁)



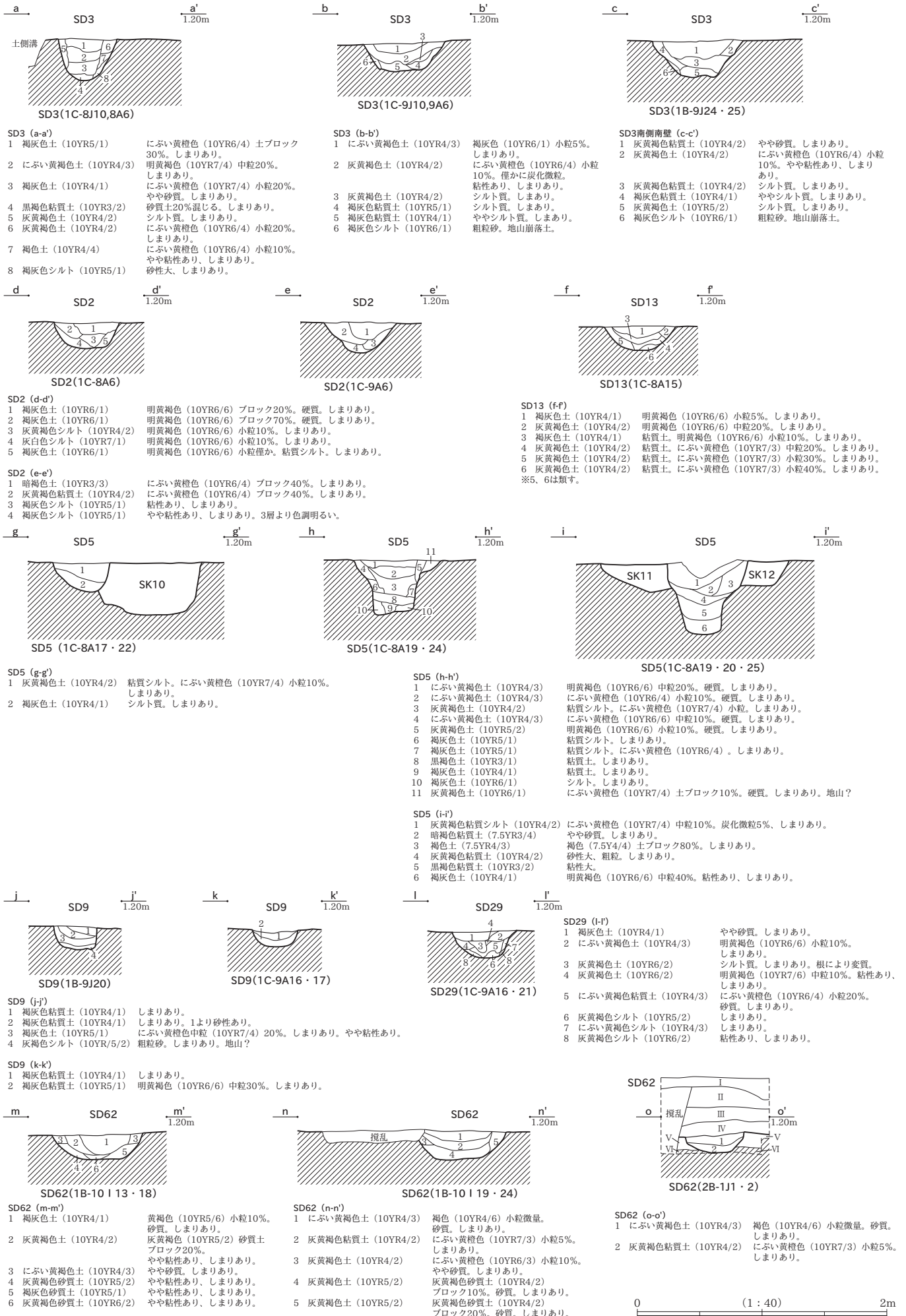
1B-9 | 10・15, 9J6 (北西壁)

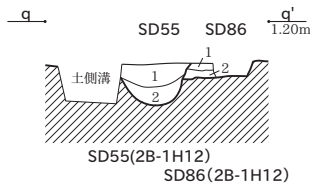
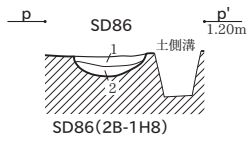


基本層序

- | | | |
|------|-------------------|---------------------------|
| I層 | 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 耕作土。 |
| II層 | 褐色粘質土 (10YR4/4) | 耕作土床土。 |
| III層 | 暗褐色粘質土 (10YR3/3) | 炭化物を少量含む |
| IV層 | にぶい黄褐色土 (10YR5/3) | 炭化物を極少量含む。古代～中世の遺物包含層。 |
| V層 | 灰黄褐色シルト (10YR5/2) | マーブル状にIV層が混じる。古墳時代の遺物包含層。 |
| VI層 | 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | 砂質強い。 |

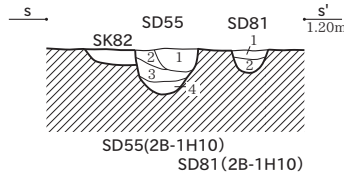
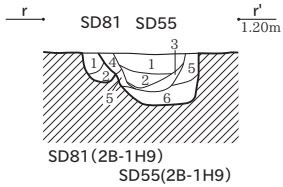






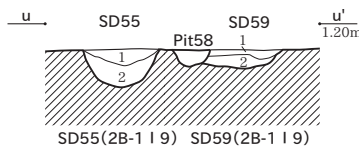
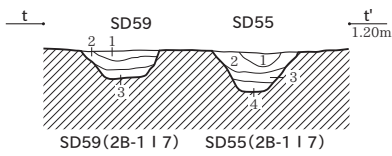
SD86 (p-p',q-q')
 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり。
 2 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) しまりあり。

SD55 (q-q')
 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) しまりあり。
 2 褐色砂質土 (10YR4/1) 褐色 (10YR6/1) 砂質土中粒10%。しまりあり。



SD55 (r-r')
 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) しまりあり。
 2 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。
 3 褐色粘質土 (10YR4/1) しまりあり。
 4 褐色土 (10YR4/1) 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒10%。しまりあり。
 5 褐色土 (10YR6/1) 砂質。しまりあり。
 6 褐色土 (10YR6/1) 砂質。粘性あり、しまりあり。

SD55 (s-s')
 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) しまりあり。
 2 黒褐色土 (10YR3/2) 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒僅か。粘性あり、しまりあり。
 3 褐色粘質土 (10YR4/1) しまりあり。
 4 褐色土 (10YR5/1) 砂質。粘性あり、しまりあり。



SD81 (r-r')
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰黄褐色 (10YR5/2) 土ブロック40%。しまりあり。
 2 褐色土 (10YR5/1) 砂質。しまりあり。

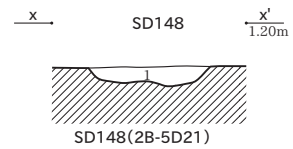
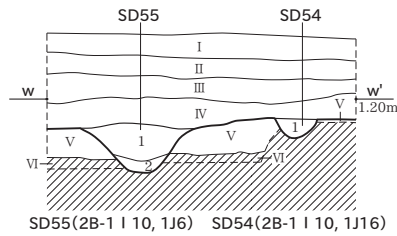
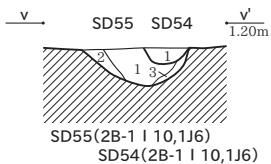
SD81 (s-s')
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや砂質。しまりあり。
 2 褐色土 (10YR4/1) にぶい黄褐色 (10YR6/3) ブロック30%。粘性あり、しまりあり。

SD55 (t-t')
 1 褐色土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり。
 3 褐色土 (10YR4/1) やや砂質。粘性あり、しまりあり。
 4 褐色土 (10YR5/1) 砂質。粘性あり、しまりあり。

SD59 (u-u')
 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒僅か。しまりあり。
 2 褐色土 (10YR4/1) 砂質。しまりあり。

SD59 (t-t')
 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。しまりあり。
 2 褐色土 (10YR4/1) 砂質。しまりあり。
 3 褐色土 (10YR4/1) シルト質土。しまりあり。

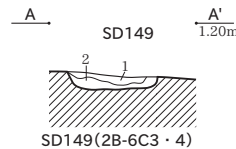
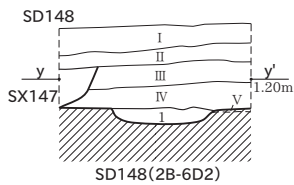
SD55 (u-u')
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや砂質。粘性あり、しまりあり。
 2 褐色土 (10YR4/1) やや砂質。粘性あり、しまりあり。



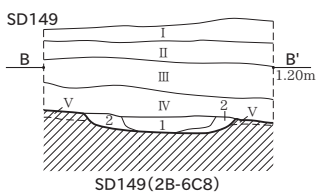
SD54 (v-v',w-w')
 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 灰黄褐色 (10YR5/2) 中粒僅か。しまりあり。

SD55 (v-v',w-w')
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) やや砂質。粘性あり、しまりあり。
 2 褐色粘質土 (10YR4/1) しまりあり。
 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ややシルト質。粘性あり。

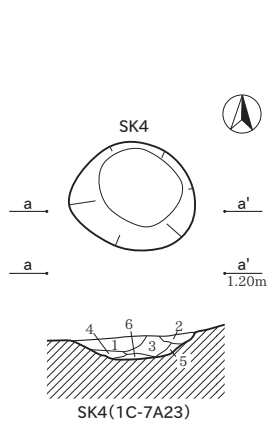
SD148 (x-x',y-y')
 1 褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。VI層土とV層土が混じり合う。



SD183 (z-z')
 1 黒褐色土 (10YR3/1) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。しまりあり。
 2 褐色粘質土 (10YR4/1) 灰黄褐色 (10YR6/2) 小粒僅か。しまりあり。



SD149 (A-A',B-B')
 1 黒褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。φ0.5mmの炭化物が極少量入る。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり。しまりあり。V層土が入り込む。φ0.5mmの炭化物が極少量入る。



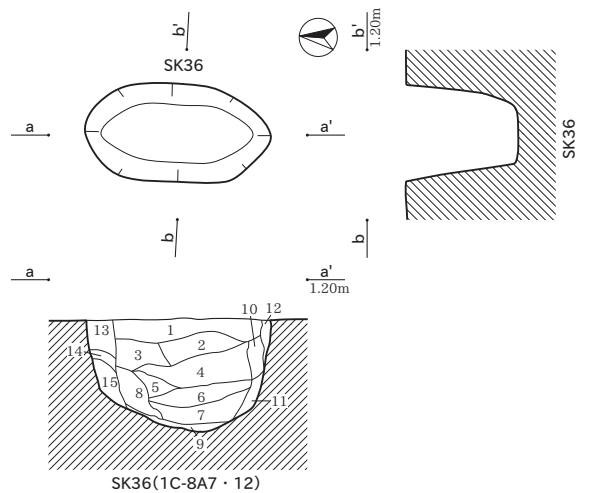
SK4(1C-7A23)

- SK4
- 1 黒褐色土 (10YR3/1)
 - 2 黒褐色土 (10YR3/1)
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2)
 - 4 黒褐色土 (2.5Y3/1)
 - 5 黒褐色土 (2.5Y3/1)
 - 6 明黄褐色シルト (10YR6/6)

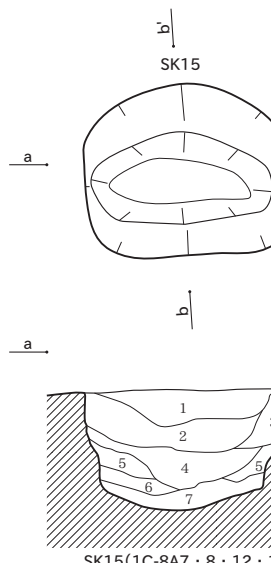
にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒30%。僅かに炭化小粒含む。しまりあり。
 にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒10%。やや硬質。しまりあり。
 褐色 (7.5YR6/6) 小粒。炭化物小粒僅かに含む。やや砂質。しまりあり。
 やや軟質。粘性あり。
 にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒10%。粘性あり。
 にぶい黄褐色 (10YR7/4) 中粒10%。砂性大。しまりあり。

- SK36
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
 - 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/2)
 - 3 褐灰色粘質シルト (10YR5/1)
 - 4 褐灰色粘質シルト (10YR5/1)
 - 5 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
 - 6 暗褐色粘質土 (10YR3/3)
 - 7 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
 - 8 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)
 - 9 黒褐色シルト質土 (10YR3/1)
 - 10 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 - 11 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
 - 12 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
 - 13 褐灰色土 (10YR6/1)
 - 14 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)
 - 15 灰黄褐色シルト (10YR5/2)

にぶい黄褐色 (10YR6/3) シルト質ブロック20%。しまりあり。
 しまりあり。
 灰黄褐色シルト質土 (2層: 10YR5/2) 小ブロック10%。しまりあり。
 灰黄褐色シルト質土 (2層: 10YR5/2) ブロック10%。しまりあり。3層より粘性大。
 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土中粒僅か。やや砂質。粘性大。しまりあり。
 粘性大。しまりあり。
 やや砂質。粘性大。しまりあり。
 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 中ブロック10%。シルト質。しまりあり。
 やや粘性あり。しまりあり。
 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 小粒10%。やや砂質。しまりあり。
 しまりあり。
 粘性あり。しまりあり。
 やや粘性あり。しまりあり。
 しまりあり。



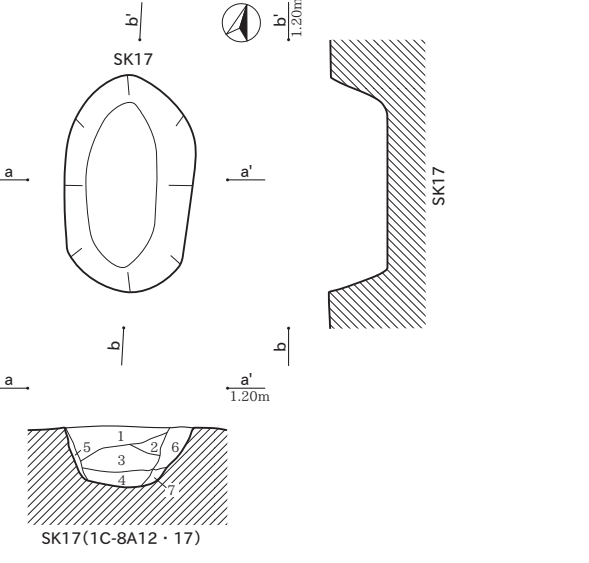
SK36(1C-8A7・12)



SK15(1C-8A7・8・12・13)

- SK15
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 - 4 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
 - 5 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3)
 - 6 灰黄褐色粘質シルト (10YR5/2)
 - 7 褐灰色粘質シルト (10YR5/1)

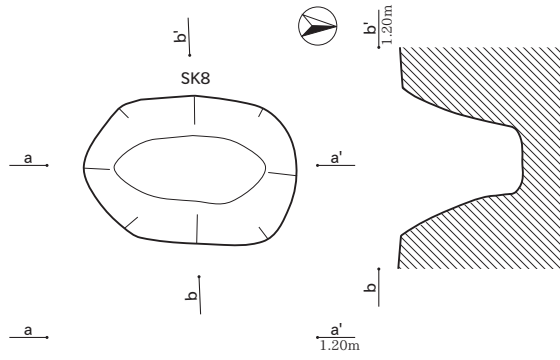
褐灰色 (10YR5/1) シルトブロック20%。しまりあり。
 褐灰色 (10YR5/1) シルトブロック斑状に40%。しまりあり。
 粘質土。しまりあり。
 褐灰色 (10YR6/1) ブロック10%。しまりあり。
 地山 (VI層) 暫移。
 しまりあり。
 しまりあり。



SK17(1C-8A12・17)

- SK17
- 1 褐色土 (7.5YR4/3)
 - 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
 - 3 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2)
 - 5 褐灰色土 (10YR4/2)
 - 6 褐灰色土 (10YR4/2)
 - 7 褐灰色土 (7.5YR5/1)

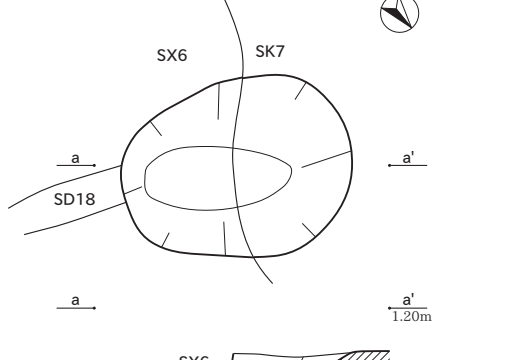
灰黄褐色 (10YR5/2) シルトブロックを多く含む。硬質。しまりあり。
 灰黄褐色 (10YR5/2) シルトブロック60%。硬質。しまりあり。
 灰黄褐色 (10YR5/2) シルトブロック10%。炭化小粒5%。硬質。しまりあり。
 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト中粒10%。炭化小粒1%。硬質。しまりあり。
 黒褐色 (10YR3/2) 小粒10%。シルト。しまりあり。
 黒褐色 (10YR3/2) 小粒5%。シルト。しまりあり。
 粘質土。しまりあり。



SK8(1C-8A13)

- SK8
- 1 褐灰色土 (10YR5/1)
 - 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
 - 3 褐灰色土 (10YR5/1)
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 - 5 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
 - 6 黒褐色粘質土 (10YR3/1)
 - 7 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
 - 8 黒褐色粘質シルト (10YR3/1)
 - 9 灰黄褐色粘質シルト (10YR4/2)
 - 10 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
 - 11 暗褐色粘質シルト (10YR3/4)
 - 12 灰褐色粘質シルト (7.5YR5/2)
 - 13 灰黄褐色粘質シルト (10YR4/2)

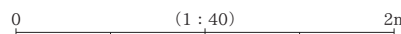
硬質。やや砂質。しまりあり。
 灰黄褐色 (10YR6/2) シルトブロックを斑状に40%。しまりあり。
 粘質土。にぶい黄褐色 (10YR7/3) 土ブロック5%。しまりあり。
 にぶい黄褐色 (10YR7/3) 小粒5%。粘質シルト。
 やや軟質。
 やや砂質。ややしまりなし。
 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒5%。しまりあり。
 軟質。色調暗い。
 7層に類するが、砂性大。
 褐色 (10YR4/4) 土ブロック60%。しまりあり。
 しまりあり。
 しまりあり。

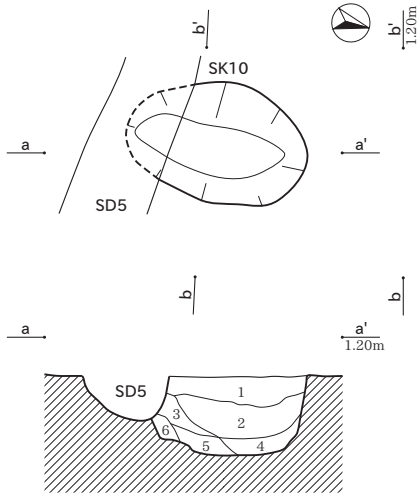


SK7(1C-8A15・20)

- SK7
- 1 褐灰色土 (10YR4/1)
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 - 3 褐灰色粘質土 (10YR5/1)
 - 4 褐灰色シルト (10YR4/1)
 - 5 褐灰色粘質土 (10YR5/1)

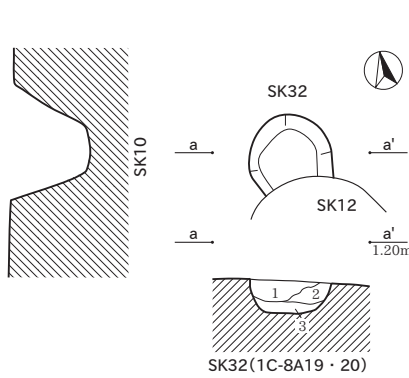
褐色 (10YR6/1) シルト小粒10%。炭化小粒10%。硬質。しまりあり。
 明黄褐色 (10YR6/6) 中粒20%。やや粘性あり。しまりあり。
 しまりあり。
 褐色 (10YR6/1) シルトブロック10%。しまりあり。
 褐色 (10YR5/1) シルトブロック30%。粘性大。しまりあり。





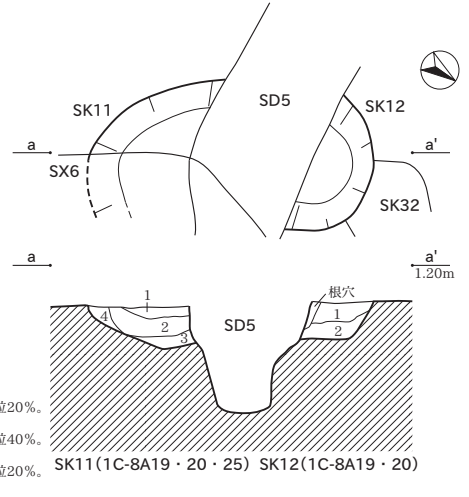
SK10(1C-8A17)

- SK10**
- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 1 褐色土 (7.5YR4/4) | 灰黄褐色 (10YR4/2) 土ブロック20%。しまりあり。 |
| 2 褐色土 (7.5YR4/3) | 粘質シルト、褐色 (10YR4/1) シルトブロック10%。しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘質シルト、砂性強く、ややバサつく。 |
| 4 褐色土 (10YR5/1) | 粘質シルト、砂性大。 |
| 5 褐色土 (10YR6/1) | 粘質シルト、粘性大。にぶい黄褐色 (10YR7/3) 小粒5%含む。 |
| 6 灰黄褐色土 (10YR6/2) | 粘質シルト、やや粗粒。灰黄褐色 (10YR5/2) 小粒10%含む。 |



SK32(1C-8A19・20)

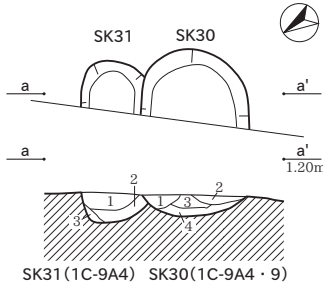
- SK32**
- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒20%。やや砂質。しまりあり。 |
| 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒40%。しまりあり。 |
| 3 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒20%。しまりあり。 |



SK11(1C-8A19・20・25) SK12(1C-8A19・20)

- SK11**
- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) | やや砂質。しまりあり。 |
| 2 褐灰色土 (10YR4/1) | 褐灰色 (10YR6/1) 小粒10%。砂質。しまりあり。 |
| 3 褐灰色土 (10YR4/1) | 褐灰色 (10YR6/1) 中粒20%。砂質。しまりあり。 |
| 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 粘質土。しまりあり。 |

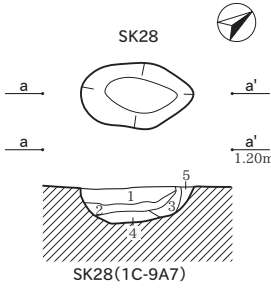
- SK12**
- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色粘質土 (10YR3/4) | にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土ブロック20%。しまりあり。 |
| 2 灰黄褐色粘質シルト (10YR6/2) | にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土ブロック50%。しまりあり。 |



SK31(1C-9A4) SK30(1C-9A4・9)

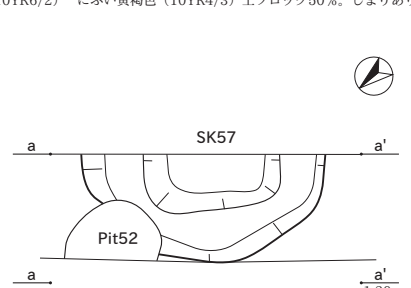
- SK31**
- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) | にぶい黄褐色 (10YR7/3) 小粒10%。しまりあり。 |
| 2 褐灰色粘質シルト (10YR4/1) | しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色粘質シルト (10YR4/2) | 2層より砂性大。しまりあり。 |

- SK30**
- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。やや砂質。しまりあり。 |
| 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒5%。やや砂質。しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土ブロック80%。砂質。しまりあり。 |
| 4 褐色シルト (10YR4/4) | にぶい黄褐色 (10YR7/3) 中粒20%。しまりあり。 |



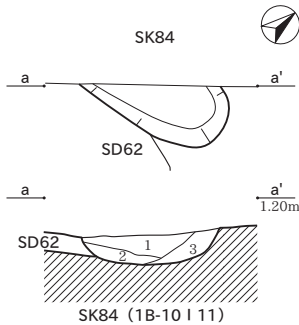
SK28(1C-9A7)

- SK28**
- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) | 黄褐色 (10YR5/6) シルト小粒15%。炭化小粒1%。しまりあり。 |
| 2 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒10%。僅かに炭化小粒。しまりあり。 |
| 3 褐灰色土 (10YR5/1) | にぶい黄褐色 (10YR7/2) シルト小粒30%。しまりあり。 |
| 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | シルト。粘性ややあり、しまりあり。 |
| 5 にぶい黄褐色 (10YR7/3) | シルト。褐灰色土 (10YR5/1) 小粒10%。しまりあり。 |



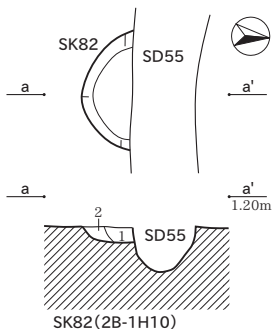
SK57(1C-9A12・13・17・18)

- SK57**
- | | |
|---------------------|---|
| 1 黒褐色土 (10YR3/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒20%。やや硬質。やや砂質。しまりあり。 |
| 2 褐灰色土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。やや硬質。やや砂質。しまりあり。 |
| 3 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒20%。しまりあり。 |
| 4 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒40%。しまりあり。 |
| 5 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) | 黄褐色 (10YR5/6) 小粒10%。砂質。しまりあり。 |
| 6 黒褐色粘質土 (10YR3/2) | しまりあり。 |
| 7 褐灰色土 (10YR5/1) | 砂質。やや粘性あり、しまりあり。 |
| 8 褐灰色土 (10YR6/1) | 砂質。やや粘性あり、しまりあり。 |



SK84 (1B-10 | 11)

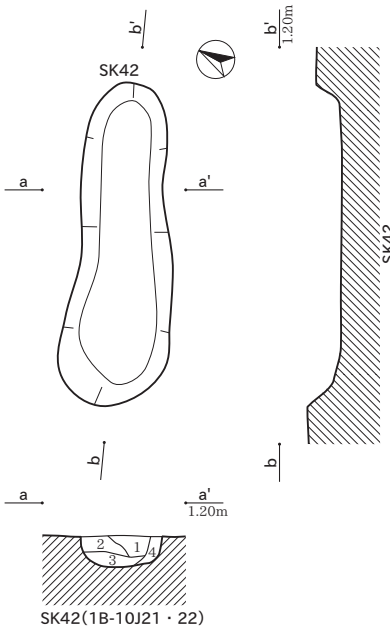
- SK84**
- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) | しまりあり。 |
| 2 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土ブロック10%。しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) | 褐灰色 (10YR6/1) 砂質土ブロック20%。粘性あり。しまりあり。 |



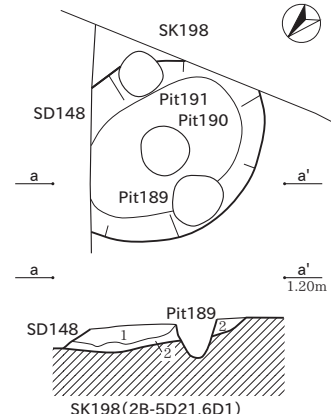
SK82(2B-1H10)

- SK42**
- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。やや粘性あり、しまりあり。 |
| 2 褐色粘質土 (10YR4/4) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒20%。やや粘性あり、しまりあり。 |
| 3 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | 灰黄褐色 (10YR4/2) 土小ブロック10%。やや砂質。しまりあり。 |
| 4 灰黄褐色土 (10YR5/2) | やや砂質。しまりあり。 |

- SK82**
- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) | やや砂質。しまりあり。 |
| 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | 褐灰色 (10YR4/2) 土ブロック20%。やや砂質。しまりあり。 |



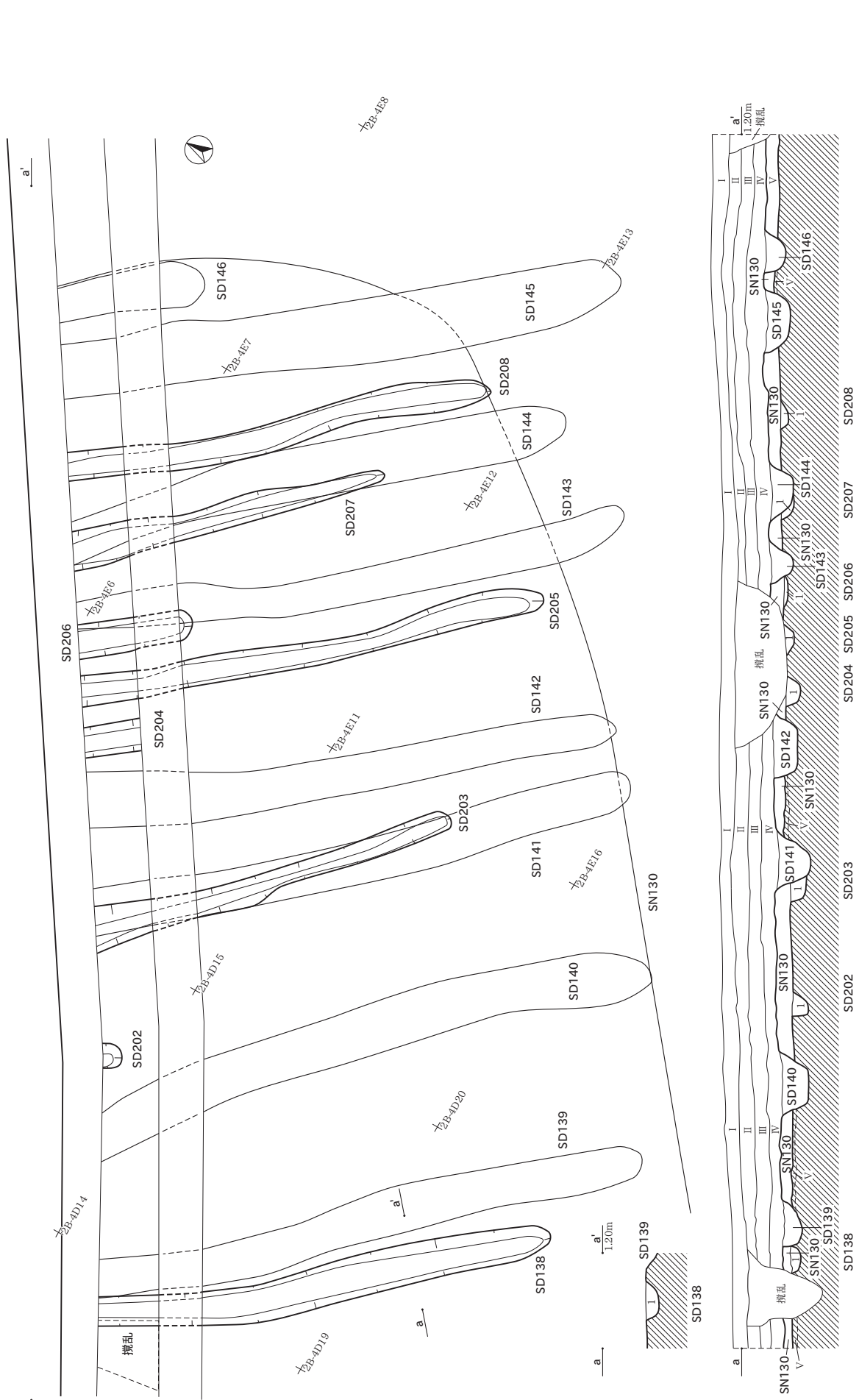
SK42(1B-10J21・22)



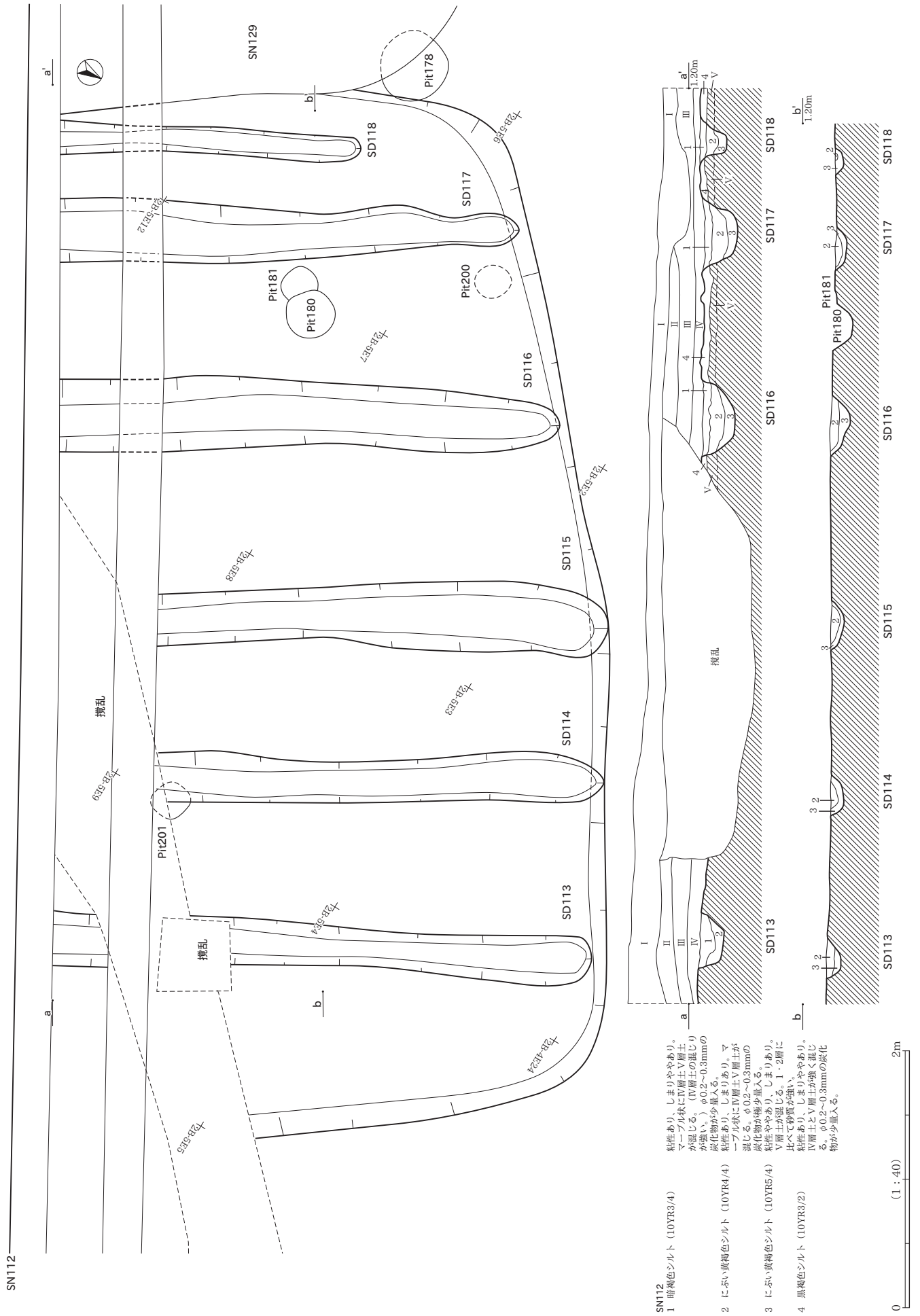
SK198(2B-5D21,6D1)

- SK198**
- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土ブロック10%。しまりあり。 |
| 2 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土ブロック40%。しまりあり。 |

SN209



SN209
 I 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 色調明るめ (10YR4/1に近い)。しまりあり。

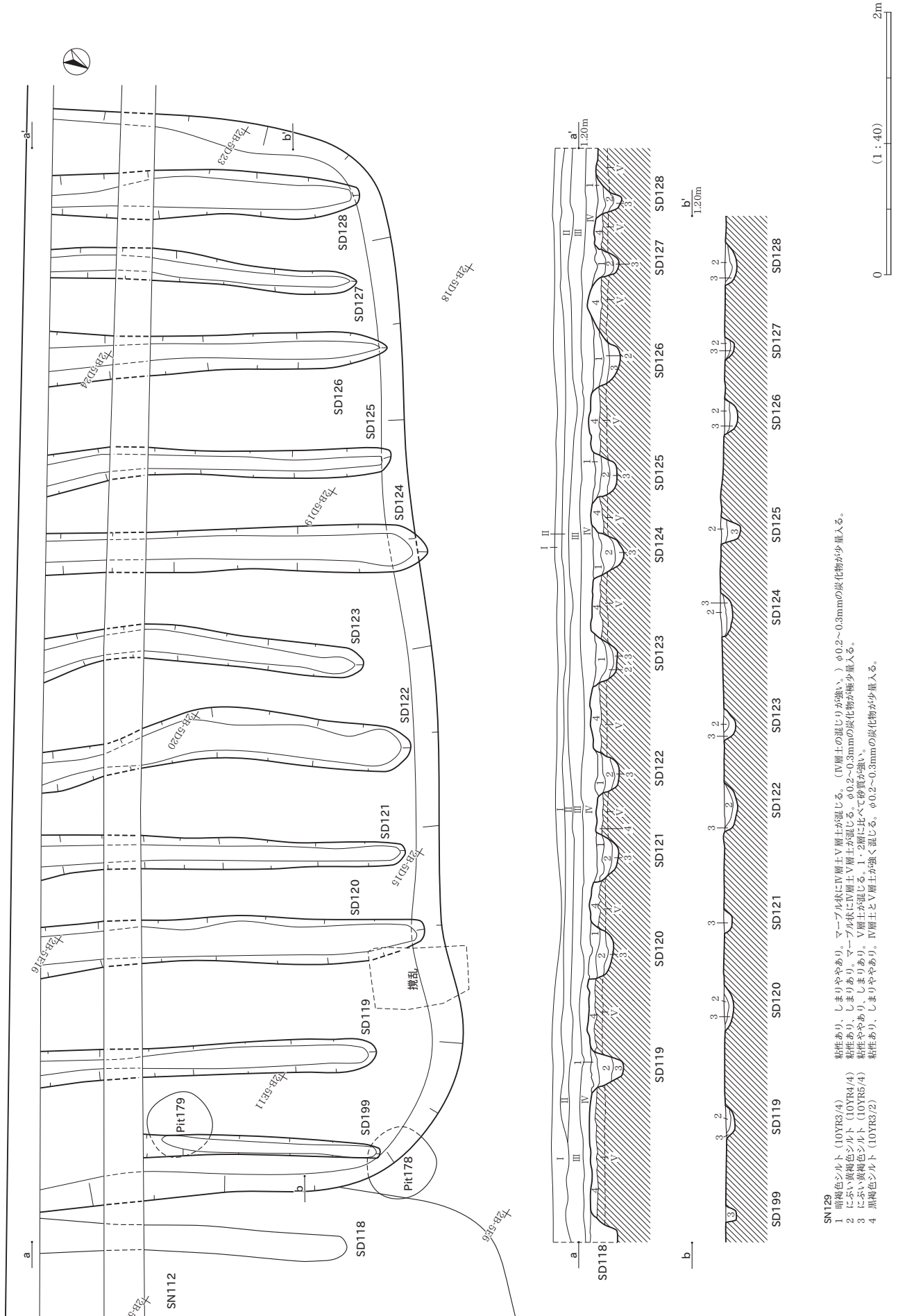


SN112

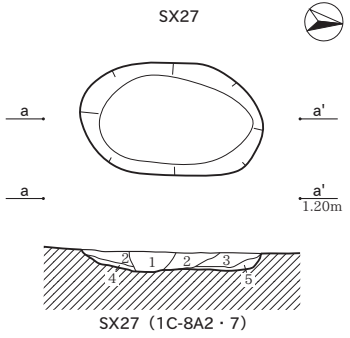
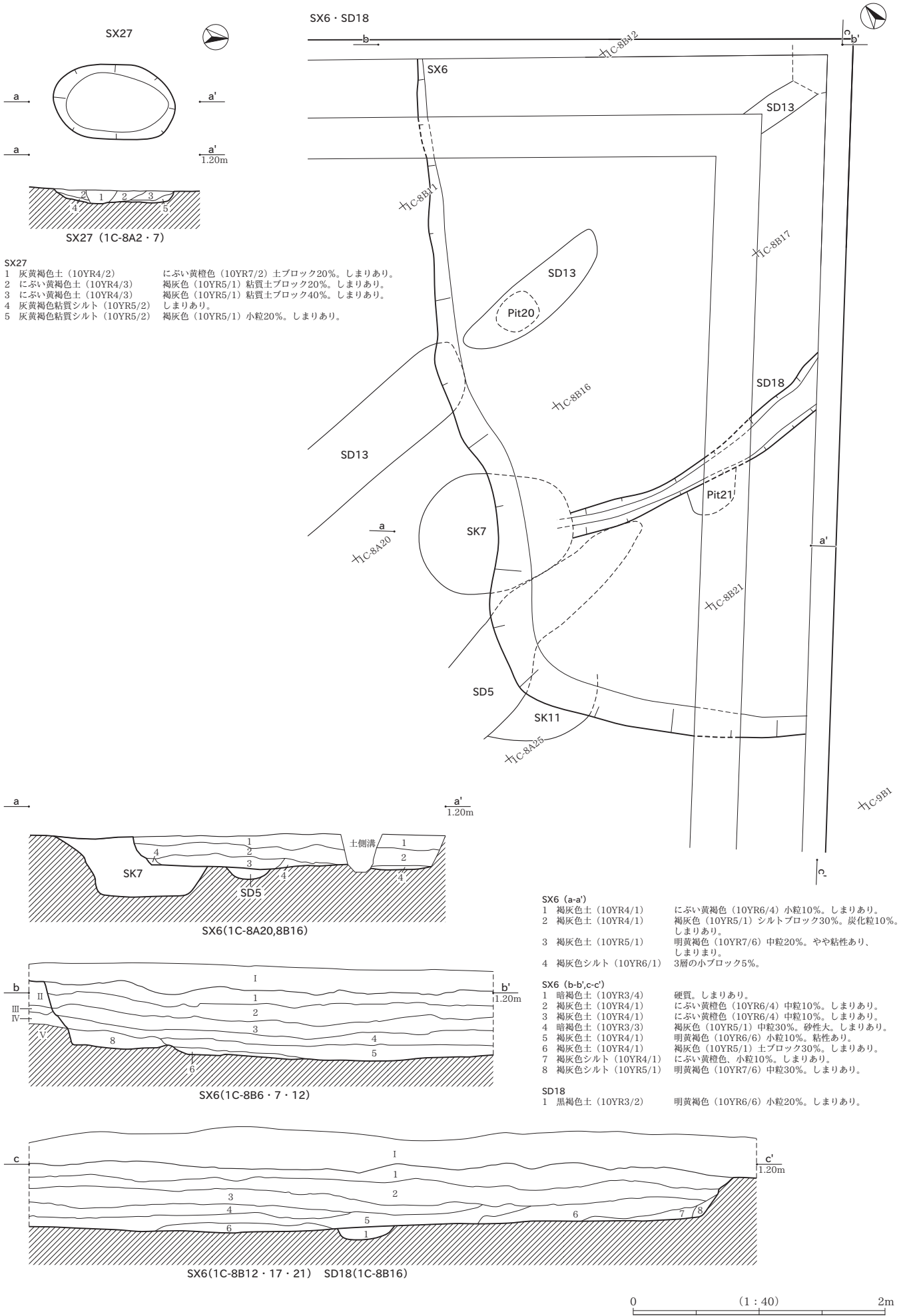
- SN112 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性あり、しまりややあり。マーズボール状にIV層土、V層土が混じる。(IV層土の混じりが強い) φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
- 2 に5い、黄褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり。マーズボール状にIV層土、V層土が混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
- 3 に5い、黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりあり。比水で硬質が強い。1・2層にIV層土とV層土が強く混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
- 4 黒褐色シルト (10YR3/2)

0 2m (1 : 40)

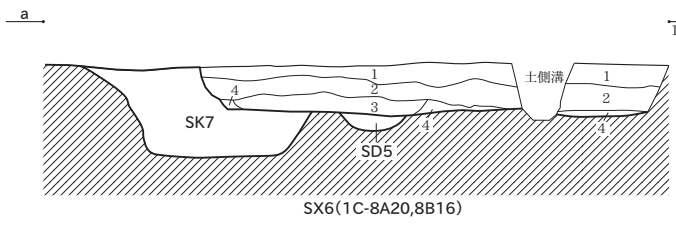
SN129



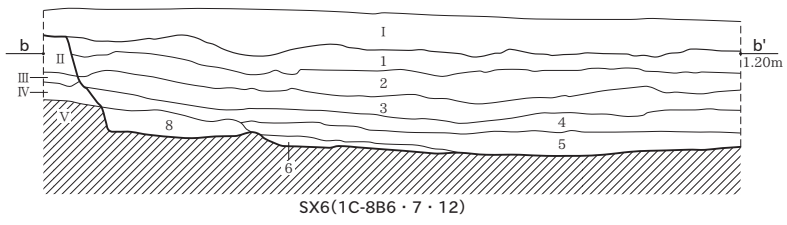
SN129
 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性あり、しまりややあり。マーブル状にIV層土V層土が混じる。(IV層土の混じりが強い。) φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり。マーブル状にIV層土V層土が混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりあり。V層土が混じる。I・2層に比べて砂質が強い。
 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり。IV層土とV層土が強く混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。



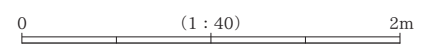
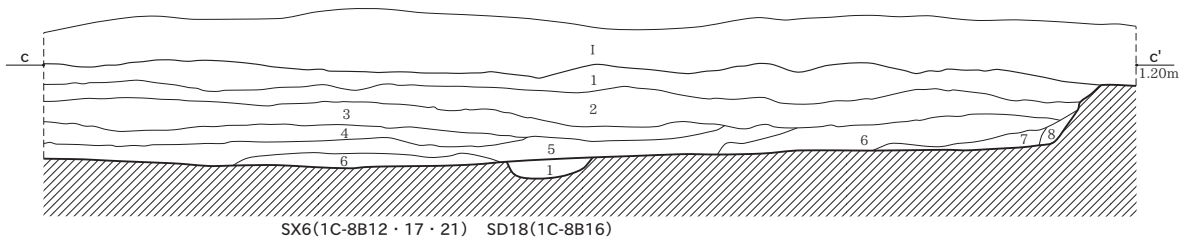
- SX27
- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR7/2) 土ブロック20%。しまりあり。 |
| 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土ブロック20%。しまりあり。 |
| 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土ブロック40%。しまりあり。 |
| 4 灰黄褐色粘質シルト (10YR5/2) | しまりあり。 |
| 5 灰黄褐色粘質シルト (10YR5/2) | 褐灰色 (10YR5/1) 小粒20%。しまりあり。 |

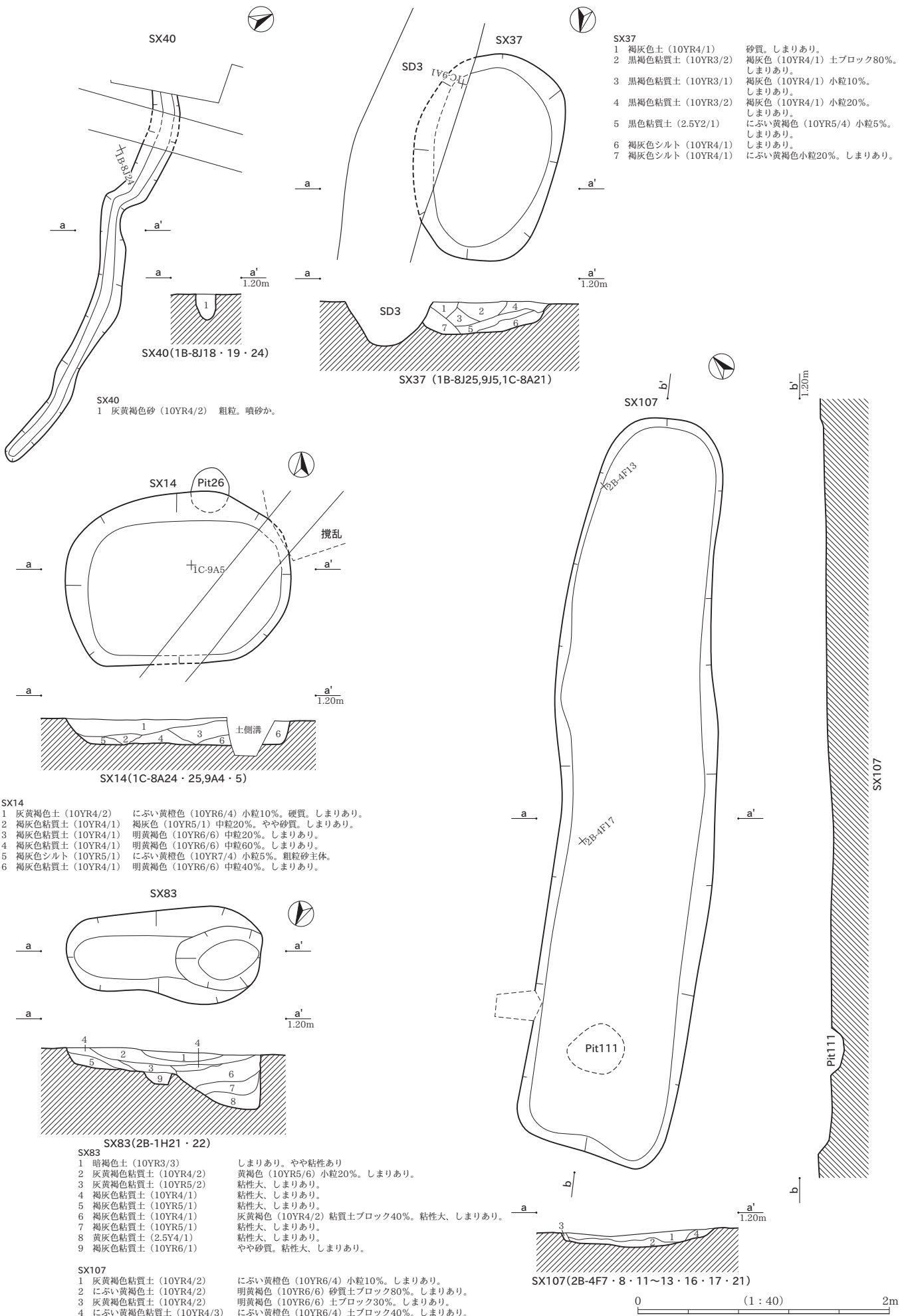


- SX6 (a-a')
- | | |
|--------------------|--|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。しまりあり。 |
| 2 褐灰色土 (10YR4/1) | 褐灰色 (10YR5/1) シルトブロック30%。炭化粒10%。しまりあり。 |
| 3 褐灰色土 (10YR5/1) | 明黄褐色 (10YR7/6) 中粒20%。やや粘性あり。しまりあり。 |
| 4 褐灰色シルト (10YR6/1) | 3層の小ブロック5%。 |



- SX6 (b-b',c-c')
- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/4) | 硬質。しまりあり。 |
| 2 褐灰色土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒10%。しまりあり。 |
| 3 褐灰色土 (10YR4/1) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 中粒10%。しまりあり。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/3) | 褐灰色 (10YR5/1) 中粒30%。砂性大。しまりあり。 |
| 5 褐灰色土 (10YR4/1) | 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒10%。粘性あり。 |
| 6 褐灰色土 (10YR4/1) | 褐灰色 (10YR5/1) 土ブロック30%。しまりあり。 |
| 7 褐灰色シルト (10YR4/1) | にぶい黄褐色、小粒10%。しまりあり。 |
| 8 褐灰色シルト (10YR5/1) | 明黄褐色 (10YR7/6) 中粒30%。しまりあり。 |
- SD18
- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/2) | 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒20%。しまりあり。 |
|------------------|-----------------------------|





- SX37**
- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) | 砂質。しまりあり。 |
| 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) | 褐灰色 (10YR4/1) 土ブロック80%。しまりあり。 |
| 3 黒褐色粘質土 (10YR3/1) | 褐灰色 (10YR4/1) 小粒10%。しまりあり。 |
| 4 黒褐色粘質土 (10YR3/2) | 褐灰色 (10YR4/1) 小粒20%。しまりあり。 |
| 5 黒色粘質土 (2.5Y2/1) | にぶい黄褐色 (10YR5/4) 小粒5%。しまりあり。 |
| 6 褐灰色シルト (10YR4/1) | しまりあり。 |
| 7 褐灰色シルト (10YR4/1) | にぶい黄褐色小粒20%。しまりあり。 |

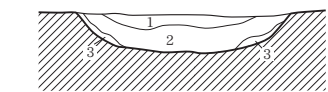
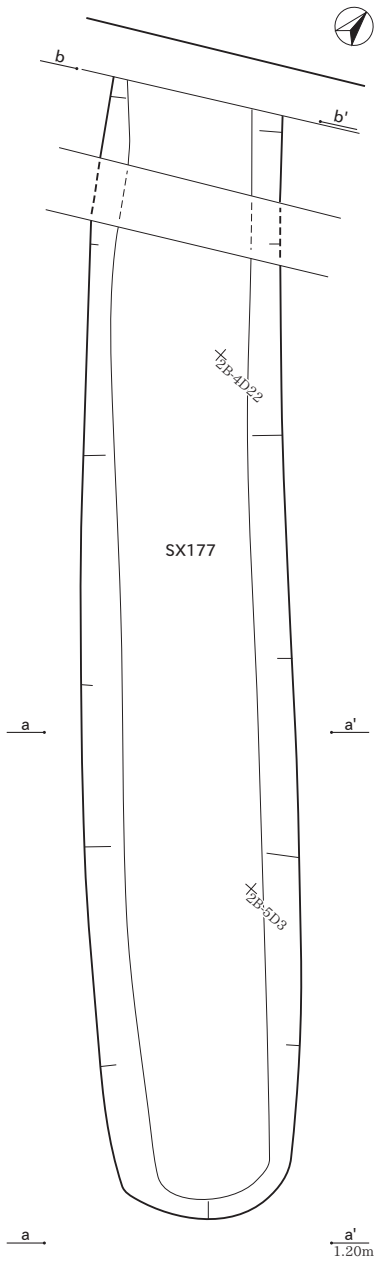
- SX40**
- 1 灰黄褐色砂 (10YR4/2) 粗粒。噴砂か。

- SX14**
- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。硬質。しまりあり。 |
| 2 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 褐灰色 (10YR5/1) 中粒20%。やや砂質。しまりあり。 |
| 3 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 明黄褐色 (10YR6/6) 中粒20%。しまりあり。 |
| 4 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 明黄褐色 (10YR6/6) 中粒60%。しまりあり。 |
| 5 褐灰色シルト (10YR5/1) | にぶい黄褐色 (10YR7/4) 小粒5%。粗粒砂主体。 |
| 6 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 明黄褐色 (10YR6/6) 中粒40%。しまりあり。 |

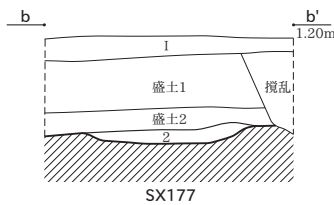
- SX83**
- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) | しまりあり。やや粘性あり |
| 2 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) | 黄褐色 (10YR5/6) 小粒20%。しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2) | 粘性大。しまりあり。 |
| 4 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 粘性大。しまりあり。 |
| 5 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | 粘性大。しまりあり。 |
| 6 褐灰色粘質土 (10YR4/1) | 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土ブロック40%。粘性大。しまりあり。 |
| 7 褐灰色粘質土 (10YR5/1) | 粘性大。しまりあり。 |
| 8 灰黄褐色粘質土 (2.5Y4/1) | 粘性大。しまりあり。 |
| 9 褐灰色粘質土 (10YR6/1) | やや砂質。粘性大。しまりあり。 |

- SX107**
- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。しまりあり。 |
| 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/2) | 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土ブロック80%。しまりあり。 |
| 3 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) | 明黄褐色 (10YR6/6) 土ブロック30%。しまりあり。 |
| 4 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土ブロック40%。しまりあり。 |

0 (1:40) 2m



SX177(2B-4D16・17・21~23,5D2・3)



SX177

SX177

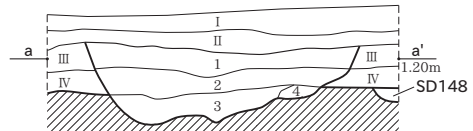
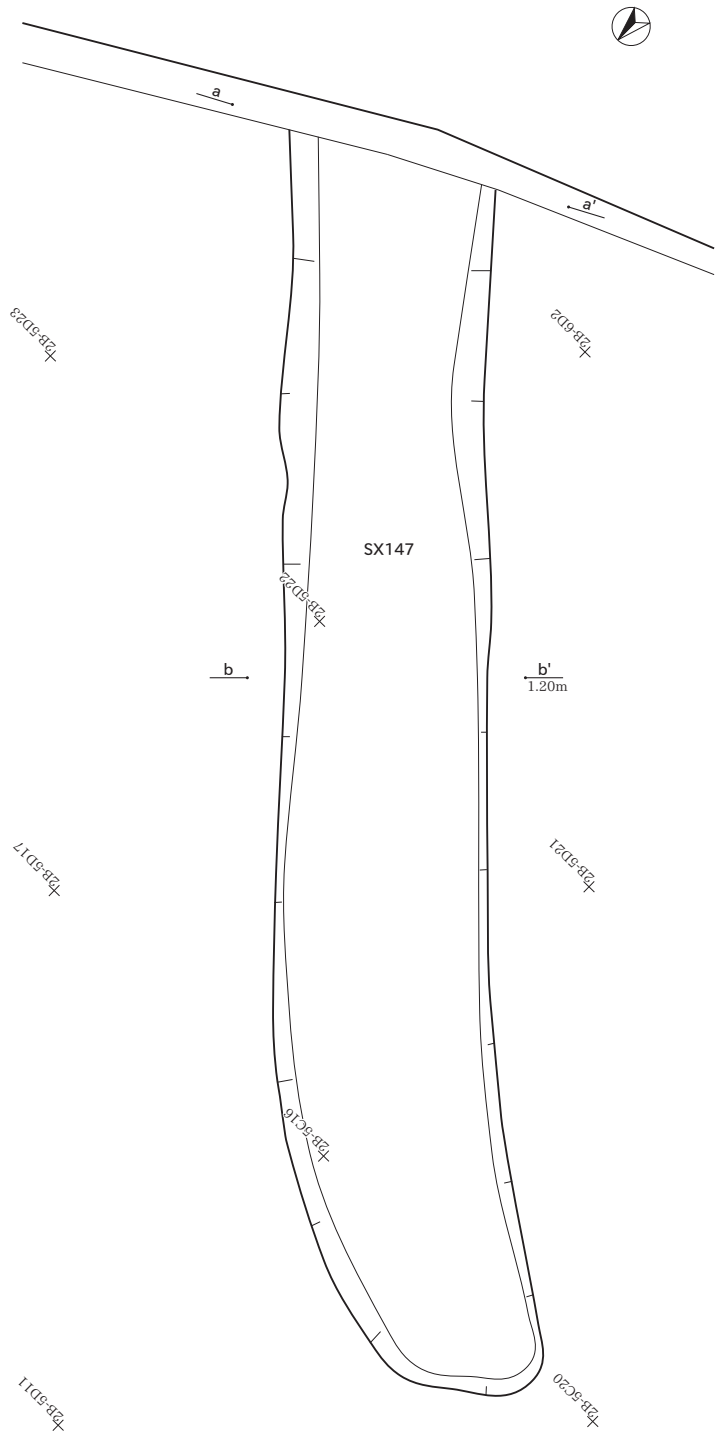
- 1 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
- 2 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2)

褐灰色 (10YR5/1) 粘質土ブロック60%。しまりあり。
 粘性大、しまりあり。
 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土ブロック主体。粘性大、しまりあり。

SX147 (近世)

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1)
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 3 褐灰シルト (10YR4/1)
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)

しまりややあり。φ0.2~0.3mmの炭化物が極少量入る。
 粘性ややあり、しまりややあり。φ0.2~0.3mmの炭化物が極少量入る。
 粘性あり、しまりあり。砂質が強い。
 粘性ややあり、しまりあり。褐鉄鉱が入る。V層に近い。

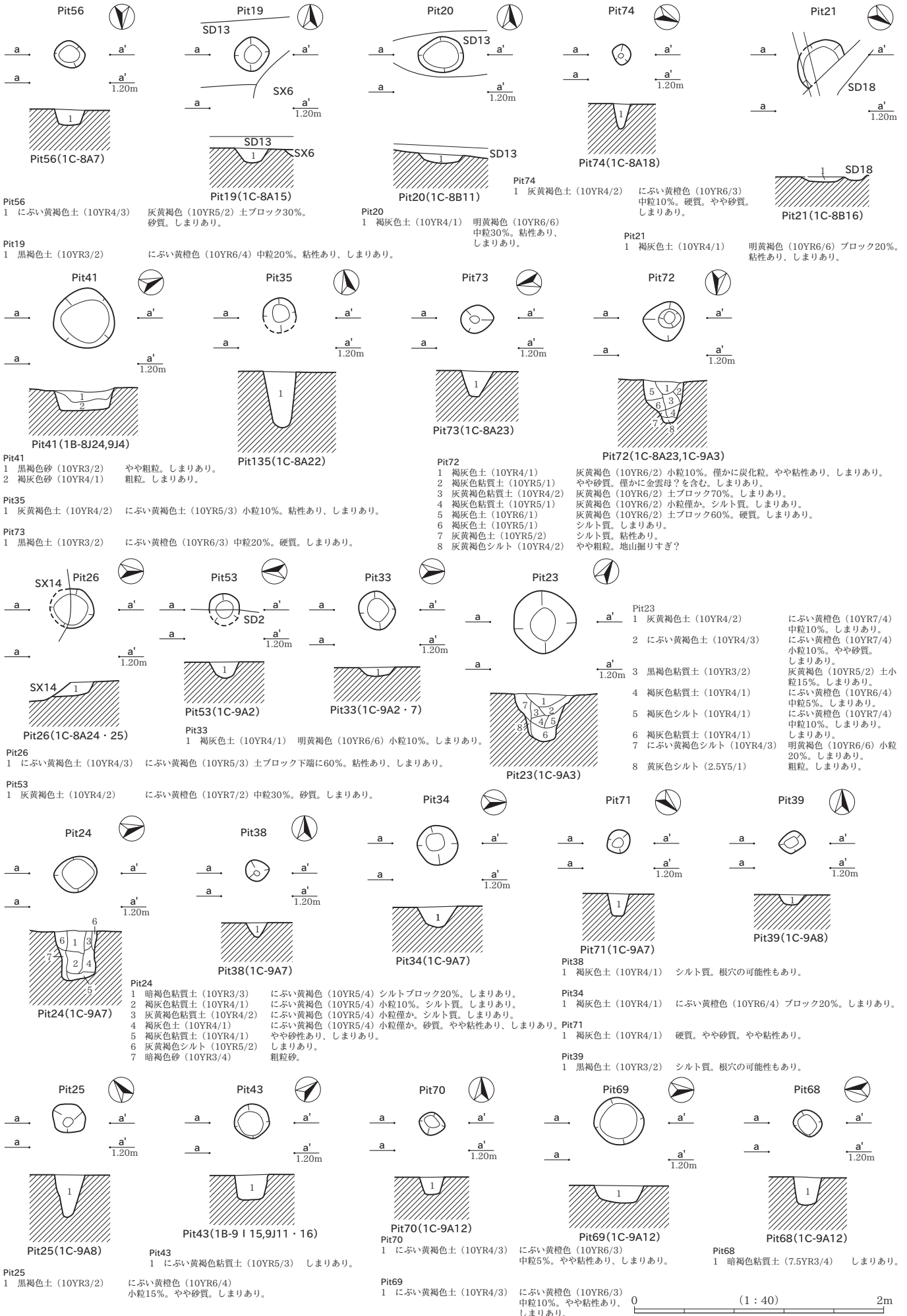


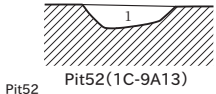
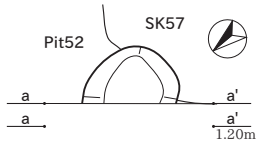
SX147(2B-5C15・20, 5D11・16・17・21・22, 6D2)



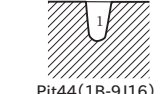
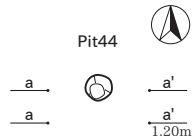
SX147



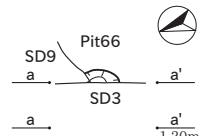




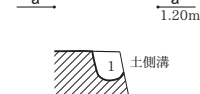
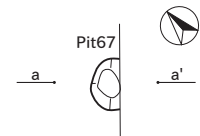
Pit52 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) しまりあり。



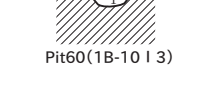
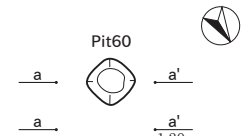
Pit44 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) しまりあり。



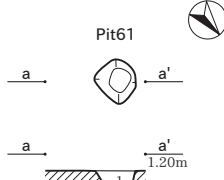
Pit66 1 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂質土ブロック30%。しまりあり。



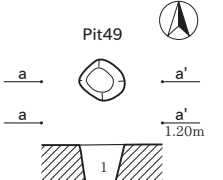
Pit67 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土ブロック20%。しまりあり。



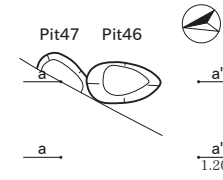
Pit60 1 褐灰色粘質土 (10YR4/1) にぶい黄褐色 (10YR5/3) 小粒10%。しまりあり。



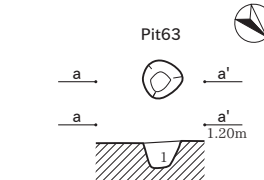
Pit61 1 灰黄粘質土 (10YR4/2) にぶい黄褐色 (10YR5/3) 小粒10%。しまりあり。



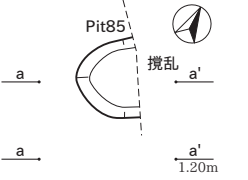
Pit49 1 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色 (10YR5/1) 小粒10%。やや砂質。しまりあり。



Pit47 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 灰黄褐色 (10YR5/2) 中粒10%。しまりあり。



Pit63 1 灰黄粘質土 (10YR4/2) しまりあり。色調暗い。



Pit85 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰黄褐色 (10YR5/2) 小粒30%。やや砂質。しまりあり。

Pit61 1 灰黄粘質土 (10YR4/2) にぶい黄褐色 (10YR5/3) 小粒10%。しまりあり。

Pit49 1 褐灰色土 (10YR4/1) 褐灰色 (10YR5/1) 小粒10%。やや砂質。しまりあり。

Pit47 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 灰黄褐色 (10YR5/2) 中粒10%。しまりあり。

Pit46 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/6) 中粒10%。しまりあり。

Pit46 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 灰黄褐色 (10YR5/2) 中粒10%。しまりあり。

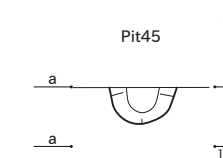
Pit47 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/6) 中粒10%。しまりあり。

Pit63 1 灰黄粘質土 (10YR4/2) しまりあり。色調暗い。

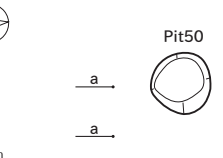
Pit85 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 灰黄褐色 (10YR5/2) 小粒30%。やや砂質。しまりあり。



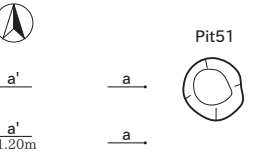
Pit48 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 5%。しまりあり。



Pit45 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 20%。やや粘性あり、しまりあり。



Pit50 1 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 僅か。砂質。しまりあり。



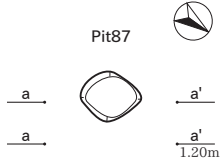
Pit51 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) しまりあり。

Pit48 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 5%。しまりあり。

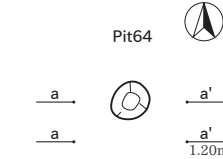
Pit45 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 20%。やや粘性あり、しまりあり。

Pit50 1 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 明黄褐色小粒 (10YR6/6) 僅か。砂質。しまりあり。

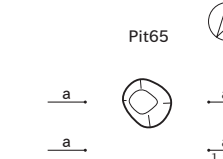
Pit51 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) しまりあり。



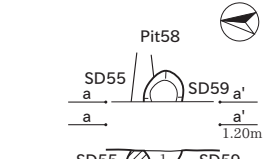
Pit87 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり。



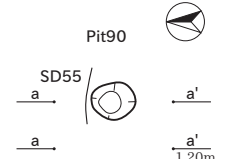
Pit64 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 褐灰色 (10YR5/1) シルト小ブロック10%。しまりあり。



Pit65 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒20%。しまりあり。



Pit58 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。やや粘性あり、しまりあり。



Pit90 1 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性あり、しまりあり。

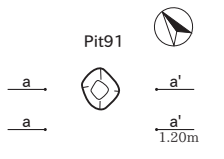
Pit87 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり。

Pit64 1 にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3) 褐灰色 (10YR5/1) シルト小ブロック10%。しまりあり。

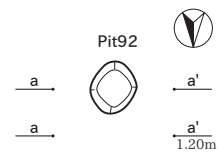
Pit65 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒20%。しまりあり。

Pit58 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 小粒10%。やや粘性あり、しまりあり。

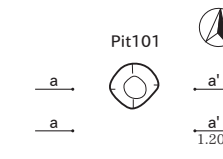
Pit90 1 黒褐色土 (10YR3/2) やや粘性あり、しまりあり。



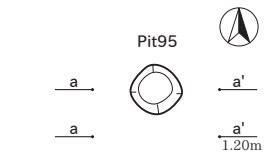
Pit91 1 黒褐色土 (10YR3/2) にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土ブロック30%。やや砂質。しまりあり。



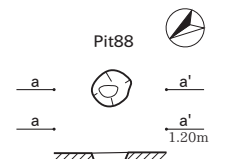
Pit92 1 黒褐色土 (10YR3/1) 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒20%。やや砂質。しまりあり。



Pit101 1 褐灰色土 (10YR5/1) しまりあり。砂質。



Pit95 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) やや砂質。しまりあり。



Pit88 1 褐灰色土 (10YR4/1) やや砂質。しまりあり。

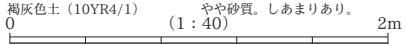
Pit91 1 黒褐色土 (10YR3/2) にぶい黄褐色 (10YR6/3) 土ブロック30%。やや砂質。しまりあり。

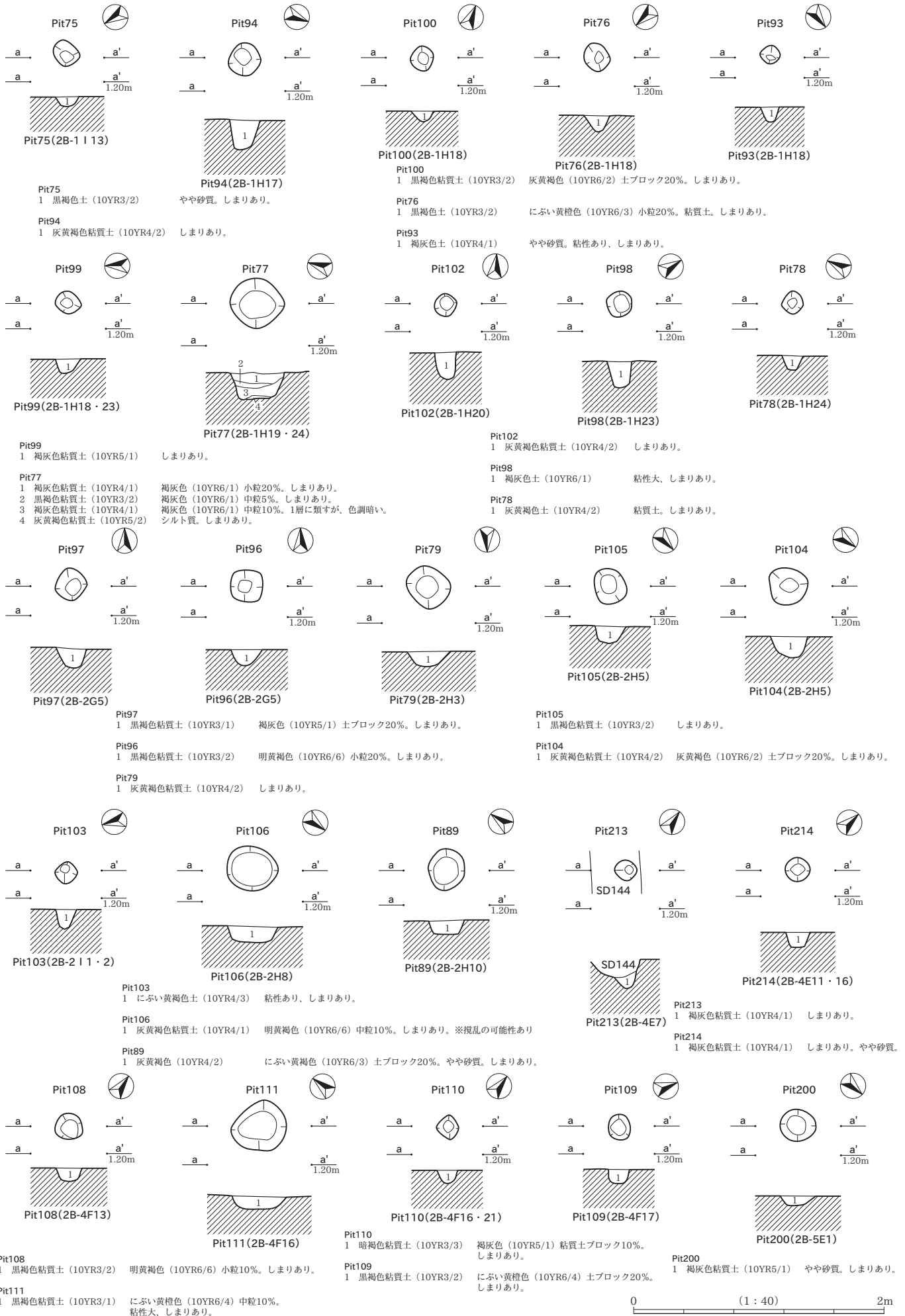
Pit92 1 黒褐色土 (10YR3/1) 明黄褐色 (10YR6/6) 小粒20%。やや砂質。しまりあり。

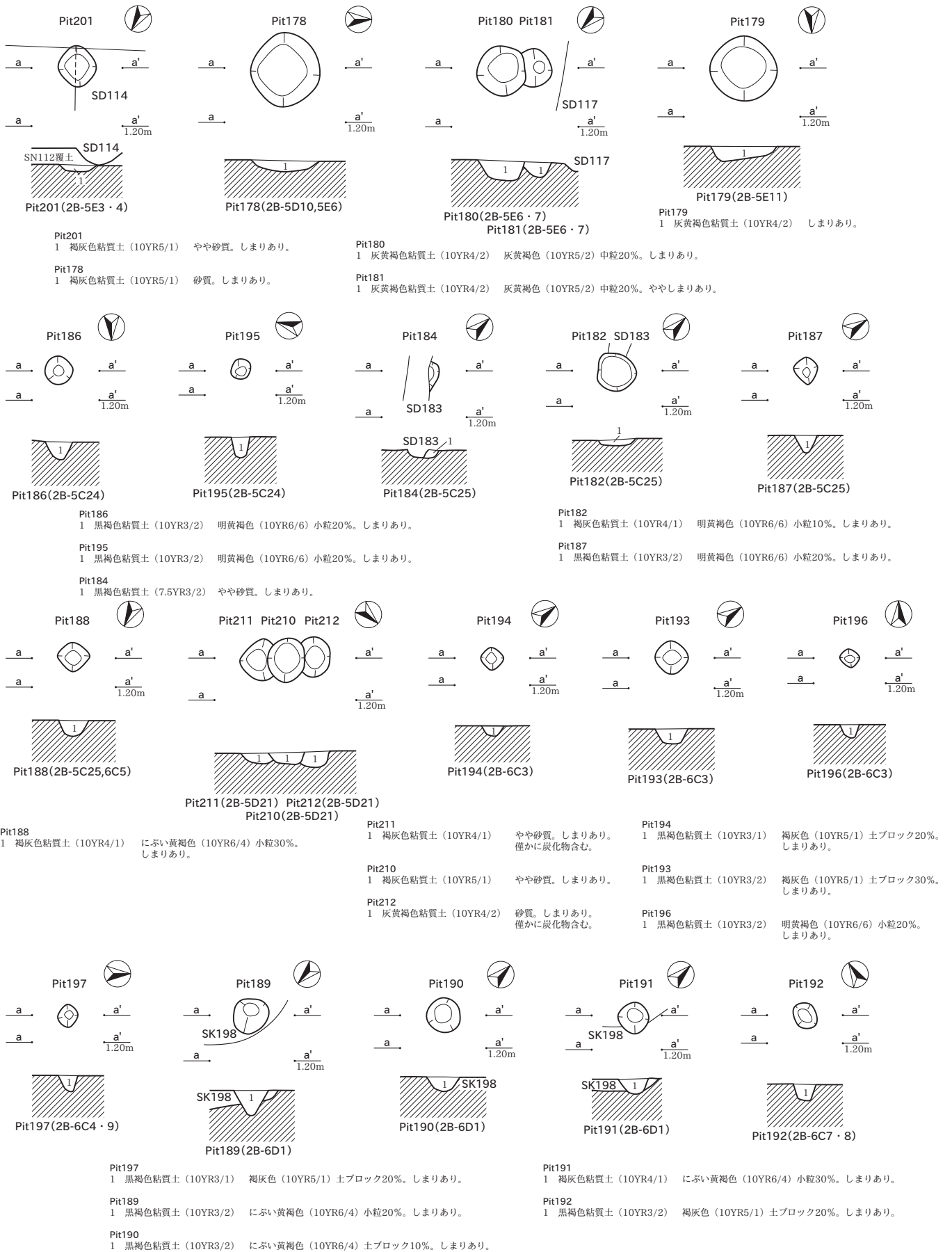
Pit101 1 褐灰色土 (10YR5/1) しまりあり。砂質。

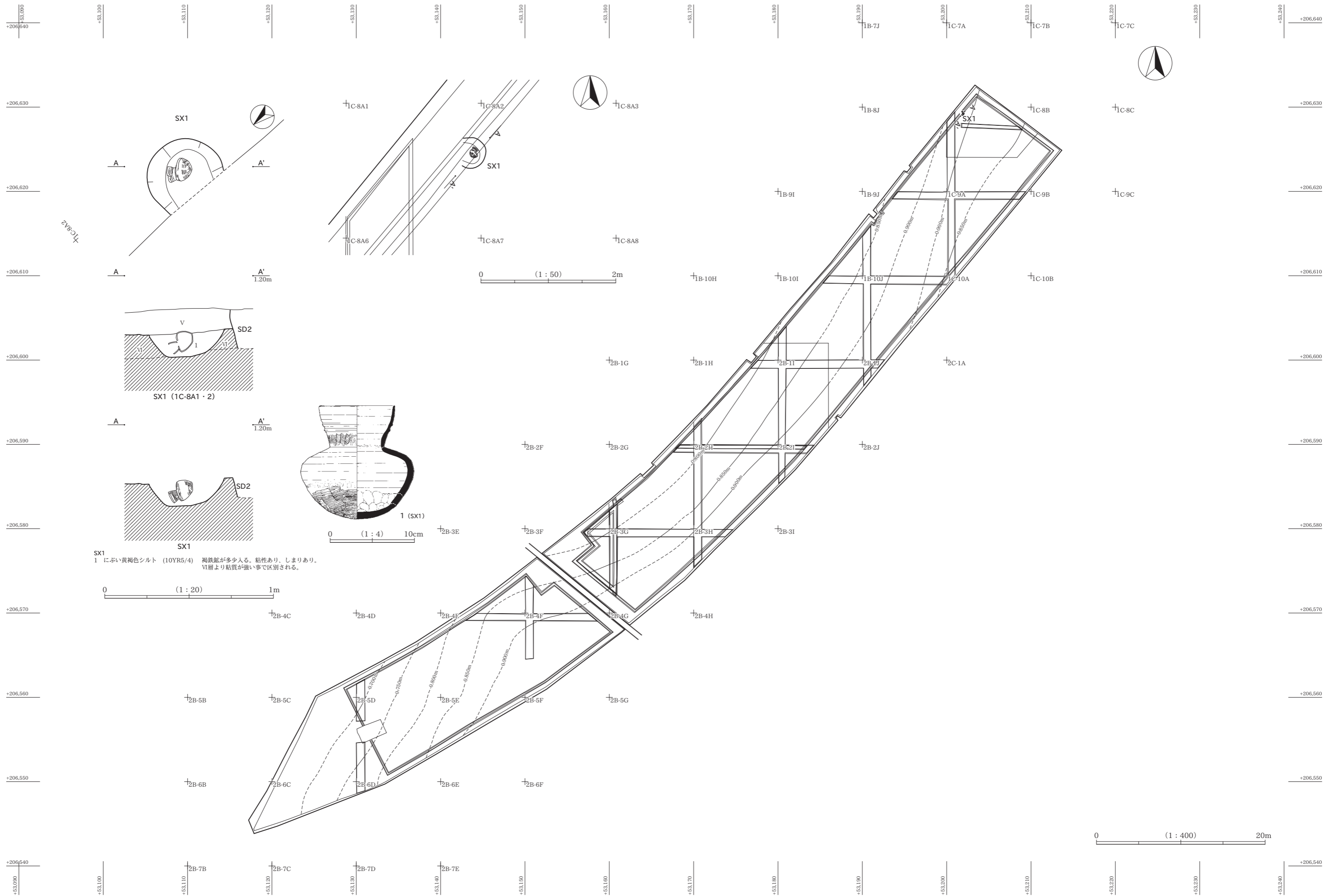
Pit95 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) やや砂質。しまりあり。

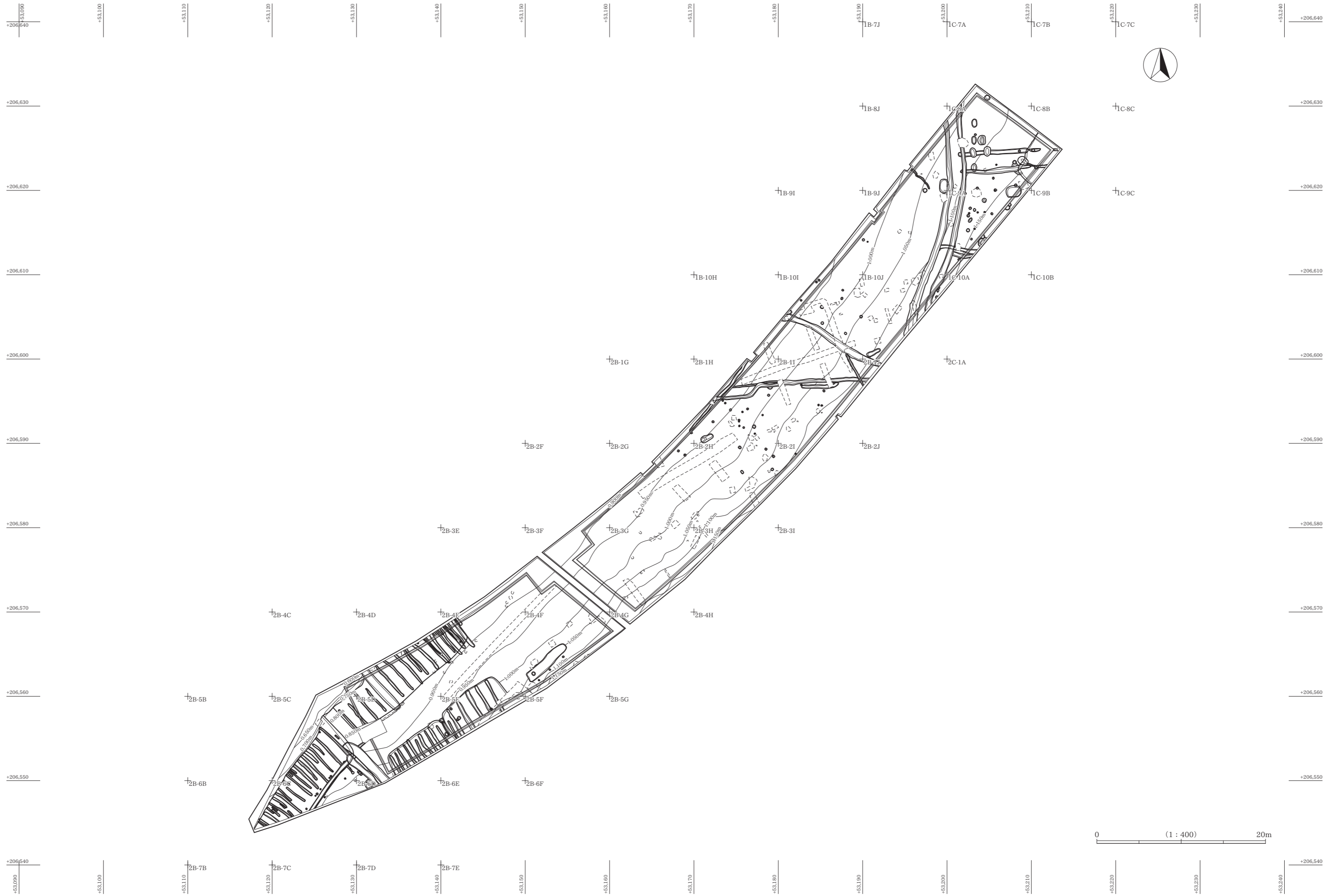
Pit88 1 褐灰色土 (10YR4/1) やや砂質。しまりあり。

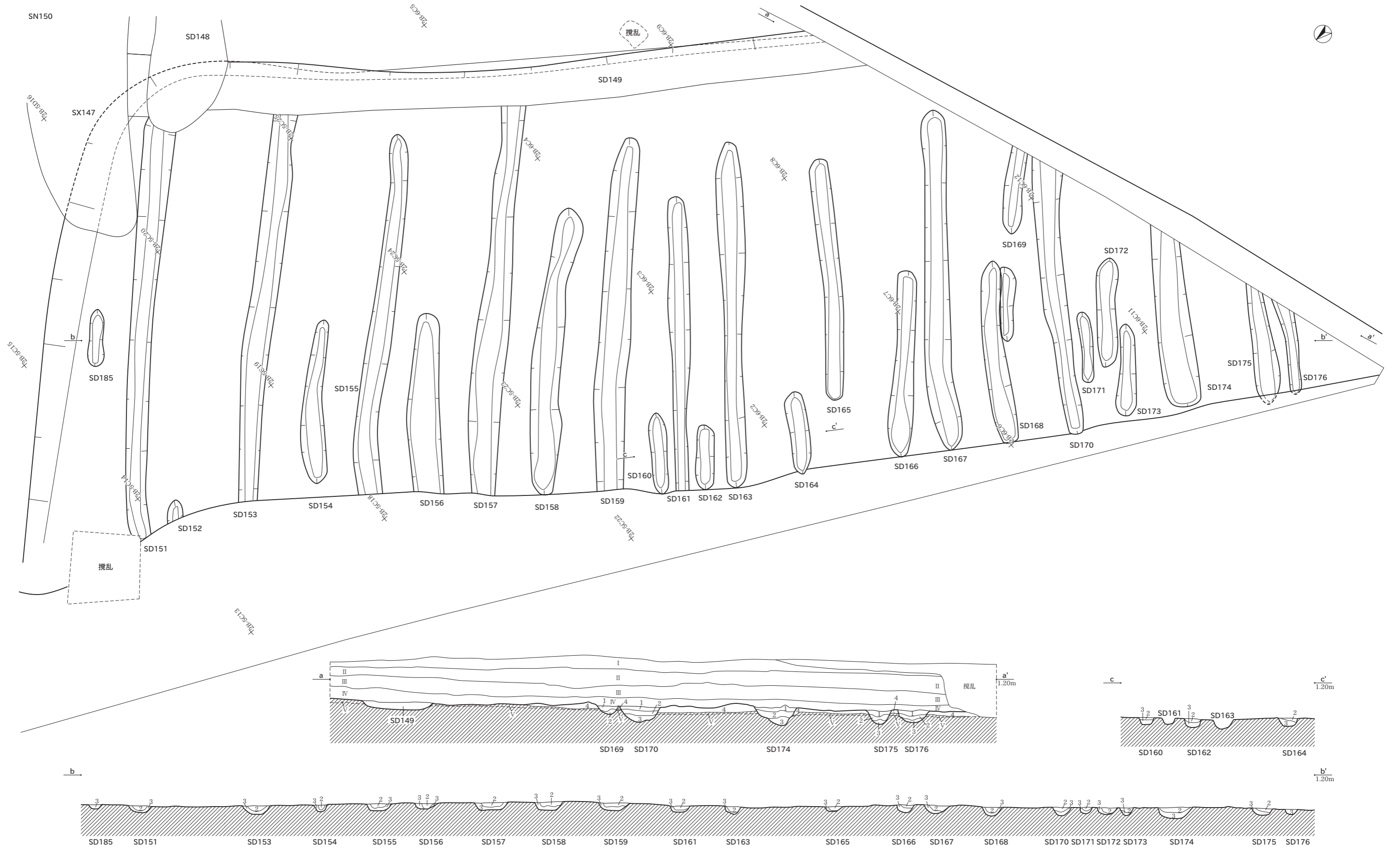






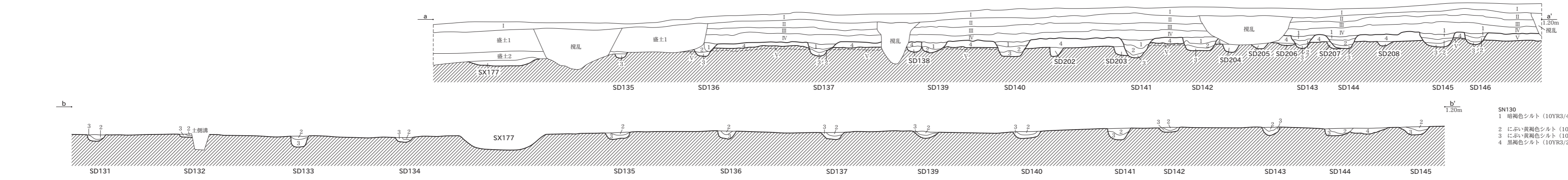
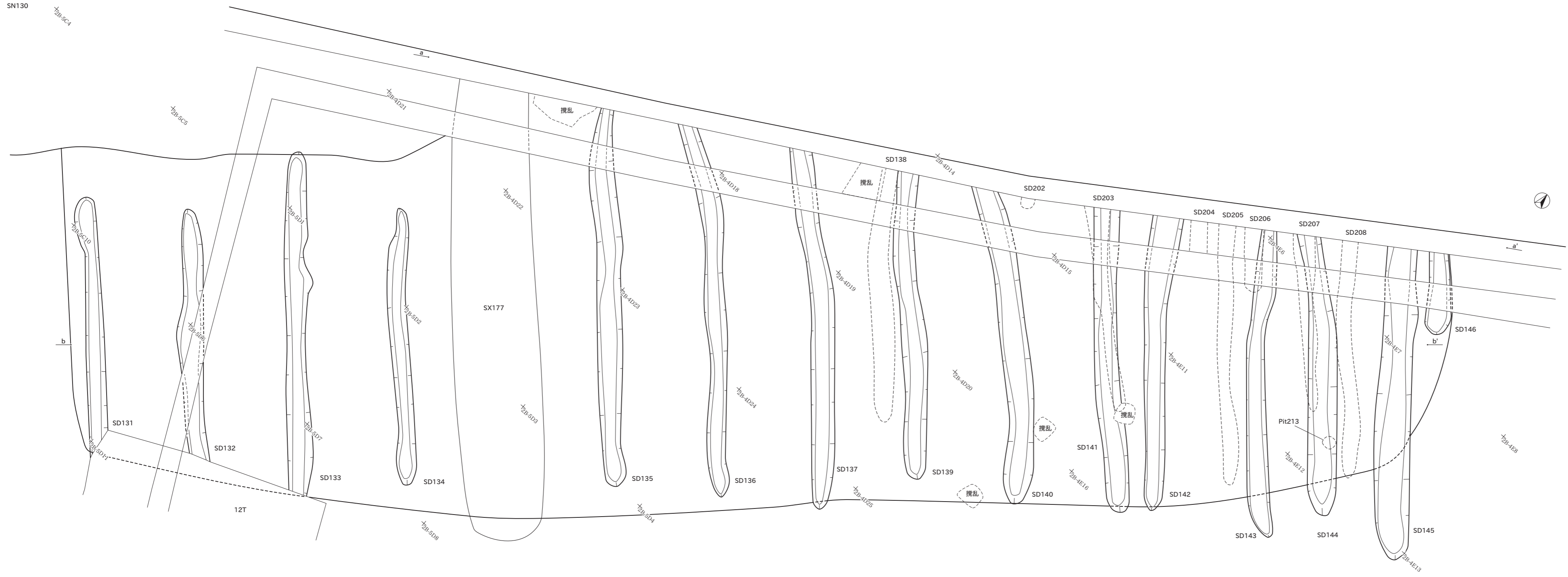




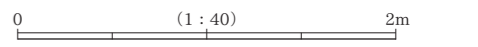


SN150
 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性あり、しまりややあり。マーブル状にIV層土V層土が混じる。(IV層土の混じりが強い。) φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり。マーブル状にIV層土V層土が混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が極少量入る。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりあり。V層土が混じる。1・2層に比べて砂質が強い。
 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり。IV層土とV層土が強く混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。

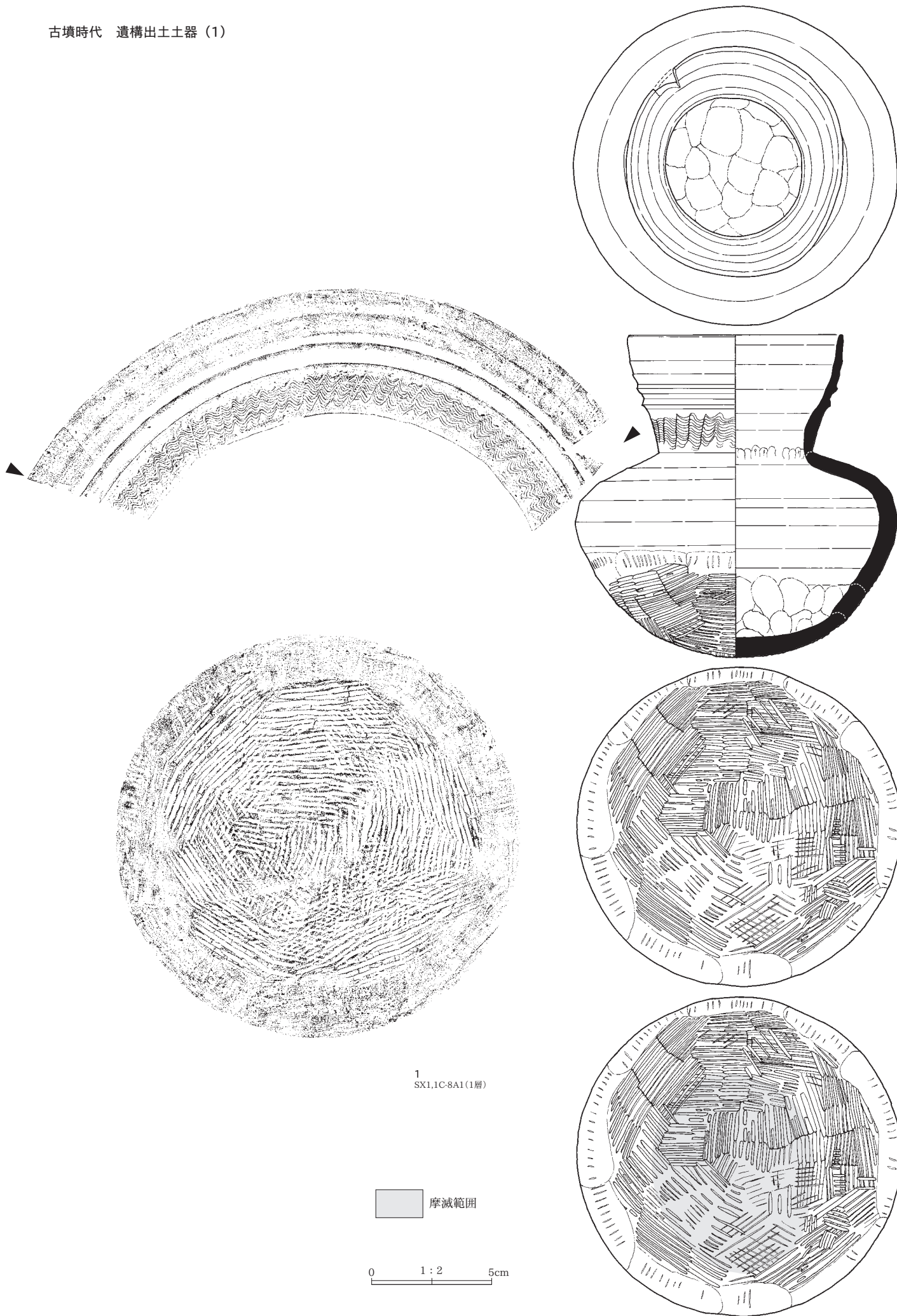
SN130



SN130
 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性あり、しまりややあり。マール状にIV層主V層土が混じる。(IV層土の混じりが強い。)
 2 におい黄褐色シルト (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり。マール状にIV層主V層土が混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。
 3 におい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりあり。V層土が混じる。1・2層に比べて砂質が強い。
 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり。IV層土とV層土が強く混じる。φ0.2~0.3mmの炭化物が少量入る。



古墳時代 遺構出土土器 (1)

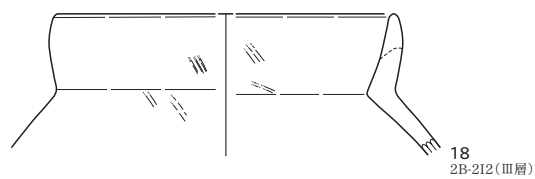
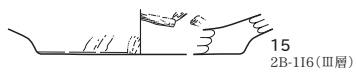
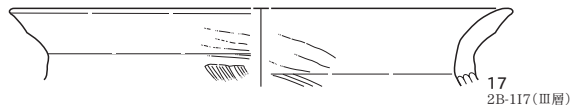
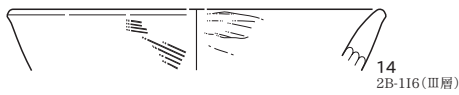
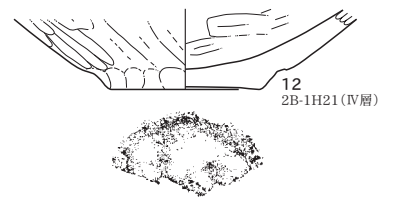
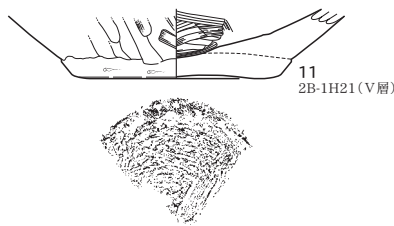
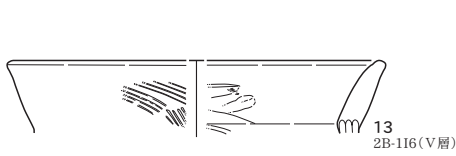
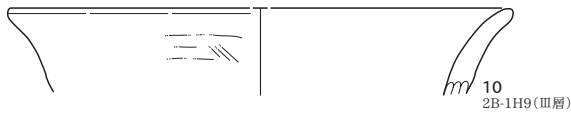
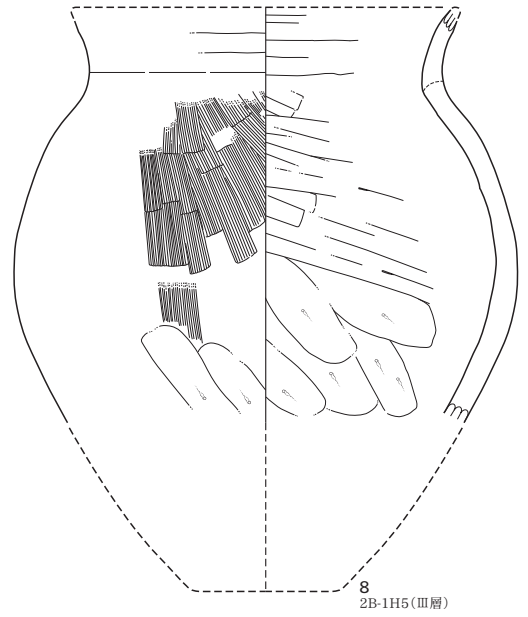
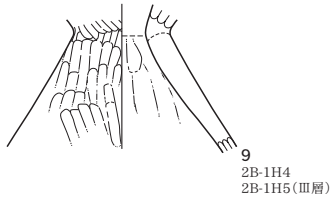
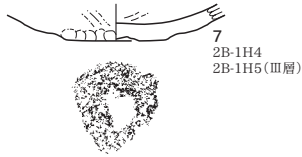
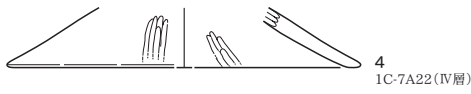
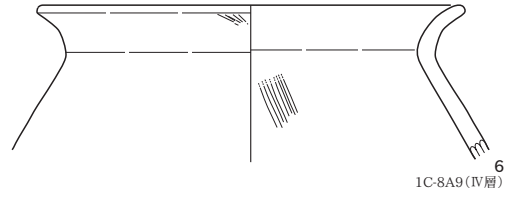
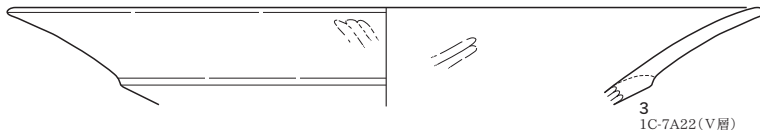
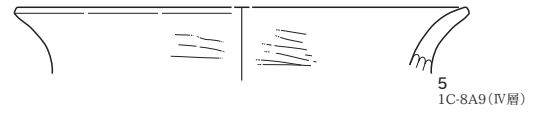
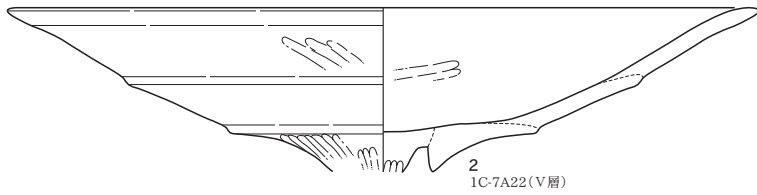


1
SX1.1C-8A1 (1層)

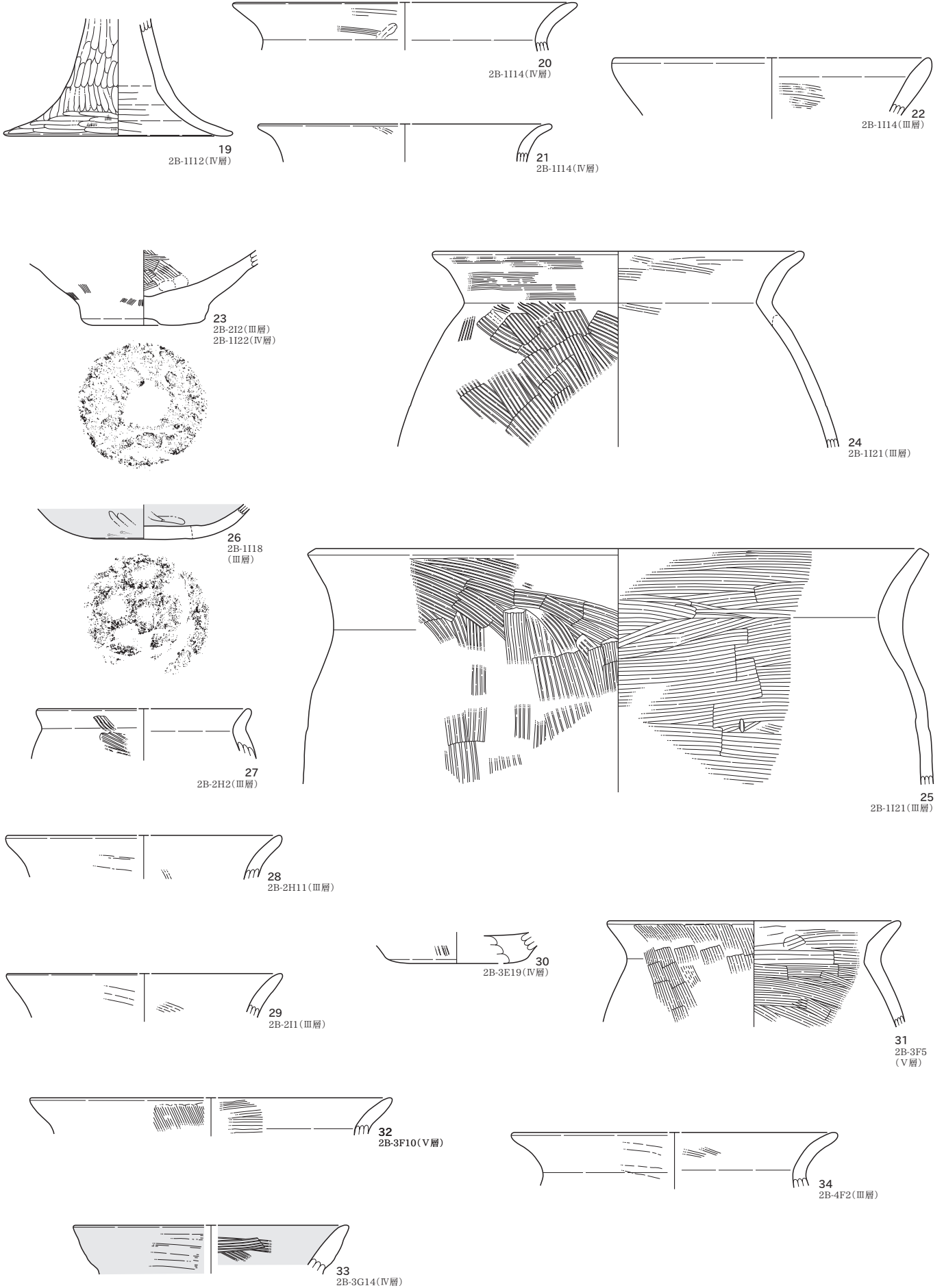
摩滅範圍

0 1:2 5cm

古墳時代 包含層出土土器 (2~18)



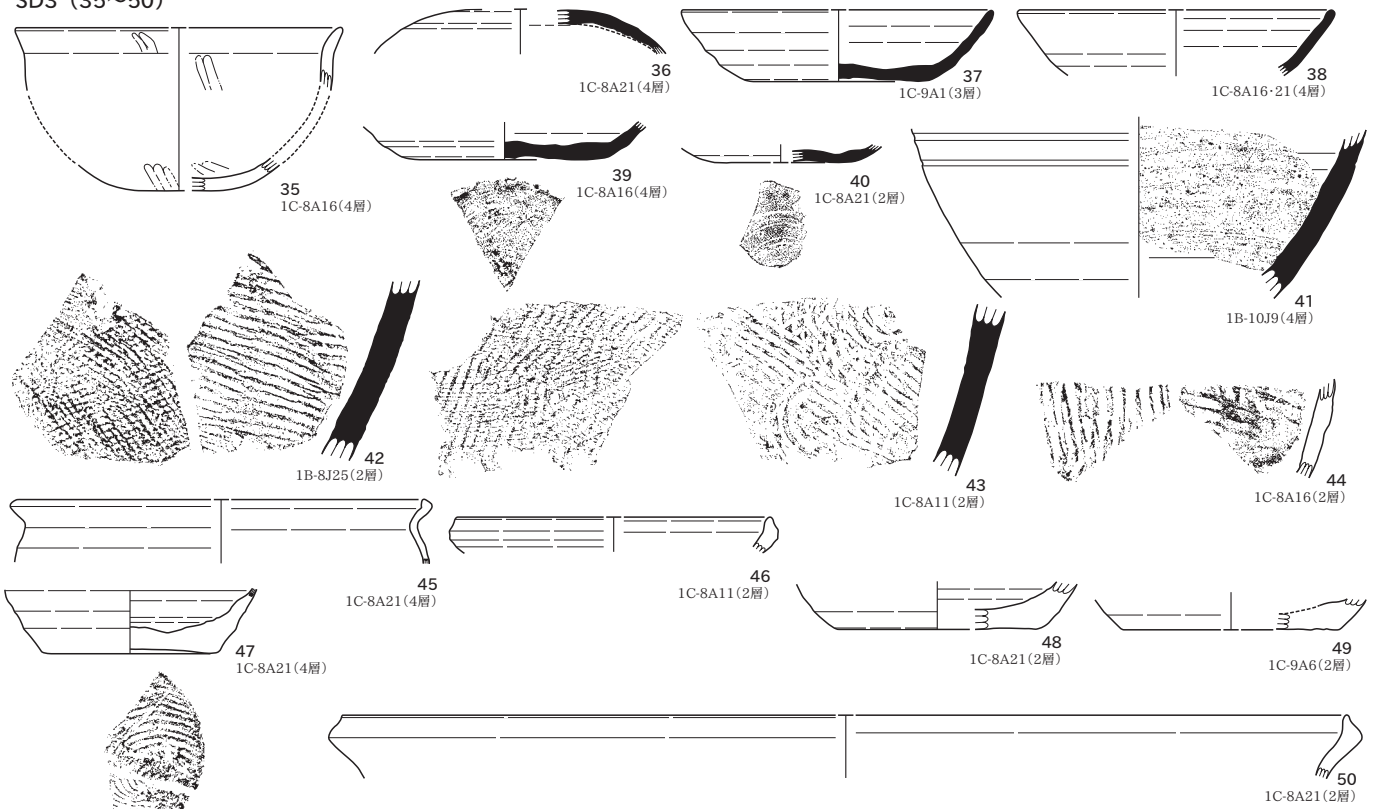
古墳時代 包含層出土土器 (19~34)



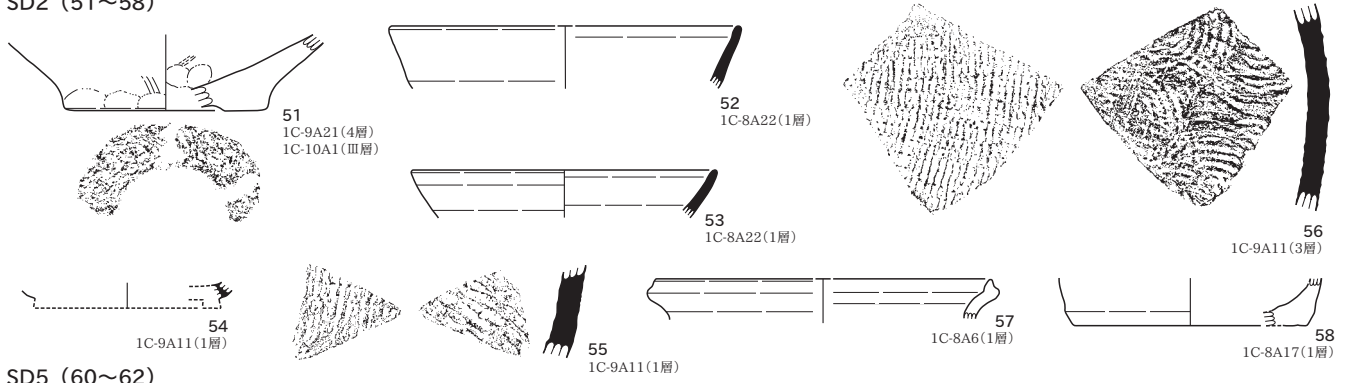
赤彩

0 (1:3) 10cm

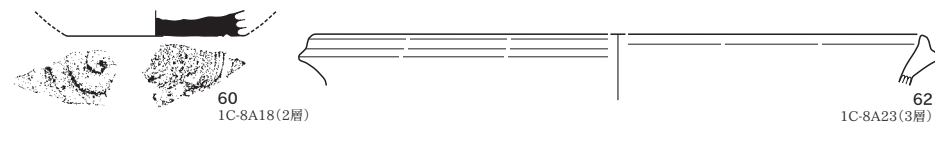
SD3 (35~50)



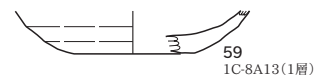
SD2 (51~58)



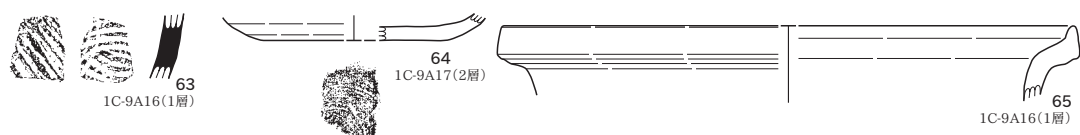
SD5 (60~62)



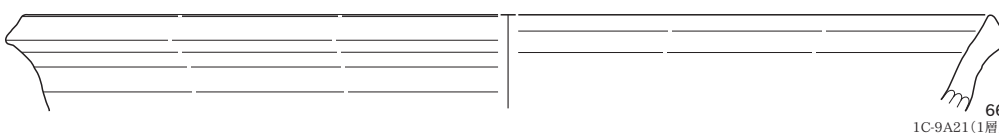
SD13 (59)



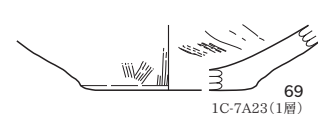
SD9 (63~65)



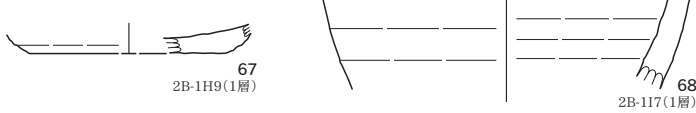
SD29 (66)



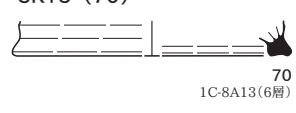
SK4 (69)



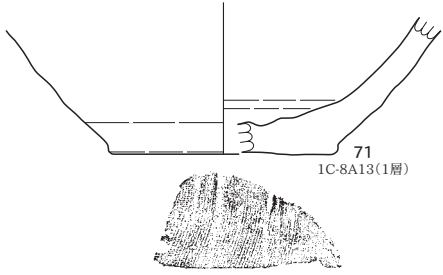
SD55 (67・68)



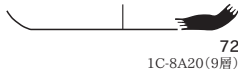
SK15 (70)



SK8 (71)



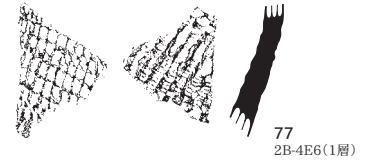
SK7 (72・73)



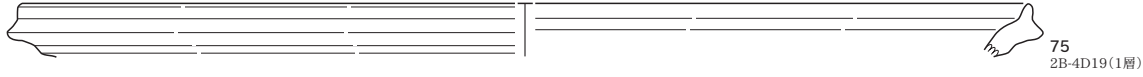
SN130
SD136 (74)



SD144 (77)



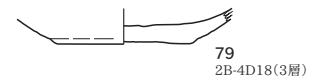
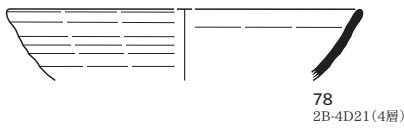
SD139 (75)



SD141 (76)



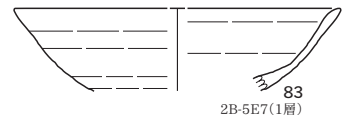
耕作土 (78~80)



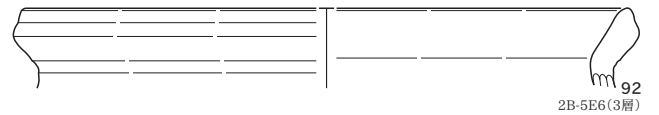
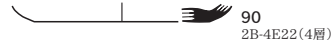
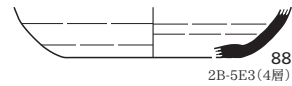
SN112
SD115 (81・82)



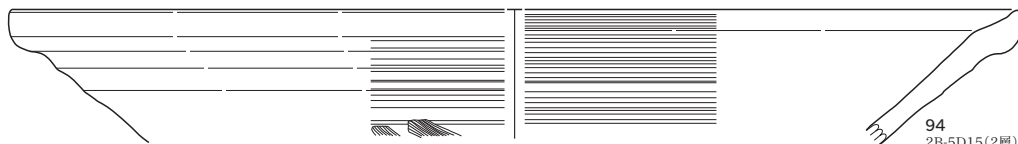
SD116 (83・84)



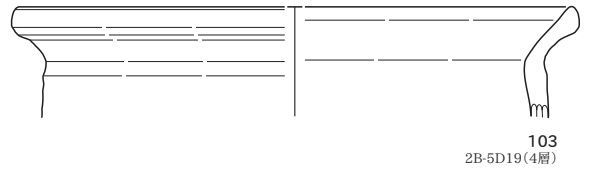
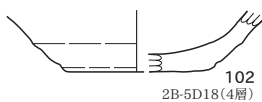
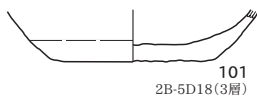
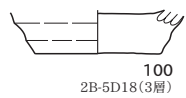
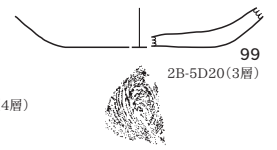
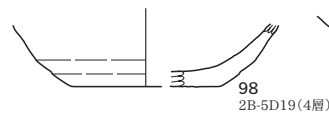
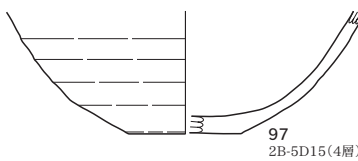
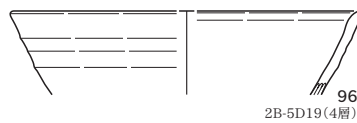
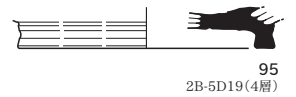
耕作土 (85~93)



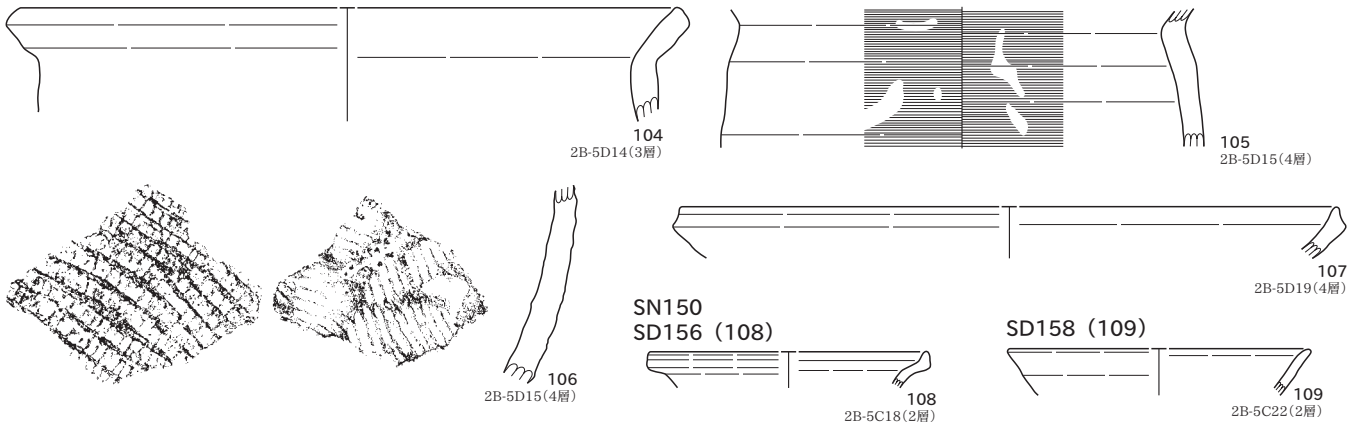
SN129
SD120 (94)



耕作土 (95~103)



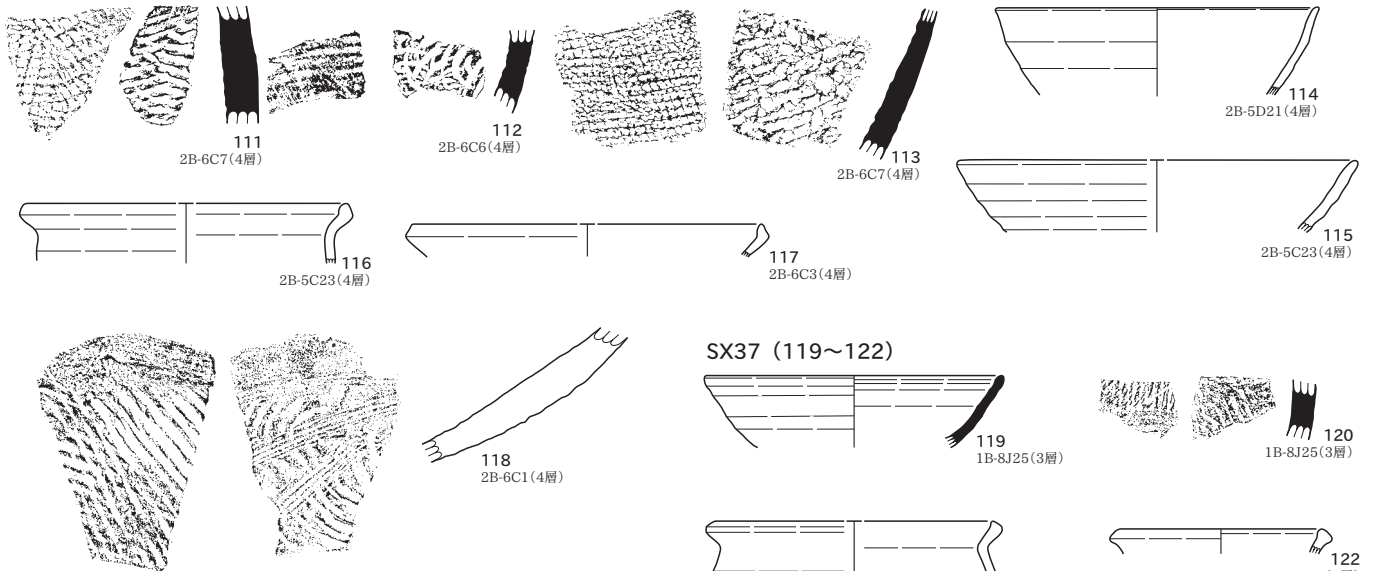
SN129耕作土 (104~107)



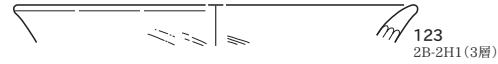
SD163 (110)



耕作土 (111~118)



SX83 (123)



Pit75 (126)



Pit94 (127)



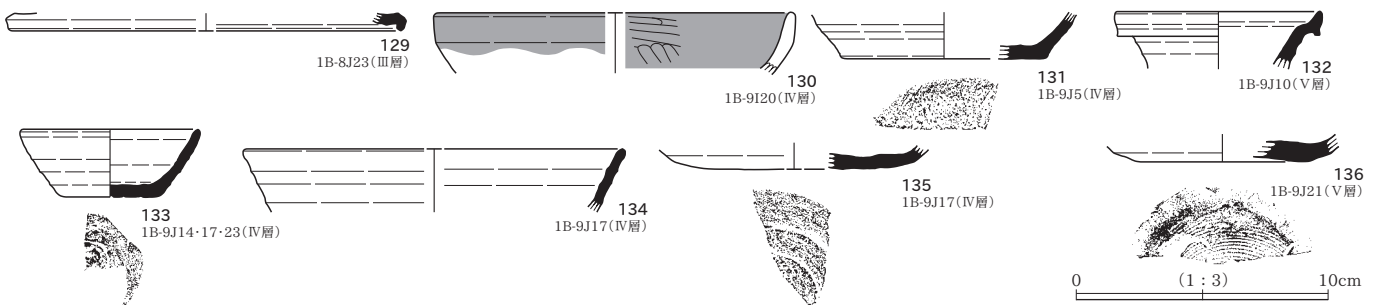
SX177 (124・125)



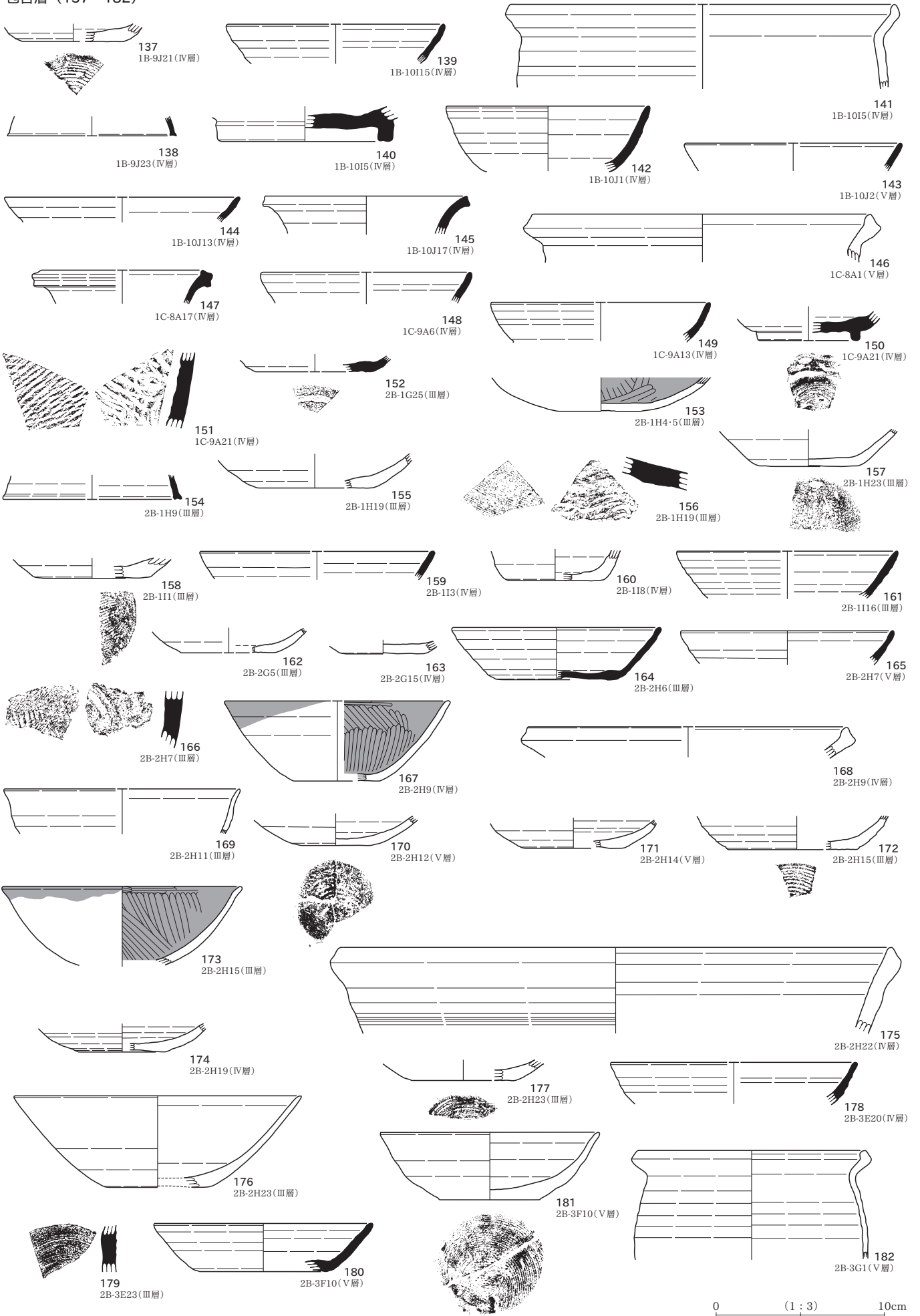
Pit89 (128)



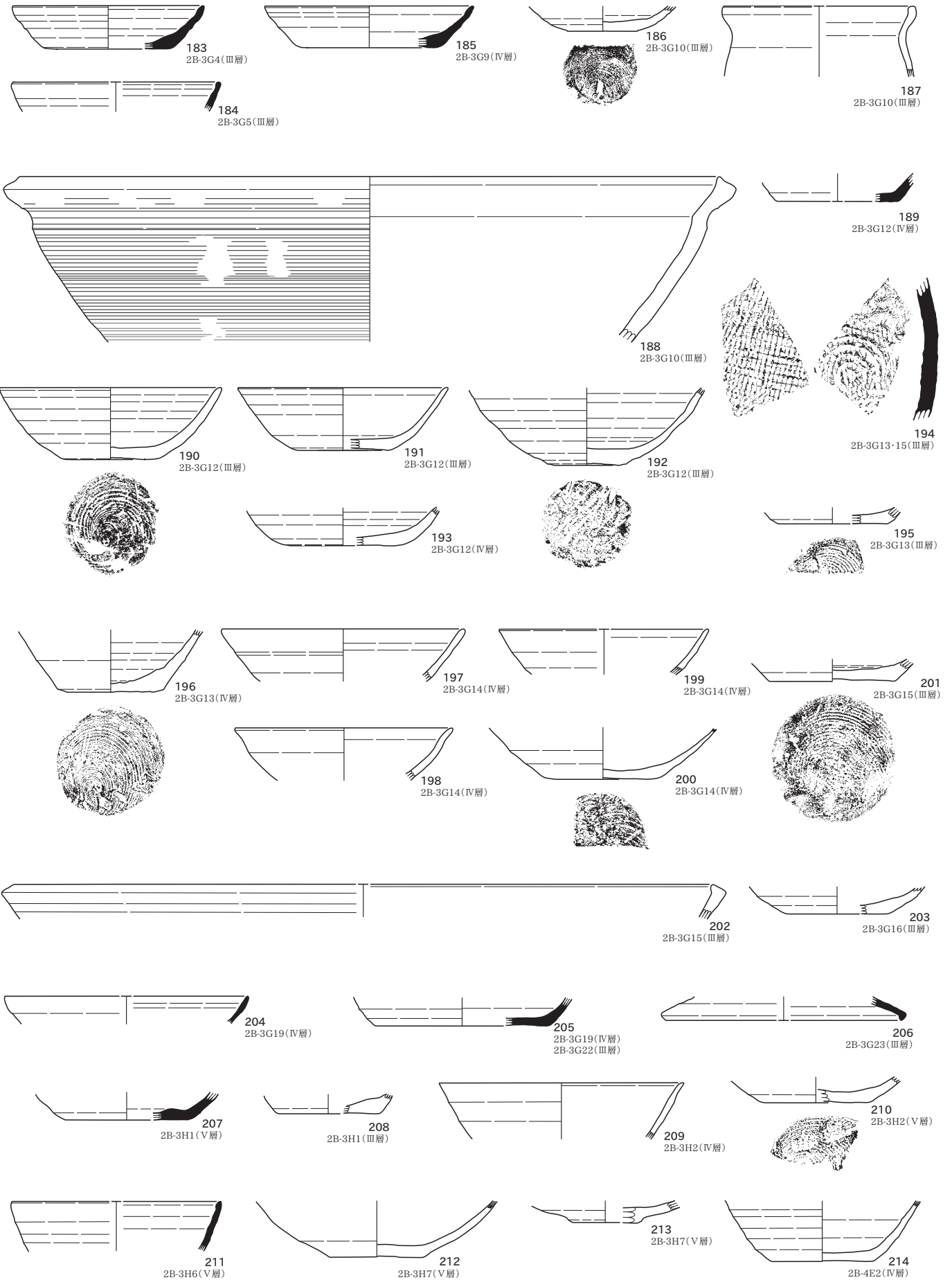
包含層 (129~136)



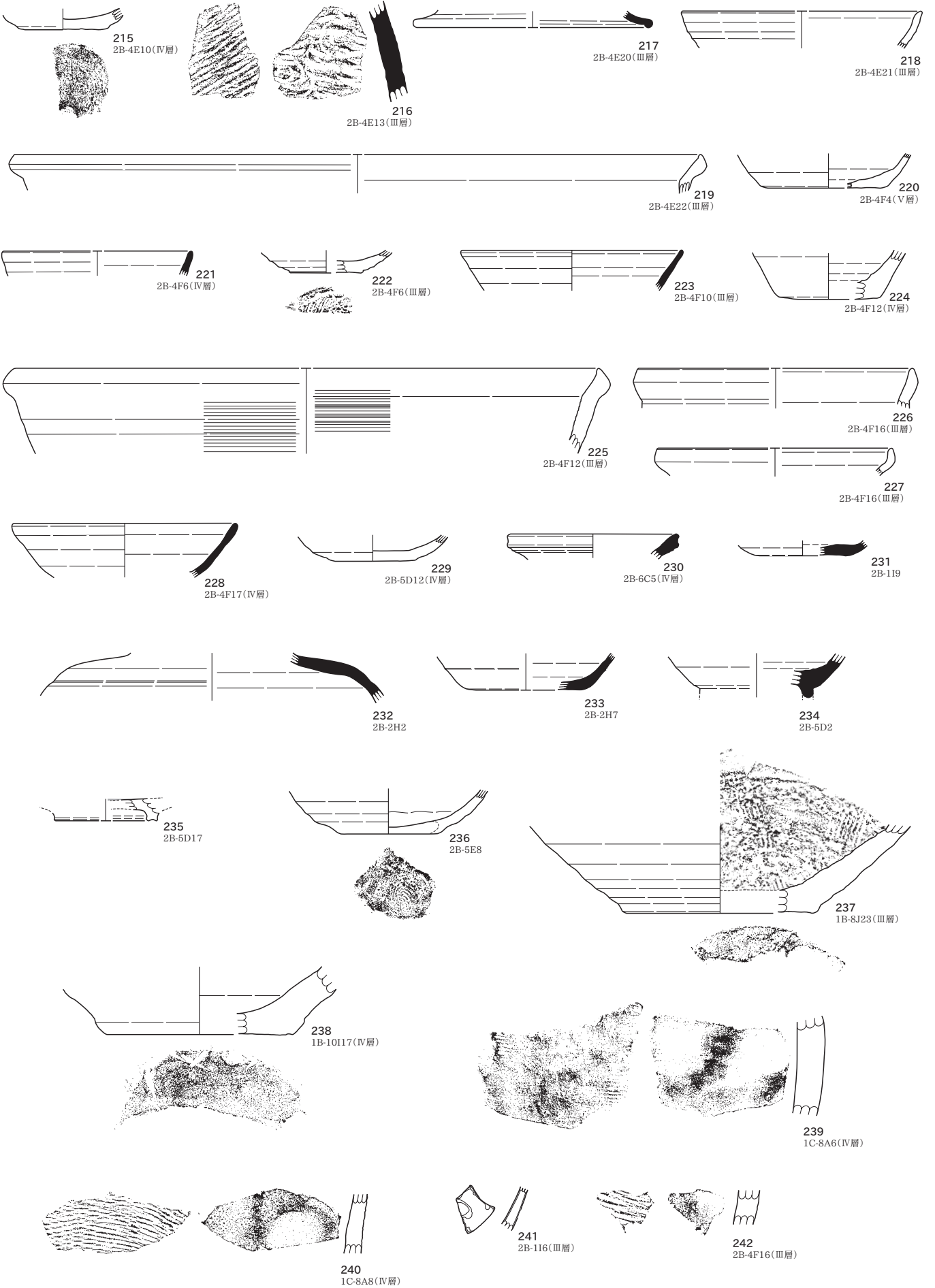
包含层 (137~182)



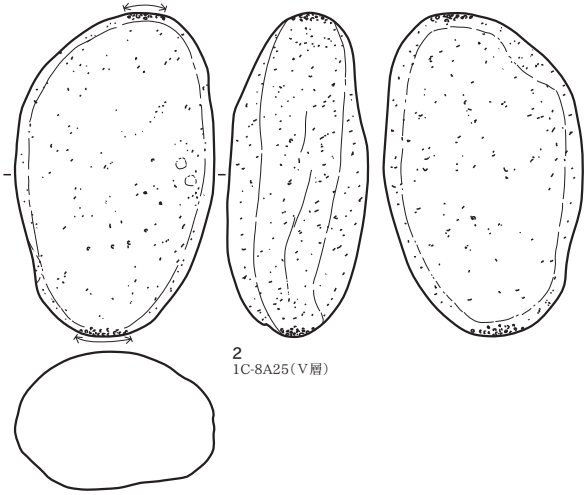
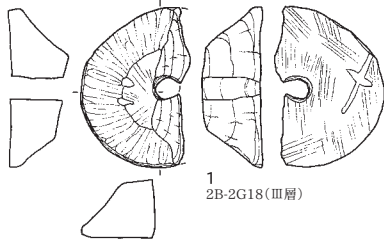
包含層 (183~214)



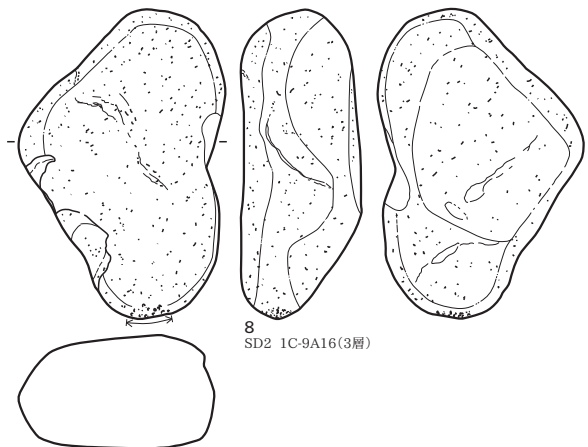
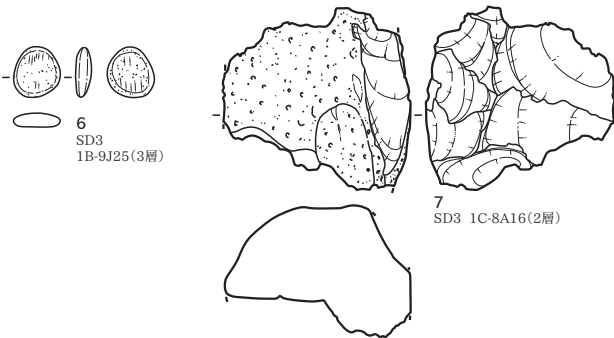
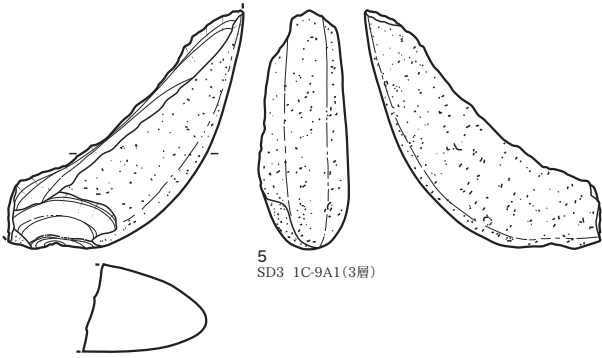
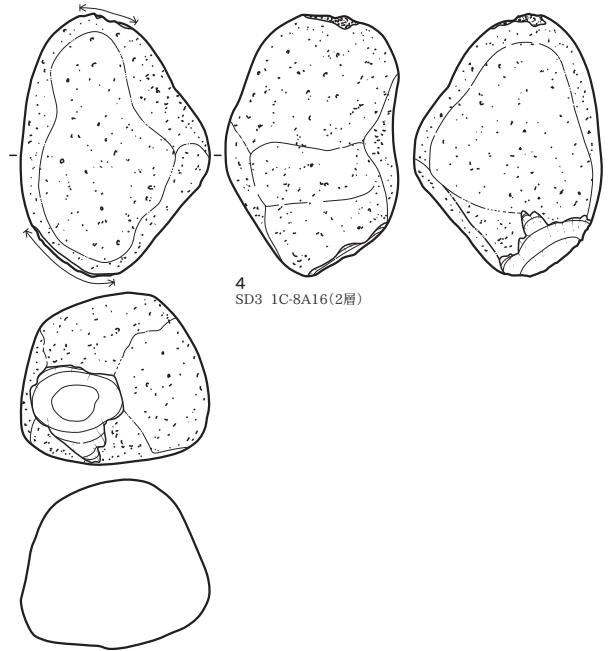
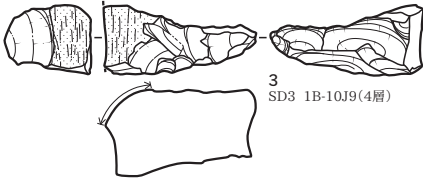
包含層 (215~242)



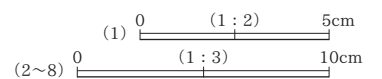
古墳時代石製品 (1・2)



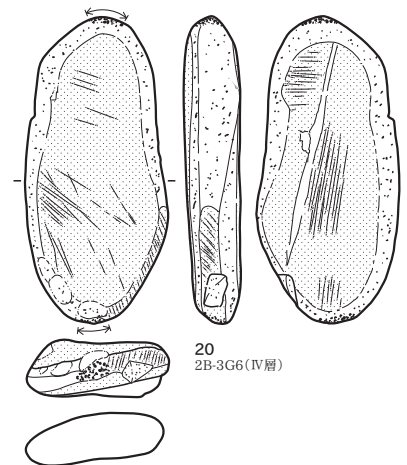
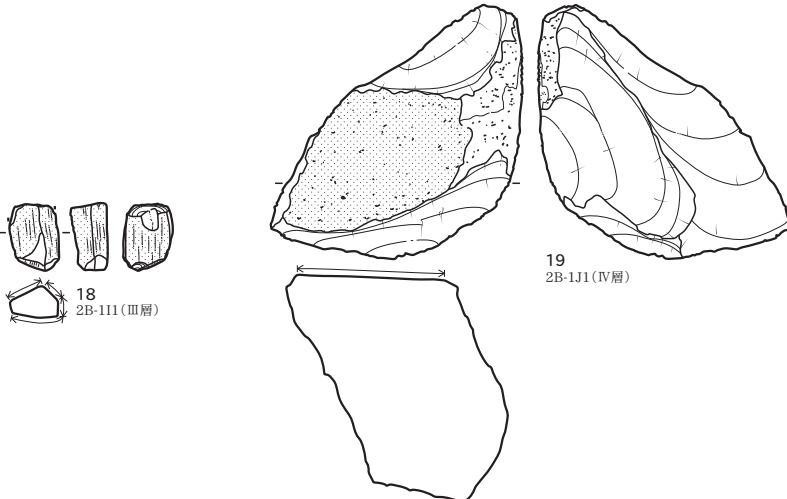
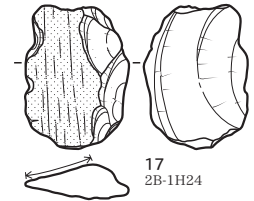
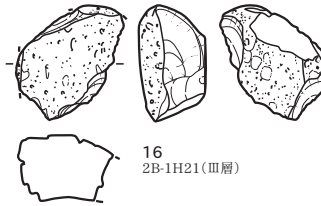
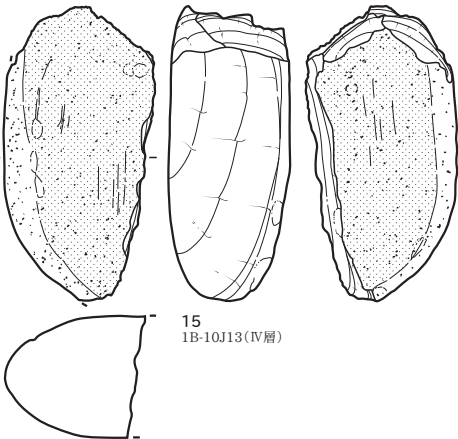
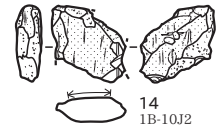
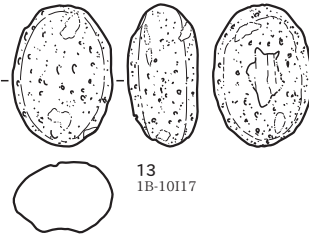
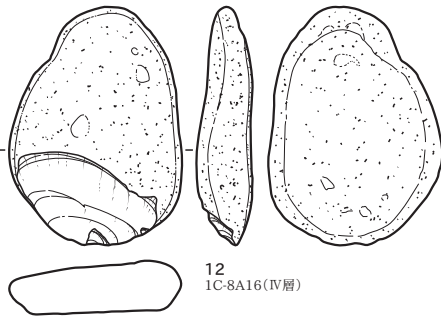
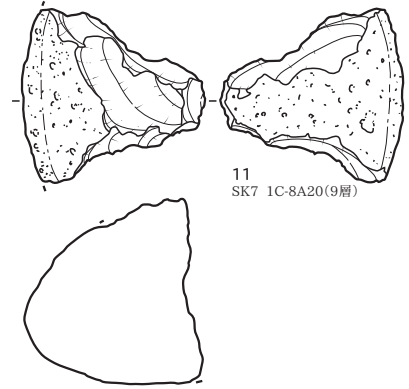
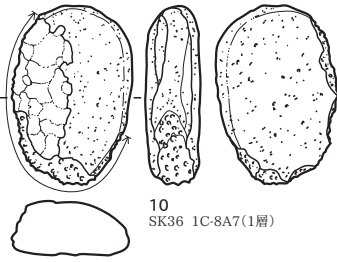
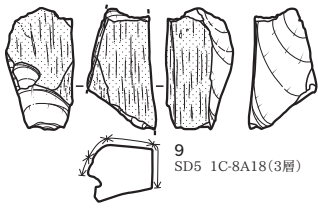
古代石製品 (3~8)



砥面



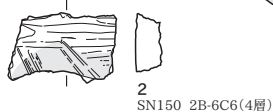
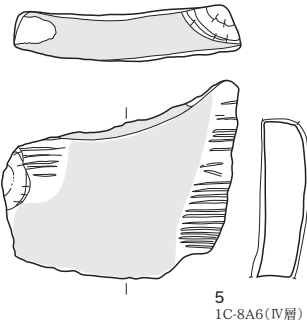
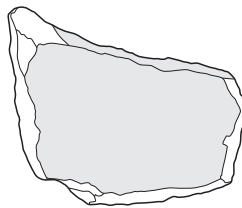
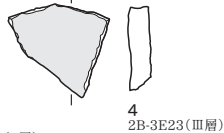
古代石製品 (9~20)



砥面・磨面

0 (1:3) 10cm

土製品 (1~5)

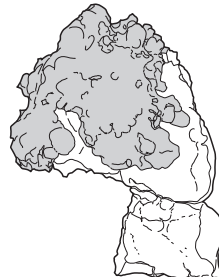
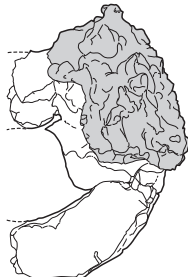
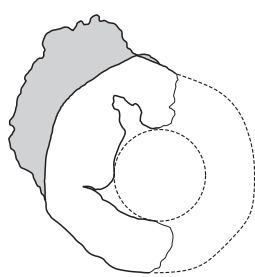


3 SN150 2B-6C7 (4層)

4 2B-3E23 (Ⅲ層)

5 1C-8A6 (Ⅳ層)

鍛冶関連遺物 (6~26)

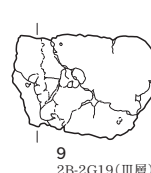
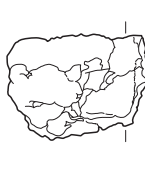
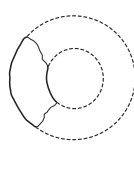
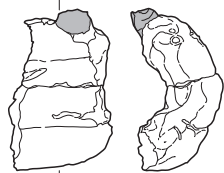
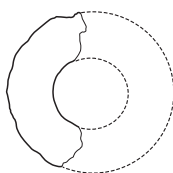


7 1C-9A16 (Ⅳ層)

砥面

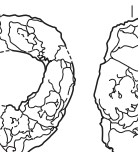
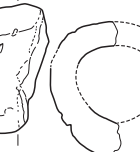
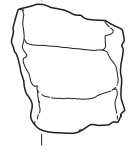
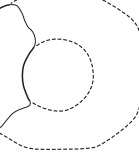
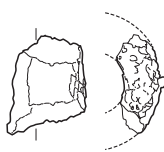
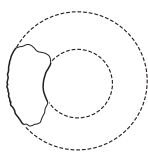
溶解物

6 SD2 1B-10J10 (4層)



8 2B-2G5 (Ⅳ層)

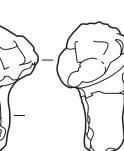
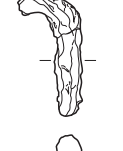
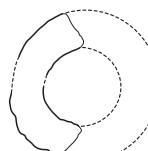
9 2B-2G19 (Ⅲ層)



10 2B-2H15 (Ⅲ層)

11 2B-2H18 (Ⅲ層)

12 2B-3H1 (Ⅲ層)

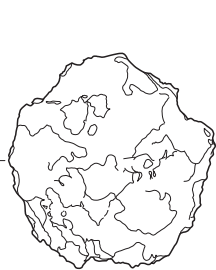
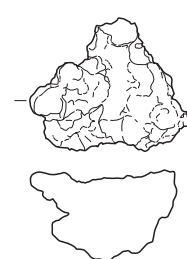


13 2B-3H1 (Ⅲ層)

14 SD3 1C-8A6 (2層)

15 2B-1H21

17 2B-3G17 (Ⅲ層)



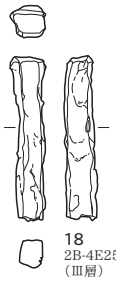
20 SD5 1C-8A18 (3層)



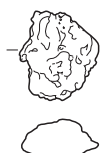
21 SD5 1C-8A18 (2層)



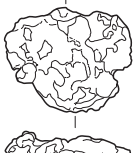
16 2B-116 (Ⅲ層)



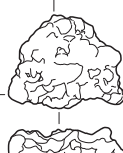
18 2B-4E25 (Ⅲ層)



22 Ph104 2B-2H5



23 2B-1123 (Ⅳ層)



24 2B-2G5 (Ⅲ層)



25 2B-2G19 (Ⅲ層)



26 2B-3G17 (Ⅲ層)

(14~18) 0 (1:2) 5cm

(1~13・19~26) 0 (1:3) 10cm



日水遺跡周辺空中写真(1)

米軍撮影 1948年9月



日水遺跡周辺空中写真 2（南東から）



日水遺跡周辺空中写真 3（北西から）



日水遺跡周辺空中写真 4（南東から）



日水遺跡周辺空中写真 5（北東から）



日水遺跡周辺空中写真 6 (南から) 2005 年撮影〔今井・相沢 2007〕に一部加筆



日水遺跡全景空中写真 1（上が北東）



日水遺跡全景空中写真 2 (南東から)



日水遺跡全景空中写真 3 (南東から)



日水遺跡全景空中写真 4（南東から）



日水遺跡全景空中写真 5（南東から）



基本層序 A (南西から)



基本層序 B (北西から)



基本層序 C (北西から)



基本層序 D (北西から)



基本層序 E (北西から)



基本層序 F (北西から)



基本層序 H (北東から)



基本層序 I (南東から)



調査前現況 1 (北東から)



調査前現況 2 (北東から)



調査前現況 3 (南西から)



調査前現況 4 (南西から)



SX1 土層断面 (北西から)



SX1 検出状況 (北西から)



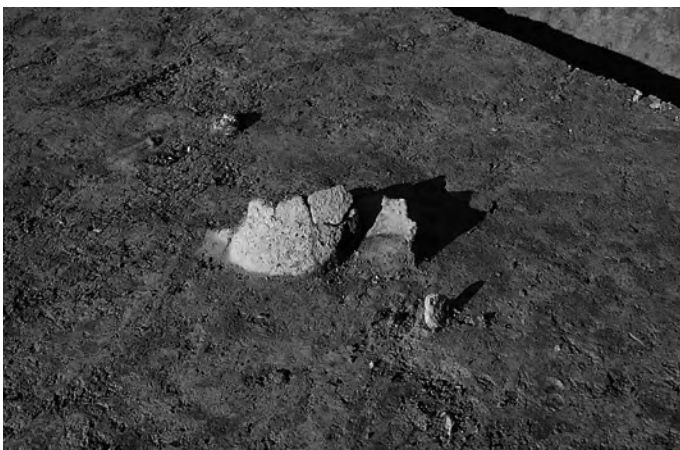
SX1 遺物出土状況 (北西から)



SX1 完掘 (北西から)



1C-7A22 遺物出土状況 (北東から)



1C-8A9 遺物出土状況 (南から)



1C-8A3 周辺下層完掘 (南東から)



1C-8A3 他 深掘りトレンチ (西から)



2B-1I12 遺物出土状況 (北から)



2B-1・2H、I 周辺下層完掘 (南から)



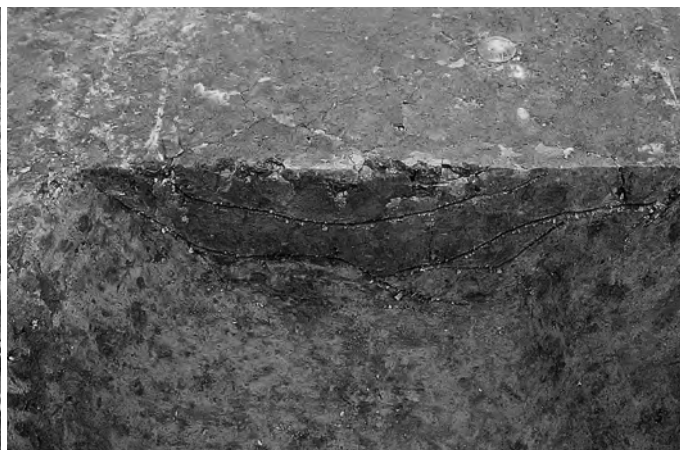
2B-3F5 遺物出土状況 (南から)



2B-3F5・10 周辺下層完掘 (南から)



SD3 土層断面 1 (南から)



SD3 土層断面 2 (北から)



SD3 土層断面 3 (南から)



SD2 土層断面 1 (南から)



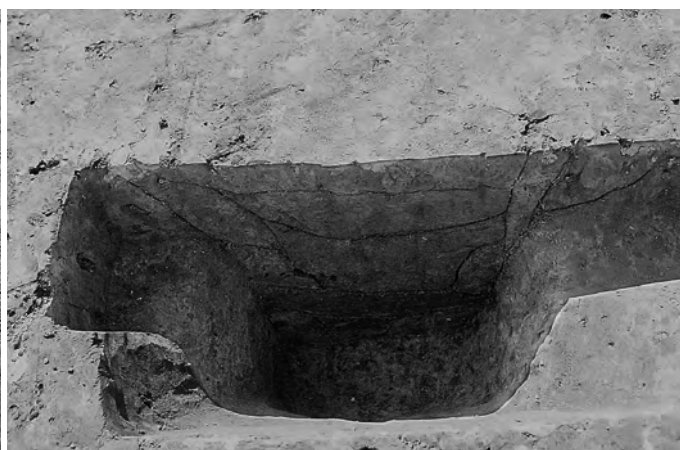
SD2 土層断面 2 (南から)



SD3 (左)・SD2 (右) 完掘 (北から)



SD13 土層断面 (東から)



SD5 土層断面 (東から)



SD5 (中)、SK11 (左)・12 (右) 土層断面 (東から)



SD13 (左)・5 (右) 完掘 (西から)



SD9 土層断面 1 (西から)



SD9 土層断面 2 (西から)



SD29 土層断面 (西から)



SD9 (左)・29 (右) 完掘 (西から)



SD62 土層断面 2 (北西から)



SD62 完掘 (北西から)



SD86 土層断面 (南西から)



SD55 (左)・86 (右) 土層断面 (東から)



SD86 完掘 (北東から)



SD55 (右)・81 (左) 土層断面 (西から)



SD55 (中)・81 (右)、SK82 (左) 土層断面 (東から)



SD55 (左)・54 (右) 土層断面 (北西から)



SD55 (左)・81 (右) 完掘 (西から)



SD54 完掘 (北から)



SD55 (右)・59 (左) 土層断面 (東から)



SD59 完掘 (東から)



SD148 (右)、SX147 (左) 土層断面 (北西から)



SD148 (左)・SX147 (右) 完掘 (南東から)



SD183 土層断面 (南東から)



SD149 土層断面 1 (北から)



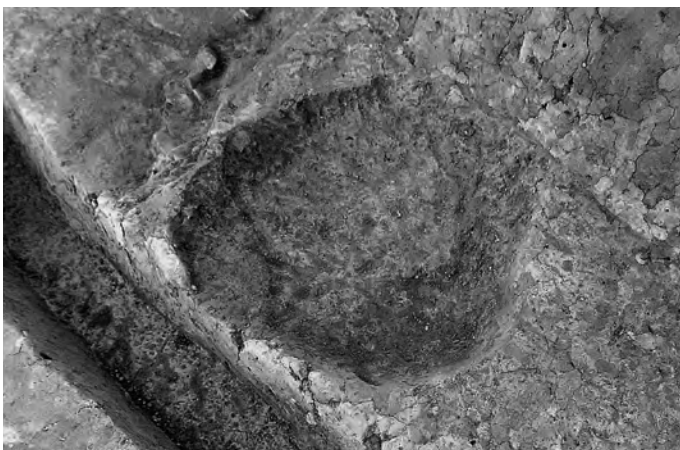
SD149 土層断面 2 (北西から)



SD149 完掘 (南西から)



SK4 土層断面 (南から)



SK4 完掘 (南から)



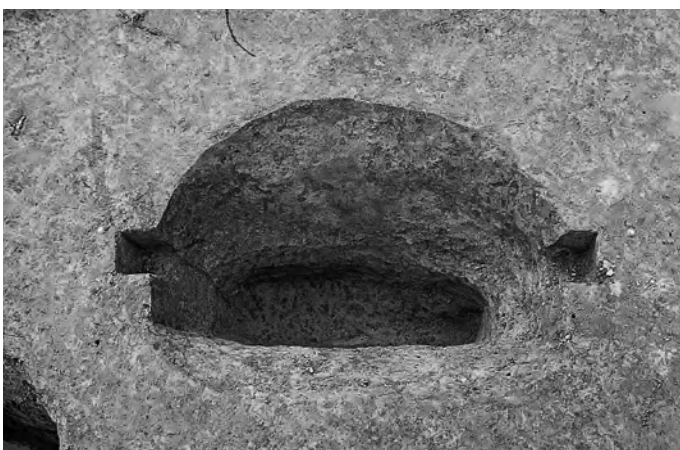
SK36 土層断面 (西から)



SK36 完掘 (西から)



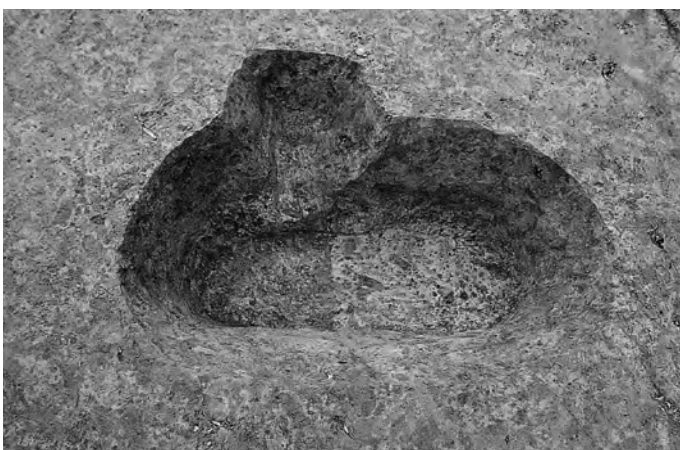
SK15 土層断面 (東から)



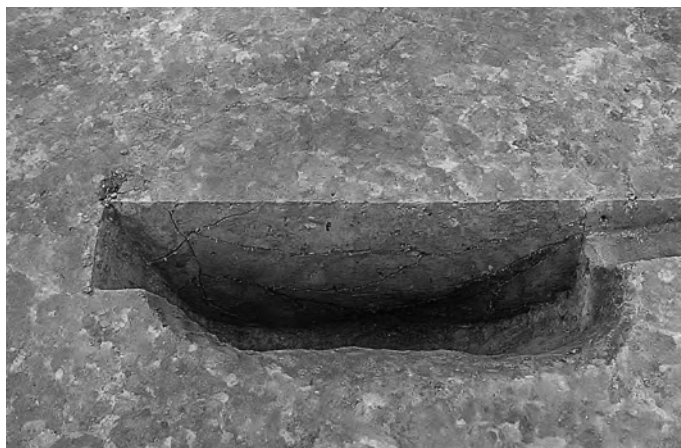
SK15 完掘 (東から)



SK17 土層断面 (南から)



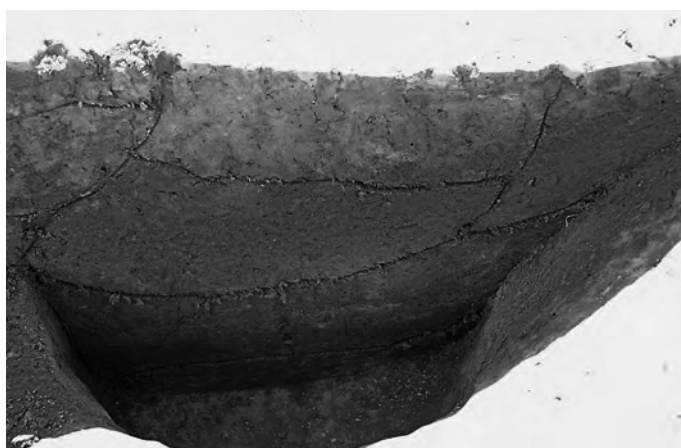
SK17 完掘 (東から)



SK8 土層断面 (東から)



SK8 完掘 (東から)



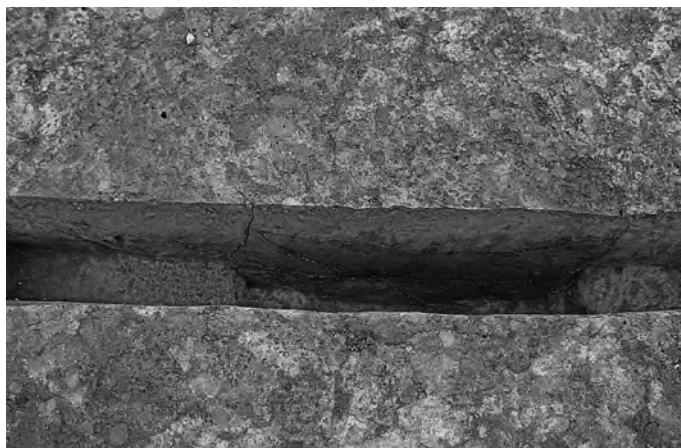
SX6・SK7 土層断面 (北東から)



SK7 完掘 (北東から)



1C-8A12 グリッド周辺 SK 群 (東から)



SK10 土層断面 (東から)



SK10 完掘 (北東から)



SK32 土層断面 (南から)



SK32 完掘 (北から)



SK11 (右)・12 (左) 完掘 (西から)



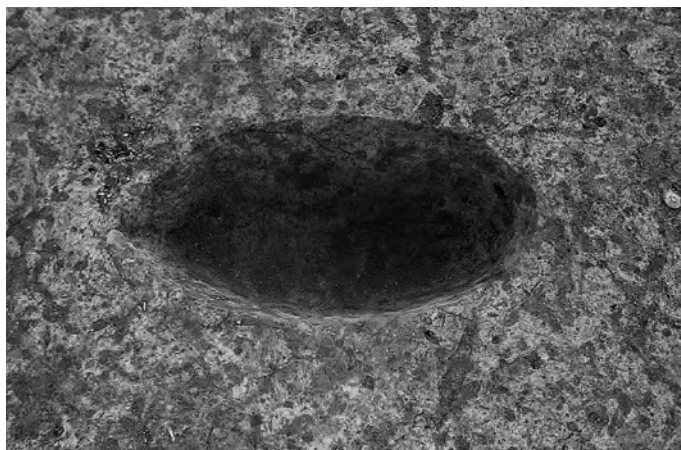
SK30 (右)・31 (左) 土層断面 (西から)



SK30 (右)・31 (左) 完掘 (北西から)



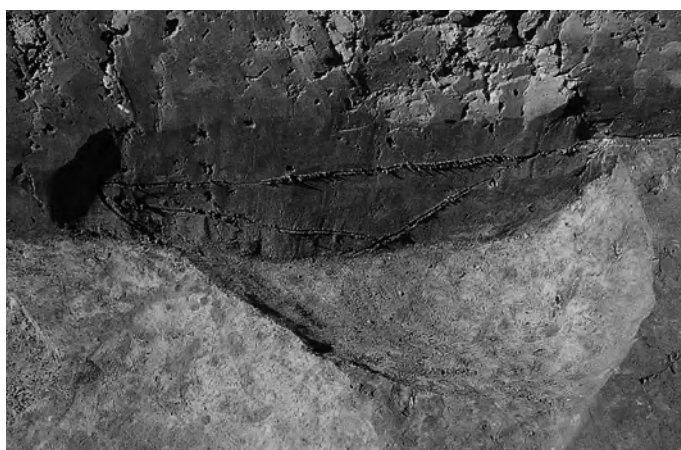
SK28 土層断面 (南東から)



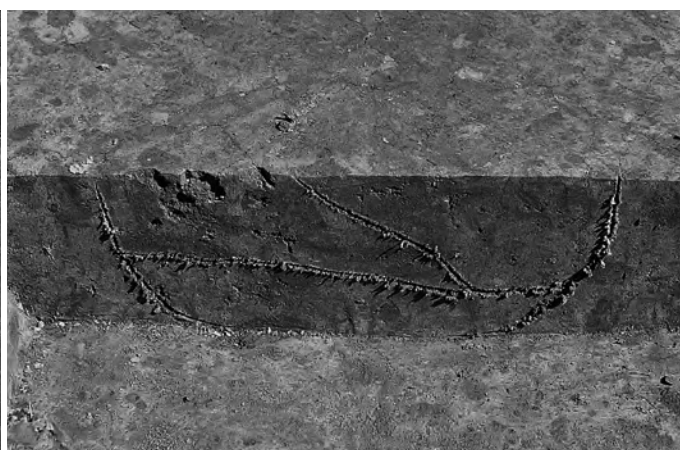
SK28 完掘 (北西から)



SK57 土層断面 (北西から)



SK84 土層断面 (南東から)



SK42 土層断面 (南西から)



SK42 完掘 (北西から)



SK198 土層断面 (北西から)



SK198 完掘 (北西から)



SK82 完掘 (北西から)



SN130 (SD135 ~ 137 · 139) 検出状況 (南東から)



SN130 SD133 · 134 土層断面 (南東から)



SN130 SD135 ~ 137 土層断面 (南東から)



SN130 SD135 ~ 137 土層断面 (南東から)



SN130 SD140 ~ 142 土層断面 (南東から)



SN130 SD143 ~ 146 土層断面 (南東から)



SN130 完掘 (南東から)



SN209 完掘 (南東から)



SN112 SD113～115 土層断面（北西から）



SN112 SD115 土層断面（北西から）



SN112 SD113～115 完掘（北西から）



SN112 SD116～118 検出状況（北西から）



SN112 SD116～118 土層断面（北西から）



SN112 SD116 土層断面（北西から）



SN112 SD116～118 完掘（北西から）



SN112 完掘（南東から）



SN129 (SD119 ~ 123) 検出状況 (北西から)



SN129 SD120 ~ 122 土層断面 (北西から)



SN129 SD123 ~ 125 土層断面 (北西から)



SN129 SD126 ~ 128 土層断面 (北西から)



SN129 SD119 ~ 121 完掘 (北西から)



SN129 SD122 ~ 124 完掘 (北西から)



SN129 SD125 ~ 128 完掘 (北西から)



SN129 完掘 (南東から)



SN150(SD169・170・172・174～176) 検出状況(北東から)



SN150 SD154～159 土層断面(北西から)



SN150 SD160～165 土層断面(北西から)



SN150 SD167・169・170 土層断面(北西から)



SN150 SD174～176 土層断面(北西から)



SN150 SD167～174 土層断面(北西から)



SN150 SD160・162 土層断面(南東から)



SN150 完掘(北東から)



SX27 土層断面 (東から)



SX27 完掘 (西から)



SX6 土層断面 1 (南西から)



SX6 土層断面 2 (北西から)



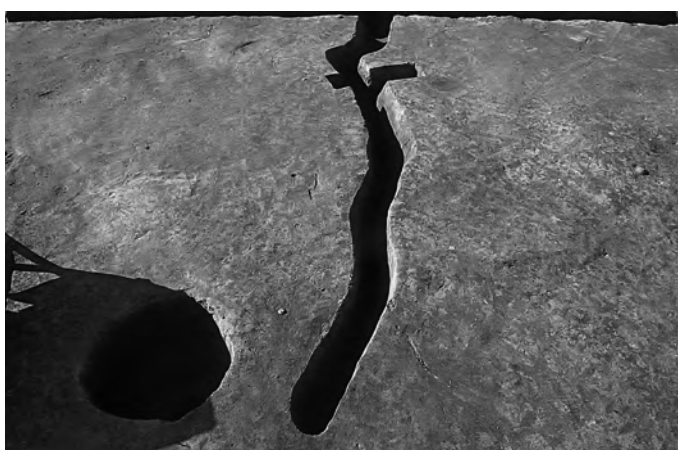
SX6・SD18 完掘 (北東から)



SX6 完掘 (北西から)



SX40 土層断面 (東から)



SX40 完掘 (南東から)



SX37 土層断面 (北から)



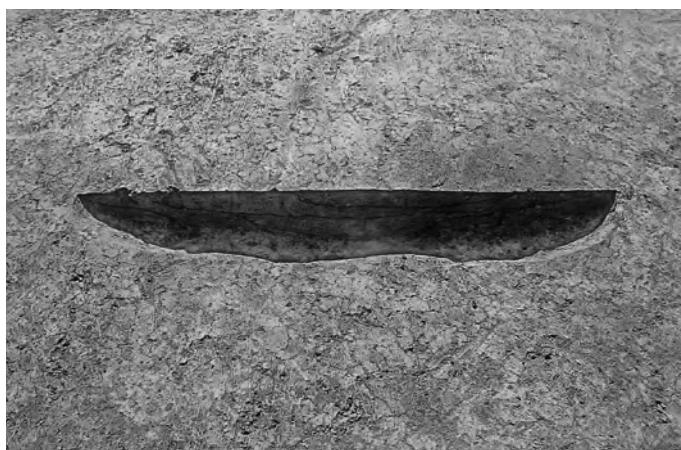
SX37 完掘 (東から)



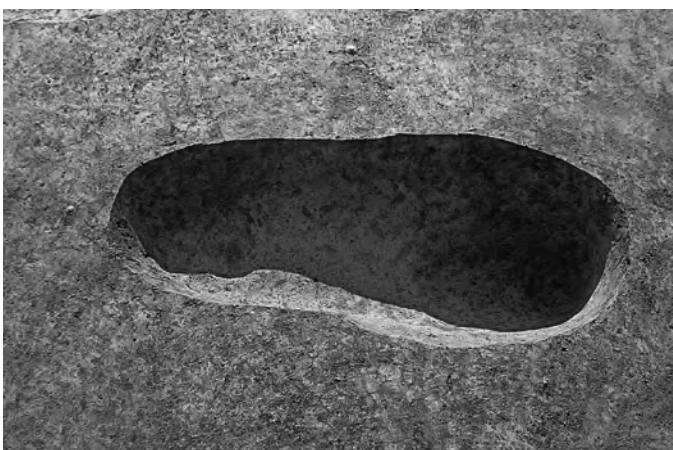
SX14 土層断面 (南から)



SX14 完掘 (東から)



SX83 土層断面 (北から)



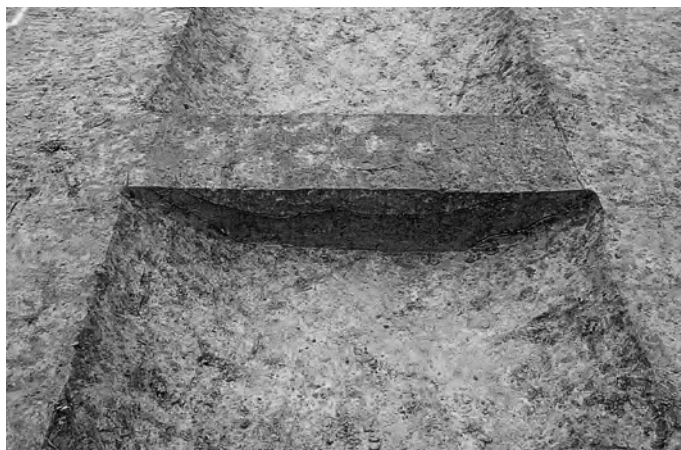
SX83 完掘 (北から)



SX107 土層断面 (南西から)



SX107 完掘 (北から)



SX177 土層断面 (南西から)



SX177 完掘 (南東から)



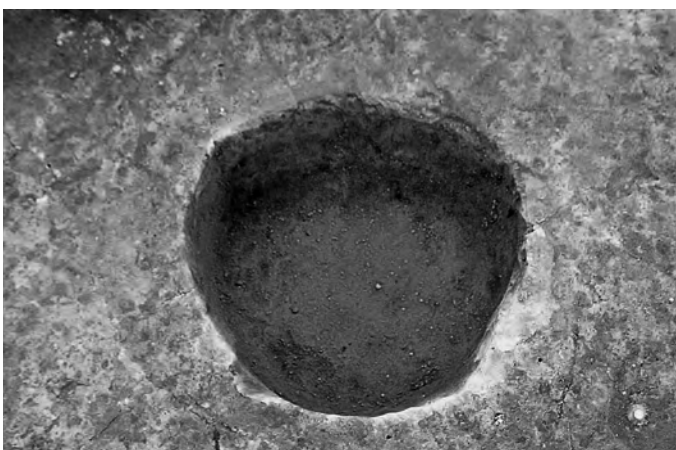
SX147 土層断面 (北西から)



SX147 完掘 (南東から)



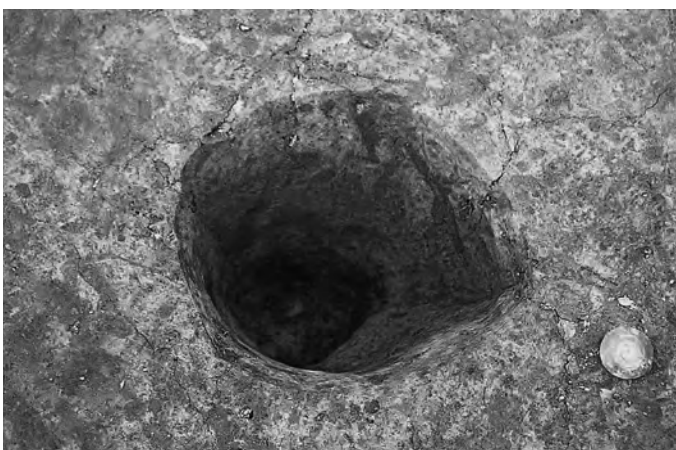
Pit41 土層断面 (南東から)



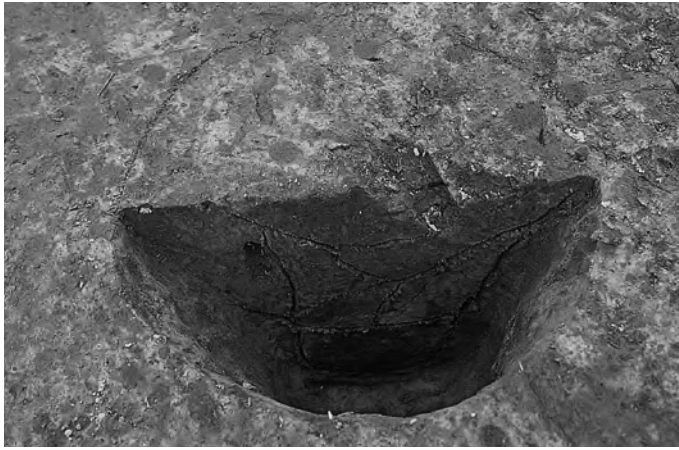
Pit41 完掘 (南東から)



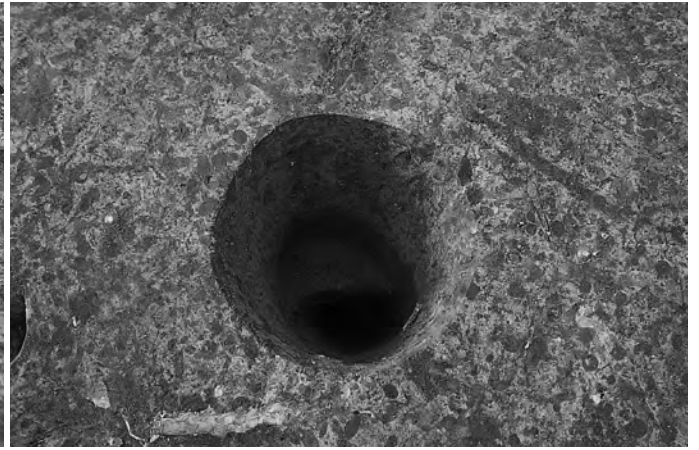
Pit72 土層断面 (北から)



Pit72 完掘 (南から)



Pit23 土層断面 (南から)



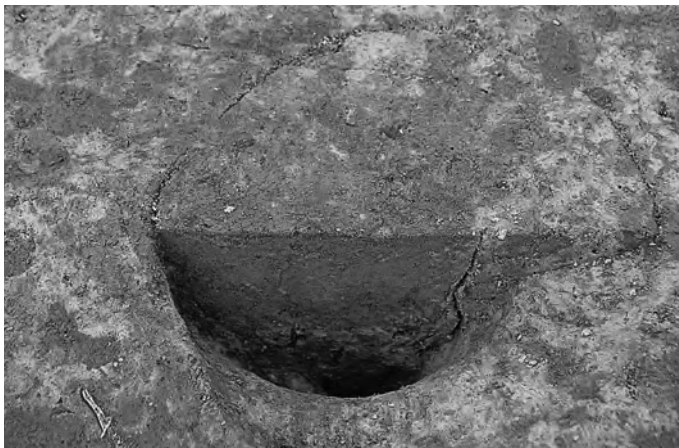
Pit23 完掘 (南から)



Pit24 土層断面 (東から)



Pit24 完掘 (東から)



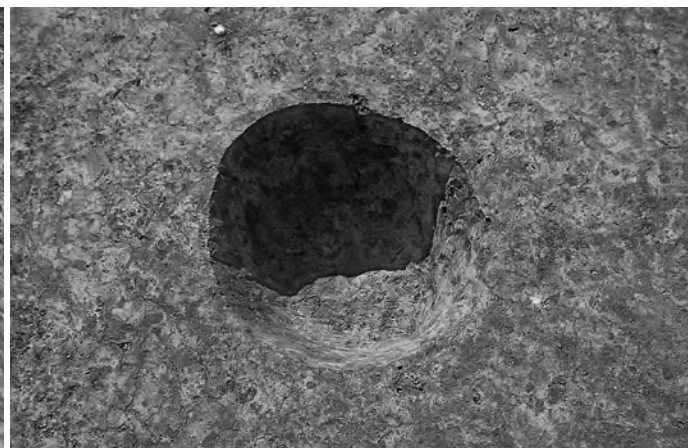
Pit25 土層断面 (南西から)



Pit25 完掘 (北から)



Pit77 土層断面 (南西から)



Pit77 完掘 (北から)



1 (SX1)

古墳時代須恵器直口壺



1 (SX1)

古墳時代須恵器直口壺 (拡大部分)



1 (SX1)

古墳時代須恵器直口壺 (底部)



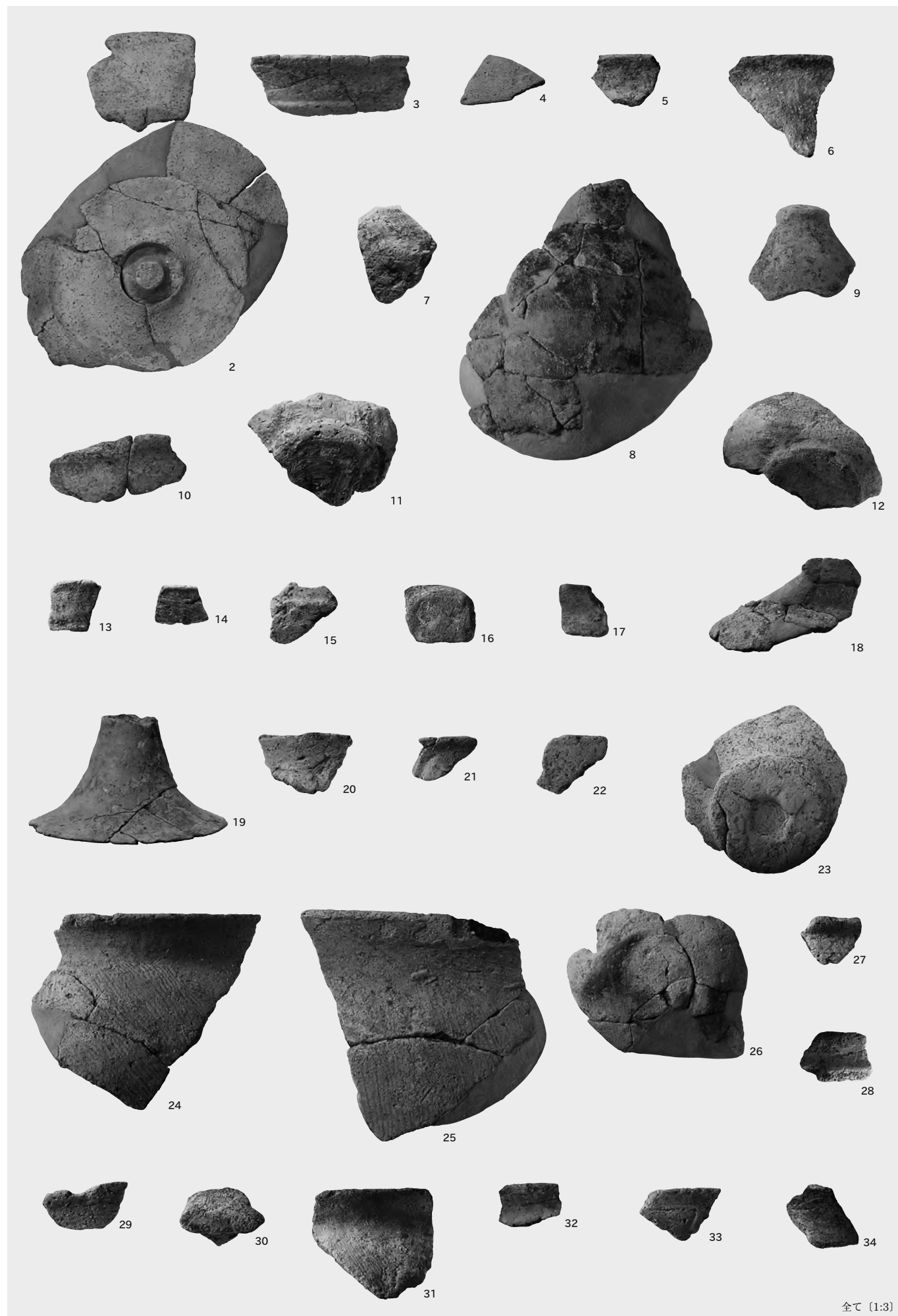
1 (SX1)

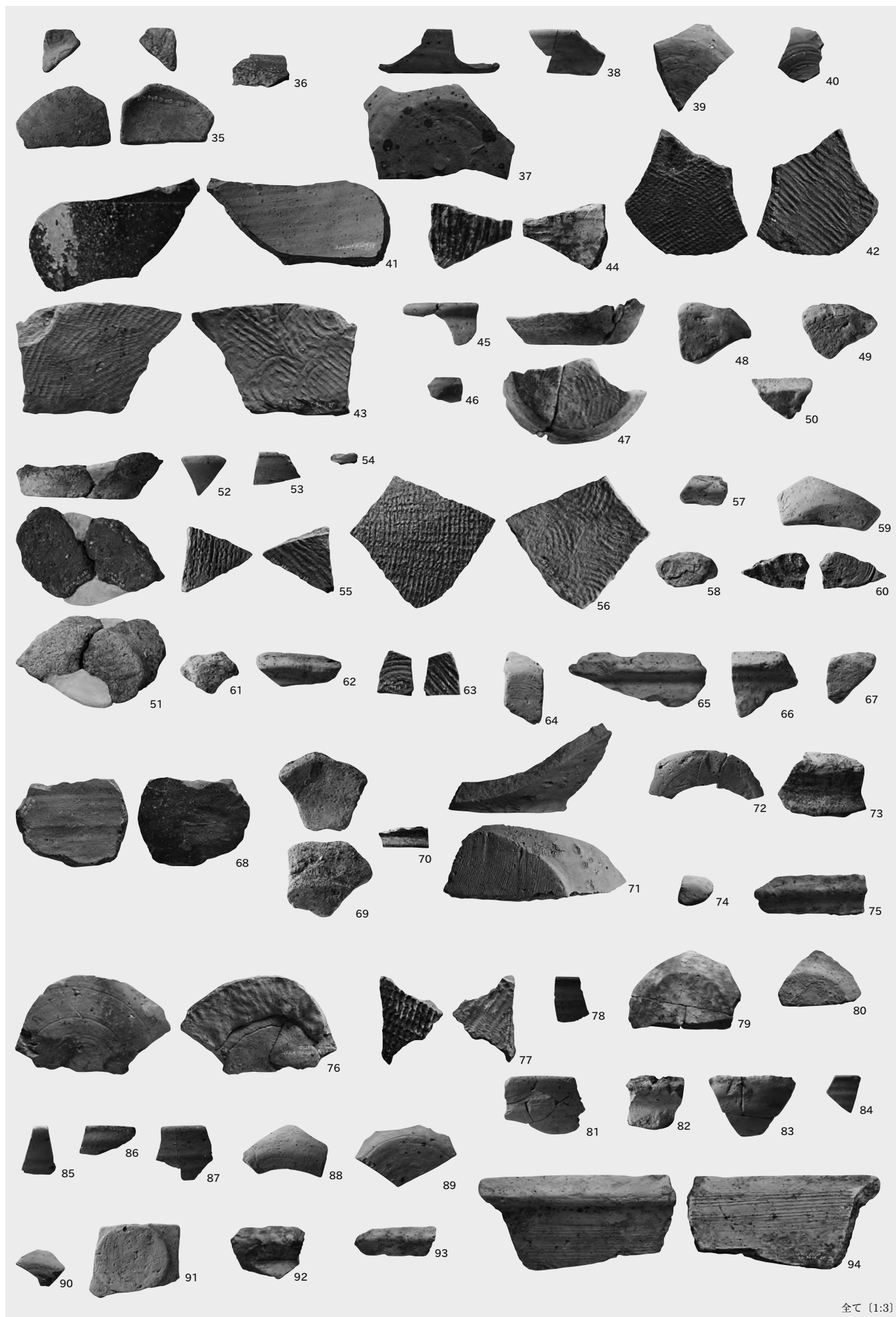
古墳時代須恵器直口壺 (内面)

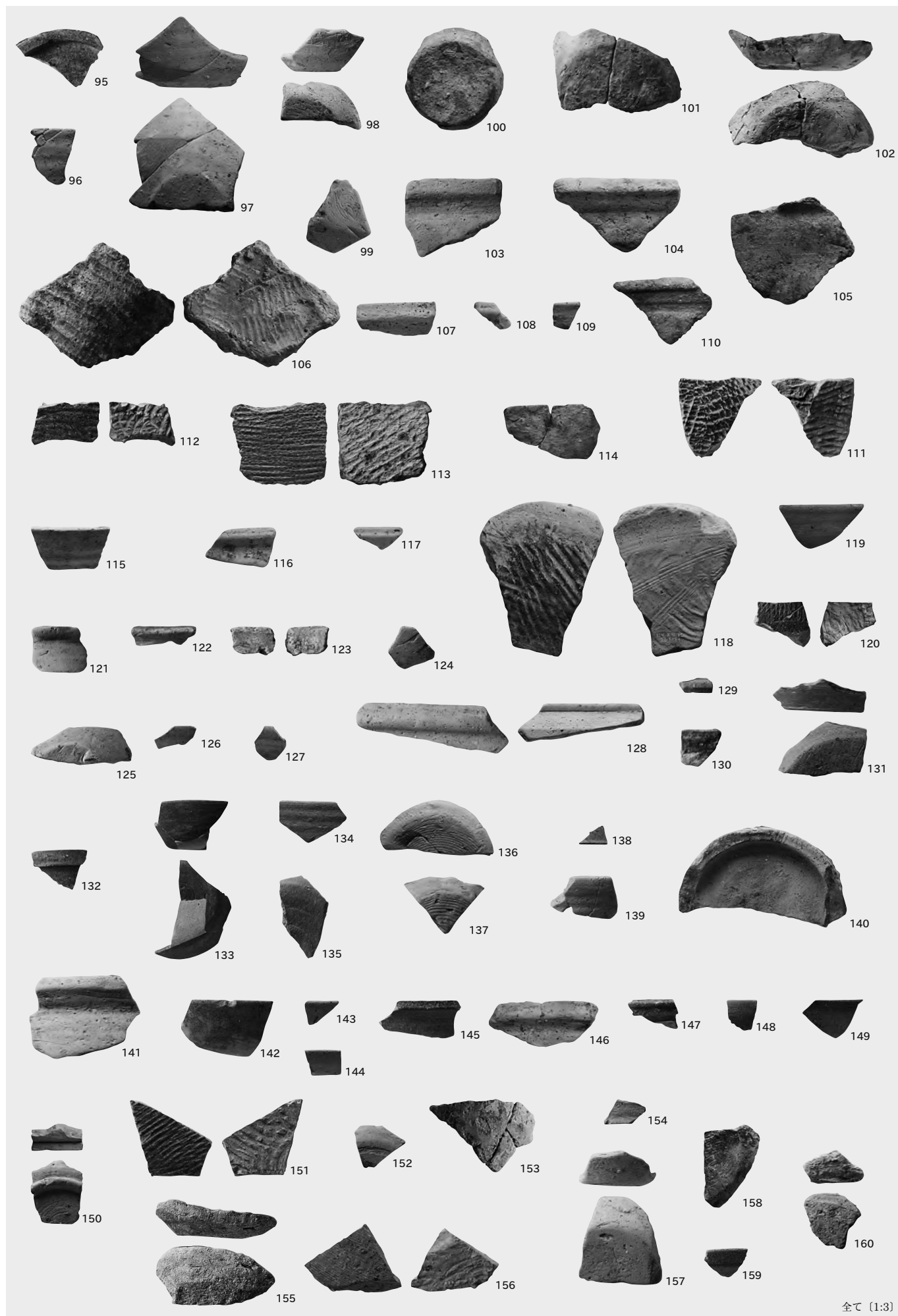


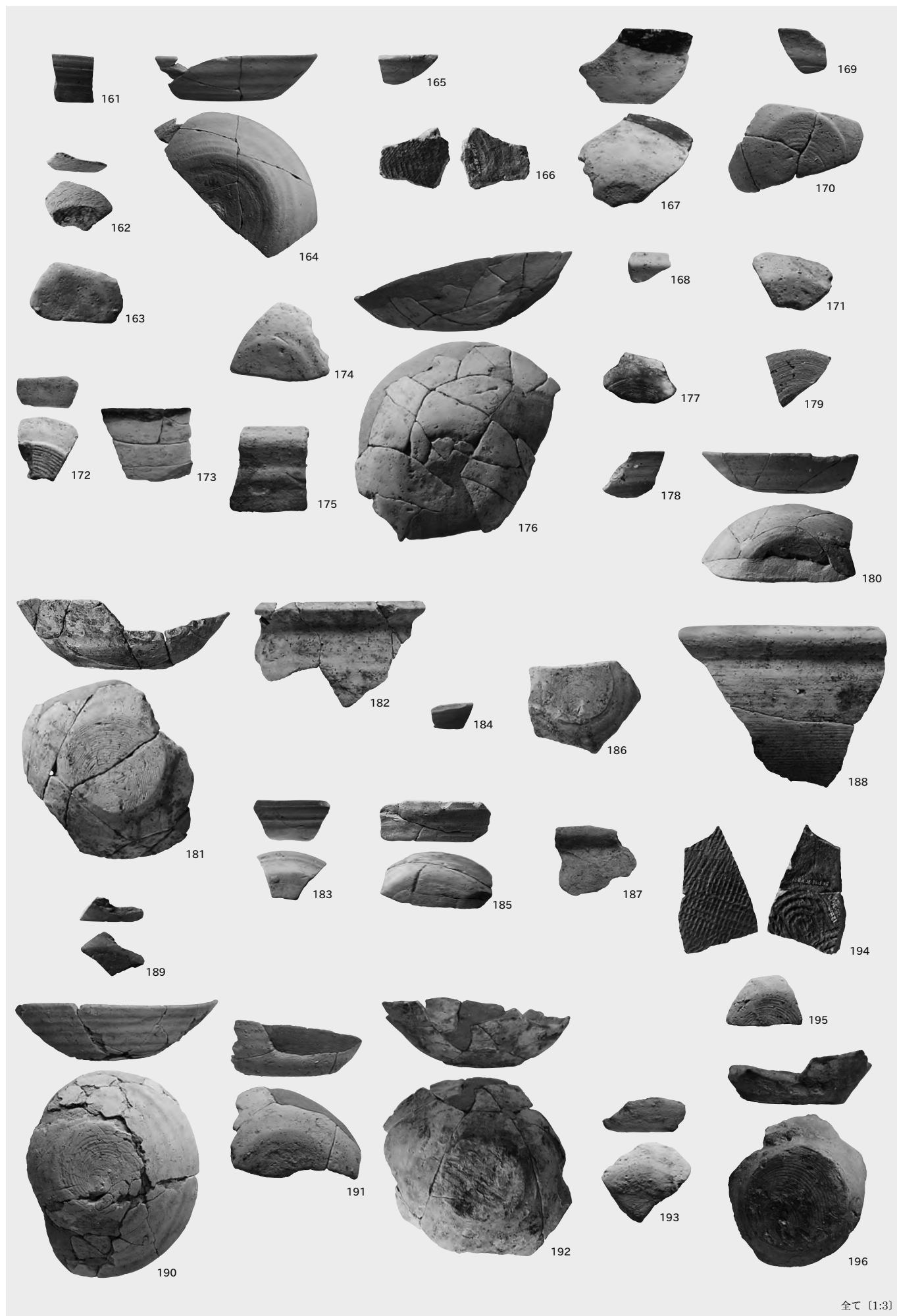
1 (2B-2G18, III層)

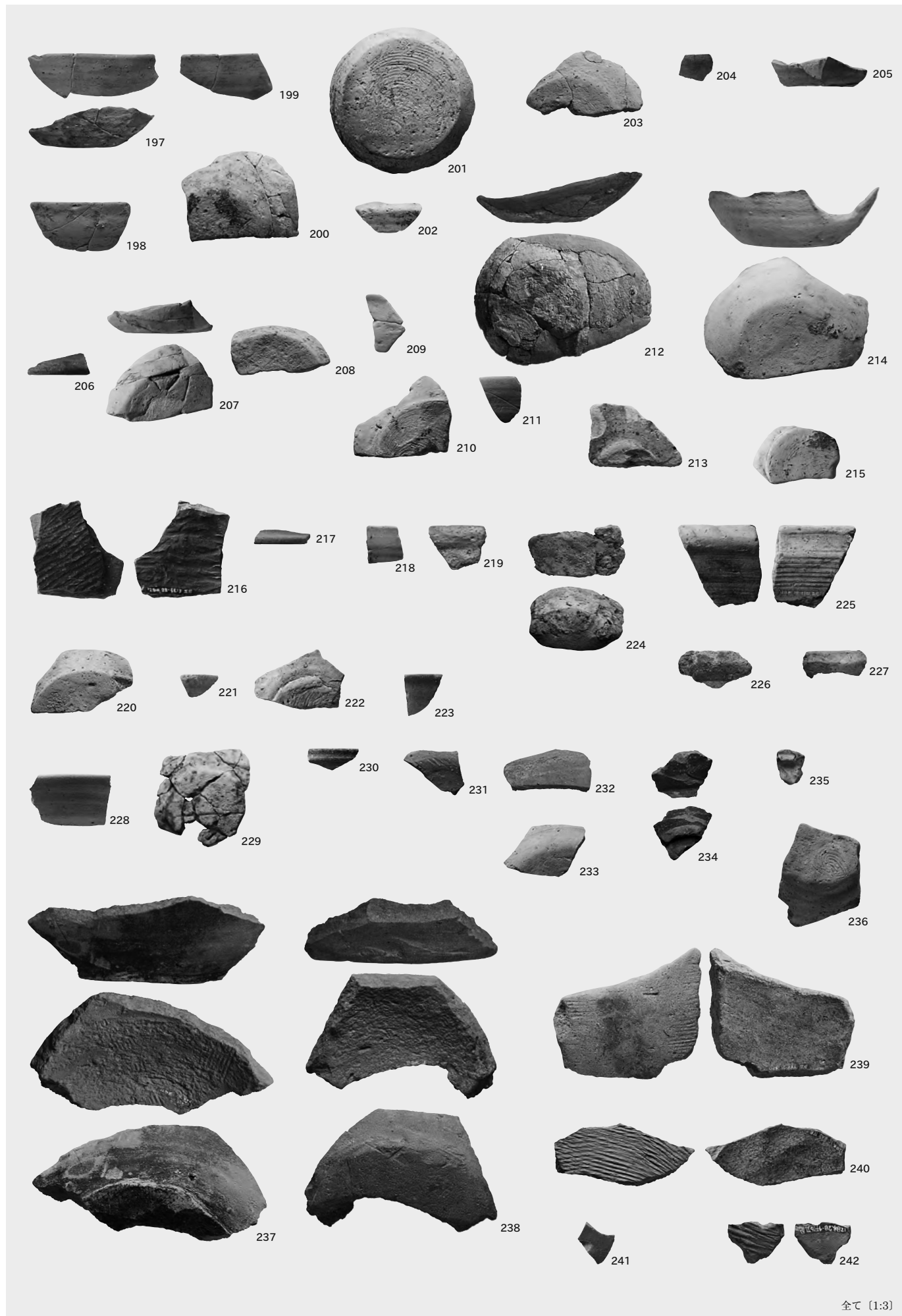
古墳時代石製紡錘車

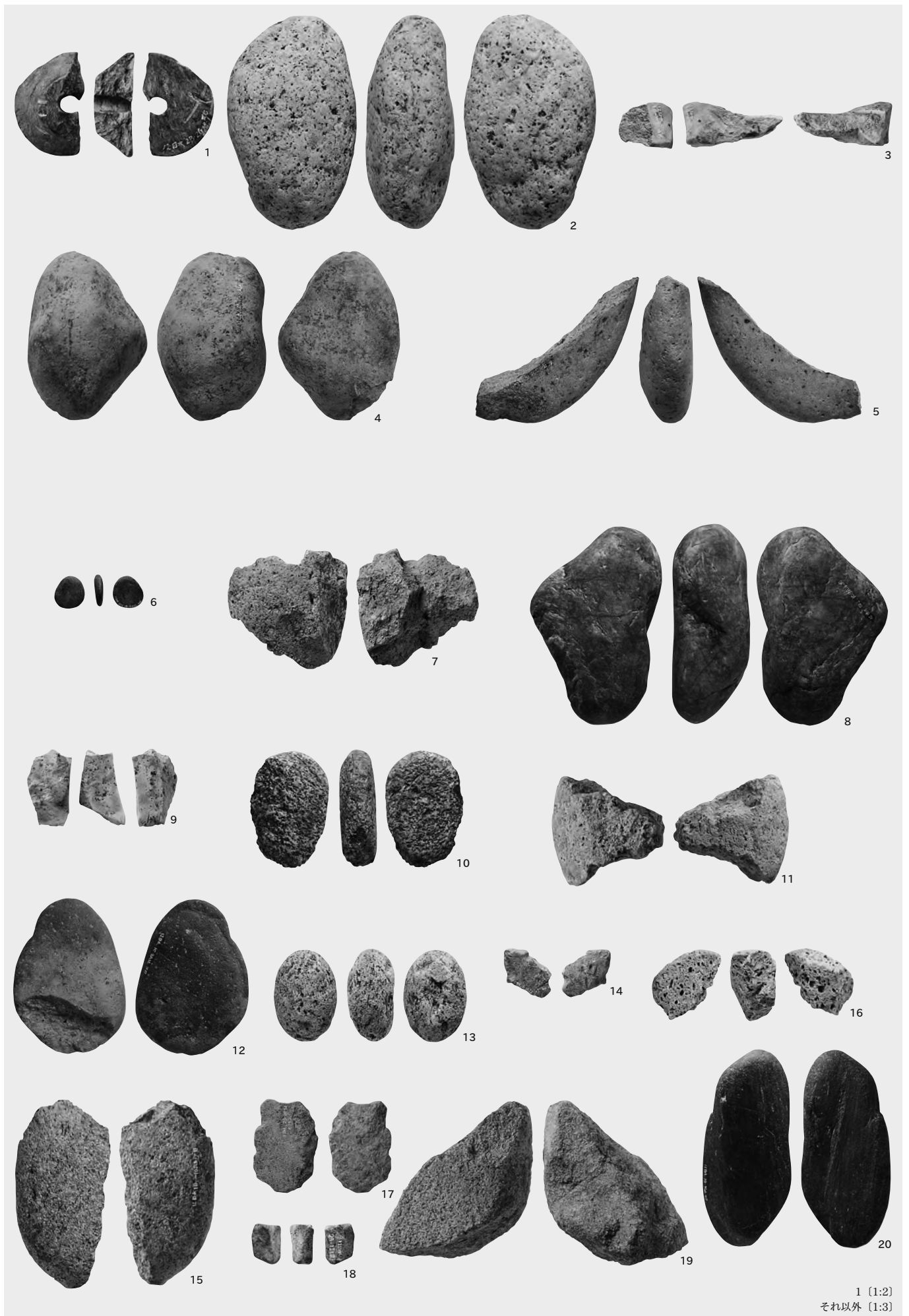












1 [1:2]
それ以外 [1:3]



1,14~18 (1:2)
それ以外 (1:3)

報告書抄録

ふりがな	ひみずいせきに だいろくじちょうさ							
書名	日水遺跡Ⅱ 第6次調査							
副書名	市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	立木宏明・細野高伯・株式会社火山灰考古学研究所							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部新潟市文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	2013年6月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひみず 日水遺跡	にいがたけんにいがたしこう 新潟県新潟市江南区 大字茅野山あざひみずうら 字日水浦2696番地ほか	15104	398	37° 51' 37"	139° 06' 16"	20120821) 20121220	1510	市道亀田300号線道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
日水遺跡	集落遺跡	古墳時代 平安時代 室町時代	溝・土坑・畑跡 性格不明遺構など	土師器・須恵器・珠洲焼・青磁・鍛冶関連遺物・石製品		5世紀中葉の古墳時代須恵器直口壺出土。		
要約	<p>日水遺跡は三方を信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれ、日本海が形成した砂丘(新砂丘1)の南斜面および周辺の小河川の形成した自然堤防に所在する。現標高は1.5m前後である。本発掘調査の結果、古墳時代中期の遺構および平安時代(9世紀後半～10世紀初頭)の遺構が確認された。古墳時代中期の遺構は、性格不明遺構が1基確認され、覆土中からTK208型式併行期(5世紀中葉)前後の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された。TK208型式併行期の資料は新潟県内でも類例が少なく、遠隔地から搬入されたと推定される。</p> <p>平安時代の遺構には、溝・土坑・性格不明遺構・畑跡の一部が確認された。明確な集落は確認されなかったが、道路の可能性のある遺構も検出された。畑跡では花粉分析の結果、ソバ属が確認されており、栽培されていた可能性がある。同時性は不明な部分もあるが、住居域と生業域が明瞭に分離している。当時の農耕集落の一端が明らかとなった。</p>							

日水遺跡Ⅱ 第6次調査

— 市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書 —

2013年6月27日印刷
2013年6月28日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025(378)0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025(228)1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025(233)0321